
中原淳一の
女学生服装帖
「女学生服装帖」
中原淳一 著
実業之日本社
中原淳一の「女学生服装帖」
中原淳一 著
実業之日本社
中原淳一の
「女学生服装帖」
中原淳一 著
少女の友コレクション
実業之日本社

中原淳一の「女学生服装帖」

中原淳一 著

南「今は丁度新學期で、新しく女學生になつた少女達が澤山ゐると思ひます。そこで、今月は、何かさうした女學生の身なりについてお話を伺はせて頂きませう……又、夏休み頃にでもなりましたら、お手製の少女らしいワンピースの型など考案して頂いて、發表してもいゝと思つて居ります」

中原「さうですね。では、一番上の頭髪か

ら――お化粧は女學生にとつてふだん様の
ない事ですし、僕も必要を認めませんから除
順にしたがつて、髪の型を見て參りませう。」

南「その次にはみんなBの様に前をあげま

すのね。第二の課程と云ひますか――」

南「Dはあべこべに外側へ向けてはねてご
ないのですよ。特殊に似合ふ人はそれで結構
なのですから。が、一般にはオカッパが少し

伸びた位の髪の少女は、前を切りさげないでEの様にすれば誰にでも似合ふと思ひます。

南「この頃、若い女性の間には、髪に造花を飾る事が大變流行つて來ましたが――と、申すより、中原先生などが『新女苑』の創刊號の附録に提唱なさつて流行をお生みになつたと云つた方が本當でせうが――兎も角、あれは、小さい女學生でもそのまゝ眞似てを

かしくございませんかしら」

中原「さう云へば、つひこの間、銀座のある店のエレヴェーターの中で見かけたのです
この頃よくし
二輪飾つてゐ
るのです。所がまだ女學生で服裝ときたら、バスの車掌さんの様なごつい厚ぼつたい外套を着て黒靴下といふ扮裝なので、却つてを

華やかに盛裝した場合なら可愛らし
うが、普段は、まあ紺の制服に花飾り
つたと云つた方が本當でせうが――兎
あれは、小さい女學生でもそのまゝ眞
かしくございませんかしら」

中原「さう云へば、つひこの間、銀
る店のエレヴェーターの中で見かけた

実業之日本社

中原淳一の
女学生
服装帖

中原淳一・著

実業之日本社



せっかくの二度と来ない少女時代です。
どうしたらあなたの少女の日の姿をいちばん美しく生かすことができるか——それを考えましょう。
おとなの真似のようなおシャレをなすってはいけません。
少女にふさわしい身だしなみと、正しい趣味のよい服装を示すために、この小さなご本は生まれました。

中原淳一

（『少女の友』昭和12年11月号付録「秋の服装帖」より）



◉「女学生服装帖」初出
『少女の友』（実業之日本社刊）
昭和12年5月～10月号
昭和13年1月～6月、8月～12月号
昭和14年1月～12月号
昭和15年1月～5月号

中原淳一の「女学生服装帖」 目次



第1章 女学生スタイルの基本
昭和12(1937)年

第2章 おしゃれを楽しむ工夫
昭和13(1938)年













第6章　暗い時代でも大切にしてほしいこと

昭和15（1940）年







p.1／「ゴムの樹」中原淳一画（初出『少女の友』昭和11年6月号表紙）
p.2／「ゆく春」中原淳一画（初出『少女の友』昭和10年5月号口絵）
p.3〜6／中原淳一画（初出『少女の友』昭和10年1月号付録「バースデーブック」挿絵）

心の琴線に触れる、よき秘めごと

田辺聖子

わたしが女学校に入学した年に、『少女の友』から中原先生の絵が消えた。軍人さんが鳴らす軍靴の音が、どんどん大きくなっていった頃だ。

そんな女学校時代のたのしみは、古本屋で中原先生が表紙を描いていたときの『少女の友』を探し求め、家に跳んで帰っては読み耽(ふけ)ることだった。川端康成先生や、吉屋信子先生による当代一流の小説を夢中になって読んだ。学校では、友だちと「やっぱり中原先生はちゃうよね、すてきよねー」と言いあって、あの特徴のある描き文字まで、大好きだった。

そんな風に熱中しているわたしたちに、男の先生は「なんだ、目ばっかり大きくて、いつも同じ顔じゃないか。手も脚も細くて、不健康だ」と冷ややかだった。まだことばを知らないわたしたちは、「ちゃうもんねぇ」と先生の悪口しか言えなかったけれど、いまならわかる。この大きな瞳のなかに詩情があって、そこに一編の詩がぜんぶ書かれているということを。まだことばでは説明できなかったけれど、少女なればこそ、それを感じとっていたのだ。

わたしたちは戦争のあいだも、『少女の友』に載っていた中原先生の連載「女学生服装帖」を見返して、一所懸命に研究していた。小さな女の子にとっては、どの回も「えっ!」とびっくりするようなことが提案されていて、同じような毎日でも、ちょっとした心弾みというのか、「きょうはこんなんしてみよか」という、遊び心のヒントを得ていた。

わたしも友だちも、中原先生の絵のように細い脚ではなくて、ずんぐり

とした丈夫な脚だったけれど、そんなことはかまわなかった。わたしたちは中原先生に、小さな女の子なりのおしゃれ心を育てていただいたように思う。お正月には特別に、中原風のリボンをくるんとつけてもらって嬉しかった。
いま思えば、「ぜいたくは敵だ」の時代に、少女の夢をそそり、美意識を高めてくださったのはほんとうにすごいことだ。中原先生は、女性がいちばんきれいに見えるところを、正確にとらえておられた。卓越した色彩感覚と、スケッチ力が、それを支えていたのだと思う。

「女学生服装帖」は、七十年以上が経ったいま見ても、とても魅力的だ。きっと、日本人の心の琴線（きんせん）に触れる美が、中原先生の絵には秘められているのだろう。みなが郷愁のように心の奥底に持っているものを、うまくすくい上げてくださる。郷愁というと、ふつうは童画や田園風景ということになるのだけれど、中原先生はそうではない。いかにも西洋風な絵の底に、日本の美しさのようなものが流れている。いつも遠いところから聞こえてくる子守唄のような、よき秘めごとのようなもの——それが見る人の心を刺激するのだろう。そしてそれこそが、中原先生の奥深い、大きな才能だ。だから、いつまでも愛されるのに違いない。（談）



たなべ・せいこ
1928（昭和3）年樟蔭女子専門学校卒業。軽妙なエッセイや人生の機知あふれる小説やエッセイで人気を博す。64年『感傷旅行』で芥川賞受賞。『新源氏物語』など古典の現代語訳にも精力的に取り組み、2008年文化勲章受章。

第1章

女学生スタイルの基本

昭和12（1937）年

世相

ヘレン・ケラー来日（4月15日）
パリ万博開く（5月）
蘆溝橋事件、日中事変のはじまり（7月7日）
トヨタ自動車工業設立（8月27日）
外国映画輸入禁止に（9月20日）
日独伊三国防共協定成立（11月6日）
志賀直哉『暗夜行路』ベストセラーに
千人針、慰問袋作り盛んに

この年の『少女の友』

◉**定価**　50銭、340ページ
◉**表紙**　中原淳一、小林秀恒（夏休み増刊号）
◉**おもな連載**
由利聖子「仔猫ルイの報告書」（1月号～12月号）
島本志津夫（神崎清）「白墨日記」（1月号～12月号）
吉川英治「やまどり文庫」（1月号～昭和13年4月号）
川端康成「乙女の港」（6月号～昭和13年3月号）
◉**おもな執筆者**
吉屋信子、深尾須磨子、坪田譲治、中原中也、横山隆一
宮本三郎、蕗谷虹児、松本かつぢ
◉**できごと**
「友ちゃん会」を大阪、東京で開催。
東京では約400名が参加

解説

昭和12（1937）年の「女学生服装帖」

内田静枝

昭和20〜30年代、自ら刊行した雑誌を通じて女性のおしゃれを提案し、日本女性のセンスアップに多大な貢献を果たした中原淳一。その彼が初めて連載したファッション・エッセイが昭和12〜15年に雑誌『少女の友』に掲載された「女学生服装帖」です。

本連載は読者たちの服装を導いてあげたいとの熱い思いから、淳一の発案で始まりました。しかし、いかに絶大な人気を誇るとはいえ淳一は画家で、しかも内容はファッション。編集部は心配したのでしょう。連載当初は同誌の女性編集者・南由紀子（内田多美野の筆名）との対談形式になっています。

ともあれ、天才スタイリスト・中原淳一の第一歩はここから始まりました。淳一にとって初の連載でしたが、後に花咲く〈淳一イズム〉の萌芽が既に認められることに驚かされます。初回冒頭で、正しく美しい心の持ち主であると共に服装や身だしなみにも配慮した少女が自分の理想であると述べていますが、これは生涯変わらぬ理想像でした。

注目すべきは、9、10月号などの「自分の個性を見極め、それに合ったものを選べ」との提案です。淳一は戦前の日本において、はや自分の美を引き立たせるものとして洋服を捉えていました。「女学生服装帖」は先見性に富んだ、きわめて質の高い服装批評のページだったのです。

この「女学生服装帖」を読むにあたって留意したいのは、当時の洋服事情です。このころ、日本人の日常着は和服から洋服への過渡期にありました。既製服も一般的ではなく、洋服が欲しいと思ったら布から選んで作る時代。そのようななか、普段着にも洋服を着用しはじめた〈洋服第一世代〉が、当時の女学生だったのです。手本とすべきものがなく試行錯誤を重ねる少女たちのために、淳一は持っている知識と技術を惜しみなく与えたのです。

女學生服装帖

中原淳一・南 由紀子

昭和12年5月号

僕の〝理想の少女〟



H 女学生らしい理想のセーラー服

少女らしい美しさ

南「少女の服装や身だしなみについて、決してオシャレの意味でなく、正しい知識と、少女らしい上品な趣味を、一つこれから『少女の友』ヴォーグとして始めようと存じます。読者の方もきっと楽しんで読んで下さると思います」

中原「僕もそのことは前から考えていました。僕に〝理想の少女〟というものを選ばせたら、正しい美しい心の少女であると共に、外にあらわれた服装や身だしなみにもキチンとした少女らしい心を配っている人であることが大切な条件ではないかと思っています」

南「淳一先生は毎月幾人かの少女を描いていらっしゃるのですし、そ

れも、可愛い服装をした少女ばかりですので、その先生が実際の少女に対して、どんなお考えを持っていらっしゃるのか——きっと『少女の友』の読者は知りたがっておりますよ」

中原「さあ、僕の描く少女は、別にモデルはいないのですし、それに僕の描く絵は抒情画ですから、現実の少女とはまた違いますし。しかし、少女のみの持つ本当の美しさ、よさ、それは僕は誰にも負けず見きわめているつもりです。少女達自身がそれに気づかず、大人の真似のようなおしゃれをしていることをとても残念に思いますよ」

南「かまわない人は、セーラーの黒い襟にふけをつけて平気でいたり、靴下はだぶだぶでお弁当のおつゆのしみ出た手提を持っていたり、不潔なだらしのない感じですが、また、女学生のくせに物欲しそうな化粧(メーキャップ)をしているのも品の悪いいやな感じが致しますね」

中原「服装についても同じことがいえると思いますね。たとえば洋装の場合、大人には婦人服があり、子供には子供服があり、それぞれ行届いて研究されていますが、その中間の少女服、というと、ただ婦人服の型を小さくしただけのようなものが通用して、本当に少女らしさを生かす、という点を、誰も考えてやらないのではないかと思いますね。が、少女達自身がそこに気づいて少し工夫するようになると、もっと日本に可愛らしい、感じのよい少女が増えて来るのだと思いますが……」

制服に合う髪型

南「今はちょうど新学期で、新しく女学生になった少女達がたくさんいると思います。そこで、今月は、何かそうした女学生の身なりについてお話を伺わせていただきましょう……。また、夏休みごろにでもなりましたら、お手製の少女らしいワンピースの型など考案していただいて、発表してもいいと思っております」

中原「そうですね。では、いちばん上の頭髪(あたま)から——お化粧は女学生にとってふだん縁のないことですし、僕も必要を認めませんから除外して、——時々制服でお化粧している少女を見かけますがあれはいやですね。女学生としての誇りを持ってほしいと思います」

南「ではここに描いていただいたA―Gまでの順にしたがって、髪の型を見て参りましょう」

中原「今でも地方へゆきますと、女学生はたいていお下髪(さげ)ですが、東京では、おかっぱがほとんどのようですね。学校によっては上級になると留めさせているところもあるようですが——、髪の長さは、断髪の許される学校でしたら小学生から女学生になっても急に長くする必要はないと思います。下級の小さな女学生は、頭髪が肩にかかったりするように長くないほうが明るくもあり可愛いのだと思いますが」

南「下級生のうちは、A図のような髪がいちばん多いようですのね」

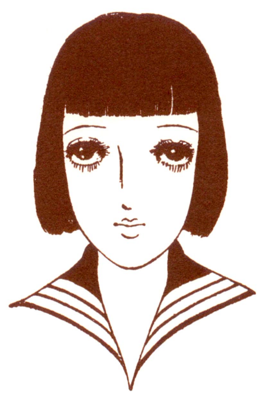
中原「真直な濃い髪を持った少女でしたら、相当大きくなっても、この型がいちばん美しいと思います。日本人形的な、はっきりした印象を与えますし、和服にしても非常に派手に見えますから」

南「その次にはみんなBのように前をあげますのね。第二の課程といいますか——」

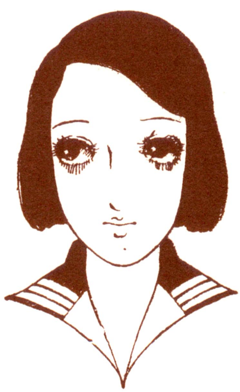
中原「いちばん少女らしい、誰にでも似合う頭です。分ける場所によっていろいろ感じが違って来ますが。それから、Cのような形も、少し華やかさを添えるために、この程度のこてを当てることなら少女にもおかしくないと思います」

南「Dはあべこべに外側へ向けてはねてございますね」

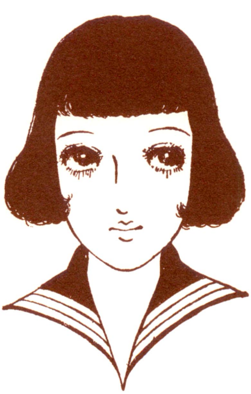
中原「これも変った味があって面白いと思いますね、そんなにしている人がないようですが……ただ、髪のあまり多い人や、顔の広い少女などは避けたほうがいいでしょう。



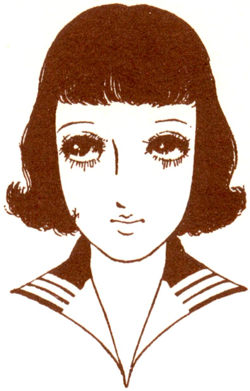
A 下級生に多い髪型



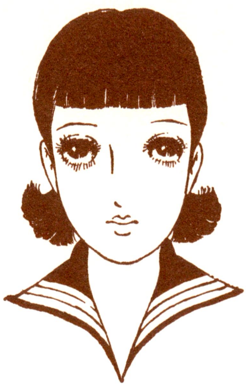
B 誰にでも似合う髪型



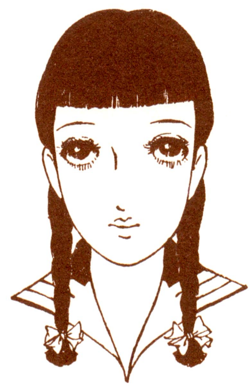
C こてを当てて華やかに



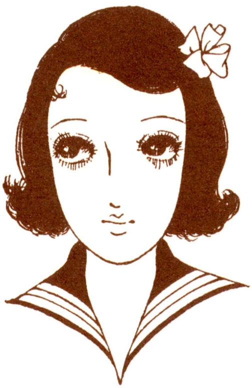
D　顔の広い人は避けるべき髪型



E　あまり品よく見えません



F　抒情的でエキゾチック



G　リボンは小さめがいい

Eの型は、僕は自分で絵に描いてはいるのですが、実際の少女がしている場合は、実をいうと、いちばん嫌いな髪なのです。何だかあまり品がよく見えなくて……たしかに派手ではあるのですが」

南「安っぽい可愛さ、とでも、いいますかしら」

中原「そう、女学生というより、喫茶ガールとでもいった感じですね。よほど、顔に抒情的な味があって特殊に似合う人は別ですが、ふつうはまあ、あまりいい感じを与えませんね。よく、こういう髪をした少女でもう体はかなり大きいのに三尺（さんじゃく）[※1]を締めている少女を見掛けますが、ちょうど僕の絵のような抒情的な少女趣味のつもりかも知れないのですけれど、実際の姿はあまり好きだとは思われません。やはり大きくなっ

たら、きっちりしていたほうがいいですね」

南「Eのような髪をしているお嬢さん達は、これを読んで悲観なさるでしょうね」

中原「いや、全部いけないというわけではないのですよ。特殊に似合う人はそれで結構なのですから。が、一般にはオカッパが少し伸びたくらいの髪の少女は、前を切りさげないでEのようにすれば誰にでも似合うと思います。

Fになると、前のといくらも違わないでいて非常に感じが好くなって来て、これでしたら僕はたいへん好きです。抒情的であって、どこかエキゾチックな感じがしますし、しかも日本の少女らしいおとなしさもあって」

頭に花飾りはもってのほか

南「少女が髪に飾りをつけることについてはどうお考えでしょうか」

中原「そうですね。制服のときは、頭を飾ることなどよりは、まず、綺麗にととのえられた、つやつやしい髪がいちばん感じがいいと思いますが、もし飾りたいのだったら、白とか黒の、小さなリボンをどこかにちょっとつけるくらいでしょう」

南「このごろ、若い女性の間には、髪に造花を飾ることがたいへん流行って来ましたが——と、申すより、中原先生などが『新女苑』[※2]の創刊号の附録に提唱なさって流行をお生みになったといったほうが本当でしょうが——ともかく、あれは、小さい女学生でもそのまま真似ておかしくございませんかしら」

中原「そういえば、ついこの間、銀座のある店のエレヴェーターの中で見かけたのですが、僕のすぐそばにいた少女で、このごろよくしてるように額のあたりの髪に赤い花を二輪飾っているのです。ところがまだ女学生で服装ときたら、バスの車掌さんのようなごつい厚ぼったい外套を着て黒靴下という扮装（いでたち）なので、かえっておかしいんですね。

華やかに盛装した場合なら可愛らしいでしょうが、ふだんは、まあ紺の制服に花飾りなどもってのほかですね」

制服を着るときの注意

南「では今度は、制服全体について、どんな注意が必要でしょう？」



1 ハイカラなハイ・ネックの胸あて

中原「全然型がきまっていて動かせないのは仕方がありませんが、許された範囲で多少、手を入れて、自分の姿に合せて形よく見せることは必要でしょう。Hは、女学生らしいセーラーの理想的な型を描いてみたのですが、まずいちばん大切なことは、女学生の制服は、どうしても暗くなりがちなのですから、明るく見せるためにも、いつも清潔にさっぱりさせておく注意です」

南「たしかに、制服は黒っぽくて汚れが見えないため、つい不精しがちですのね。それから、スカートをきちんとプレスすること、セーラーの白線を綺麗にしておくこと、そんなことは皆さんにはもう分り切っていることとして――ところがなかなか実行が伴わないのかも知れませんが――」

上着は丈と巾を少しつめて

南「型のほうは、どんなところに手を入れたらよろしいのでしょう」

中原「上着が腰骨の上にかかっていたのでは、胴が長く形が悪く見えますから、許される程度に短く、腰骨の一寸上くらいに縮めて、上がぶかぶかに浮いていないように巾も多少つめるといいと思います」

南「このごろの女学生さんは皆そうしていらっしゃるようですね。ところが、あまり巾を胴にぴったり合せすぎて、脇の縫目から糸が綻びているような醜態を見かけますね」

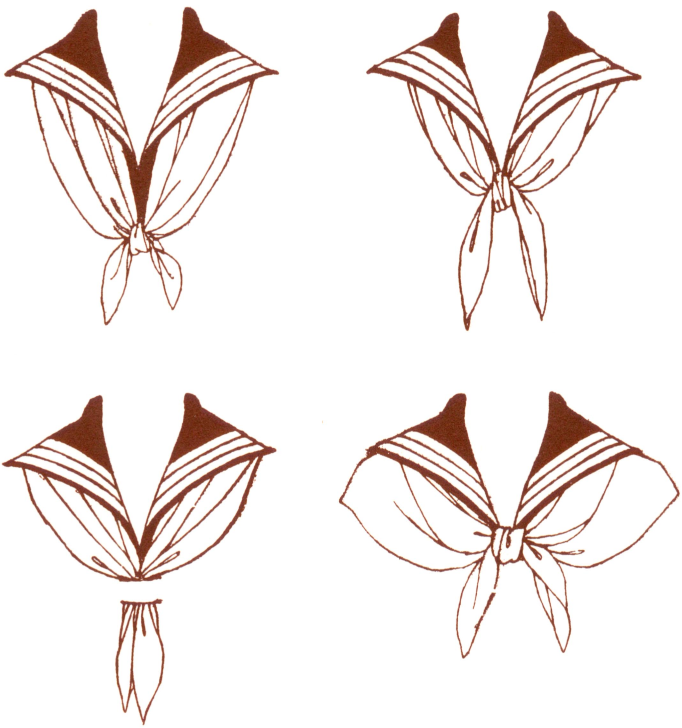
中原「そんなふうに洋服の中から体がはちきれそうなのは、非常に品が悪くていやですね。それでは何のために形を直そうとしたのか――」

南「それから水兵服に胸あてのついた型がありますのね。あれをとても野暮くさいといって、いやがる女学生がおりますが……」

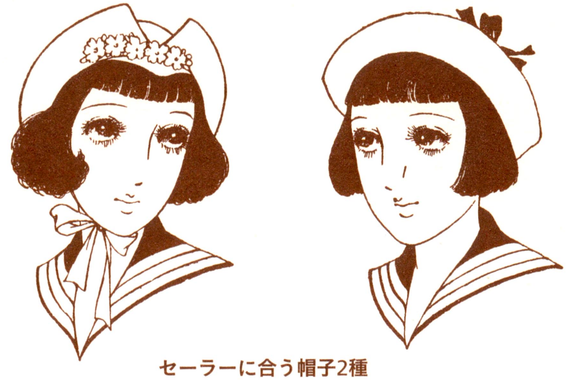
中原「胸当てがあっても、I図のようなハイカラな型を見たこともありますよ。かえって今、流行っているハイ・ネックの感じが出て、それに水兵さんのような帽子を被れば、非常にスマートです」

南「スカートにはどんな注意が必要でしょうか」

中原「そうですね、スカートの長さと、襞（ひだ）の問題ですが、襞は、多くても二十四、五くらいが女学生らしくてきりっとしているのではありませんか。あの、一センチずつくらいの細かい襞のスカートは、ドレスのような感じになって、それに凝ったつもりでしょうが、かえって腰や脚を



ネクタイの結び方4種



セーラーに合う帽子2種

太く見せますね。
スカートの丈は、太った人や、背の小さい人が長くし過ぎたのはかえって、形を悪く見せると思います」

南「ネクタイの結び方も、いろいろ工夫できましょうね」

中原「ここに四種類ほど示しておきました。制服で定められていない以上、どれでもお好きなのを選んでごらんなさい。
それから、帽子は、今一般に出ている少女らしい可愛らしい型と、セーラーの特長を生かしたカッチリした型との二通り描きました」

南「では今月はこのくらいにして――。
読者の方から、こんな問題を扱ってくれというご希望がありましたら、次からは、そんなものもとり入れて、少女に近しい、面白い服装のページを、つくって参りたいと思います」

※1　三尺――三尺帯の略語で、鯨尺（1尺が約37・88センチの和裁用ものさし）で3尺の長さしかないため、こう呼ばれる。男物の角帯に似ているが、細幅で、木綿などの柔らかい生地が使われる。江戸時代に庶民が三尺手拭いを折って帯に用いたのが始まり。

※2　『新女苑』――昭和12（1937）年1月に『少女の友』のお姉さん雑誌として創刊された。主筆（現在の編集長）は『少女の友』の内山基主筆が兼任。昭和34（1959）年休刊。

趣味のペーヂ

女學生服装帖

中原淳一
南　由紀子

昭和12年6月号　部屋着とお洗濯着



A　帰宅後のふだん着におすすめのスタイル。下は制服のスカート、上は手作りのブラウス。バンドで胴をしばれば、胸のあたりが自然なふくらみに

ふだん着はこんなふうに

南「今月はどんな題目でいたしましょうか？　何かいいお考えを……」

中原「そうですね、僕もこの頁はとても楽しみなのですが、ただのおしゃれの頁ともまた違うので、なかなかむつかしいのですよ」

南「先月は制服について致しましたから、今度はふだん着などいかがでしょう」

中原「そういえば、僕、時々考えるのですが、今の女学生の少女達は、家へ帰ったら、いったいどんな服装をしているのでしょうか？　制服を脱いだあと……」

南「さあ、まちまちでしょうが、必ず和服に着かえる習慣の人もいましょうし。――あとはやはり何か洋服でございましょうね」

中原「ところが、実際のことをいうと、制服のほかに、また、ワンピースなり部屋着なりを、わざわざ拵（こしら）えて貰っている女学生は案外少ないんじゃないでしょうか。今のように、女学生は制服さえあれば、どこへでも通用するような制度になっていると、お家の方も、ほかの洋服を作るのは何か、不必要な、不経済なことのように考えられて……」

南「それはたしかにございましょうね。まあ趣味にまかせてお金をかけていくらでも持っていらっしゃるような方は別でしょうが」

中原「そこで、全然、別の洋服を作るとなればたいへんでしょうが、だいたい、制服を土台にしてちょっとの工夫でもっと気がるなふだん着や散歩着にすればいいわけですね。殊に、これからのように暑くなってくれば、形のきまった制服のほかに、何か軽やかなものが欲しくなるでしょうし――」

制服のスカートに上着をひと工夫

南「では、今月はそんなふうなのを一つ紹介致してみましょう、きっと皆様が実際に必要を感じていらっしゃることと思いますから……」

中原「つまり、制服のスカートをそのまま用いて、上をちょっと工夫することによって、別の洋服を創り出すわけですね。この場合、あべこべに、上着の水兵服（セーラー）をそのままにして、下のスカートを変える、というやり方はしないほうがいいと思います」

南「ああ、そういえば時々気取ったつもりでしょうが、水兵服（セーラー）の下に変りスカートをはいて歩いている少女を見かけますね」

中原「あれは、たいへん物欲しそうで服の常識から外れた身なりですね。どなたもご存じでしょうが、〝セーラーにタイト・スカートは禁物〟これは鉄則として守っていただきたいことです。さて、スカートの上に着るブラウスですがあの襞のついた毛織物のスカートは、何といっても学生の服装でしかあり得ないのですか

ら、その感じを生かして、型も直線的なものを選んだほうが似合わしいと思います。柔らかさを出そうとするとかえって無理になりますから」

南「地質は、どんなものがよろしいでしょうか？」

中原「地質も従ってクレープ・デシン[※1]だのベンベルグ[※2]だのという、ふつうブラウスに使う柔らかいものでは、下のスカートのごつい感じを目立たせてそぐいませんし、かえって野暮くさくなりますから、冬ならやはり毛織物とかジャージーがよく、これからなら、木綿の堅いガッシリした生地がいいですね」

真白な襟は 十中八、九成功する

南「色や模様は？　スカートのほうは黒か紺と見なければなりませんね」

中原「ええ、その関係で、ブラウスがあまり賑やかな色彩のごちゃごちゃした模様だったり、凝った、複雑なデザインであったりすると、いかにも、下にセーラーのスカートをはいています、というチグハグな感じになりますから、なまじ模様ものより無地、濃いブルーとか、エンジとか、またはクリームなどのはっきりした色の無地を選んで、それに、胸元に白い、襟を大きく見せて引立てるのです」

南「A——Dまで、皆そうですのね。さっぱりして可愛らしい感じですこと」

中原「僕は少女の人たちに、この白い襟の効果を大いに強調したいのですが——女学生らしい清潔な感じがして、なまじ技巧を凝らすより、かえって若々しい、初々しさ、少女らしさを出すことができると思います」

南「B図はセーターを着ているようでございますね、襟は下からのぞかせてあるのでしょうか」

中原「いっそのこととりつけてしまうほうがいいと思うのです。そうすれば、襟までついた一枚のセーターになりますから。——自分で編んだものは別ですが、よくデパートなどの既製品には、襟の辺がいろいろ技巧を凝らして飾られた型がありますね。下も柔らかいドレッシイな感じのスカートをはけば、それで釣合うのですが、セーラーのスカートの上には、いっそのことそんな飾りを無視して、真白な襟を大きく見せたほうが、ずっと似合うし、引立

つのです。十中八、九まで、このほうが成功しますよ」

襟や袖の工夫

南「そういえば、私もここに描かれた絵を見ているうちに思い出したのですが、外国人はどこでもそれをやっているらしゅうございますね。私、ドイツにいた方からお土産に買って来ていただいたのですが、いろいろの白い替え襟を、あちらの店では既製品で売っているらしゅうございます」

中原「そうなれば、便利でしょうが、しかし家で作るにしてもわけはありませんよ。ポプリン※3とか不二絹※4の厚手のものなどを材料にして飾りミシンをかけて一重に使ってもよし、しっかりした感じがよければ、二枚縫い合せて表に返して使えばよいのですから。これなら手縫でもできましょう。自分でいろいろな型の襟を工夫して拵えてみるのも、また楽しみなことでしょうし。ここにも二、三種掲げておきましたが……」

南「B図のような先の尖った白い襟は理智的な、おとなしい感じが致しますね」

中原「ええ、この場合は、頭髪も静かな調子が似合います。そこへゆくと、C図のようにうんと円い肩にかかったくらいの派手な襟には、何か飾りがあってもいいですね。こんなふうに頭に、胸元と同じようなリボンをちょっと、結んでつけるのも可愛いでしょうし。——またB図やC図のような、細いリボンを結んで垂らすのもふだん着らしくていいと思います」

南「袖はやはりプックリふくらまして口を縫い絞った型が、華やかで子供らしくていいでしょうが、C図のように、襟と合せて白いカフス※5をつけるのもさっぱりしておりますね」

中原「それから、ブラウスの裾をどう始末するかという問題がありますね。ジャンパーなら上からスカートをはきますからかまわないし、セーターの場合も、自然に縮んで締っていますから、そのまま着られるわけですが」

南「ブラウスでも、昔は下のほうを襞を寄せてふくらませて先にバンドをつけた型が流行ったことがありましたね」

中原「あれは今ではどうも野暮くさいですね。今の少女には、やはりA図のようなスタイルで、共布のバ



D　袖はプックリふくらんだのが可愛い



C　大きく派手な襟にはリボンを



B　セーターに襟をとりつけて

ンドで胴のあたりをしばって後ろで結んで垂らした型が、いちばん可愛いのではないでしょうか。こうすると胸のあたりにも、自然のふくらみが出ますし」

南「バンドから下のブラウスの裾が、あまり巾広くてハネ上るようだったら、少し縫込んで体にそわせてもいいわけですね」

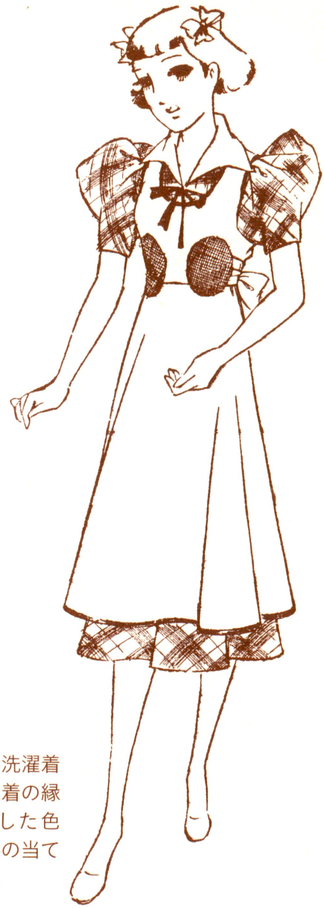
中原「まあ、こんなところで、少女らしいふだん着ができ上るわけですが、ついでに、少女が家で仕事をする時には、どんな服装をしてするのでしょうか」

楽しいお洗濯着

南「三月号の附録の〝わすれな草のエプロン〟のようなサロン・エプロン、あれは、今の少女はみんな



F　Eを後ろから見た図。背中はスナップで合せ、上から飾りボタンをつける。こうすれば脱ぎ着が簡単



E　ふだん着の上にお洗濯着を着た図。お洗濯着の縁取りはハッキリした色で。共布で丸い形の当て布を両脇につける

持っておりますね」

中原「ところが、あれでは華奢すぎて、実用にならなくありませんか。ほんの装飾だけで……」

南「ええ、文字通り、お茶を運ぶのにかけるエプロンで……」

中原「お天気のよい日曜日など、ちょっとした時間に、下着だの靴下だのお洗濯をするのでしょうが、そんな時、いかにも少女らしい洗濯着があったら、その洗濯着を着てすることが楽しくてきっと、仕事としてでなく少女の生活の一部として、楽しみながらできる、と思うのですが」

南「そうですね、ちょうど、西洋の洗濯娘のような気になって……」

中原「こんな型の洗濯着はどうでしょう（E・F図参照）。これなら簡単で、少女がお手製ですぐできま

す」

南「生地は、ギンガム[※6]なんか……」

中原「ええそれから、スポンジクロス[※7]がいいでしょう。その他、有り合せの木綿生地で無地を使って、まわりにはっきりした色でバイヤステープの縁をとります。胴で接いで、その接ぎ目の上へ、縁どりにしたのと同じ色の布で、図のように、円い形の当て布を両脇へ二つつけます。その下から、後ろへバンドが出て、F図のように大きく結んで下さい」

南「後ろは割れておりますね」

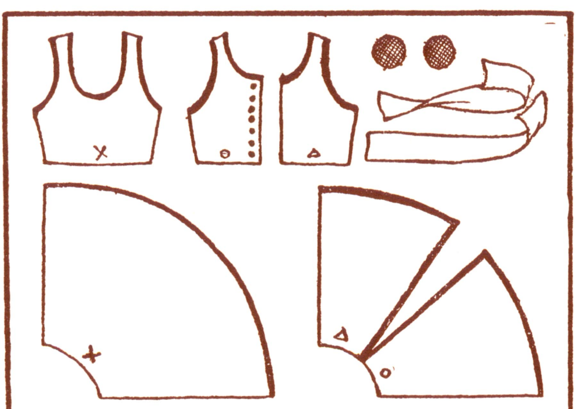
中原「洋服のように上からかぶるのは厄介ですから、わざと割りました。バンドから上はスナップで合せて上に飾りボタンをつけます」

お洗濯着の裁ち方の要点

南「こんなお洗濯着ですと、ほんとに安い木綿生地で裁つのですし、そんなに型をやかましくいわなくてもいい、どんなでも着られるふだんの仕事着なだけに、これはぜひ皆さんに拵えていただきたいものですね。簡単な裁ち方図のようなものを描いて下さいませ」

中原「図のようにしてとればいいわけです。寸法は、めいめいで違いますが、だいたい、洋服をはかってごらんになれば分りますね。裁ち方を見て工夫して縫って下さい。

　上身頃の、袖ぐりと襟ぐりは、洋服よりやや大きめにくります。図のような形に、下からたくさんのぞいたほうが可愛いでしょう。上身頃の



G　Eのお洗濯着の裁ち方図。寸法はめいめいの洋服をはかって工夫を

後ろのほうは、背中で合せる分だけ巾を広くとっておけばいいわけです」

南「身頃の下と、スカートの上のところに、×がついておりますね」

中原「ここは同寸法になるようにします。胴の接ぎ目ですから。そして、スカートのほうは、円形の四分の一のサーキュラー[※8]に下へ拡げますから、つまり図のように直角になりますね」

南「後ろスカートの裁ち方は？」

中原「前と同じにとっておいて、裾の中央で十センチとって、真中へ向って図のように三角形に裁ち落せばよいのです。

Hは、この変型（ヴァリエーション）を一つ。胴に当てて布をつけないで、前からぐるっとバンドを締め、その代り、裾だの胸だのにアップリケを施すとこんなになります」



H　Eの変型

南「アップリケの仕方は、わすれな草のエプロンに出ておりましたね」

中原「だんだん、これから暑くなって来ます、冷たいシャボンの泡の中に手をつけて、初夏の陽をあびながら、お洗濯をするのは、きっと楽しいことでしょう、それは仕事ではなくて、少女の楽しい生活の一部、否、きっと、一つの〝遊び〟だろうと思いますから。この洗濯着がそんな時役立ってくれれば嬉しく思います」

南「どうもありがとうございました。来月にはどんなものを発表なさいますか、そっと教えていただいて、読者の方に、お知らせしたいのですけど……」

中原「おやおや、それでは、そっと

ではありませんね。来月は、女学生のとても可愛い夏帽子を拵えてみようと思います。小さい方にでも簡単にできて、買ったのよりずーっと素適な帽子ですから、楽しみにして待っていて下さい」

※1 クレープ・デシン―― crêpe de chine は、フランス語で「中国のクレープ」の意。略してデシンともいう。緯（よこ）糸に強く撚った糸を使った絹の平織物で、極めて細かいちりめんじわがあり、柔らかい風合い。

※2 ベンベルグ――銅アンモニアレーヨンとも呼ばれる再生繊維キュプラの商標名。日本では旭化成が昭和6（1931）年にドイツのベンベルグ社と提携して生産を開始し、この名が広く知れ渡ることになった。絹に近い光沢としなやかな風合いが特徴。

※3 ポプリン――緯糸の方向に細い畝がある、柔らかな手触りの平織物。ブロードクロスよりは畝がやや太め。綿織物が多く、毛、絹、合繊のポリエステルなどでもつくられている。

※4 不二絹――明治時代に富士瓦斯紡績が創製したところからの名称で、一般に「富士絹」と表記。絹紡糸を使って平織にした絹織物。羽二重のような光沢があり、しかも撚り糸を用いているため腰があって、しっかりした風合い。

※5 カフス―衣服の袖口につけられた帯状の部分で、とりはずしができる付けカフスもある。外側に折り返るタイプと先に伸ばして付けるタイプの2タイプがある。

※6 ギンガム――糸染め糸を用いて格子や縞柄に織った平織綿布。とくに白と有彩色の2色使いからなるシンプルな格子柄をギンガムチェックという。

※7 スポンジクロス――スポンジ、つまり海綿のようにふっくらと弾力性に富んだ織編物の総称。リング糸使いや蜂巣織など立体感のある組織で、厚みのある目の粗い柔らかな感触。狭義で無数の輪奈（わな）のあるテリークロス（タオル織物）を指す。

※8 サーキュラー――円を描く、扇形に広がった、の意。

趣味のペーヂ

女學生服裝帖

中原淳一
南由紀子

昭和12年7月号　**夏の帽子の作り方**

夏の服は手作りで

中原「だんだん夏になって来ますと、少女の帽子もベレーのようなものが姿を消して、ツバのある帽子が出て来ます。
　昔の和服の女学生なら、陽よけにパラソルをさしたものでしょうが……」

南「では、今月はお約束通り、少女が自分の手で拵えられる帽子の作り方のお話をどうぞ……」

中原「〝パンジー〟と〝向日葵(ひまわり)〟、こんな二つの帽子を拵えてみました。作り方はたいへん簡単で、両方共、共通の、たった二枚の型紙でできるのですよ」

南「材料もすぐ手にはいりそうな布(きれ)でございますね」

中原「ええ、帽子の木型を使ったり、また生地ももっと帽子の特殊な材料を使えば、いっそうシャレタものができたのでしょうが、地方の読者の方にも、すぐ作っていただけるように、ということをまず考えましたので――」

南「夏の帽子など、高いお金を出して既製品を買うよりは、簡単な安い材料で自分の手でいくつでも拵えて楽しんだほうがずっと気が利いていますのね」

小さな造花とリボンで作る「パンジー」

中原「それに自分で作れば共布を使って洋服とおそろいを仕立てる、ということができます。パンジーのほうは、白地のジャバキャンバス※1

（十字刺繍[※2]をする生地で、値段は半ヤールで六十銭くらいです）にエンジの造花とリボンをあしらって拵えましたが、ドレスとおそろいの花模様の布などで作れば、白とまた全然かわった感じの帽子になります。また、小さな水玉模様でも可愛いでしょうね。A図にその絵を描いておきました」

南「小さい造花を数をたくさんに連ねてございますね」

中原「ええ、この絵は不二絹などの柔らかい生地を使ったつもりですから優美な感じを出しました。B図は白で作った場合、ドレスのほうにも同じバイヤステープで縁とりをしたところ」

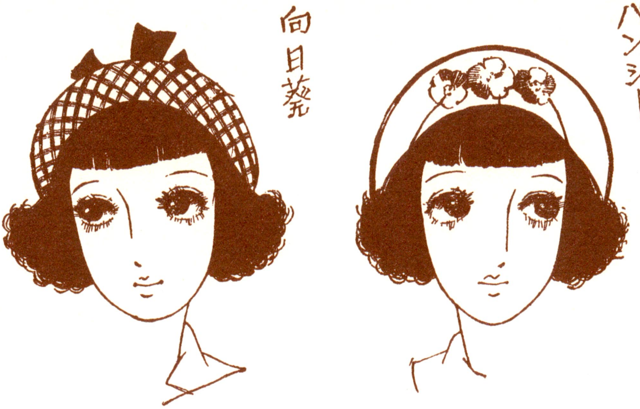
南「花は紫にしてもいいし、ピンクにしてもいいし、お好きな色が選べますね。紫だと、ほんとうにパン



B　白地の生地ならバイヤスで縁とり



A　水玉の布で洋服とおそろいで帽子「パンジー」を作ったスタイル



ジーの感じですてきでしょう」

中原「花を好まない方とか、花が手に入らない場合にはツバにまわしたのと同じリボンを結んで、造花を飾った場所につけてもいいのです」

スポーツに散歩に「向日葵」

南「今度は向日葵のほう――これは型としてはあちらよりスポーティな感じですのね」

中原「黄色と白の一センチ四角くらいの格子縞のギンガム地に、コゲ茶色のリボンを上に結んで、〝向日葵〟の花の感じを出しましたが、かたい形ですから、白の生地などで仕立てたら、型としては、このほうが、セーラー向きです。

スポーツ・ドレス[※3]や、ハイキングの時にふさわしい帽子ですね。――海の色のような濃いブルーか、紺の無地に、白のリボンをあしらうのも真夏らしくスマートでしょう」

南「この帽子に着るドレスはC図のようにできるだけ直線的な型が似合いそうですね」

中原「それからD図をごらん下さい。向日葵の共布でこんな散歩服はいかがですか、帽子のリボンの色と、服のバンドの色は同じです」

南「この帽子は材料がまたびっくりするほど安くてできますね。ギンガムは、いちばん上等のを使っても、一ヤール[※4]三十五銭か四十銭くらいですから、それが半ヤールと、あとは芯地とリボンだけ。お母様に別に材料費をいただかなくても、お小遣いの余りでできてしまいますね。――ではどうぞ作り方をお話して下さいませ」

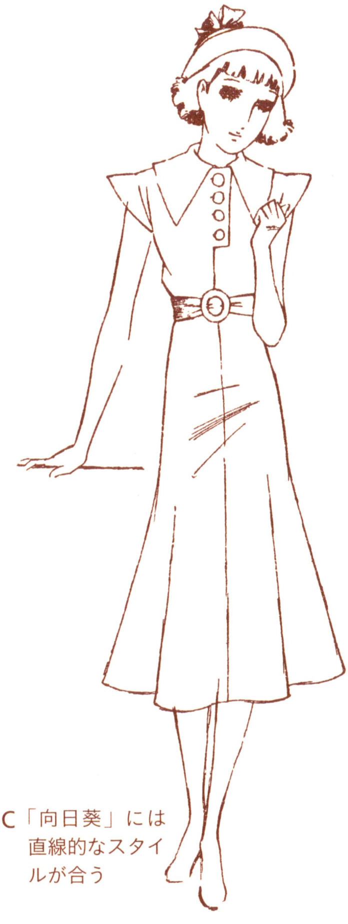
中原「まず、型紙を裁つのですが、図に示したように、円錐形の山が一枚、扇形のツバが一枚、これだけあれば帽子ができてしまうのです」

南「型紙は、皆様めいめいの頭の寸法によって違えなくてもよろしいのでしょうか?」

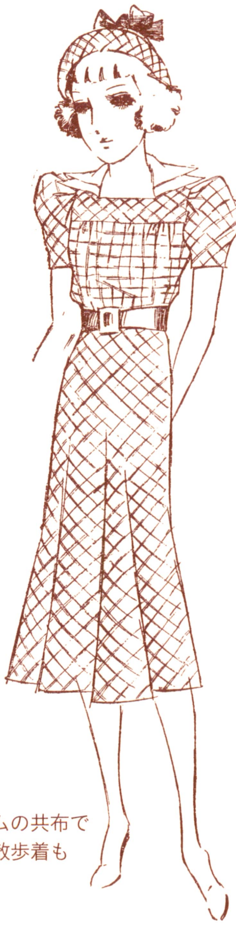
中原「ここに示した型紙の寸法は、頭の周囲が五十五センチの少女を標準にして拵えたのですが、これより大きくても小さくても、縫込で加減すればよいのですから、同じ型紙を使って大丈夫です」

南「縫込は図のように型紙の三方にだけつけるのでございますね。一センチ半くらいあったらよろしいのでしょうか」

中原「ええ。何しろ、山はこの型紙を六つ接(は)ぎ合せて作りますし、ツバも全体の円の四分の一の接ぎですか



C「向日葵」には直線的なスタイルが合う



D ギンガムの共布でこんな散歩着も

ら、一つ一つの接ぎ目でほんの一、二ミリずつ詰めてもゆるめても、全体でずいぶん違ってくるわけです――では作り方にうつりましょう」

パンジー

材料

白地ジャバキャンバス（十字刺繍をする地です）…半ヤール

芯地（白い芯地がない時は、帽子が白で、芯がすけるような地の場合はカンレイシャ[※5]とキャラコ[※6]と一枚ずつ合せて芯地の代用にする）…半ヤール

造花（直径四・五センチくらいの平らな花）…三個

繻子（しゅす）リボン[※7]、またはグレゴリン[※8]のリボン…一ヤール

二センチ巾繻子リボン…五十七センチ

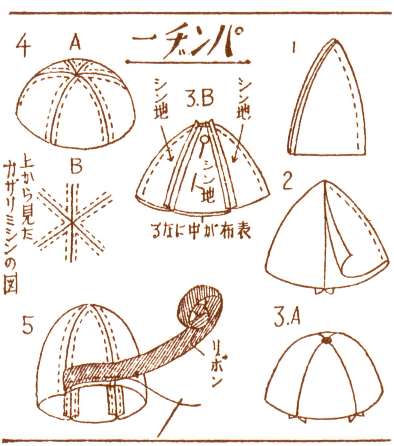
木綿バイヤステープ（リボンと同色の）

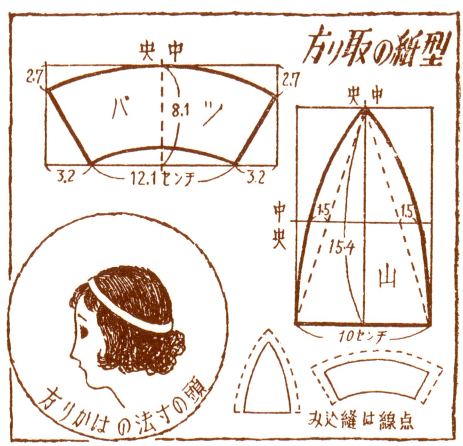
作り方

❶山の型紙をあてて、表布で六枚、芯地で（またはカンレイシャとキャラコを合せたもので。以下この説明をいちいちつけません）六枚、合計十二枚とる。

芯地、表布、表布、芯地と四枚のものを重ねて、図のように三角形の丸みをおびた一辺を縫い、真中から開いて、左右二枚ずつにし、縫代をぴったり割っておきます。

❷芯地と表布を一枚ずつ合せて、表布を下にして今ひろげたものの上に、中表になるように重ね図のように、片側を縫って、開き、前と同様にし





て縫代を割りますと、これで山形が三つ接ぎ合わされたわけです。

次に残っている芯地三枚、表布三枚の布を使って、以上の❶❷と同じことを繰返して、もう一つ同様のものを作り、

❸この両方を、中表に重ねて、接ぎ合せるのですが、この時、表から見た時にA図のように二枚の三角形の頂辺（てっぺん）（真中の黒い点のところ）が、狂わずにぴったりとそろうように合せて、しつけをかけ、頭にアミダ※9に被ってみて、頭の大きさに合せて縫込を加減し、しっくりしたところで、ミシンをかけて本縫をします。（この縫込だけで調節し切れない時は、❶❷の接ぎのところから直しますが、そんな必要はほとんどないはずです）

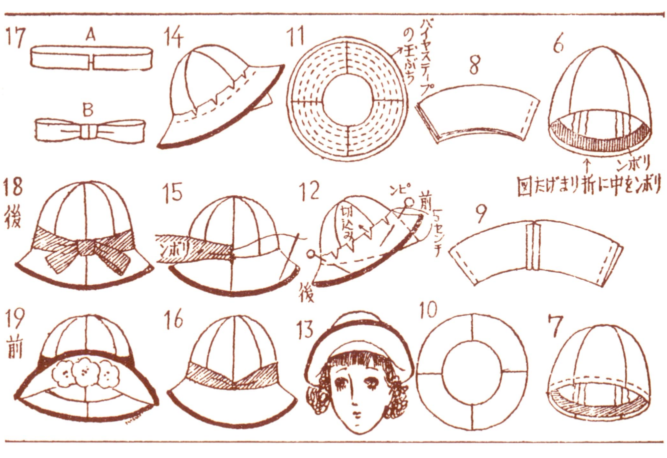
❹縫目を割ってぴったり押えたら、次に、六つの接ぎ目全部へ接ぎ目の線にそって三ミリくらい離れたところにぐるりと飾りのミシンをかけて押えます。山の頂辺のところは、B図のように放射状にかけて下さい。

❺五十七センチの繻子リボンを、山の下端にそわせてグルリとまわし、しつけをかけ、（このリボンをつけ始めたところが帽子の真後ろになりますから、山の形を見てどこでも恰好のよいところが前にゆくようにきめて下さい）ミシンをかけ、しつけ糸をとって、リボンを表におこし、

❻縫目の一、二ミリ上から、内側に折り曲げます。

❼この内側に折ったリボンがひらひらしないように、ういている端に、ぐるっと図の点線のように、共糸で押えミシンをかけておきます。

❽今度はツバを裁ちます。



ツバの型紙で表布八枚、芯地四枚、合計十二枚のものをとり、まず、芯地、表布、表布、芯地と四枚重ねて図のように短いほうの一辺にミシンをかけて縫い、これと同様のものをもう一つ作り、各々二枚ずつに開いて縫込を割っておき、

❾この二つを中表に合せて両脇をミシンでつなぐと、四つの接ぎ目のはいった円形ができます。

今度は、残りの表布四枚を、同じようにしてつないで、表布の円形をつくり、

❿この二つの円形を両外側に表布が出て芯地が中になるように重ねて、まわりをバイヤステープで玉ブチ※10をとってくるみます。

⓫玉ブチのすぐ内側から始まって、五ミリくらいの間隔で、渦巻型に内へぐるぐる飾りミシンをかけてゆき、全体がうずまったら、

⓬このツバを、山の上に被せ、山の前中央の下の端から五センチ上った位置へ、ツバの上端がくるように、後ろは、下から一センチ半上ったところにツバの上端がくるように合せて、この両端をピンでとめ、（もしツバのほうが張り加減になった場合には、適当なところに切り込みを入れて延ばし）この前後両端の間でツバの上端を、弓形に下げて形づけ、ところどころ仮にピンを打ってとめておきます。そして、ツバの前面を、写真のように上にはねあげて、

⓭頭に被ってみて、鏡をごらん下さい。似合わなかったら、折り返しのところやツバのつき加減などをいろいろ変えて工夫してみて、お顔に合うような位置がきまりましたら

⓮ツバの上からミシンをかけて、山



ツバの折り返し加減は、頭に被って鏡で確かめてから縫いつける（パンジー）



後ろから見た「パンジー」

とツバを縫いつけます。（ミシンがかたくて、ひどく縫いにくかったら返し針で糸をつらないようにして縫いますが、こうすると内側から見てきたなくなります）

⑮⑯一ヤールのリボンの端を真後ろに一つ襞を作ってとめつけ、ツバと山の境目の上にぴったり合せて前へまわし後ろでつき合せにしてとめます。

⑰あとに残ったリボンから五センチだけ切りとりその残りをAのような形にして、真中をちょっとしばって糸でいっぺんとめて、五センチのリボンで結び目を包み裏でとめて図のような形の飾りを拵えて下さい。

⑱これを後ろのリボンのつなぎ目の上にきれいにあてがって、両方のわの先を、表に目が出ないように裏だけツバに、とめつけます。

⑲造花をつけるのでしたら用意の三個を（小さい花だったらもっとたくさんつけてもよいのですが、木綿の生地で作るのでしたら、あまり飾った感じは帽子に似合いません）花の根元から軸をねじ合せて花がブラブラ動かないようにつなぎ合せ、折り返っているツバの前面に、軸をしっかり糸で押えて飾りつけます。

⑳あごのところで結んだほうが好きな人は、両耳の後ろにゆく辺から、飾りリボンと同色のリボンをおつけ下さい。

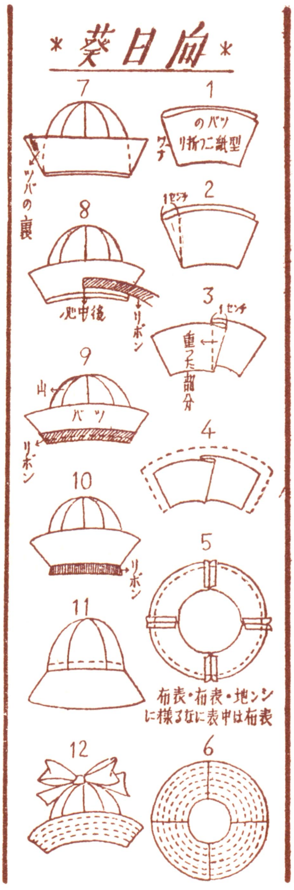
向日葵

材料

黄色と白の一センチ四角くらいの格子縞ギンガム…半ヤール

コゲ茶色の繻子リボン（巾二センチか三センチくらいのもの）…四十センチ

芯地…半ヤール



二センチ巾の繻子リボン…五十七センチ

作り方

ツバのとり方がちょっと違うだけで、山の作り方は、パンジーとすっかり同じです。

山の型紙で、やはり表布と芯地と各六枚ずつとり、パンジーの❶〜❹までと同じ方法で縫っておきます。

❶ツバの型紙を真中から図のように二つに折ります。

❷ワナのほうで、上一センチとって、下はつきつきのところから図のような斜線を引き、

❸型紙を開いて、今つけた、線の通りに、折り重ねを揃え、その襞を糊で貼りつけると向日葵のツバの型紙ができます。

❹この型紙を表布と芯地にあてて、三方に一センチ半の縫代をつけて、(真中の紙を重ね合せて段がついている上もなめらかな線にして) 表布八枚、芯地四枚を裁ち、

パンジーの❽❾と同じ縫い方をして、芯地と表布と合さった円と、表布だけの円と、二つの円ができました。

❺この二つを中表に合せて、線の周囲をグルリとミシンをかけ、

❻表にかえして、縫目をよく押えて、ツバの外側から五ミリくらいの間隔をおいて、渦巻にミシンをかけてゆき、ツバいっぱいにかかったら、

❼ツバの切り放しになっているまわりと、山の下端とを図のようにそろえてしつけをかけます。

❽さらにその上に、五十七センチのリボンを、後ろから (どこでもリボンのつけ始めが、後中心になりま


後ろから見た「向日葵」


山のつくり方は「パンジー」とほとんど同じ「向日葵」

す）グルリと添わせて、またしつけをかけ、

❾この三つのものを一緒に、約一センチの縫込で上からミシンをかけます。

❿今つけたリボンを下にさげて、帽子の内側に入れ、

⓫ツバも図のように下におろして、リボンが外にかえらないように山の下端から一センチほど上ったところに押えミシンをかけますが、この時上糸は表布に合う色の糸を使い、下糸はリボンと同色の糸を使って、表の方からミシンをかけて下さい。

⓬四十センチのリボンで蝶結びを拵えて帽子の頂辺につけます。被った時リボンが縦にならないように両方のヒラヒラが両横に来るようにつけて下さい。これででき上りました。

※1 ジャバキャンバス――バスケット織に似たざっくりした感じの薄手の平織綿布。縦横の布目が同じなので、刺繍の基布などに用いられる。ジャバはインドネシアのジャワ島のこと。

※2 十字刺繍――十字縫い、あるいはクロス・ステッチとも呼ばれ、2本の糸を×の字形に交差させ、刺し縫いしたもの。ビザンチン時代にイタリアを経てヨーロッパから全世界に広がったという古い歴史を持つ刺繍。

※3 スポーツ・ドレス――本来スポーツ用のドレスを意味したが、いまではカジュアルなドレスといった意味で使われる。スポーツ観戦などアウトドアで着用される活動的で軽快なデザインのドレスをいう。

※4 1ヤール――洋服地の幅の規格のひとつで、1ヤード（91・4センチ）幅のこと。ヤードが訛ってヤール。

※5 カンレイシャ――一般に「寒冷紗」と表記される。織目が粗く張りがある極薄の綿平織物。一見麻織物のように、固く糊付け仕上げされる。ビクトリア・ローンともいう。

※6 キャラコ――薄地の平織の綿織物で、濃いめの裏糊を施し、カレンダー（大きな金属製のローラー）で織目をつぶして光沢をつけた美しい表面が特徴。正しくはキャリコという。インド南部の港町カリカットに由来。

※7 繻子リボン――繻子は今では「朱子」と表記されることが多い。朱子織のリボンのこと。朱子織は、平織、綾織とともに基本的な織り方のひとつで、経（たて）あるいは緯糸を長く浮かせた織組織。強い光沢となめらかな触感、ソフトなドレープ性が特徴。英語でサテン satin と呼ぶ。

※8 グレゴリン ――グログラン grosgrain が訛ったもの。フランス語の gros（大きい、太い）、grain（穀粒）からきた名称で、リボンやネクタイなどに多く使われている織地。横方向にはっきりした畝がある、しっかりと密に織った平織物。

※9 アミダ――帽子などを、後ろ下がりにかぶること。阿弥陀様が後光を背負う形になぞらえて生まれた言葉といわれている。

※10 玉ブチ――布の裁ち目に別布をつけて縁を細くつくる方法。縫い代の始末やほつれやすい布のスカートの裾などに使われる。また装飾として衿ぐりやポケットなど、表に見える部分にも用いる。パイピングともいう。

女學生服装帖

中原淳一
南由紀子

昭和12年8月号
浴衣（ゆかた）と単衣（ひとえ）の着こなし



C 浴衣にリボンは僕が大好きな趣味。ちょっと結んで飾れば少女らしく可憐に

今月の表紙の髪型は真似しないように……

南「七月、そろそろ夏休みになって、ふだん洋服で過している少女たちも、お家で単衣や浴衣を着る頃になりました。今月は夏の少女の和服（きもの）についてのお話をどうぞ……」

中原「軽やかな単衣に三尺を無造作に締めている夏の少女の和服姿は僕は大好きですよ。昔のようなお下髪（さげ）の少女は少なくなりましたが、断髪はそれなりに少女の着物姿を可愛く初々しく見せますね」

南「断髪はもともとは洋服の風俗として流行ってきたものなのでしょうが……」

中原「ええ。しかし、和服のそれもお家で浴衣などを着ている時の髪は

できるだけ自然のふっさりしたままがよく、洋装趣味の、髪にごたごたこてをあてたりする技巧は感心しませんね。——僕、今月（八月号）の表紙に描いた少女の髪がとても気になってるんですが……」

南 「ああ、あの前髪をきり下げて縮らした派手な型ですのね」

中原 「ええ、あれを読者の方に真似られると困ると思うんです。女学校を卒業してからの大きい人でないと、少女には大人っぽくておかしくみえますから」

南 「同じ前髪が下っていても、頭の頂辺（てっぺん）から前向きに下っているふつうのおかっぱと全然感じが違いますのね」

中原 「『表紙には毎号違った髪を描いて下さい』なんてお手紙が来るので、僕もできるだけ変えて描くようにしているのですが、今月のなんかはあくまでも絵として見ていただきたい型です」

飾るならリボン。ヘヤ・バンドはおかしい

南 「では、少女が和服を着る場合の髪はできるだけあっさりと飾らないほうがいいのでしょうか」

中原 「リボンを使って下さい。これは僕が大好きな趣味で、絵にも始終描いていますが、カチューシャなんかでなく、ちょっと結んで飾ればほんとに少女らしい可憐な感じがでてきます」

南 「めいめいのお顔によって違いましょうがC図のようなつけ方も参考になりましょうね」

中原 「それから、このごろ売っている、セルロイドをねじったようなヘヤ・バンドがありますね、お休みになって衣服でも着ると、少女達はちょっとあんなものをはめてみたくなるんじゃないでしょうか……」

南 「あれはパーマネントをした髪を押えるのに便利なようですのね」

中原 「女学生にはあんなものを使わないでほしいですね。この間も見かけましたが、とってつけたようなおかしな感じです」

浴衣を選ぶ時の注意

南 「では髪はこれくらいにして、——少女の浴衣を選ぶ上に、どんな注意が必要でしょう？」

中原 「さア……あんまり問題が大きすぎていちがいにはいえませんが……まあ僕の好みからいいますと、

少女には柄の細かい藍っぽいものより、白の勝った、大きい模様が浮き出たもののほうがいいように思いますね。
　そして、この大柄の反物で仕立てた場合、左と右の肩、胸などに同じ柄が来てしまうとつまりませんから、その点を注意すること。僕は絵を描く時いつもそのことを頭に置いて描くのですよ」

南「そういえばA図もB図も着物の模様は、左右の対照がちゃんとついておりますね。裁つ時にちょっと工夫すればよろしいわけですわね。それから、浴衣にもこのごろは藍と白だけでなく、メリンス[※1]のようにいろいろな色を使った反物が出ておりますがどうでしょう」

中原「少女の浴衣はべつに大人のように粋なことをねらわなくてもいいのですから、下品にさえならなければ他の色の入った浴衣もかえって可愛くていいものでしょう。
　ただそうやってだんだん浴衣本来の簡素さが失われて来ますと、今度は、浴衣の上に帯が締めてみたい、なんてことになって来やしませんか」

南「年の小さな人がゆかたに窮屈な帯を結んでいるのは、見るからに暑苦しくていやなものですね」

中原「浴衣に三尺、これは少女独特の美しさを持った風俗なのですから、三尺が締められる間はできるだけそれを愛していただきたいものですね。
　それからこれは僕自身の好みでしょうが、三尺によくメリンスなどの柄物を使っていますね、あれはどうも田舎臭い気がして、それより無地——黄色とか渋味のかかったピンクなんかの布のほうが三尺らしくて好きです」

襟元はきっちりと

南「少女が単衣を着る場合の、着つけの秘訣、というと大げさですが、何かそうした少女らしい着こなしがございましょう……。私、中原先生のお絵を見ていますと、先生は確かにその要領が分っていらっしゃるように思います。肩や胸の辺に少女独特の体の線を生かしていらっしゃいますもの」

中原「さあ……そういわれると困ったな……。しかし、こういうことはいえますね。僕は少女の着物を描く場合、襟元はだらしなくないようにキッチリと深く合しますが、両脇——胸の脇のあきですね、あそこ

はユトリを持たせたままへこ帯[※2]を締めるのです」

南「つまり、身八ツ口のところを体にそわせてぴったり押えることをしないわけですのね。そうすると、B図の少女のような形になりますのね」

中原「そうです。それを本式に帯を締めるような下拵えをして、――布などを巻いているのでしょうが――胸の形をピッタリ整えた上に三尺を締めていますと、妙に大人っぽい姿態になって、せっかくの少女らしい感じが失われてしまうのです。袴もそうですね、お乳を締めるようなはき方は学生らしくありません」

南「実際問題としては、少し年が大きくなって三尺を締めますと、すぐにずりおちてしまうので、下地をしてから締めることになるのでしょうが、何か下に巻くにしても今のお話のような注意が大切なわけですのね。それから、へこ帯や袴の位置も、むやみに胸高にする必要はありませんね」

中原「ついでに想い出したのですが、これは僕が東宝[※3]などでよく見かけることですが、もう女学校の四、五年くらいの少女が、よそゆきの



A 浴衣に三尺帯は、少女独特の美しさ。三尺は、無地のほうがよい

ちゃんとした和服の上にわざと帯を結ばないで三尺を締めて来ているんですね。このごろの少女の一つの流行らしいのですが、何だか場所柄を弁えないだらしのない感じがして、ああいう趣味はやめてほしいですね。前にもこのことはちょっといったと思うのですが、僕の絵なんかの抒情趣味の影響だなどといわれるのでとても気になっているのです」

短い袂は可愛気がない

南　「抒情趣味といえば、先生のお描



B　襟元はキッチリ合せるが、身八ツ口はぴったり押えずゆとりを持たせるのがよい

きになる和服の少女の袂がとても長いのも一種の抒情趣味ですわね」

中原「ええ、これは実際におおいにとり入れて貰いたいと思います。少女の和服姿の美しさを発揮する上からいっても——実際、短めな袂は可愛気がありませんね」

南「今は元禄袖（げんろくたもと）※4はほとんどすたっておりますのね。袂の丈は、背の高い少女なら、二尺以上に仕立てても差支えありません」

中原「それから襟は、さっぱりした白襟が少女らしいきよらかな感じで、いちばん好きです。殊に暑苦しい夏ですし」

南「ちょっと、おつかいに出たり外出したりする場合、洋服なら帽子がありますが、和服ではパラソルなり日傘がいるわけですね。——少女にパラソル、というのも、ちょっと、ませた感じですが……」

中原「十七、八になれば束髪※5でも結った昔の女学生になら素敵だったでしょうがね、——昔はパラソルがなかなか流行ったらしいですね、吉屋さんの花物語などにもよく、『彼の君がパラソルの蔭に……』なんてありますから……」

南「今の少女には、大人になって盛装する必要の来るまでは、パラソルはよして、日傘でお通しなさいと申しましょうか」

中原「それがいいですね。お河童に三尺でしたら、日傘はピッタリ合った附属品です」

南「あの、ふつう売っている布張りの日傘でしょうか……」

中原「ええ。避暑地——軽井沢の町なんかには、安い紙張りの気の利いた日傘を売っていますが、あんなのもかえって面白いようですが、ふつうはあまり見かけませんね」

南「それから日傘の趣味ですが、踊りに出るようなけばけばしいのを得意になってさしているのもおかしゅうございますね」

中原「それは色の感じの難しい問題ですね。少女ですから明るく派手であることは一向差支えないのですが、選択をあやまると安っぽくなるのです。

　模様もそうですよ。特別に純日本ふうのものが似合う少女は別ですが、そうでなかったら、たとえば、竹に雀とか、牡丹に唐獅子とか、ああいった型にはまった模様は避けて、もっと少女らしい可愛い趣味でいっていただきたいと思いますね……こう、ただ口でいったのではぼんやりしていますが……」

南「では、今月は、附録の作り方をこのあとへ入れますので、頁数が少なくって、残念ですがこのくらいで……」

※1 メリンス――メリノ種の羊毛で織ったことに由来するスペイン語merinosから来た言葉で、柔らかい薄地の毛織物。唐（とう）ちりめんとも呼ばれ、モスリンの古い呼称でもある。

※2 へこ帯――一枚の幅広い布状の帯で、好みの幅に折りたたんで使う。「へこ」は鹿児島で青年の意の「兵児」で、若い男性や子ども向けのしごき帯を指すが、結び目がふわっと広がり華やかな感じになるので、若い女性にも愛用されている。

※3 東宝――旧東京宝塚劇場の略。東宝株式会社を創立した小林一三翁により、昭和9（1934）年に設立された劇場。

※4 元禄袖――和服の袖で、袖丈が短く丸みの大きい袖型。袖丈は子ども物で30～40センチ、おとな物で42～45センチ、丸みは8～15センチぐらい。元禄時代に始まったことから、この名称がある。戦前、布の資源を節約する目的もあったといわれる。

※5 束髪――明治時代に登場した女性の西洋風結髪。衛生的で機能的、和服にも似合うというので広く普及。マーガレット、西洋上げ巻など様々な種類があり、なかでも前髪と鬢をふくらませて前方へ突き出して結う庇髪は、女学生の典型的な髪型となった。

昭和12年9月号　夏にふさわしい色と着こなし



夏向きの赤と冬向きの赤

南「先月は和服——浴衣のお話でしたから、今月は、洋服を中心にした、夏の少女の服装についてどうぞ……」

中原「そうですね、夏には、女学生でもかなり大胆になってよいのではありませんか、——もっとも大胆といってもゴタゴタと派手に飾るという意味でなく、清潔なサッパリした感じの生地で、大まかなスッキリしたデザインが好ましいですね、そんなつもりで挿絵の四つのスタイルを描いてみました」

南「暑苦しくなく見せるには、形のほかに色もずいぶん関係いたしますね。

夏にふさわしい色彩といったらど

んな色があげられましょうか？」

中原「さあ、めいめいの顔うつりという問題が第一にありますから、いちがいにはいえません、がただ、涼しそうな色というのでしたら暖色を避けて寒色を選ぶことですね」

南「暖色、寒色と申しますと？」

中原「暖色といえば、黄系統、赤系統の色調で、これは一般に暑そうに見えます。寒色のほうは、黒、ブルー、鼠などといった冷たい感じの色、浴衣に紺を染めるようになったのも、そんな感じからだと思われますが……」

南「そういえば火の色はあついし水の色は冷たい感じだし……そういった暖寒二系統の区別はたしかにございますね、――でも、赤は暖色だから、夏には絶対にうつらないかというと、必ずしもそうもきめられないように思いますが……」

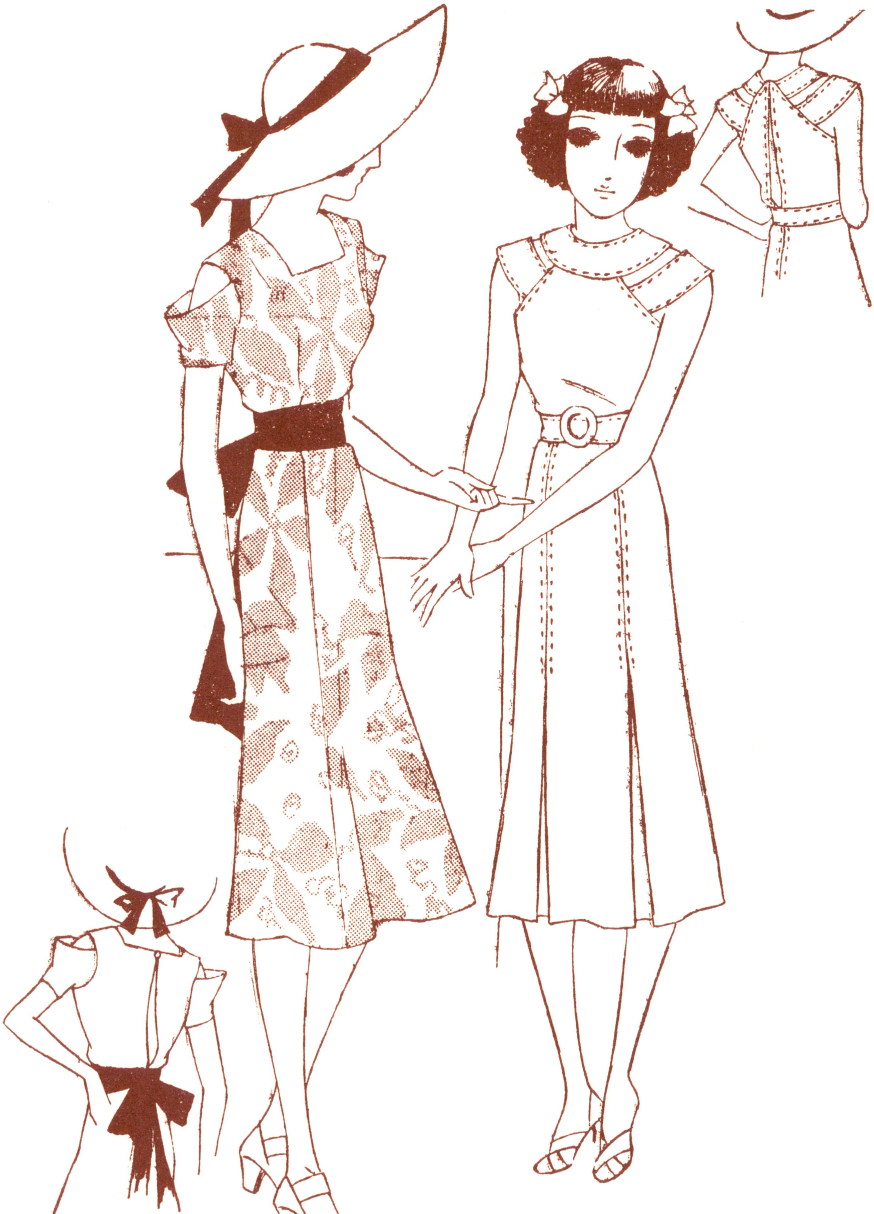
中原「そうです、同じ赤でも夏向きの赤と、冬向きの赤とがあるのです。なぜなら、実際の場合には、暖色、寒色の二つの要素がまじりあって、一つの色をつくっていますから、同じ赤でも、エンジがかった色は涼しそうですが、黄色がかった緋のような色は暑そうに見えるというふうに……」

南「紫色にも同じことが申せますね。赤っぽい紫は暑そうですが、青が勝ったブドウ色のようなのは、冷たい秋らしい感じがしますし――」

どの系統の色にもその人に似合う色合いがある

中原「この頁には色が表せないので、実際にお見せすることができなくて残念ですが、およその色にでも、暖色がかったものと、寒色がかったものと無数の種類がありますし、その各々にまたいくらでも濃淡の度があるわけですから、たとえば〝私には何色は似合わない〟と一口にきめてしまうのは早計ともいえましょうね。ほんのちょっとの加減で顔うつりが違って来るのですから……厳密にいえば、どの系統の色の中にでも、必ずその人に似合う色が一つはあるといえるほどで――もっともこれを似合わすにはお化粧のたすけも借りなければならないでしょうし、とても女学生時代の少女には、そんな凝ったお洒落をする余裕はないわけですが」

南「そうしますと、色を選ぶ上には、暖色、寒色の関係と、濃淡の度合とこの両方を考える必要があるわ



少女のための夏のスタイル1・2
年の小さい少女は、袖なしがいい

けでございますね」

中原「ええ、たとえば、寒色はいくら濃くても暑苦しくないが、暖色だと、ちょっと濃くても非常に暑く見える……ということとも、夏の服装をする上には心得ておかなければならないでしょうね。

仮にここに、グリーンのとても好きな人があるとしますね、その場合、暖色系の――黄味がかったグリーンを選んだとしますと、色が薄ければ、たとえばボイルやオーガンディの薄地で拵えたドレスなら、涼しそうなのですが、これが厚地のものでも色が濃いと、黄味の勝った緑はどうも夏の服にしては暑苦しく感じますね、ところが、反対に、青みの勝った緑色ですと、いくら濃い色にしても、清楚な涼しそうな感じがするものです」

小麦色の肌に合う服

南「それから夏にはどうしても陽に焼けますね、日焼けした場合の服装はどんな注意が必要でしょう?」

中原「洋服はふだんでも、幾色もごたごたと使うことは避けなければなりませんが、殊に日焼けした肌には、色調をごく単純に統一することが大



少女のための夏のスタイル 3
日焼けした肌には、服の色調を統一することが大切

切です、それでないと田舎者みたいな道化た感じになりますから。

できれば、二色くらいに限りたいですね、が、まあ、白と黒とは別にして、黒いバンドに、白いカラー、それに紺に黄色の水玉のドレスくらいの四色だったらかまわないと思いますが」

南「そういえば、日焼けした小麦色の肌には、黄色がとても近代的な感じがして引立つことがございますね」

中原「ええ、黄色は暖色ですが、日焼けした肌に負けないだけの強烈な鮮やかさを持っていますので、その点、反対効果を生じて、かえって黄色は夏の色だともいえますね。

ただ、こうなるといちばん肝心なのは、色のとり合せの問題で、白の襟に黒いバンドでもあしらえば、無難ですっきりと見せますが、これが黄色の上にさらに暖色を重ねたら、とても暑苦しくなります」

お化粧はホホ紅程度に

南「そうですね、たとえば黄色のドレスに、赤いバンドをしたりすると、殊に肥り気味の人なんかはますます暑苦しく見えてやり切れませんね。

それから、こうした洋服の色の注意のほかに、外出などする時、あまり顔が黒いというので、ちょっとお化粧をしてなどとお思いになることがありましょうが、色が黒くなったからといって、お姉様の白粉をべたべた塗って白く見せよう、なんてことは禁物ですね」

中原「そうですとも、少女時代はあくまでも生き生きと健康に輝いたところが良いのですから、日焼けした顔は、それなりに引立たせればいいのです、僕はふだん色の白い少女が海岸に半日くらいいて、ほんの少し焼けて――頬などがポーと赤くなってた顔色なんか、かえって何ともいえない美しさがあって、大好きです」

南「ほんのりと桜色、といった程度でしたら、ほんとにそのままで綺麗なわけですが、それがもっと焼けてきたら、外出の時などは、クリームをひいてホホ紅をつけるくらいなさったほうが醜さを補えましょう。顔全体に黒ずんでいるような日焼けの感じがホホ紅で頬を色どることによって、生き生きと引立ちますから。それ以上のお化粧は少女にはわざとらしくていけませんね、殊に日焼けをした肌は難しいので、下手なお化

粧であらが見えたらみっともないし」

中原「ホホ紅の色ですが、ふだん色の白い時、桃色のホホ紅でよかった人でも、日に焼けた肌に桃色を塗るなどはもってのほかですし、赤黒く焼けたところへ、朱色の紅を塗ったらそれこそ火事のようになってしまうし……よく地肌との配合を考えて選ぶ必要がありますね」

南「褐色がかったオレンジ系のホホ紅が、一般に無難なようですね、日焼けした肌には……健康な感じも、よく出ますし」

靴下は薄く目立たない色で

中原「それから話が急に足へ飛びますが、夏に少女が制服を脱いで軽いワンピースでも着ている時、白靴をはいているのはとても軽快で可愛らしいですね。

　白い靴がさっさっと歩いていると見るからに夏らしい新鮮な感じがします。服とつり合いの悪くない限り、僕は白靴を大いに礼讃しますね」

南「ついでに靴下の色ですが、真白い靴下というものは、とても脚が太く見えて、おかしゅうございますね。

　下に白靴をはけばまだいいのですが、白い靴下に、黒い靴なんていういで立ちは、野暮くさくて、洋服がどんなにしゃれてもぶちこわしですね、子供ならまだかまわないでしょうが、大柄の少女などがこんな恰好をしていたのでは、お世辞にもすっきりしているとは申せませんもの」

中原「たとえ白靴をはくとしても、ごく薄い肌色の靴下のほうが僕は、好きですね。

　いったいに靴下の色は、あまり際立ったものより、服の色より濃くない目立たない色をはいたほうがスッと見えるものです」

南「それから、上はふつうのワンピースで、靴下と靴だけ制服の時のまんまの黒、という服装も非常にみっともないものでございますね。

　通学服にはそれで合っているにしても、夏に自由な服装をなさる時には、靴下もぜひ、服に合せて買わなければならないので、これは服装の一部なので、決して贅沢ではありません。制服を脱いでふつうの洋服を着るからにはどうしても必要な附属品なのですから」

中原「洋服では、帽子とか靴下、靴、バンドなどの附属品が非常に大事な役目をしているもので、附属品がチグハグだったら、どんな立派な洋服

も、アッパッパ[※1]みたいなことになってしまいます」

南「このことは、やっぱり少女でも心得ておかなければいけませんね」

中原「ええ——といっても、決して贅沢をする必要はないので、たとえば帽子にしても、夏の少女は、ピケ[※2]のよく洗濯してある真白な帽子で結構なわけです。

ただ、何よりも清潔なサッパリした感じで全体が統一されていることが大切なのです」

南「日焼けした肌には、殊に清潔な服装をしないと、うす汚れが目立って、暑苦しく見えますね」

とにかく埃っぽくしないこと

中原「暑苦しいといえば、夏の女学生によく見かける姿ですが、エンジやクリーム、グリーンなどの色のついた襟の水兵服（セーラー）の上から、ジャンパーの釣りスカートを着て街を歩いている姿は、殊に袖が長かったりしたら、暑苦しさこの上なしですね」

南「いったいに、夏の少女の洋装には、長い袖は禁物ですね、スタイルの上からいっても——」

中原「ええ、許されるなら、年の小さい少女は袖なしでいたほうがいい



少女のための夏のスタイル 4
夏はワンピースのほうが可愛い

と思います。
それから、少し大柄の少女ですと、このごろ、既製品で売っている大人のスカートやブラウスがそのまま着られるとみえて、よく下のつぼまったゾロリと長いスカートに、少しも可愛げのないブラウスを着て、そして、頭だけは子供のままでいる姿を見かけますが、あれなんか僕のいちばんいやだと思う姿です。せめてスカートでも、丈を短くするなり、裾を拡がらすなりして、少女らしい型にかえて着ればよいと思うのですが」

南「やはり少女には、ワンピースのほうが可愛うございますね」

中原「ええ、でもブラウスやスカートをはいて、大人らしいふうをしてみたい気持もあるのでしょうが……」

南「では最後に、これから九月になって新学期が始まりますと、残暑がジリジリ照りつける中を、皆様はまたちゃんと制服を着て通学なさらなければならないのですが、暑い頃の通学姿について、何かお気づきのことがございましたら……」

中原「何よりもまず埃っぽくしないこと――髪でも靴でも、ほうぼうが埃っぽいことがいちばん気になりますね。
それから、黒いスカートは、暑くてお気の毒ですが、下に白いシミーズ[※3]をはいていて、それが電車やバスに腰かけた時、見えたりすると、いっそう暑苦しいし、それに見苦しいと思いますから、これは注意してほしいと思います。埃っぽく汚れて、ぐったりしたようになって帰ってゆく女学生を見ますと、ほんとにこちらまでうら哀しいような、うんざりした気持になりますから、どうか、皆様もせいぜい気をつけて、せっかくの乙女時代をくれぐれも埃っぽく過さないように、いつも清潔(きよらか)に、明るくピチピチとしていていただきたいと思います」

※1　アッパッパ――夏の暑さをしのぐため、通気性をよくするように、ゆったりとつくられたワンピース。大正末期から昭和初期にかけて、大阪辺りで使われ始め、全国に広まった言葉。

※2　ピケ――綾織と平織を組み合わせて、立体感のある盛り上がった畝を織り出した二重組織の織物。綿の縦畝が多い。ステッチを「刺す piquer」意のフランス語が語源。

※3　シミーズ――袖なしで胸から腰までを被う婦人用肌着のこと。現在のスリップと同義。フランス語のシュミーズ chemise の訛ったいい方。

女學生服装帖

中原淳一・南由紀子

昭和12年10月号

健康型・抒情型・エキゾチック型

少女の三タイプ

南「女学生服装帖も、始めてからもう半年になりました。今までわりに実際的な方面のご注意をいろいろ書いて参りましたが、今月は皆さんにもっと楽しんで見ていただけるように趣を変えてみたらいかがでしょう」

中原「僕は前からこんなことを考えていたのですよ、――現代の少女を、大きく三つの型(タイプ)に分けて、それぞれに似合うような洋服と和服とを着せた絵を描いてみたいと――」

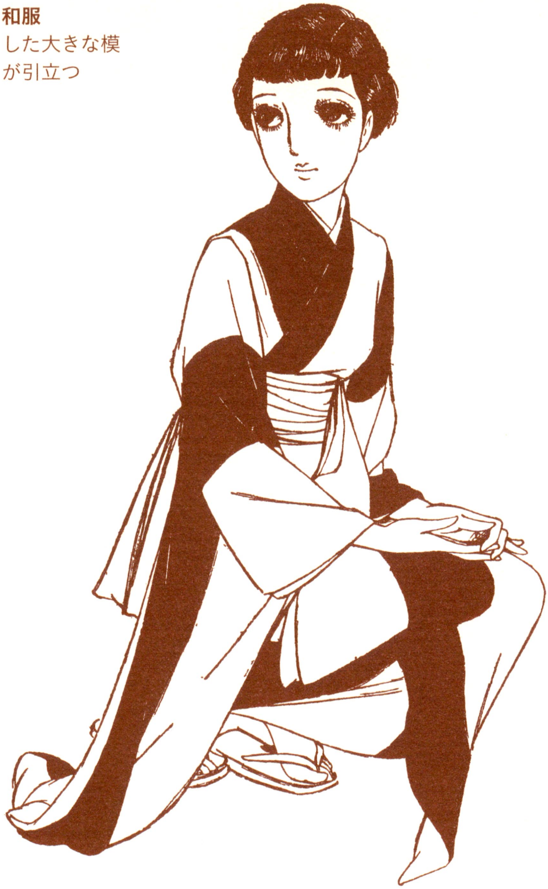
南「三つの型(タイプ)にとはどういうふうにお分けになりますの?」

中原「健康型、抒情型、エキゾチック型この三つです。(次のページからの絵はその順)もちろん、実際の少女を誰でもはっきりとこの三種のどれかに属させられるというわけではないのですが、自分は比較的、どの型に近いのだろう? というくらいは考えてみれば分りますね。で、それらの標準型もあげて、適した服装のお話をすることはきっと何かの参考になると思いますよ」

健康型
～はっきりした色と柄で～

南「それと同時に、いろいろと頭の中で空想してみるだけでも少女にとって楽しい遊びですのね。ではどの型の少女は、どんな服装をしたら似合うか、絵を見ながら順々に伺いましょう。まず、健康型の少女――というのは、その字が示す通りに潑(はつ)剌(らつ)とした、体格のよいこのごろの女

健康型・和服
はっきりした大きな模様のほうが引立つ



学生によく見かける型（タイプ）の少女ですのね」

中原「ええ髪なんかも男の子のように短く刈り上げてしまい、手足の短い洋服でも着て飛びまわっているような、——そして夏がくれば真先に海へとび込んで真黒に焼ける、——といった感じのお嬢さんですね。それと、もう一つ、このごろの女学生で、いわゆる、少女らしい優しさ、柔らかさ、なんかをわざと嫌って、赤いものを身につけたりするのをいやがる心理がありますね、そんなふうなガッシリした好みの少女もこのグループに入れました」

南「この型（タイプ）には、洋服にしても、細々（こまごま）とした飾りなんか似合いませんね」

中原「ええ、型も、たとえスポーツ・ドレスでないにしても、できる



健康型・洋服
短い髪型が似合う健康型には、子どもらしい型の洋服がよい

だけ線の太い、大胆な形を選ぶようにすることが大切です。それと、ここに描かれてある少女のように、健康型の少女には、頭の毛をかなり短く切っていたほうがさっぱりして似合う場合が多いのですがそうすると、長めの断髪よりずっと子供っぽく見えるわけで、そこへ持ってきて、あまり大人っぽいしゃれた型の洋服を着るとおかしく見えます。一般に、この健康型の少女には、年よりむしろ子供らしい型の洋服が似合いますね」

南「小麦色の肌、リンゴのような頬をした健康型の少女をより生かすのは色彩的にも薄い中途半端な色はできるだけ避けて、ハッキリした色彩でいったほうが効果的ですね」

中原「そうです、たとえば、赤系統を使うとしてもローズとかピンクと

抒情型・洋服
小さなリボンが似合う。ただしいろいろ凝りすぎてマダムのようにならないよう注意



かでなく、思いきって鮮やかな、濃い赤を使うこと、紺の場合でも、黄の場合でも、同じような気持ちで……」

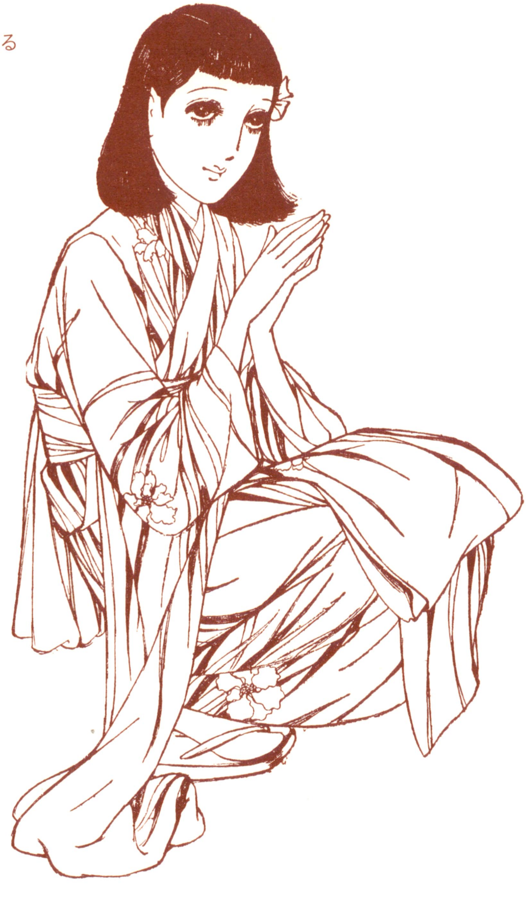
南「和服を着るとすると、絵の少女のように、大胆な、どちらかといえばモダンな感じが似合いますのね」

中原「柔らかい一面の花模様なぞでなく、こうしたハッキリした縞とか、非常に大きな模様——、たとえば一巾の中に二つくらいしかついていない大柄の矢絣などのほうが引立ちましょう」

抒情型
～柔らかくし淋しさを補う～

中原「二番目の抒情型とは、優美な、おとなしい感じの少女、髪の毛なぞも、短く切るのがおしくて、ふ

抒情型・和服
写生ふうな図柄を着る
のが似つかわしい



さふさした長い断髪を肩にたらしているのがよく似合うような感じの少女です」

南「横に結んだ小さなリボンも、こんな型の少女にいちばん似つかわしい感じが致しますね」

中原「洋服の趣味も、細かいところに気をくばって、柔らかい襞や、やさしい飾りのついたものなどを選んで、淋しさを補います、ただしあまりいろいろと凝りすぎて、大人のような、マダムのようなおしゃれになるのは、いちばん避けなければならないこと」

南「健康型のように直線的な強さをもってきますと、ギスギスした、かたい感じでそぐいませんね、和服もやはり静かな、おとなしい調子に描いてございますね」

中原「これは、蘭の花を写生ふうに

エキゾチック型・洋服
耳のすぐ後で結んで垂らす髪型はロマンチックな味がある



描いた模様です、抒情型の少女には、縞よりも、友禅模様よりも、何か静かな、写生ふうな図柄の着物を着ているのがいちばん似つかわしいように思われます」

エキゾチック型
～属す少女は少ない～

南　「エキゾチック型といいますと、どんな少女をさしているのでしょうか？」

中原　「ロマンチック型といってもよいのですが——、いわば抒情型の少女が、いくらか日本的な静かな感じをもっているのに引きかえ、このほうは、ちょっと外国の、オランダなんかの田舎娘といった感じで——数にすれば、この型に属する少女は、ほんの少しでしょうが、でも

エキゾチック型・和服
クラシックで素朴な、更紗模様などがしっくり合う



僕は時々、街でなぞ見うけますよ」
南「髪の毛をこんなふうに、両方に分けて三つ組にするのは、昔の少女の風俗でしょうが今の少女にでも、似合いますのね、断髪ばかりでなく、こんな形のほうが似合う少女は、自分で変えてごらんになるといいと思います」
中原「ただ、断髪で洋服を着るよりは、選択がむずかしくなりますね、エキゾチックな感じを出そうとして、失敗するとかえって野暮くさくなるおそれがありますから。それから、同じ両方に分けた髪でも、頭の後ろで、まん中で一度くくってから先を二つに分けるような結い方だと、一時代前の女学生みたいな古くさい感じになりましょうが、図のように、耳のすぐ後ろあたりで結んで垂らす型は、ちょっとロマンチックな味が

あります、また、似合う少女なら、耳をかくしてもいいでしょう」

南「こんな髪にいちばん似合うのは、やはり絵のような、特異な趣味をもった洋服でしょうね、実際に少女の外出着などには、こうまで、大胆にその趣味を出すわけにはゆかないでしょうが？」

中原「ええ、この絵は、極端に特色を生かした例ですが――一口にいって、クラシックな、それでいて、豪華ではない、素朴な感じです」

南「和服も、三尺を締める少女時代の着物には、こうした、エキゾチックな趣味が生かせますね。プリントの洋服生地と同じような感じの、更紗模様[※1]などが、いちばん、髪ともしっくり合うような気がしますのね」

中原「この場合、色を注意することです。一面の模様が、けばけばした原色で描かれていたとしたら、赤ん坊の着物みたいに落着きのない感じになりましょうが、色の渋さをもった、更紗模様のような地を選べば、はじめてエキゾチックな雰囲気が感じられてきましょう」

※1　更紗模様――プリントを施した綿布のこと。ただし本来は室町末期に渡来した文様染めの布地を指す。草花や鳥獣、人物などを図案化した柄や幾何学模様などがあり、世界各地で特徴を生かしたものがみられる。

第2章

昭和13（1938）年

おしゃれを楽しむ工夫

世相

宝塚歌劇団、スター以外の女生徒にパーマ禁止（2月）
国家総動員法公布（4月1日）
内務省、婦人雑誌の全面検閲開始（5月）
エノケン一座、日劇初出演（6月11日）
雑誌用紙節約を通牒（9月3日）
当局の要請で、菊池寛、吉屋信子ら漢口に従軍（9月）
岩波新書刊行開始（11月20日）
『風と共に去りぬ』『キュリー夫人伝』ベストセラーに
スフ生産高3億3千万ポンドで世界一
モンペ流行

この年の『少女の友』

◉**定価**　50銭、340ページ
◉**表紙**　中原淳一　小林秀恒（春の増刊号、夏の増刊号）
◉**おもな連載**
松本かつぢ「くるくるクルミちゃん」（1月号～昭和15年12月号）
川端康成「花日記」（4月号～昭和14年3月号）
田郷虎雄「双葉と美鳥」（1月号～12月号）
吉屋信子「伴先生」（1月号～昭和14年3月号）
村岡花子「ブックレビュー」（1月号～昭和16年12月号）
◉**おもな執筆者**
佐藤春夫、堀口大学、林芙美子、井伏鱒二、宮城道雄、小林秀恒、蕗谷虹児、初山滋
◉**できごと**
「友ちゃん会」を京都、大阪、広島、大宮、札幌、津、山形、金沢、仙台、東京で開催

解説 昭和13（1938）年の「女学生服装帖」

内田静枝

「女学生服装帖」はすぐさま人気を呼びました。これまで後方のページに掲載されていたものが、この年からは巻頭に昇格しています。

子ども服かおとなの洋服しかなかったこの当時、少女のための服装を真剣に考えていたのは中原淳一ただひとりといっても過言ではありません。たちまち淳一は読者からの絶大な信頼を集めるに至りました。

さて、3月号と4月号はそれぞれ卒業生と新入生に贈る企画となっています。連載のタイトルでもあり、『少女の友』の主な読者層だった「女学生」とは高等女学校の生徒のこと。入学は12～13歳で、卒業時は16歳～17歳になります（4年制と5年制とがありました）。ほぼ現在の中・高校生に相当しますが、当時は小学校までが義務教育で、女学校進学者は限られた存在でした。つまり、恵まれた家庭に育ち、知力にも優れたお嬢様、これが「女学生服装帖」の読者でした。

ただし、彼女たちに淳一は、決して贅沢を奨めたわけではありません。私たちは戦前とは思えないほど華やかな淳一ファッションに驚き、そこにばかり目をやってしまいますが、淳一の服作りは基本的に節約とリフォームに徹していました。和服地やゆかた地で作る洋服（6・7月号）は、手持ちの反物の利用を奨めたものですし、9月号はだれもが持っているウール地として、着古した制服を利用したものです。お金をかけるのではなく、頭を使い、手をかける、これが淳一のポリシーでした。

また、淳一のアドバイスは、髪型（10月号）や身のこなし（2・12月号）にまで及びます。11月号では自分に似合う型と色で洋服を作るようアドバイスした上で、それより大事なのは姿勢や動作であると述べており、美しくあろうとする意識の持ちようが何よりも大切なのだと説いています。

女學生服装帖

中原淳一

昭和13年1月号　宝塚にヒントを得たスタイル

美しいものをとり入れる

お正月なので服装帖も四角張ったものでなく見て楽しむものにしてしまいました。

宝塚の衣裳（コスチューム）からヒントを得て七種類のスタイルを書いてみました。

実際にはとても着られないこれらの衣裳がちょっとした工夫で感じだけをとってこんなふうに実生活にとり入れられるものができるということがお分りでしょう。

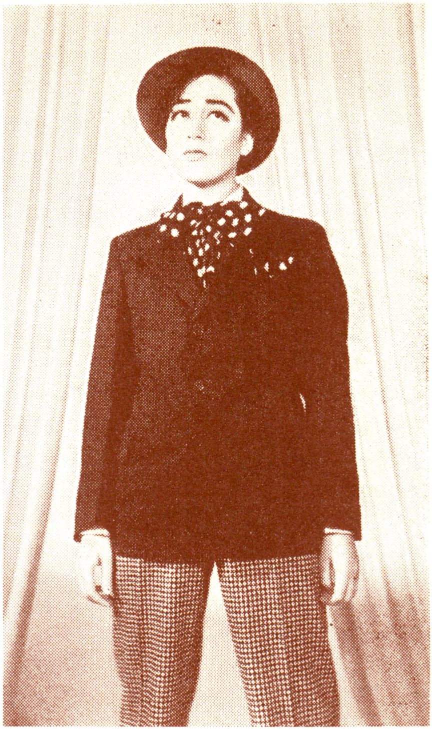
あなた方がご自分の洋服のスタイルをきめる時、スタイルブックだけによらないで美しいと思ったものをなんでもとり入れたいと思います。

一ひらの落葉から、いろいろな花の形から、真青な空に浮ぶ雲の美しさからでもいろいろなデザインが生れて来ます。



「歌えモンパルナス」の
葦原邦子さんの衣裳





一　歌えモンパルナス

歌えモンパルナス[※1]の中の葦原邦子(あしはらくにこ)[※2]さんの衣裳から少女のスーツを作ってみました。体の線のスッキリとした、女学生でも上級の方にいいでしょう。スカートは下をピンと開かせて明るく少女らしく。

二　世界の唄

世界の唄※3の草笛美子（くさぶえよしこ）※4さん、プレーンなデザインの上に肩にかけた三角巾だけがこの服の調子を作っています。散歩服に。







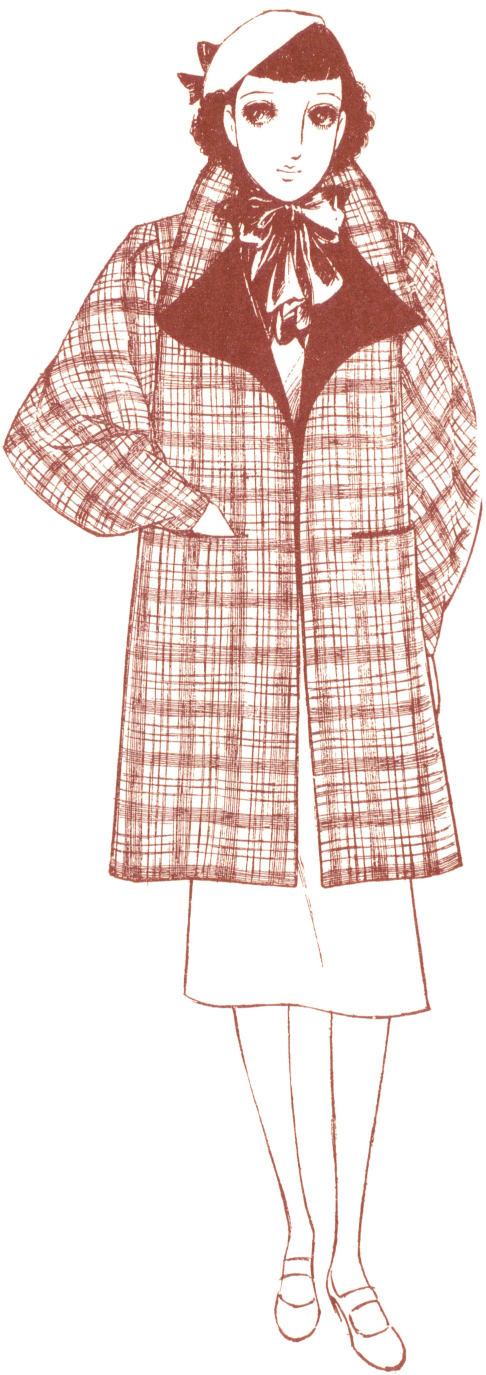


三　ゴンドリア

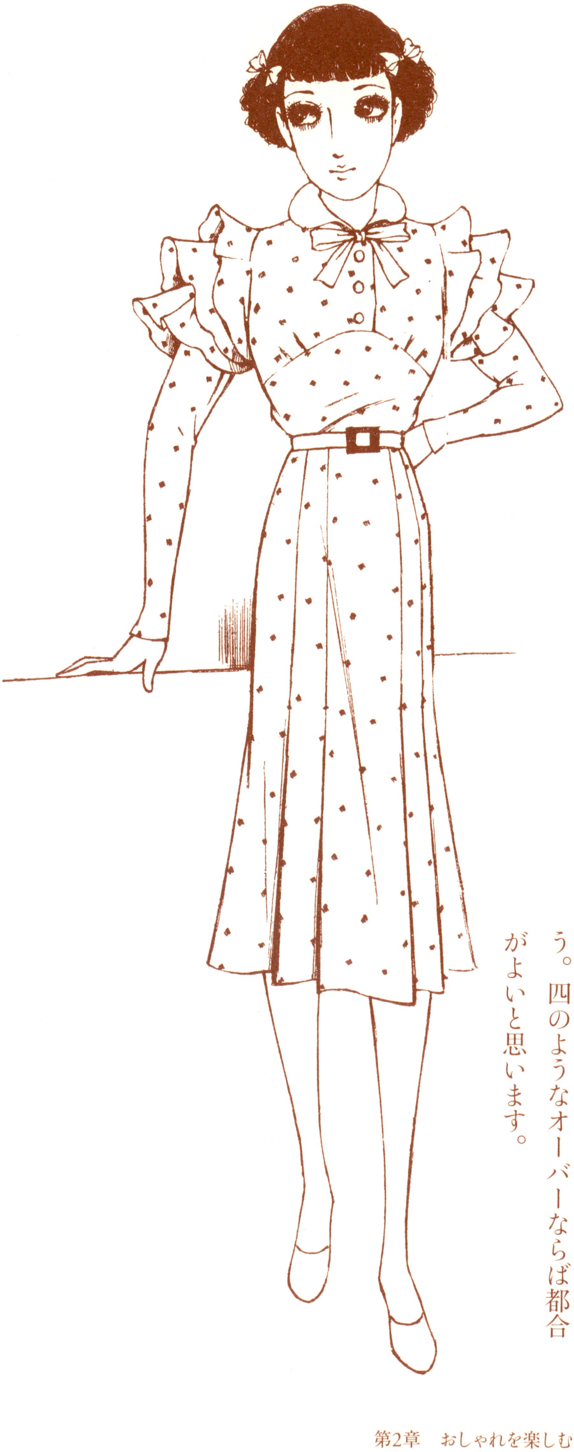
ゴンドリア[※5]の中の桜緋紗子（さくらひさこ）[※6]さん、木の葉の形のアップリケのある外出着、エキゾチックな方にお似合いです。色彩ははっきりした反対色をお選び下さい。

四　勧進帳

観進帳[※7]の天津乙女さん[※8]の衣裳、全然洋服からかけ離れたものですが袖をユッタリさせることによってその感じを出そうとしました。



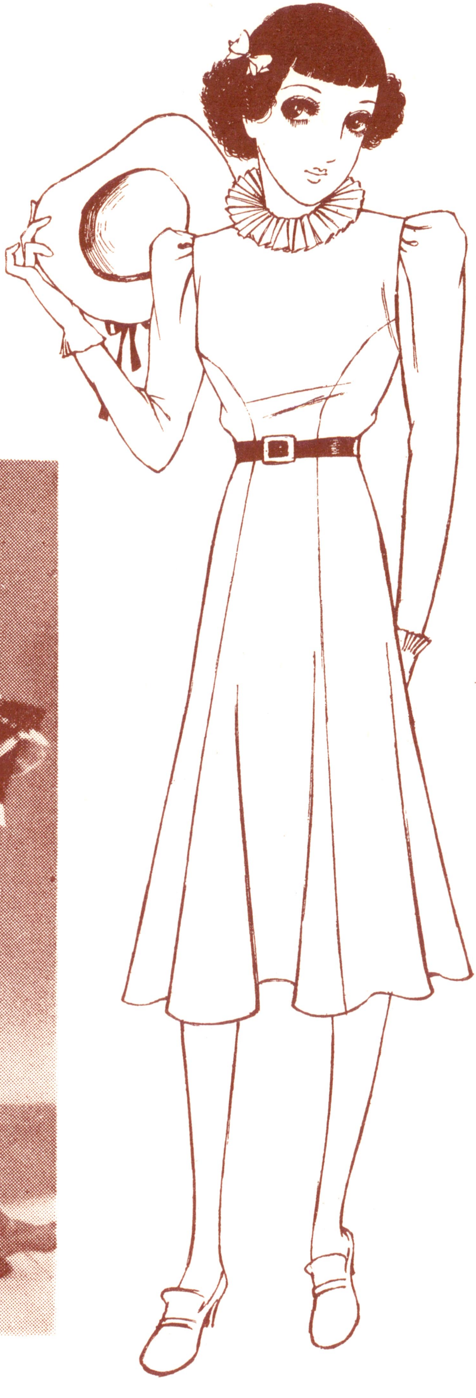




五・六　ゴンドリア

共にゴンドリアの小夜福子※9、佐保美代子※10さんです。二つとも冬の外出着です。小さな方が着てもきっと可愛いでしょう。小夜福子さんのほうはオーバーの袖に工夫が必要でしょう。四のようなオーバーならば都合がよいと思います。

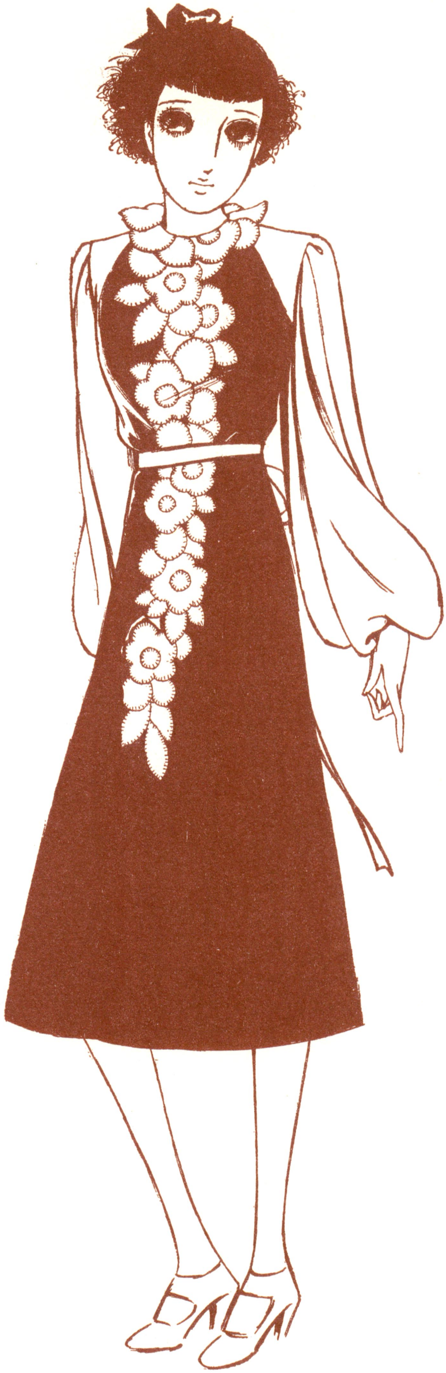




昭和13年1月号　宝塚にヒントを得たスタイル

七 マタ・ハリ

マタ・ハリ[※11]の橘薫（たちばなかおる）さん[※12]、黒ビロードの上に原色を避けた種々の色でアップリケを施した室内着、またはお友達などの訪問服に、お正月などには最も適当でしょう。





※1
「歌えモンパルナス」――昭和12（1937）年、宝塚少女歌劇団星組により宝塚大劇場と東京宝塚劇場で公演された16場のグランドレビュー。原作・原案は東郷静男、振付は東信一、音楽・作曲は河崎一朗。パリのモンパルナスを舞台に愛と悲哀に満ちた物語を歌と踊りで華やかに演じた。主人公アルベールに葦原邦子、ジョッフル役に汐見洋子、エドヴィジュ役に草笛美子らが出演した。葦原邦子は後年、自著「わが青春の宝塚」で「とくに好きだった役は？」と聞かれて、このアルベール役をそのひとつに挙げている。

※2
葦原邦子（1912-1997）――昭和～平成の女優。戦前は宝塚黄金時代の名男役として宝塚人気を支えた。昭和3（1928）年宝塚音楽歌劇学校に入り、翌年「春のをどり」で初舞台を踏む。東京宝塚劇場開場に際して「花詩集」でこけら落としを果たす。男役の短髪慣例化の先駆けとなるなど、現在の男役の基礎的なスタイル完成に貢献した。中原淳一の妻となり、夫が主宰する雑誌の記者や画家としても活躍し、平成2（1990）年、勲四等瑞宝章を受章した。

※3
「世界の唄」――昭和12（1937）年、宝塚少女歌劇団の星組により演じられた歌と踊りのグランドレビュー22場。原作・原案と音楽・作曲は須藤五郎、作詞は松田武ら。宝塚大劇場及び東京や名古屋で公演された。大合唱に合わせて「世界の唄」を三浦時子が、また「忘れじの歌」を葦原邦子が、「我に唄えよ」を草笛美子が歌った。他に汐見洋子、秋風多江子、山路静香、明海陽子、橘薫らが出演した。

※4
草笛美子（1909-1977）――昭和の女優で、鳥取県出身。昭和2（1927）年に宝塚音楽歌劇学校に入校し、「モン・パリ」でデビュー。「ローズ・パリ」、「トゥランドット姫」などに出演し、堂々とした容姿と声量で、魅惑のプリマドンナと謳われた。葦原邦子、小夜福子とともに、宝塚黄金時代を支えた三本柱のひとりだったが、戦時下の昭和15（1940）年に退団。戦後も舞台や映画で活躍した。

※5
「ゴンドリア」――昭和11（1936）年、宝塚少女歌劇団月組により宝塚大劇場をはじめ各地で公演された20場のグランドレビュー。ゴンドラを曳くふたりの若者が新国王のインチキ候補に推し立てられて失敗する物語を、歌と踊りで綴った。原作・原案は東郷静男で、松竹から宝塚に移って2作目の作品。振付は益田隆、音楽・作曲は岩河内正幸ら。小夜福子が若者のひとり、アントニオ役を演じ、その三枚目振りを巧みに演じて話題を集めた。踊り子役に佐保美代子、また桜緋紗子、社敬子、錦あや子らが出演。響千鈴が歌った主題歌「美しのゴンドリア」もヒットした。

※6
桜緋紗子（1914-2002）――女優で元宝塚少女歌劇団娘役スター。昭和4（1929）年、宝塚音楽歌劇学校へ入り、翌年「春のをどり」で初舞台を踏んだ。芸名は吉野山の桜と百人一首の「久方の 光のどけき春の日に しづ心なく 花の散るらむ」（紀友則）から付けたという。退団後、新派を経て引退。その後出家し、尼僧となった。

※7
「勧進帳」――如意の渡しでの出来事を演じた能の「安宅」を基にした歌舞伎の演目で、歌舞伎十八番のひとつ。これを初めて舞踊劇に脚色し、昭和5（1930）年、宝塚少女歌劇団花組が公演した。その後昭和12（1937）年に雪組により再演され、武蔵坊弁慶を天津乙女、富樫を春日野八千代、源義経を南悠子らが演じ、歌舞伎ファンも必見の名舞台と謳われた。原作・原案は並木五弁瓜、脚色は楳茂都陸平、音楽・作曲は三善和氣が担当した。

※8　天津乙女（1905－1980）――大正～昭和の女優。大正7（1918）年に宝塚少女歌劇団に入団し、翌年「鞍馬天狗」で初主役。月組組長として主演級を張った。日本舞踊の名手で、洋楽のなかに日本舞踊を採用した「鏡獅子」の舞台は有名。昭和23（1948）年に女性初の宝塚歌劇団理事となる。芸名は百人一首の「天つ風 雲の通ひ路吹きとぢよ 乙女の姿 しばしとどめむ」（僧正遍昭）にちなむ。自伝「清く正しく美しく」などの著書もある。

※9　小夜福子（1909－1989）――大正～昭和の女優。大正10（1921）年に宝塚音楽歌劇学校に入り、宝塚少女歌劇団月組に配属され、娘役から男役に転向。そのせいか可愛い男役でトップスターとなった。本公演で終演後に歌われる「さよなら皆様」の創唱者でもある。退団後、演出家の東郷静男と結婚し、退団後、民衆芸術劇場（民芸）などの舞台や映画で活躍した。芸名は百人一首の「み吉野の 山の秋風 小夜ふけて 古里寒く ころもうつなり」（参議雅経）から。

※10　佐保美代子（1912－1954）――元宝塚歌劇団の女優。昭和2（1927）年に宝塚音楽歌劇学校に入り、昭和19（1944）年まで在団。二枚目男役として髪を短く切った先駆け的存在のひとり。退団後結婚し、メーキャップ・アーティストになったが、出張先で洞爺丸沈没事故に巻き込まれ逝去した。

※11　「マタ・ハリ」――マタ・ハリ(Mata Hari)は第1次世界大戦中にパリを中心に暗躍した悲劇の女スパイ。昭和6（1931）年にグレタ・ガルボ主演で映画化され、世界中でヒットした。その翌年、村松梢風が「東洋のマタ・ハリ」と称された川島芳子をヒロインにした小説「男装の麗人」を発表。このブームに乗って、宝塚歌劇の舞台などで演出・脚色されるようになった。

※12　橘薫（生没年不詳）――大正14（1925）年に宝塚音楽歌劇学校に入り、男役で活躍し、昭和14（1939）年退団。エッチンの愛称で親しまれ、昭和3（1928）年上演の「パリ・ゼット」のなかで、タッチンこと三浦時子との掛け合いソング「ディガ・ディガ・ドゥ」が大ヒット。〝エッチン・タッチン〟コンビとして売り出し、以後どのレビューでも二人の歌が見せ場のひとつとなった。退団後はソロ歌手に転身。戦後数年して病気で亡くなった。

コラム

「昭和モダン」と洋装

柳原美紗子

「昭和モダン」は、大正末期から、昭和初期にかけて、西欧モダニズムの影響を受けて開花した、新しい風俗や流行現象に現れた市民文化を指します。

モダンとは、明治期の「ハイカラ」に代わる呼称で、何もかもモダンでなくては夜も日も明けないといった人々もいたそうです。とくに先端的な若い男女は「モダンガール、モダンボーイ」の略称で「モガ、モボ」と呼ばれました。モガは、第一次世界大戦後のアメリカで始まった断髪とショートドレスの流行を採り入れた装い、モボは、裾広がりのズボンに、帽子やステッキなどのスタイルが特徴でした。

こうした世相を背景に、誰も彼もが憧れたのが洋装でした。タイピストやバスガールなどの職業婦人も増え、通勤に洋服が着用されるようになりました。まだ一般には和服が大勢でしたが、大正12年の関東大震災と昭和7年の日本橋・白木屋火災をきっかけに、和装の非機能性が問われ、洋装が普及していきました。

昭和10年代に入ると、ウエストを強調したフレアー型のワンピースが流行。欧米で1930年代以降、女らしい曲線的な細身のシルエットが流行していた影響でしょう。淳一も、このスタイルを好んで描いています。

「今日は帝劇、明日は三越」と謳われ、宝塚少女歌劇も黄金時代を迎えました。山の手文化が集まる銀座にならって、地方都市にまで○○銀座が生まれたのもこの頃です。洋風の生活様式も、徐々に全国に広がりはじめました。文化の花が咲いたのどかないい時代でした。

やなぎはら・みさこ
ファッションジャーナリスト。(財)日本綿業振興会ファッションディレクター。お茶ノ水女子大学卒。著書に『ファッションブック・フォー・ワーキングウーマン』(コスモの本出版)、共著に『ファッション用語辞典』(文化出版局)、『色彩用語事典』(新紀元社など)。

女學生服装帖

中原淳一
南由紀子

昭和13年2月号　スマートに見える歩き方と姿勢

ついうっかりすること

南「今年もまた服装帖を続けて参りたいと思います。去年あんなに皆様に喜んでいただきましたから……」

中原「そうですね、僕もこのページはとても楽しみです。ある時はうんと趣味的に遊んでみるのもいいし、またある時は実用的なことを扱ったり、どちらにしても、どこまでも少女らしさということを主眼にして、女学生の生活に役立ってゆきたいものです……」

南「ただ、困るのは、同じ女学生でも、都会と田舎とではとても風俗がちがう点ですのね。気の利いたつもりで、あまり都会趣味になっても田舎の女学生から苦情が出ますしね」

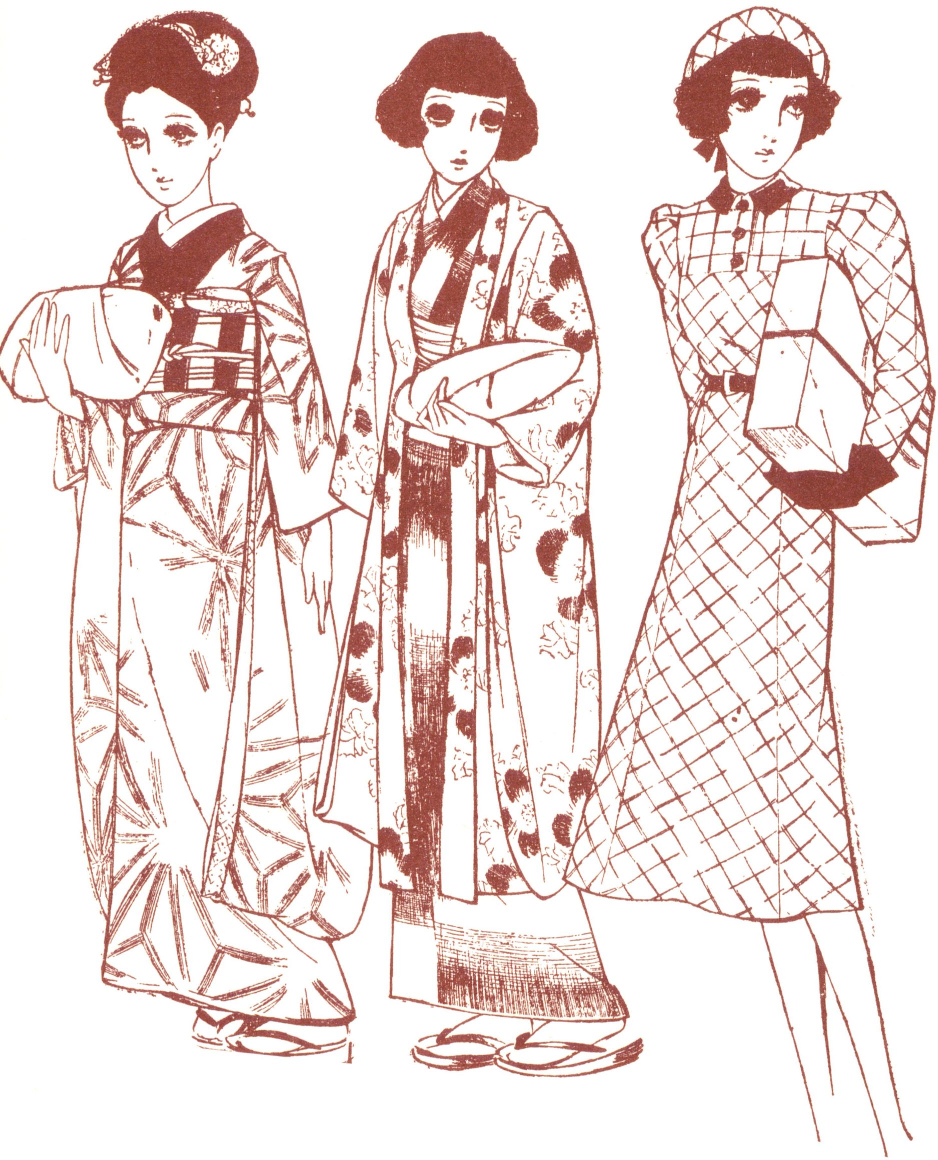
中原「今月は、うんと実用的な方面をやってみましょう、先月はお正月号で綺麗な遊びをしましたから……。僕はかねがね気になっているのですが、街を歩いている女学生の姿勢ですね、それから持ち物について……」

南「ちゃんと外出（よそ）ゆきの容子（なり）をする時は大いに気をつけるのでしょうが、通学姿で持ち物との調和など、ついうっかりしておりますね」

洋服に風呂敷包みはみっともない

中原「ええ、それに制服に限らず、ふつうの服でも、どちらにしてもいちばんみっともないと思うことは洋服を着て大きな風呂敷包みを抱えていることですね、ごく小さい、ハン

大きなものの持ち方三態



C お稽古がえり式の持ち方

B 風呂敷包みを持つときは、いくらか腕を下げ気味に

A 洋服に風呂敷包みはみっともない。四角な箱に入れればスマート

ドバッグくらいの物なら気になりませんが」

南「女学生が大きな風呂敷包みを持たなければならない場合といえば……そうですね、お裁縫の材料の持ち運びがありますのね」

中原「そんな場合もできればA図の少女のように四角な箱の中に入れて持てば、ずっとスマートに体裁がよくなります。また箱を使えないまでも、風呂敷包みよりは紙包み――、紙で包んで紐をかけてあるとそれほどおかしくありませんね。こんなことはちょっとした工夫ですが、綺麗な包装紙などとっておいて利用すれば少女らしい気のつけ方でなかなかいいと思います」

南「このごろ、紙の値段がとても高くなったのでデパートや商店などで包装紙をずっと倹約して使うことを申合せたそうですが、そうやって後まで利用すればなかなか国家の経済ですのね……」

中原「とにかく、洋服の場合の持ち物は、四角なり何なり、形がはっきりしていたほうが調和がいいのです。ぐじゃぐじゃと訳の分らない形は全体の線が釣合いませんから――和服でもB図のような、あっさりした少女らしい姿には、やはりあまり大きい風呂敷包みよりは、箱なり紙包みが似合いますね」

大きな物の持ち方

南「では今度は持ち方について……」

中原「持ち方はやはり服装と関係しますね。たとえばA図のような洋服の少女の場合には、Cの日本髪の少女のようなお稽古がえり式の持ち方をしないこと」

南「そうですね、また反対に日本髪の少女が洋装の少女のように荷物を小脇に抱えこんだりしたらおかしいでしょうし」

中原「Bのような服装の少女なら、四角い箱などを、洋装式の持ち方をしてさっさと歩くのもかえって可愛いかも知れませんね」

南「それから風呂敷包みの持ち方は、B図のように、いくらか腕を下げた気味に持つのが形がいいようですのね」

中原「荷物はすべていかにも重荷らしくだらんと下げて歩くのは禁物です。殊に、女学生が下げている手さげ鞄の中味は、きっとなかなか重いのでしょうが、学校帰りなどに、さも苦痛らしくぶら下げて足にぶつ

けたりしながら帰るのは、非常にだらしのない感じがしていやですね」

ハンドバッグはあっさりと

南「ついでに、少女のハンドバッグについて――セーラーにハンドバッグを持つことはあまり似合わないように思いますが」

中原「ええ、小さい女学生など特におかしいですね。セーラーの程度の服装だったらハンドバッグは持たなくてもかまいませんね。ですから、これは少女に必ず必要な持ち物ということにはなりませんが……」

南「もし外出の時に使うとしたら……」

中原「洋服が少女趣味の物が必要であるように、ハンドバッグも、少女らしい可愛らしい質素な感じのする物を選びたいですね。あまり種類が多すぎてどんなのが少女趣味のハンドバッグとは、ちょっといえませんが……」

南「つまり貴婦人趣味にならないことが大切ですのね。まさか鰐革のハンドバッグが欲しいとお思いになる少女もないでしょうが、とにかく、大げさな留め金のついたものや、鎖の紐のついたデザインなど、婦人向きですから少女が持つとそれこそ借り物をしたような不似合いな感じが致しますのね」

中原「そして、同じ革でも色彩的にも黒や茶色などのくすんだ色より、赤系統などのはっきりした色のほうが若い少女らしい感じです。それから、あまり玩具(おもちゃ)らしい感じがするものでも困りますが、そうでなかったら、動物のハンドバッグなど、少女向きの可愛い一例ではありませんか。オカッパの少女などなら、和服に持って可愛いと思いますし」

南「舞妓さん趣味の、錦や金銀の丸帯のような派手なハンドバッグは、どうでしょう」

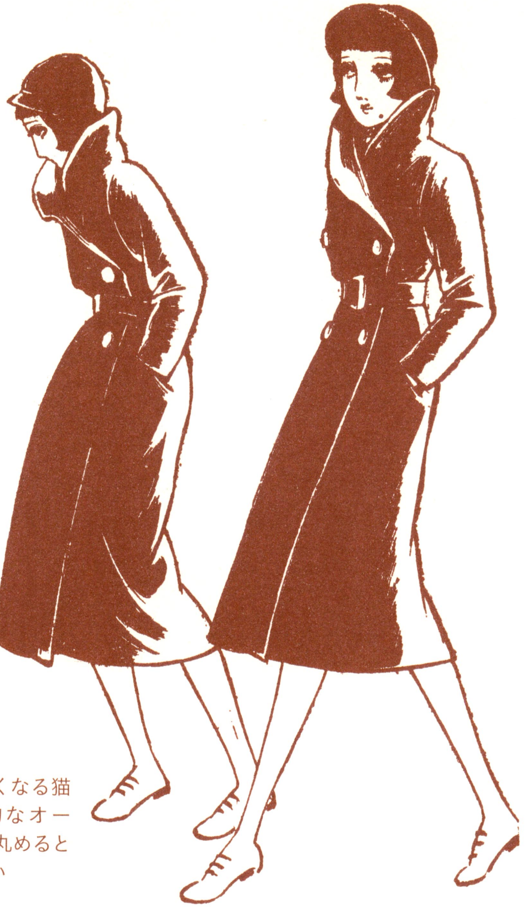
中原「少女でも、純日本式に粧(よそお)ってよほど盛装した時なら似合いましょうが、僕はあまり好きませんね。いくつも持てる人は別でしょうがふつうの少女だったら洋装趣味のあっさりしたハンドバッグを一つ持っていて特に日本髪でも結った時には日本趣味の綺麗なふくさにでも包んで持てばいいと思いますが」

すーッすーッと歩く

南「今度は、歩き方について――」

中原「洋服に内輪※1は絶対にみっと

冬の日の歩き方二態



B 寒くなると多くなる猫背。女車掌的なオーバーで背中を丸めると陰気で仕方ない

A 正しい姿勢

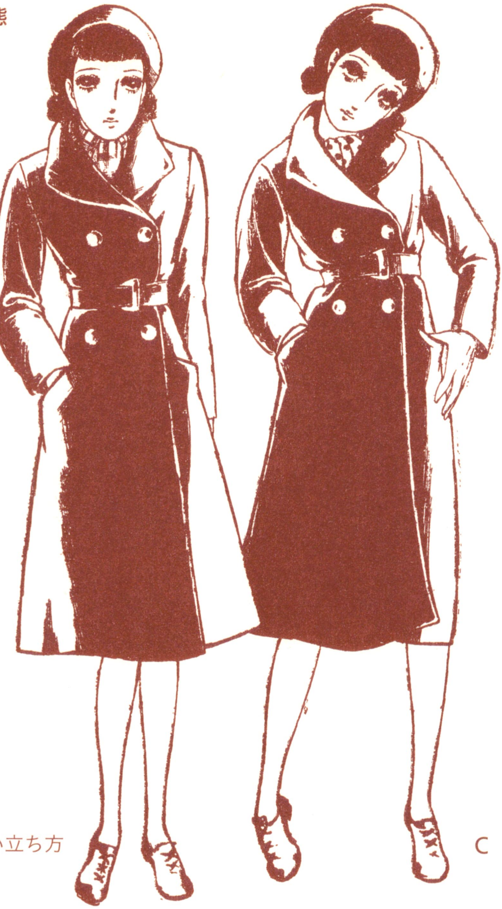
もない――これは皆よくご存じのはずなのですが、やはり時々見かけますね。僕の知っている人でも自分では、まっすぐに歩いていると言い張るんですがその実少し内輪なもので、そういう人は外側の気味に歩かなければ……といって笑うんですが」

南「和服の場合はどうでしょう」

中原「婦人（おとな）でもあまり内輪の歩き方は教養のあるような感じがしませんね。少女など特に、和服でも真直に歩くに越したことはありません。わざわざ内輪になどしないこと。またあまり小股にチョコチョコと歩くのは和服でも下品ないやな感じがしますね」

南「膝をまげないで、すーッ、すーッと歩く練習をすることがいちばん綺麗ですね。颯爽（さっそう）と歩いている少女の姿はとても美しいものですが、学校

バス停での立ち方二態



D　正しい立ち方

C　無意識にこんな姿勢をしている人が多い

帰りなど、さも疲れ切ったらしくひと足ひと足ひきずるようにして歩いている女学生を見ますと、こちらまで情なくなります」

美しく見える姿勢

中原「それから歩く時の姿勢ですが、いちばん、目につくのは猫背ですね、特に寒くなると街に猫背の少女が多くなります」

南「寒ければA図のように、襟を立ててふつうに歩けばいいはずですのに、B図のほうは姿勢の悪い例ですのね」

中原「ええ、こうすると、正しい姿勢では胴のいちばんくぼんだところに来る外套(オーバー)のバンドが、背中の下のいちばん出ばった上へ来て特に形を見苦しくします。いったい、制服の

オーバーは、女車掌的な感じのものが多いのですから、背中を丸くして、埃っぽいのを着ていたのでは陰気で仕方がありません。できるだけ、明るい感じに着て引立てて下さい」

南「バスなど待って立ち止っている少女に、よくCのような姿勢をしている人がありますね」

中原「ええ、自分では無意識なのでしょうが、外出（よそゆき）の時だけ澄ましてもふだんこんな恰好をしている少女は無神経な人ですね。もっともこの図は多少誇張して描いてあるのですから実際にはこうまで感じられないでしょうが」

南「少女がいつでも中原先生のお絵に出てくるようなきれいなポーズをとっているわけにもゆかないでしょうネ、でもせめて、正しい姿勢だけはしていてほしいですね」

中原「ええ、特に制服を着た少女ですから、技巧的になってはかえっておかしいのですがキチンとした立ち方をして、しかもかたくならない感じがいちばん好ましいと思います。とにかく、立ち方にしろ歩き方にしろ、健全な体格の少女なら、ちょっとした気のつけ方でずっと美しく感じよくなるのですから……」

南「では、今月はこのくらいで」

※1　内輪——つま先を内側に向けて歩くこと。また、その足をいう。

女學生服裝帖

中原淳一
南由紀子

昭和13年3月号　女学校を卒業したら

少女にとっての大事件

南「今月は三月号ですから、服装帖も卒業生にお贈りいたしましょう。この春いよいよ女学校をお出になる方も、読者の中にはたくさんいらっしゃることと思いますし、また、下級生の方も、やがてはご自分達の参考になるのですから……」

中原「そうですね、そして、次の四月号には、今度新しく女学校へ入学した人の相談相手となれるような、うんと女学生らしい題目を扱うことにして——」

南「女学校を出た少女たちは、制服を脱ぐことだけは確かですが、でもどんな服装をするか、境遇によっていろいろ違いますのね。家庭に入って、専心いわゆる娘さんらしい型につくる人、学生生活をそのまま延長して専門学校に通う人、職業につく人、などそれぞれありましょうから……」

中原「ええ、が、いずれにしても、女学生時代、私は卒業したらああもしよう、こうもしよう、と描いていた夢が、急に、思いのまま実現できるようになるのですから、たしかに少女にとっては一つの大事件でしょう。が、僕にいわせれば、それだけに、かえって警戒しなければならない時期だと思うんですよ。今まで、学生時代には曲りなりにもきめられていた規準があったわけですがそれが急にとかれるわけですから、ちゃんと趣味を持っている人は、もとより、自分をいちばん美しく発揮してゆくことができるでしょうが、そういう知識がないために、年齢(とし)も何も

無視したケタ外レの恰好をしている例を時々見かけます、これは特に洋装の場合に多いようですが……」

大人をそのまま模倣せぬこと

南「昔の娘さんは、お母様やお家の方の見たてて下さった着物を、おとなしく着て、着付けも教えていただいたまんまにして……というふうだったでしょうが、今は洋装も出て来ましたし、和服の観念もずっと違って来ましたし今のお嬢さんはほんとにうっかりすると桁外れになる恐れがありますのね。これは美容師の人に訊いた話ですが、去年あたりは三月の卒業期になると急にパーマネントが急しくなったそうです、なにしろ卒業式の翌る日とたんにかけにいらっしゃるお嬢様が多いので……といっていましたが、そんなふうな反動的な気持さえありますのね。でも、こんな時局になって来ましたから、そうした風潮はずっと変って来ることと思いますが……」

中原「今までは少しの華やかさも許されなかったのが、今度は遠慮なく少女時代のいちばんの美しさを表せるまたとない機会なのですから――女学校を出る人の年齢といえばまあ十九か十八、廿歳まえですね、大人になるまでの、いちばん可愛い時期ではないでしょうか。僕がまず第一にいいたいことは、どうぞ一足飛びに大人の粧いを模倣しないで下さい、ということです。二度とかえらない、その年齢でなくてはできない、貴女の服装なり粧いをしていただきたいと思います」

卒業後の髪型

南「ではまず、髪型から考えて参りましょう。都会では、女学校を出ても断髪のままの少女は珍しくありませんが、でも、何といっても地方をいれれば大部分の少女は、学生時代が終ったら髪を巻くがふつうでございましょうね」

中原「ええ、その場合、A図とB図を較べてみて下さい。どう思いますか？　B図の方はまあ、映画の山田五十鈴[※1]型とでもいいましょうか、あるいは入江たか子[※2]とかああした典型的な日本美人でしたら特別ですが、はつらつとしたふつうの少女には、こういうふうに、耳を出してべったりと襟足につけて梳かし、大きな髷を低く結ぶ、という型はどうもいや

味ですね」

南「それに、そういう髪型ですと、自然衣紋を抜かなければなりませんし……でもこのお絵の少女は綺麗に描かれていますので、そんなにいやな感じは致しませんが」

中原「これは何といっても若奥様好み、あるいはもっと粋な階級の人にふさわしい型でしょう、学校出たての若いお嬢さんは、やはりA図のように、髷も小さくまとめて、襟足を出して上の方へ巻きあげていたほうがどんなに初々しく可愛らしいか分りません」

南「髪型の流行からいっても、その山田五十鈴型とやらは、五、六年前のものですのね、今は相当の年配の方でも、耳の上からずっと巻きあげた髪にしていらっしゃるのが多いようですもの」

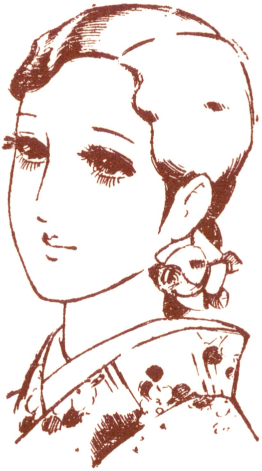
中原「また、華やかに見せたい気持からかも知れませんが、B図のような髪の髷の横あたりに、大輪の薔薇一輪を挿して飾る技巧……これも流行おくれの飾り方ですね。やはり小さい造花の群のほうが新しい感じで——殊に若い人には、可愛らしくもありますし」

物欲しそうな飾りはやめて

南「それから、中原先生が前から盛んに提唱していらっしゃったリボンの飾



A　髷を上に巻きあげれば、初々しく可愛らしい



B　若奥様好みの髪型。学校出たてのお嬢さんがするといや味



C　若い少女向けのパーマネントの型



D　このような大人っぽいパーマネントにしないこと

りが、このごろだんだん盛んになって参りましたのね、昔のような大巾のリボンでなく、細いスマートに結んだのを造花とならんで売っている店もございますから――C図とD図はパーマネントやウェーヴの髪でございましょう?」

中原「ええ、これもCのほうが若い少女向きのパーマネントの型、Dのような大人っぽい型にしないこと。それから、パーマネントの髪によく飾ってある、金属製のお星様の飾りがありますね、あれは、僕の好き嫌いからだけいいますと、あまりいい趣味じゃないように思いますが――、盛装をして、どこもきらびやかな色彩だったり、光る、たとえばシフォンベルベットのコートなどを着た時は、髪も負けずにピカピカしていても調和がとれるでしょうが、どうも、あれは悪くするとレヴューガール[※3]趣味になってふだん着には似合わなくありませんか」

南「バスガール[※4]の人が頭にピカピカさせてつけているのを時々見かけますね」

中原「僕もあれはないほうが清楚なのにと思って見ています。とにかく働く時なんか――埃っぽい事務服を着て、髪に星をきらめかしていたりしたのでは、物欲しそうな感じですからやめて下さい。まあ、女店員（ショップ・ガール）などだったら比較的似合うでしょう

が」

南「学校を出たら、さっそくあの髪飾りをつけよう、なんて考えていらっしゃる少女はがっかりなさるでしょうね」

貴婦人趣味について

中原「ついでにもう一つ、僕が非常に気になるのは、このごろ素晴らしく流行しているネットの垂れた帽子です。これなんかも、おしゃれな少女は、女学校を卒業したらとたんにおねだりしたいものでしょうが、まだまだ早すぎますよ。ネットの趣味は何といっても粋な、年増の陰影のある美にふさわしい、いわゆるマダム向きの装飾品なのですから、健康な、ピチピチした若い少女がしたら、それこそ、娘さんが黒ちりめんの羽織を澄まして着てるようなチグハグな感じです」

南「女優なんかは、流行となれば若くてもネットの帽子をみんな被るようですのね」

中原「これは商売ですから……女優だったら別にお嬢さんらしいつつましさや上品さなど表さなくてもいいのですから。しかしあのネットの帽子がいちばんピッタリするのは、女優の中でもガルボ[※5]やデイトリッヒ[※6]とかいった、頽廃的な美しさを持った人達ではありませんか」

南「それからフランスのマルセル・シャンタル[※7]なんか……」

中原「ネットの趣味が十代のお嬢さんに全然おかしいように、同じようなことが洋服についてもいえますね」

南「着物では、若い娘さんは赤、年をとればくすんだ色、とちゃんときまっていますが、洋服にはそうした年齢（とし）による色の制限はなく、自由なのですから、むしろ気をつけなければならないのは型（スタイル）の選び方ですのね」

中原「ええ、しかし洋服の型はあまりたくさんあるので、今ここでどんなのがいいと絵に描いて説明することはできませんが、とにかく、今から貴婦人趣味にならないことです。いつかの附録の服装帖の中にも一例をあげて示しましたが……」

卒業後の和服の着こなし

南「和服で気をつけなければならないのはどんな点でしょう？」

中原「髪を束ねる人は、女学生時代の和服とは違っていくぶん衣紋を抜

かなければならないでしょうが、これも抜きすぎないこと。お河童のままでしたら、絶対に抜かないでキッチリ合せて着て下さい。そのほうがずっと可愛らしくて初々しく好感が持てますし、十代だったら決しておかしいことはありません」

南「そういえば、ある女流画家の方が若い女性がパーマネントで襟元を抜き衣紋をしていると色っぽすぎてお嬢さんには見えないといっていらっしゃいましたから、そんな注意もぜひ必要ですのね」

中原「それから、帯の高さですが、むろんあまり下っては、落着きすぎて老けてしまいますが、そうかといって、むやみに高く締めるのは感心しませんね。職業的な必要から、振袖で帯をうんと胸高に背負っているマネキン[※8]や女給[※9]の着つけを真似たりしないこと。こんなことはいうまでもなくめいめいの教養でちゃんと判断なさるでしょうが……」

南「女学生時代、せっかく、健康に発達させた体格（からだ）を卒業して急に帯を胸高にきゅうきゅう締めつけるのは第一、健康にも悪いし、注意しなけ



E　清楚で知的な感じの和服

ればなりませんね。それから、女学生時代は三尺(さんじゃく)を締めたのでそんな必要はなかったでしょうが、卒業なさって帯を締めるようになったら、着物の袖丈を羽織より一寸ぐらい長くお仕立てになること、帯を締めると、どうしても、つれますから、同じ寸法では着物の袖がつり上ってとても不恰好になります」

中原「それから肩揚げ[※10]は、学校を出たての頃は付けていたほうが可愛らしいですね。髪を大人らしく結えば不似合いでしょうが、お河童やおさげだったらちょっとも差支えないと思います」

南「専門学校の生徒は、廿歳(はたち)すぎても肩揚げをつけている人が多いようですのね。専門学校といえば、このごろ、女学生は全部制服なのですから、和服の通学姿の見られるのは専門学校の生徒さんだけですね」

中原「家庭のお嬢さんにしても昔は学校出たての若い娘さんなんかでしたら、華やか一点張りの服装しか考えられなかったでしょうが、今は、洋装趣味がだいぶ、とり入れられて、若い少女でも、あまり赤っぽくない、



F　娘さんらしい型の和服

地味なモダンさを生かした感じの和服を着ている人が多くなって来ました。この絵では色彩がよく分りませんがE図のほうは清楚ないくぶん知的な感じ、F図のほうがいわゆる娘さんらしい型の和服のつもりで描いたもの——洋服の似合う、スマートなよく伸びた体格の人には、かえってきりっとした和服のほうがマッチする場合があります」

教養を働かせる

南「日本の和服もそれだけ変ってゆきますのね。盛装には使われないでしょうが、ふだんの活動の着物はたしかに洋服趣味をとり入れておりますね。これから学校を出る少女達がまた新しい傾向を添えてゆくことでしょう」

中原「一例をあげれば、ラクダの襟巻(ショール)なぞにしても、昔は、若い娘さんなら、エンジとか赤とかにきまったものだったでしょう。それが洋服趣味のモダンな格子縞など——形も男のマフラーくらい細いのを無造作に巻きつけて、それなりに感じよくこなしているのです。先日も電車の中で、白と黒の格子縞に、ごく細い黄色と赤の線のはいった、巾の狭い襟巻がとても似合って理知的だった通学姿の少女を見かけましたが……」

南「掛け方も、娘さんらしくおとなしく胸に拡げないで、わざと肩へはねている人がありますのね」

中原「あれは宝塚趣味でしょうが、男性的な颯爽とした感じでいかにも似合う人と、それから、とってつけたようで全くいや味に見える型(タイプ)とありますから、気をつけないと——結局貴女(あなた)の教養を働かせて、貴女の年齢(とし)なり持ちまえの特徴なりをいちばん発揮した美しさを見つけて下さい」

南「今月は少し、おしゃれの頁みたいになりましたが、なかなか面白うございました。では来月また」

※1 山田五十鈴（1917-2002）——戦前から戦後にかけて、日本の映画史に燦然と輝く名優。舞台でも活躍した。大阪府出身。12歳で映画界にデビューして以来、「天才」、「芸の虫」と謳われ、70年もの間、トップ女優として君臨。女優として初めて文化勲章を受章した。

※2 入江たか子（1911-1995）——明治から昭和期の日本の映画女優。東京出身。美貌の華族令嬢という話題性もあって大スターとなり、「銀幕の女王」と称えられた。戦後は脇役が多くなったが、怪談映画では「化け猫女優」として主役をつとめた。高峰秀子は自著『私の渡世日

記』で、山田五十鈴・原節子とともに日本映画史上の三大美人と述べている。

※3 レヴューガール――レヴューは、歌や踊り、コントなどあらゆる舞台芸術・演芸の要素を採り入れた娯楽性の強い、華麗なショーで、こうしたショーに出演する主役級ではない女優や踊り子・歌手などを指していう。

※4 バスガール――バスガイドをする女性車掌。日本に初めて現れたのは、大正9（1920）年、東京の市バスで黒いツーピースに白い襟の制服で登場。関東大震災後、紺に赤い襟で親しまれた「赤襟嬢」が現れ、次第に女性の職業として定着していった。

※5 ガルボ――グレタ・ガルボ(Greta Garb 1905-1990）のこと。スウェーデン生まれのハリウッド女優で、サイレント時代の大スターであり、トーキーになってからも伝説的な成功を収めた。また男物のスポーツ服やベレー帽、タートルセーター、ツィードのコートを愛用したことでも知られ、この男っぽい服装はガルボリズムと呼ばれた。「椿姫」（1937）でニューヨーク批評家協会最優秀女優賞を受賞後、36歳で引退。クールでミステリアスなイメージのまま、亡くなるまで一度も公の場に姿を現さなかった。

※6 デイトリッヒ――マレーネ・ディートリッヒ(Marlene Dietrich 1901-1992）のこと。ベルリン出身の女優。1930年代からハリウッド映画に出演するようになり「モロッコ」（1930）で世界的センセーションを巻き起こした。トップハットとタキシードの男装は有名。脚線美でも知られ、官能的な歌声と退廃的な魅力で観客を虜にした。ナチス台頭によりドイツを脱出して米国に渡り、米軍支援に注力し、「リリー・マルレーン」を歌って兵士を勇気づけた。米国籍を取得しながらも、ドイツ人の誇りを捨てずに愛する祖国への想いを生涯持ち続けた。

※7 マルセル・シャンタル（Marcelle Chantal 1903-1960）――パリ生まれのフランス人女優。1930年代のフランス映画界のスターで、「沐浴」（1934）、「熱風」（1934）、「巴里の女」（1935）、「海のつはもの」（1936）、「地中海」（1938）などに主演し、日本でも人気を集めた。

※8 マネキン――ひとつは衣服展示用に使われる等身大の人形、マネキン人形の略。もうひとつは流行の衣装や装身具を身につけて宣伝の一翼を担ったり、販売したりする職業の女性、マネキンガールの略で、昭和3（1928）年日本橋高島屋に初めて登場した。ここでは後者を指す。

※9 女給――カフェやバーなどで給仕をする女性、ウエイトレス。大正から昭和にかけて、西洋の新しい風俗や流行現象を採り入れたモガ・モボ（モダンガール・モダンボーイの略）文化を担った中心的存在だった。

※10 肩揚げ――子どもの成長に合わせて、着物の裄丈を長く調節できるように、肩山の所で縫いつまんでおくこと。その縫い上げた部分をいう。

昭和13年4月号

新入生へ贈る8つのスタイル



A　ボレロにぴったりしたスカートを合わせると、大人のできそこないのように見える。このような型が可愛い

女学校に上がったら

小学生時代は、お母様まかせだった貴女（あなた）の服装を、女学生におなりになったら、だんだん自分で選択してゆくように趣味をお養いなさいませ。大人の真似でない少女らしいスタイルを服装帖によってどうぞ学んで下さいませ。春から初夏にかけていろいろな場合にふさわしい洋服を中原先生にデザインしていただきました。

無地の外出着

A　扉の絵

これは、ちょっとしゃれた服装です。斜布（ななめぎれ）の帯を前で結ぶのもこのごろの流行をとり入れた型ですし、ワンピースの上に羽織ったボレロも、外出着らしい気取った感じがしますね。

ボレロは、夏に向っては涼しい純白のピケ・インデアンヘッド※1など。またドレスに調和する濃い色無地で仕立ててモダンな感じを出してもいいし、派手な花模様のボレロも少女には可愛いでしょう。帽子とボレロはおそろいの色にして、カラーとバンドに使ってある主な色とも共通です。少女がボレロを着る時は特に、スカートが腰の線にぴったりついているような形は避けないと大人の服装のできそこないのように見えます。スカートをこのように開いて、丈も、短めのほうが可愛いし、流行にも合っていることをお忘れなく。

B　身軽なスポーツ・ドレス

これはほんとの運動着で用途の狭い服ですから、たくさん洋服の数を持つ方にしかおすすめできません。

ピケ、麻、その他木綿のよく洗濯の利く地質で仕立て、白や紺の無地に、クッキリした反対色の斜布で縁どりします。

スカートは丈を短く、巾は運動にさしつかえない程度に開いた裁断を。

胸元をブローチで留めて、ボレロなりハーフコートを羽織れば気らくなピクニックの服装にもなりましょう。汗ばんできたら上を脱いで、草の上に惜しげもなく寝ころべますから。

共地の三角布（ぎれ）を頭でしばって、帽子代りの頭巾に被るのも、エキゾ

チックで面白くありませんか。

C　ツーピース

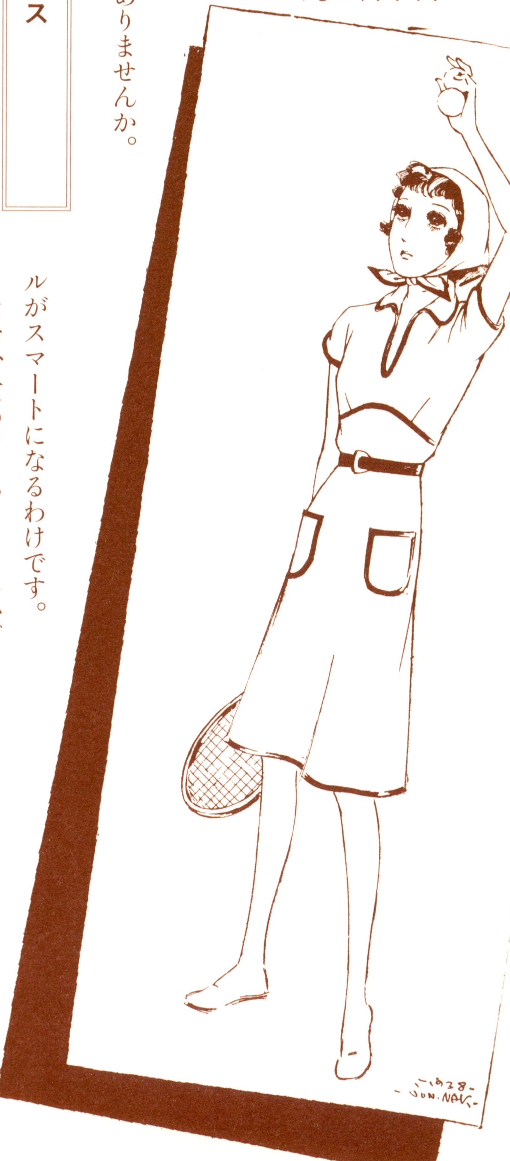
少女にはほんとはワンピースのほうが幼く見えて可愛らしいのですが、少し大きくなったら、こうした上下別々の型も着こなせましょう。制服で、ハーフコートとスカートのそろいの型がよくありますが、なるべくこうした線をとり入れて胴で締めるようにすると、ぶかぶかしたスタイルがスマートになるわけです。

なお少女のツーピースは必ずスカートをズンドウにしないで、図のように裾を開かせること。

上下をおそろいの生地で仕立てて、スーツにしてもよく、下を白いスカートにして、上のコートに真赤や紺の、あざやかな色を配すのも素敵です。ハーフコートはボレロよりかたい感じを持っています。

制服姿二題

セーラー型とジャンパー型[※2]の二種が、女学生の制服の代表的な型です。制服は常に清潔にして、よくブラシやアイロンをかけキチンと折目正しい服を、真直な姿勢で着ているのが



B　縁どりのあるスポーツ・ドレス。帽子代りに共布の三角布を被るのもエキゾチック

いちばん美しく見えます。ハイヒールや中ヒールの靴は、制服にはいてはおかしいものです。

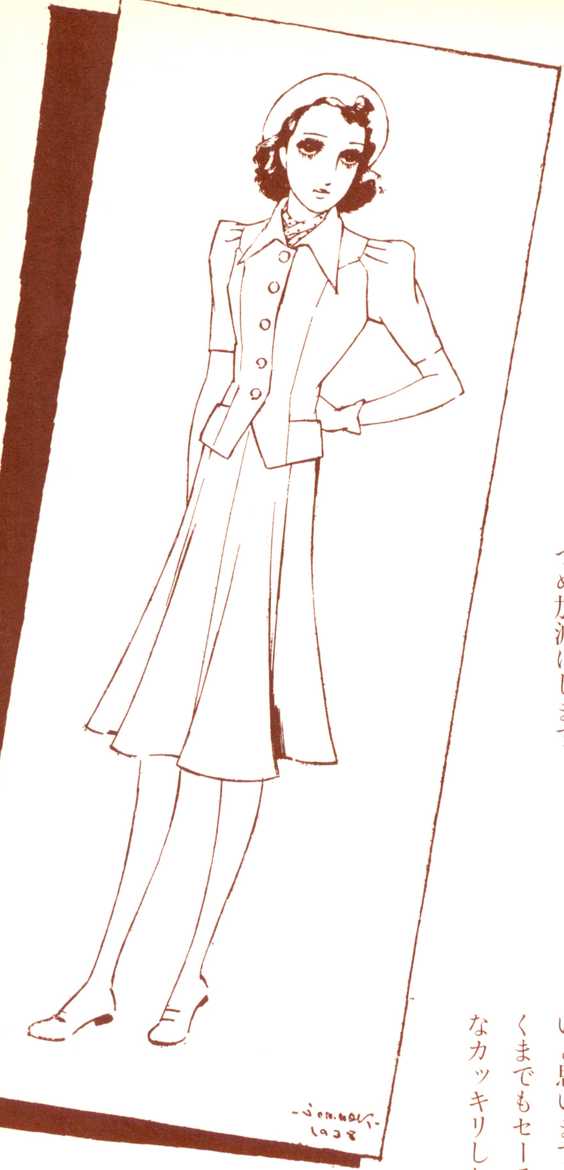
D セーラー型

ネクタイは常にアイロンをかけておくこと。スカートの襞（ひだ）を常にキチンとしておくこと。白線を清潔に純白にしておくこと。髪を清潔にして襟を汚さないこと。

上着の丈は腰骨のちょっと上くらいがきれいに見えます。スカートの長さは、長すぎないように注意すること。胸あてのついている場合は、あまりたくさん出さないで、襟元をつめ加減にします。

袖は、丈も巾も、殊に丈をゆったりしていないと、チンチクリンな無恰好なスタイルになります。

定められた制服のほかに、女学生でよく外出着（よそゆき）のセーラーを作っている少女がありますが、女学生の年頃には、いちばんよく似合う服装ですから何着持っても決して無駄ではないと思います。ただこんな場合、あくまでもセーラーらしい、――清楚なカッキリした感じを失わないよう



C 少女のツーピースは、スカートはズンドウにせずこのような型にすること



E ジャンパー型。顔の丸い人はV字、顔の細い人は丸味のある胸のくりにすれば顔が引立つ

D セーラー型。上着の丈は腰骨のちょっと上くらいに。スカートは長すぎないこと

に作ることが大切です。色も、夏でしたら白地に、色地の襟・カフスを配してもよいでしょうが、一年中を通じての服ならやはり、深い紺がいちばん、落着いて、セーラー特有の品を表しているように思えます。白ちゃけた青や、紫がかった水色など避けて下さい。

ネクタイは純白は正式な感じを与えて気品がありますし、変り色では下級生には暗いエンジ、上級生には銀ネズ色、また、外出の時などクリームのネクタイも派手な感じで綺麗なものです。

水玉や、模様のネクタイをセーラーにするのはしつこくて似合いませんし、いい趣味ではありませんから、よしましょう。

E ジャンパー型

スカートを埃っぽくしないようにブラシをあてブラウスを常に純白に洗濯しておきになれば、白と黒とのコントラストで、この服は少女をとても若々しく清らかに見せます。ジャンパーの胸のくりの形によって、顔うつりがずっと違って来るものです。規則で定められていて、変えられない場合もありましょうが、できれば次のような心持で、手加減して

F お家にも外出にも向くドレス



ごらんなさい、ずっと貴女のお顔を引立てます。

顔の丸い太った人は、胸のくりをV字型に角を与えて細めにあけること。

顔の細くやせた人は、ふっくり丸味をつけて、くること。

頸の短い人、顔の大きい人は、胸のくりを深く大きくあけること。胸の大きな人は、あまり広くあけぬこと。

ブラウスの袖の丈がつれないように、ゆったり仕立てることはセーラーの場合と同じです。

柄物で作るふだん着

F　スポーツ・ドレス

このワンピースは、広い意味でのスポーツ・ドレス。少女は、制服のほかにこの程度のワンピースが一着あれば、お家にも、ちょっとした外出でも、たいていの場合は間に合うわけです。

縞の生地を使って面白味を出していますがこのほかに、無地でも、花模様でも、格子でも、お好きな材料で仕立てられます。



G　流行にかかわらず生命の永いよそゆきのドレス

胸には、ブローチを留めてもよし、華やかさの欲しい時は花を飾ってもよいし、また、配色のよいリボンを結んでつけるのも少女らしくて可愛い感じ――一着の服に場合場合に応じてこうしていろいろ変化をつけて着られます。

襟と袖口の細い襞も取り外しにして、別のカラーやカフスと付けかえてもかまいません。

G　アフタヌーン・ドレス

前のより、柔らかい感じの、しゃれ着のワンピース。少女のアフタヌーン・ドレスです。

純白のサテンなどで仕立てて、襟に絹の糸レースを飾れば少女らしい礼装にもなりましょう。

また、絹、タフタ[※3]、オーガンディ等の美しい色の生地で拵えれば、音楽会や、およばれなどにふさわしい服装になります。

流行にあまりかかわりのない、どんな少女にでも可愛らしく似合う型を選びましたから、よそゆきにいつまでも着られる生命の永いドレスで

H お洗濯やお掃除するときの仕事着。袖をゆったり仕立てれば和服の上にも着られて重宝



す。

いったいに、最近の流行は、袖付を前のように、極端に怒らせることは流行らなくなって、肩と袖付とが水平なくらいの型が多くなって来ましたが、女学生には、どちらかといえば、このようにプッとふくらんだ型のほうが賑やかで可愛く、殊に、肩の流れた少女や、頭の大きい少女の洋装は袖付を高くふくらませないとスタイルが整いません。

なお、このドレスは、バンドを後ろで結んで、レーヨンや木綿の生地で仕立ててふだん着になさっても可愛い型です。

H　お仕事着

お休みの日にお洗濯やお掃除をしたり、またふだん学校から帰ってお家にいらっしゃる間、こんな仕事着はいかがですか。

ギンガムのような安い丈夫な生地を使って仕立てます。

また、セーラーのスカートの古いのがあったら、解いて[※4]色を染めかえれば、冬向きの暖かい立派な仕事着になりましょう。格子の生地も少女によく似合います。

無地でしたら、ポケットや、袖に、簡単なアップリケなり、フランス刺繡なりを施しますと、店員のブルース[※5]と違った、少女らしい趣味のある可愛らしい感じになります。

身巾をできるだけ広くとること。つめると、型がよくありません。丈も長めに、袖も、ゆったり仕立てておけば、洋服の上ばかりでなく、和服の上にも着られて重宝です。お家で通学服の上に羽織っても、汚れたり、いたんだりすることを防いで経済な服装です。

※1　インデアンヘッド――麻のようにざっくりとした風合いの地厚な平織綿織物。元々米国インディアンヘッドIndian Head社の商標名。

※2　ジャンパー――ジャンパースカートともジャンパードレスともいわれる言葉の省略形。袖なしで襟ぐりの深いワンピースドレスのこと。

※3　タフタ――しなやかな張りと光沢がある、地の詰まった絹や化合繊の平織物。経糸を密に緯糸を少し太めにして織るため、横方向に極細の畝が出る。無地のほか玉虫やモアレ加工のものもある。「紡ぐ」の意のペルシャ語taftanが語源。

※4　解いて――糸を「ほどいて」と同義。

※5　ブルース――フランス語のブラウスblouseからきた言葉で、ブルーズとスを濁音で表記するのが一般的。労働者や画家が仕事着として服の上にはおる、ゆったりとした丈の長い上っ張りで、子ども服や婦人服にも用いられる。別名、スモック。

女学生服装帖

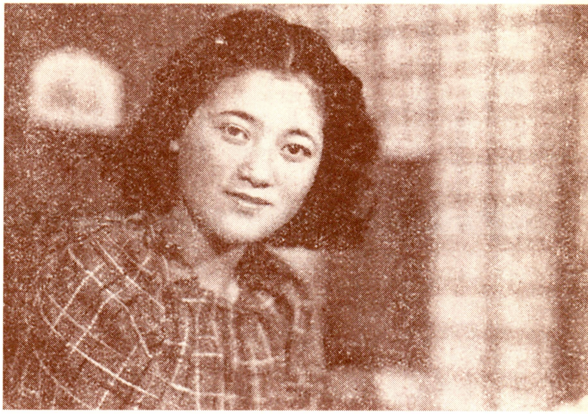
中原淳一・南由紀子

昭和13年5月号　愛読者のお宅訪問



福良利子さんを訪ねて

女学生服装帖もはじめてからちょうど一年になりました。それで今月は少し趣向をかえて春休みのある日中原先生とご一緒に、服装帖の愛読者のある少女を訪問いたしました。日頃からご自分の服装に趣味をもって、少女らしいいろいろの工夫をしていらっしゃる実際の女学生のお話は、きっと皆様のご参考になることと思います。洋裁手芸を研究していらっしゃるお母様にも加わっていただいて少女の洋装についてのご意見を聞かせていただきました。（写真のお嬢さんは東京S学院五年生福良利子さん）



A　東京S学院5年生、福良利子さん。お母様は洋裁手芸を研究しておられる

洋服と和服どちらが欲しいか

中原「利子さんのお友達は皆さん洋服と和服とどちらが好きですか？」

利子「このごろは、お家へ帰ると和服になさる方がとても増えて参りました。上級生になって来たせいもあるのかもしれませんが、一つは中原先生のお絵の影響もあります……少女らしい和服を着ることがとても楽しみな嬉しいことに思えるようになりましたから――」

中原「もしそういう傾向が出て来たのならたいへんいいことだと思いますね。『少女の友』の表紙にしても、以前深谷美保子（ふかやみほこ）さんが描いていられた時代には、必ず帯を結んだ姿を出していたものですが、僕は三尺にしてつとめて少女らしい感じの姿を描くようにしています」

利子「私たちは、ふだん学校で洋服ばかりですから、勉強がひまになって、余裕ができると着物を着たくなります」

中原「洋服と和服とどちらが欲しいと思いますか」

利子「さあ、私は、自分で洋服などいつでもできると思いますから、そんなに欲しいと思いませんが、お友達はお家ではキモノを奨励なさるけれど、自分では洋服が欲しい、という方が多うございますわ。それにキモノはお母様方のお見立てだからつまらないし……」

南「学校では洋裁をお習いになりますか」

利子「五年からですの、それに学校の洋裁はベビー服からですからたいい

へんです。私なんかは小さい時から手芸や洋裁が好きでしたので、お母様のなさるのを見て、知らず知らず覚えてしまいました」

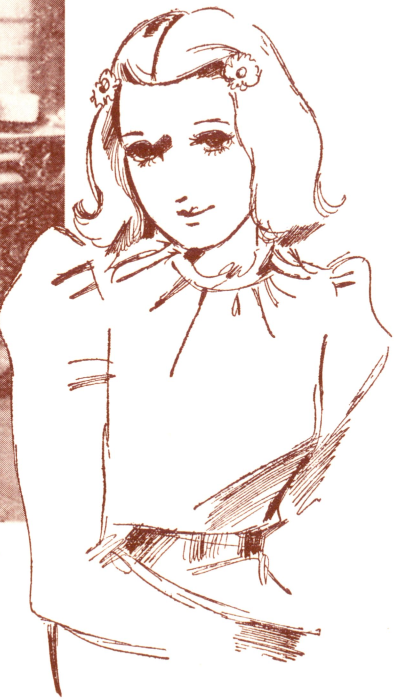
中原「そのブラウス（写真A、D）もご自分でお縫いになったのですか」

利子「ええ、この生地（きれ）は前からあったので何か作ろうと思いましたが、ブラウスには足りないので、袖の先の方と、下の胴とに接（は）ぐジャージーを買ってきて、お留守番をした時一日で作ってしまいました。でき上ったらとても気に入って、お家にいるのに、毎日こればかり着ています」

母「子供が学校から校服を着て帰って来ましたら、上だけでも取り替えると、家へ帰ったような気分になってくつろぎますし、特にそれを自分で工夫させて作らすように致し



D　ブラウスは利子さんが一日で作ったもの。「お座敷を座ったり立ったりするのでゆったりしたスカートが便利」と利子さん



ますと、服装に対する趣味も養えてようございますわね」

制服をやめたらどうなるか

中原「僕も、女学生に制服があることはもちろん必要だと思いますが、そうかといって、せっかくの少女時代を、服装に対して全然無関心で過すのも、あまり物足りない、淋しいことだと思いますね。いつだったか、文化学院長の西村伊作氏のお嬢さんの西村アヤ子さんが、文化学院が制服をきめていない方針に対して、これは決して世間でいうような贅沢を奨励しているわけではなく、一人ひとりの少女に、自分をいちばん生かして可愛く見せる工夫を許してあるだけで、事実、使っている材料はごく質素なものに過ぎない――、せっかくの少女時代を埃だらけの紺の制服に紺の帽子、黒の靴下に重い鞄をさげて登校する姿は、あまり可哀想だ、というようなことをいっておられましたが、僕もそれに賛成ですね。もっとも実際問題として、全国の女学校が制服をやめたら、果して質素な趣味のよい少女の洋装が望まれるとは思いませんが」

利子「私、やっぱり制服はあったほうがいいと思います。私の学校ではオーバーがきまっていないもので、しょっちゅう悶着が起りますから……」

南「やはりオーバーの自由な、ある女学校で、襟やカフスに毛をつけたものを一切禁じたという話を聞きました」

母「その年頃では制限がなくなると、つい贅沢なものものと望みたくなりますのね。宅あたりでは高価なものは一切身につけさせませんが、自分に合うデザインや工夫によって、いくらでも質素なものでよい服装ができるのですから――そこが生地にとらわれない洋装の面白味でもございますし……」

小学校の時の服を生かす工夫

南「何か、そうした変った工夫をなさった服装がおありになりますか」

母「ああ、あのハーフコートを持ってきてごらんなさい」

（青みがかった明るいグリーンの二色と、白との格子縞の毛織のハーフコート・写真B）

利子「これは、小学校三年くらいの時に作ったオーバーをハーフコート

にしたものですの。ユキ[※1]を伸すために、カフスの下に、別の布を接(は)いだのと、裾を二、三寸切っただけ――」

母「子供の頃のオーバーは、大抵胴まわりがゆっくりしていますから、間に合います、カフスを大きく作っておきますと、短くなった時、その下でユキが出ますので、ずいぶん違います」

中原「ちっとも古い感じがしませんね。このごろまたこういう格子が流行って来ましたせいもありましょうが」

母「こういう毛織のものは、あまり汚れないうちによく蒸してアイロンをかけますと、また毛が立って来て新しくなりますから、そうしてちょいちょい手入れさえすれば、そうた



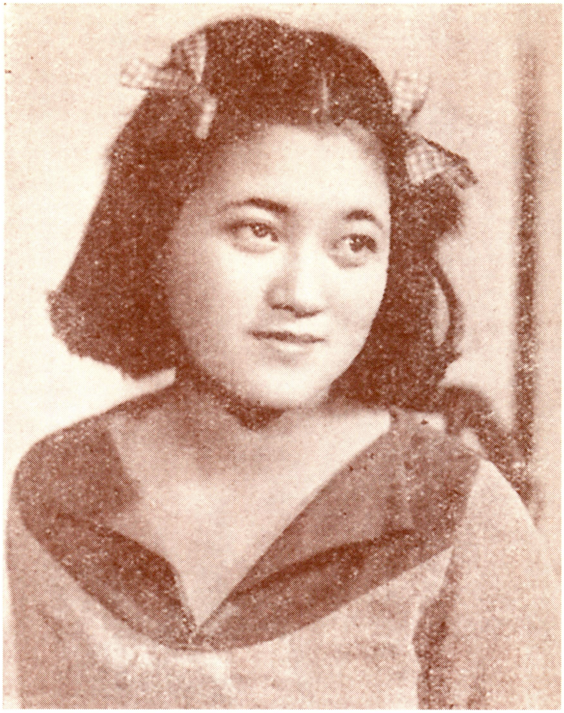
C　利子さんがフランス刺繍をした手袋。学校で評判に



B　お母様が小学校3年くらいの時作ったオーバーをハーフコートに仕立て直したもの



E「襟を立ててブローチで留めさせたら形がついた」（お母様）



F 利子さんが作ったブラウス。お母様は「胸があきすぎて下品」

びたびクリーニングに出す必要もございません」

利子「このハーフコート、お家にいる時の部屋着にはとても楽なゆったりした感じで好きです。

スカートにしても、私たちはお家ではどうしても日本式のお座敷を坐ったり立ったりするのですから、あまりきちっとした洋装より、襞のあるゆったりしたスカートのほうが便利だと思います」（写真D）

私あのジャンパー嫌い

母「これくらいの少女に、いちばん実用的な洋服はジャンパーでございますね。肩のたすきがいやな時はブラウスの下に隠して、ふつうのスカートに使えますし、これにそろいのハーフコートを一つ作っておけば、

ブラウスだけをいろいろとりかえて、外出にもふだん着にも使えてたいへん経済だと存じます。今度、利子に拵(こしら)えましたコゲ茶のジャンパーは、胸ぐりの上に、少しさし出しをつけまして、ブラウスがハイネックの時には、そのまま高い胸に、襟ぐりの大きいブラウスですと、その持ち出しただけを裏へ折りこんで着ますので、ふた通りの感じに使えますの」

利子「私は、あのジャンパー、胸の辺がぴったり体につきすぎているので嫌い」

母「おかしな人ね、ちっとも変ではないのに、いやがって着ませんのよ」

中原「そんなふうに、お母様と洋服についてのご意見が違うことがよくありますか」

利子「ええ、この間も私がブラウスを拵えましたら、肩があきすぎているから、下品でいけないっていわれました」

（うす手のウールの、灰色(グレー)と緑(グリーン)の霜降り地[※2]に、青磁がかったダーク・グリーンの大きな襟をつけたブラウス）

中原「非常に上品な新鮮な感じの配色ですね」

母「まだ年のゆかないのに、少し胸があきすぎますね。（写真F）

　子供としては、襟まわりが大人じみた感じですので、襟を立ててつき合せまして、ブローチで留めさせましたら形がつきましたが……（写真E）

　どうもまだそういった年相当の標準がつきませんので――」

中原「そういう標準にとらわれないところがまた面白いのですね。それにどちらかといえば利子さんは、エキゾチックな趣味ですから、かえって大胆にあけたほうが、特徴を生かすのかも知れません」

この春作りたい服

南「一般に少女の洋装について何かお気づきのことがおありになりましたら……」

母「そうでございますね。洋装というと、全然お嬢さままかせのお母様がいらっしゃいますがそんなお家ではよく小さいお子さんが、ばかに渋い趣味の大人じみた洋装をなさりたがったり致しましてね。

　が一般に、女学生時代のお嬢さんの洋装に、その時々の流行もとり入れて華やかに着せる、というようなのは、かなり、派手なお家で、ふつう私共がご相談をうけます物堅い地



G 左から利子さん、お母様、中原淳一先生

味など家庭では、制服とあまり感じの違わない、紺の色彩のドレスがいちばん多いようでございます。そして、紺をまず着てみて、それから一年二年たつと、だんだんご自分独特の趣味が出て来るのがふつうらしゅうございますね」

中原「へんにごたごたした趣味よりはかえってそのほうが無難でいいでしょうが、紺一点張りも味がなくて淋しいですね。

　利子さんは、この春の服として、最初にどんなドレスをつくりたいと思いますか」

利子「さあ、細かいことはきまっておりませんが、濃い色の地に可愛い花模様がういた生地で、スカートの裾が開いた、細いバンドを前で小ちゃく結んだドレスが欲しいと思います」

中原「刺繍をした洋服は好きですか」

利子「ええ、柔らかい感じがしてとても――、刺繍といえば、この冬、オーバーに合った色の、ふつうの毛糸の手袋に、小さな花をフランス刺繍して使いましたのよ。

　そしたら、皆さんからどこでお買いになったの、なんていわれて学校でとても流行ってしまいました（写真C）」

中原「そんなのは、少女らしい可愛い工夫ですね」

利子「それから、洋服の小切れをとっておいて、帽子のリボンに使ったり、洋服地と同じ羅紗（らしゃ）を切りっぱなしで、髪のリボンに結んだり、そんなことといろいろしてみるのがとても面白くって好きです。附属品で私の嫌いなのは金（かね）のベルト、あの趣味

は何だかいやです」

早く大人になりたいか

中原「早く大人になって、いろんなことがしてみたいと思いますか？

僕の姉が女学生時代、耳隠し[※3]が非常に流行ったので、早く卒業してあれが結いたい結いたいっていっていましたが、いざ出る頃にはもう流行らなくなってしまって——」

利子「私も二、三年前ごろは、とても大人らしい恰好をしたかったのですが、このごろは少女らしく子供らしくありたいと思うようになりました。

学校でも一年の方がとても可愛らしいと思います。学校へゆくのに何だか飾って、その癖、爪や髪なんかをきたなくしていらっしゃる方がいちばんいやに感じますから、私たちは第一に清潔にしていたいと思います」

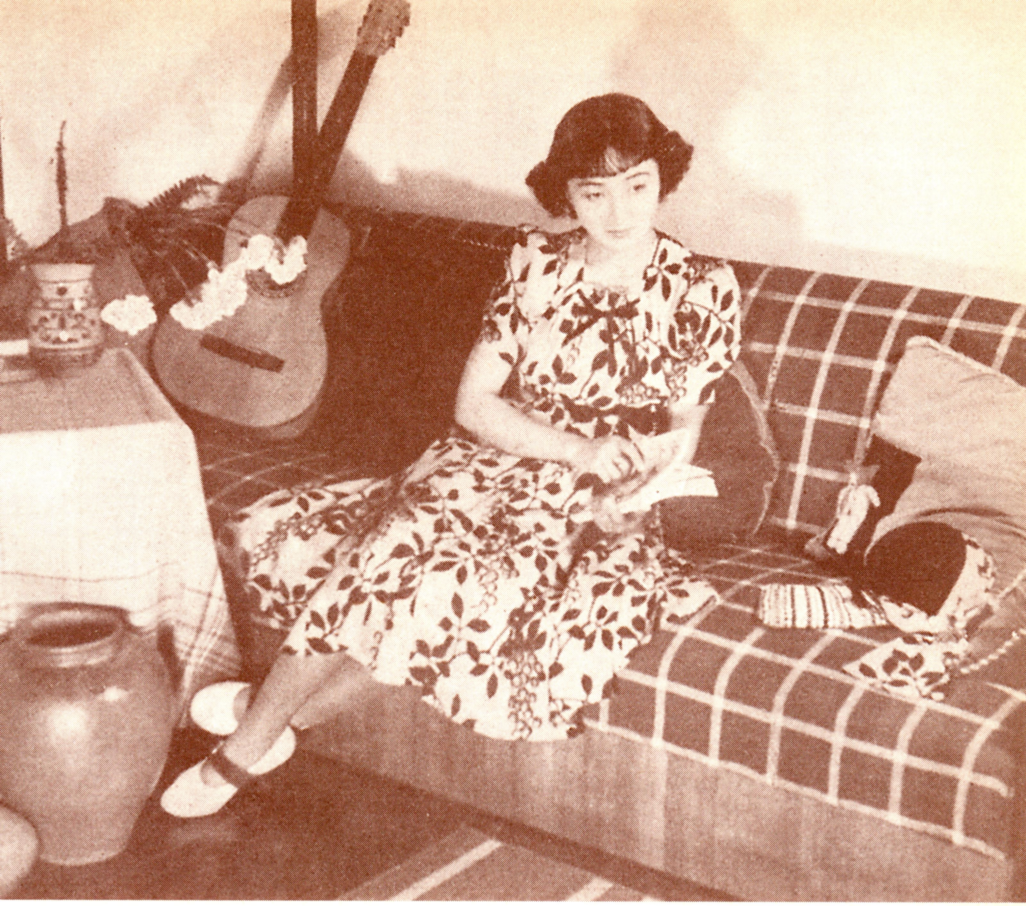
中原「僕たちもいつも服装帖で同じ希望を述べていますね、では遅くなりましたからこの辺でお暇しましょう」

南「どうもたいへんお邪魔いたしまして、ありがとうございました」

※1 ユキ——漢字で「裄」と表記される。着物の背中心線から袖の端までの幅、つまり肩幅と袖幅を合わせた長さ。

※2 霜降り——霜が降りたような白い斑点模様。特に織物で、白い繊維と色繊維の混織・混紡糸を使って織ったもの。

※3 耳隠し——大正末期に大流行した女性の髪型で、前髪を7・3に分けてサイドに流し、大きなウエーブをつけて耳をおおい隠し、後ろで低い位置に髷を結う。束髪の一種。



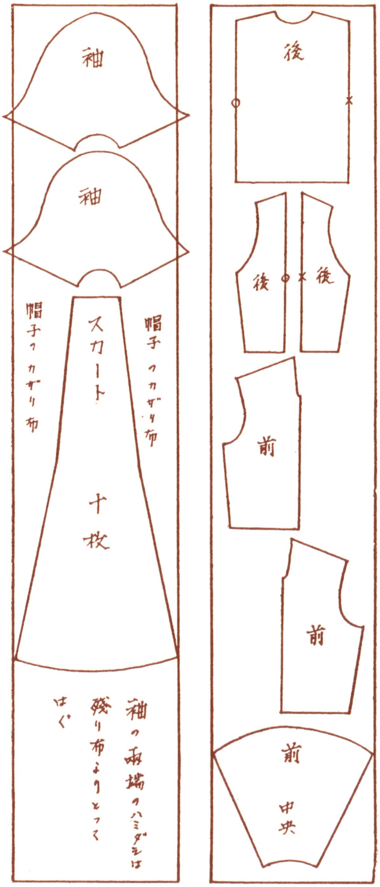
生地　デパートの銘仙（※1）売場で求めた一反四円くらいの薄地の交織生地 用布　小巾で二丈四、五尺

女學生服裝帖

中原淳一

昭和13年6月号　**和服地で洋服を仕立てる**





友禅で仕立てる洋服

友禅模様の和服の反物を使って少女の洋服を拵えてみました。明るい、黄色の地に、黒一色のブドウ模様が一面に散っている生地、バンドも胸に結んだリボンも同じ黒です。

和服地で洋服を仕立てることは、このごろたいへん流行って来ましたが、うまく選べば、少女の服には特にふさわしい可愛い趣味のものができます。ただ、注意しなければならないことは、あくまでも、スッキリした感じを主にして、いわゆる和服趣味の綺麗さをもった色彩の多い生地や、模様にしても舞扇、くす玉、御所模様などのあまりキモノ向きの柄を使うのはよしましょう。




ホーム・ドレスにふさわしい

これは、颯爽とビル街をゆく時の近代的な直截な感じの服ではありません。つばの広い帽子を被って野原へ草つみに、自由な散歩服に、そんなロマンチックな感じをもっています。

また、全体に柔らかいゆったりした感じですから、少女の部屋着――ごく楽な気持で着るホーム・ドレスにいちばんふさわしいでしょう。ホーム・ドレスとしては、スカートが自由に開いている点がたいへん便利です。日本のお家では、お座敷に坐る場合が多いのですから、腰まわりのあまりタイトな型や、キチンとした折襞のついたスカートは、ふだん着には向きません。





余り布で帽子を

散歩服などの外出に着る場合は、一一五頁の写真のようにバンドを後ろで結びます。

帽子と洋服とおそろいの感じに、洋服の余り布（あまぎれ）をリボンに使いました。この写真のような帽子は、外国の少女は、たとえばディアナ・ダービン※2などでもよくこの円錐形の型を被っているようですが、日本の少女の場合は、まっすぐなお河童やお下髪（さげ）にしている小さい少女には全然似合いません。かなり大きい人で、外出などで、髪にこてでもあてた時の帽子です。被り方はくれぐれもアミダに被ること、前へかたむけると大人らしくなっておかしく見えますから。







帽子の作り方



　この帽子の地は、黒のフェッシャンクロース[※3]、まわりに巻いて結んだ洋服と共布のリボンの裁ち方は、一〇九頁の、裁方図で、示してありますようにスカートの両脇からとったものです。わざわざ、帽子をお作りにならなくても、貴女の今被っていらっしゃるふつうの帽子に、リボンだけ洋服と共地でとって、飾りつけてお使い下さい。（上の絵のように）つばのある帽子でも、リボンが下に下がっているのは可愛いものです。

　裁方図のように細長い三角形を、六枚とって、（巾は帽子によってはもっと細めに裁ってもかまいません）まずその中から二枚を縁につけます。巾の広いほうを帽子の前にとめて、写真のように中央で交叉した形にし、一つ襞をつけて帽子の円形にそわせながら、後ろへまわしてとめます。残りの四枚を二枚ずつ腹合わせにして二個の三角形の袋を拵え、巾の広いほうを下にして、上を結んだ形に折りまげて根元へとめつけるのです。

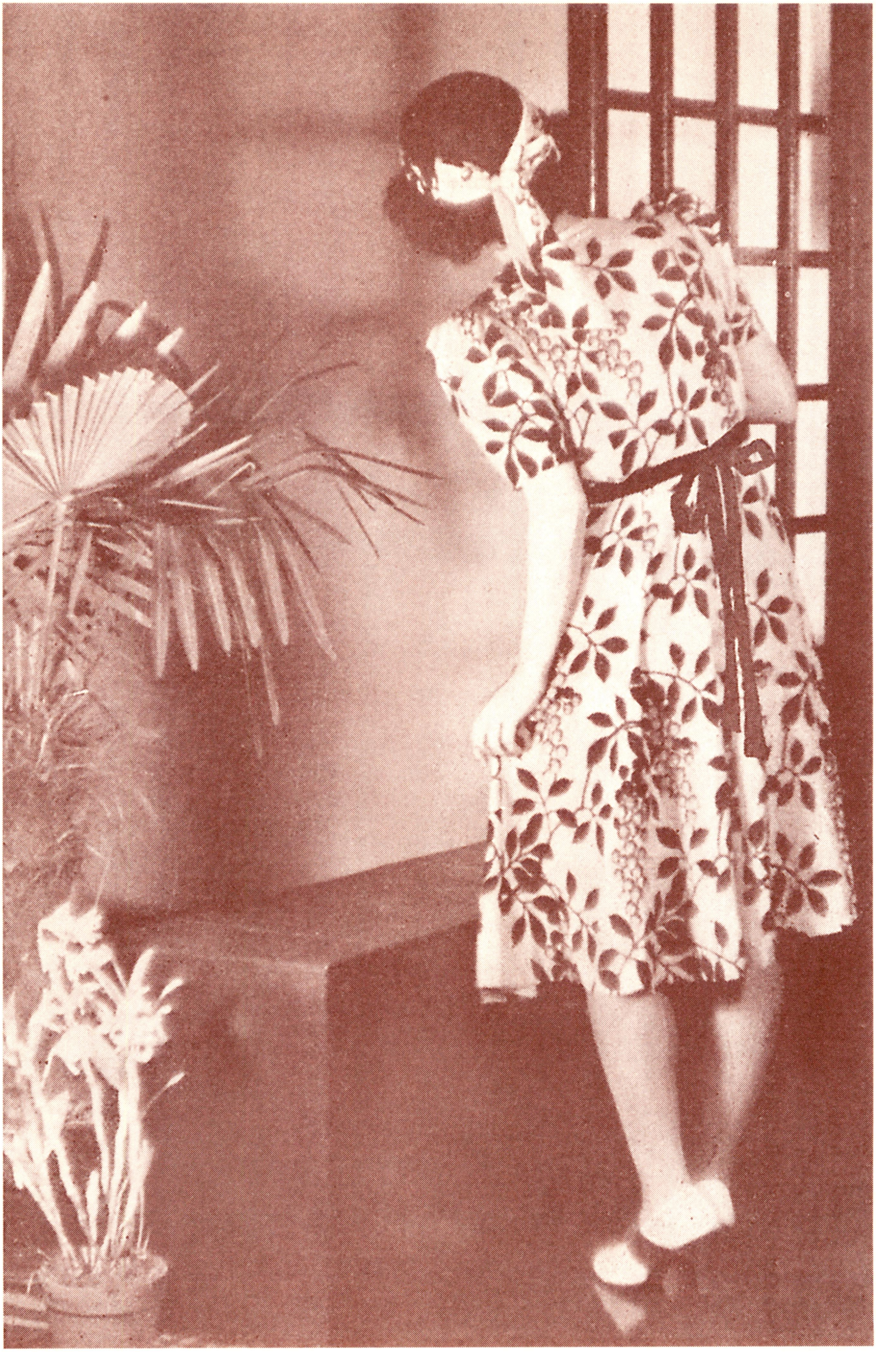
　以上の写真でよく分らないところは、一〇九頁の絵でごらん下さい。なお、ご参考までに一〇九頁に裁方図を示しておきました。貴女もお好きな和服生地を使って、作ってごらん下さい。

　附属品は、バンドが二ヤールあまりと、胸飾りリボンが、六、七分で、これにビロードのバンドを使いますと、生地の代とあまり違わないほど、高くなりますから、ふつうの繻子リボンで代用なさったほうがいいでしょう。

※1　銘仙――かつて実用的な普段着として広く愛用された着物。縞や絣などの柄を織り出した緻密な平織の絹織物で、関東一円で盛んに生産された。

※2　ディアナ・ダービン　Deanna Durbin――1921年生まれのカナダ人女優・歌手。1930年代から40年代のハリウッド映画で活躍した天才子役で、昭和12（1937）年の「オーケストラの少女」は日本でも大ヒットした。

※3　フェッシャンクロース――「ヘンプクロス」が訛ったもので、「ヘッシャンクロス」ともいう。太い糸でざっくりと織られた麻の布地で、しっかりと丈夫なのでバッグなどに広く利用される。



中原淳一

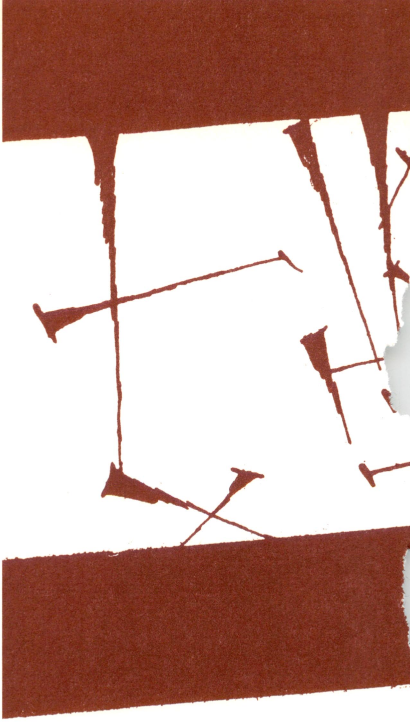
柄の選択

浴衣の季節が来ました。

暑い夏のふだん着に、ギンガムやポプリンのホーム・ドレスにはみられない、ロマンチックな味をもった、浴衣をこころみてみましょう。

藍と白の、涼しそうな色調のもの、また、このごろ流行ってきた、プリント生地の洋服地のような感じの、色どりの華やかなもの、いずれでもよいと思います。

ただ、和服で浴衣として召す場合とちがって、洋服生地に使う時は、年による柄の制限は、全然ありません。どんな地味な柄でも、デザイン一つでスマートな若々しい洋服になりますから。



昭和13年8月号

8つの浴衣のドレス

それよりも、柄の選択にあたって大切なことは、同じ大きさの模様が全体に平均して染め出されている反物を選ぶことです。端の方に水の流れがあって、まん中辺にすすきが配されている、といったような写真ふうな図案の柄は、洋服地には向きません。

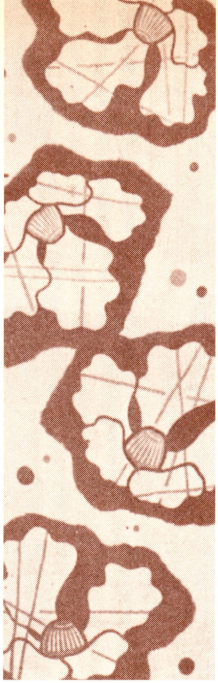
また、派手な、大柄の地で仕立てる時は、切り替えをなるべく少なくして、柄を生かすこと。反対に地味な細かい柄のものは、ふつうの洋服地と同じように、自由に切り替えを入れてデザインなさってかまいません。

浴衣のホーム・ドレスといっても、この服装帖でごらんになる通り、ちょっとの工夫でただ実用一点張りの、アッパッパのようなものでなく、夏の少女を、美しく見せる、スマートな服にすることができます。浴衣でしたら、どんな田舎の方でも手に入るのですから、夏のお休みにどうぞお拵え下さいませ。

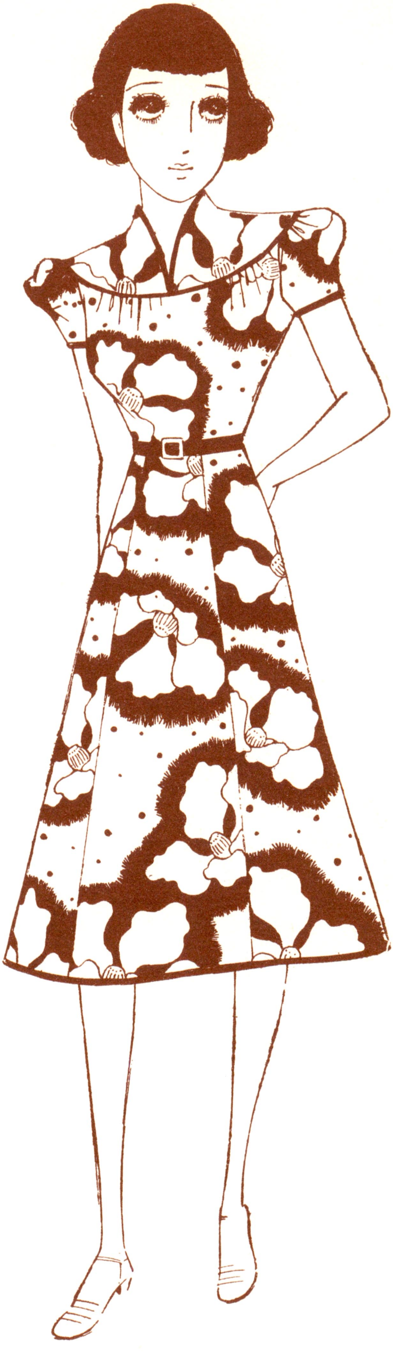
写真の浴衣地は、右から椿、けし、ほおずき、向日葵(ひまわり)の図案。この四つは、和服の浴衣としても十代の少女が着るにふさわしい派手な模様です。絵にかいた二つのスタイルは、四つの生地のどれでお作りになっても似合うでしょう。



けしの浴衣地



椿の浴衣地

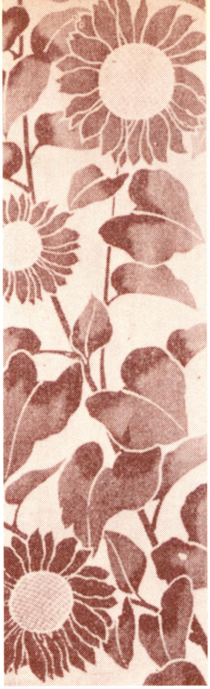


椿

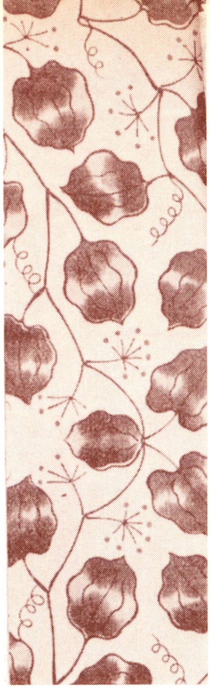
乙女らしい、大柄の椿模様の浴衣です。丸みをつけたV字型の襟ぐりと、広いヨークと、袖口と、それから裾のまわりに、生地の中の一色か、または全然反対の効果的な強い色でバイヤスの縁取りを施し、それと共色のバンドを締めます。

この椿のドレスも、次の向日葵のも、二つとも、着物に負かされない、華やかな強い感じをもった少女におすすめします。





向日葵の浴衣地

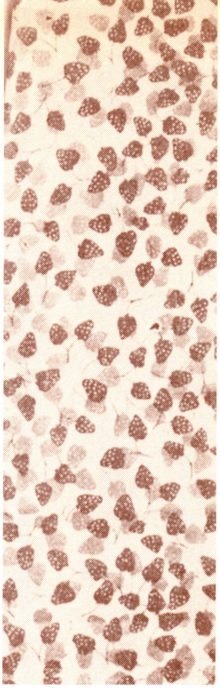


ほおずきの浴衣地

向日葵

パッと咲き出た大輪の向日葵の華やかな感じを出して――肩をギャザーでふくらませ、スカートは、八巾から十巾[※1]くらい接いで、ゆったりした巾をウエストラインでギャザーに寄せます。バンドは流行を超越して巾広い帯を後ろで華やかに結びました。

ロマンチックな中にも、近代的な強さ明るさをもったドレスです。



小さな苺の浴衣地



苺の浴衣地



苺

襟を小さな四角にあけ、袖は肩でギャザーを寄せてつけ、先がパッと開いて、襟のまわりと広い袖口に、オーガンディの可愛らしい飾りがついたロマンチックな型。
スカートはサーキュラーに裁って、それをウエストでほんの少し襞を寄せてつけました。ベルトは四センチ巾くらいの巾の狭い共ぎれに芯を入れ、前でパチンと結びます。
あどけない可愛らしい感じのする少女に。

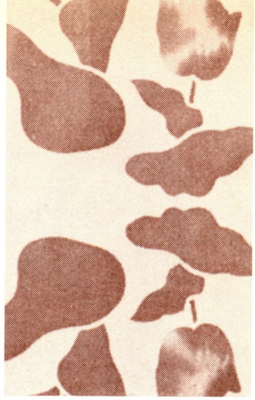




藤の浴衣地

藤

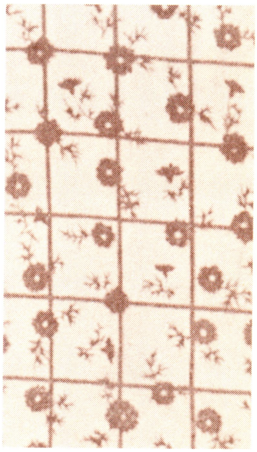
写真ではよく分りませんが、縞と縞との間に藤が白抜きで染め出されている柄です。アッサリした襟なしで、前は襟ぐりを高くまであけ、後ろでスナップ留めにしてあります。袖は深いタックで角をつけ、バンドを横で大胆に結んだだけの、簡単な型。下手に着ると全くアッパッパのように野暮くさく見える型ですが、体の線のスッキリした少女が召したら素敵です。



チューリップの浴衣地



小さなチューリップの浴衣地



あざみの浴衣地

チューリップ

襟のくりも袖もユッタリして、浴衣のくつろいだ感じがいちばん出ている型です。涼しそうなキモノスリーブの先と、V字型の襟まわりに、白いオーガンディのギャザー飾りをあしらいました。

前の向日葵、椿、苺、それからこのチューリップなどのような柄の大きい反物を使う時の共通の注意としてボタン、ブローチ等の小さい付属品は、生地の強い感じに負けて効果がなく、それより生地自身を生かしたデザインと、形で引立てるほうが効果的です。

あざみ

後ろは襟を共生地で少し立て、前で三角型の白いカラーが折り返って、その裏に、表地と共がついています。胸は細くあけて、涼しそうに肌をのぞかせます。

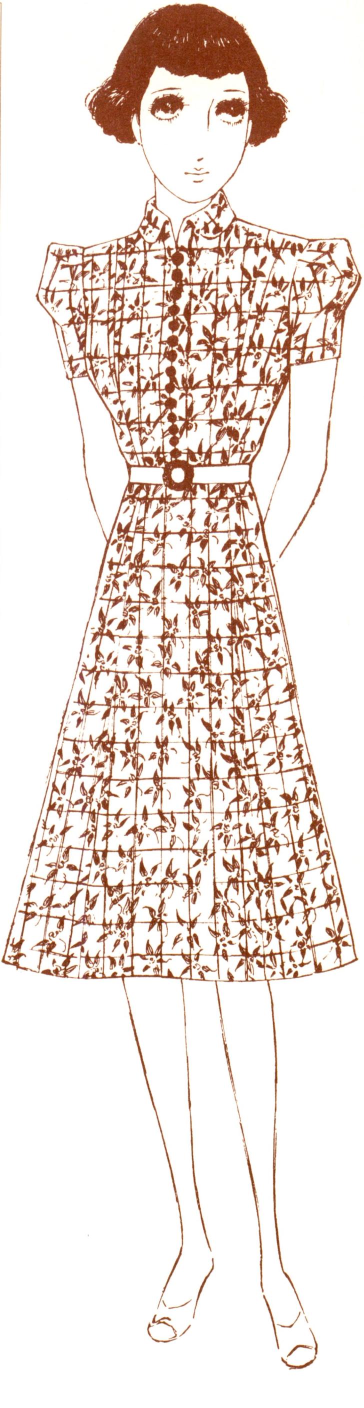
前身頃の中央は、襟から裾まで、一枚の布で通し、ウエストラインでその布の両側から、共生地の広めのバンドを出して、後ろで蝶結びにします。

襟元に、地模様の格子の線にマッチさせて、細い黒のリボンを結び、残りを頭に結ぶと、こんな地味な浴衣も、とても少女らしい可愛い感じになります。



あざみの浴衣地で
作ったドレス

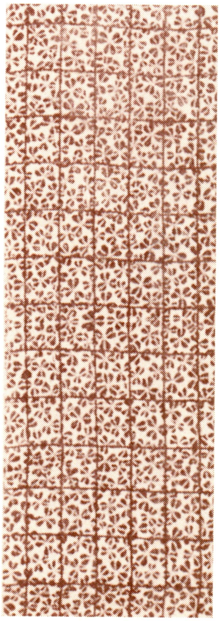
チューリップの
浴衣地で作った
ドレス



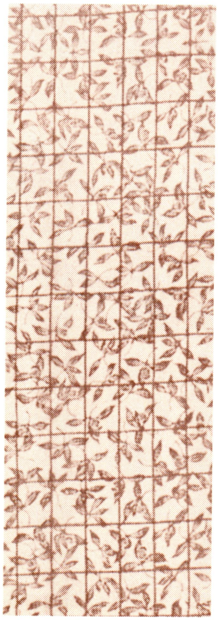
蘭・クローバー

これも次の頁の柳と同じく、和服の浴衣にするとずいぶん地味な、年より向きの柄ですが、洋服地としては案外スマートです。

今の流行の、標準型をとり入れた、いちばんどんな少女にでも向く、プレーンなワンピース。小さい共襟が、折り返ったような感じに可愛らしく垂れ、襟元を少しあけた下から、胸をスナップ留めにして、細かい飾りボタンを一列にならべます。バックルも、必ずボタンと同じ色にそろえること。もし大柄な模様でしたら、このボタンのアクセントはかえってうるさい感じを与えるでしょう。



クローバーの浴衣地

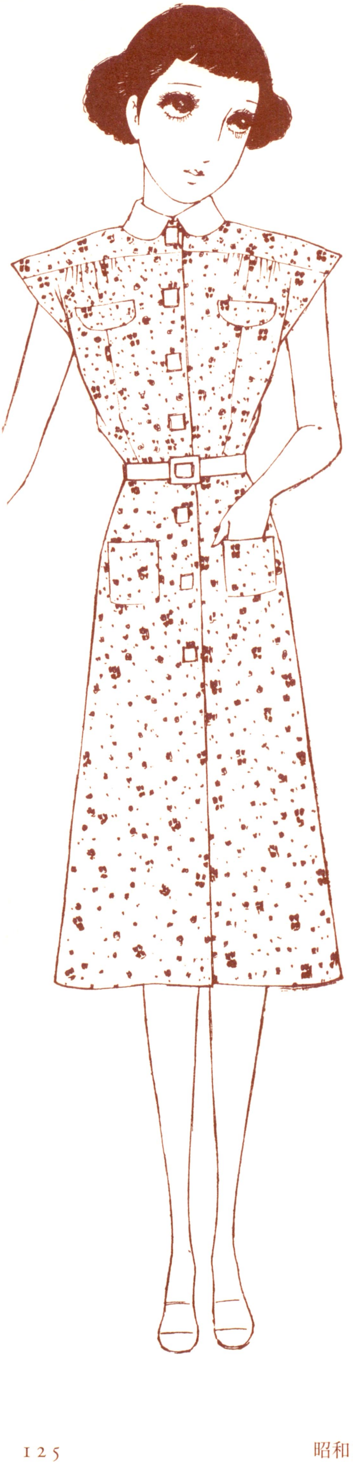


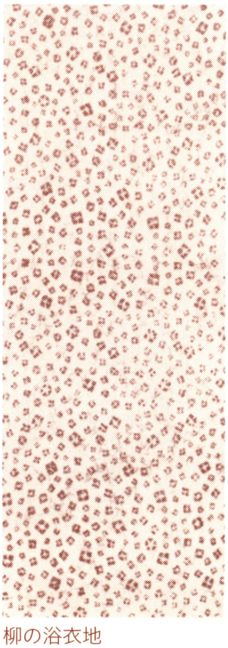
蘭の浴衣地

柳

写真によく出ていませんが、小柄な散らし模様の中に、柳がごく淡いねずみ色で配されている、和服なら中年向きの地味な浴衣です。
でも、洋服地にしますと、ふつうの細かい柄のプリント生地の感じがしますので、デザインがかえって自由です。
白いピケのポプリンで襟をつけ、袖は肩からつづいたままの涼しそうなホーム・ドレス型。胸の飾りにポケットをつけましたが、切りこむのが面倒だったら、図のように蓋だけを縫いつけて下さい。
光沢のある大きなボタンや、バンド、バックル等を選んで、全体の単調な感じを引立てます。

※1　八巾から十巾――ヤール幅（91・4センチ）の8倍から10倍の幅のこと。




柳の浴衣地

コラム

戦時下の女性の服装

柳原美紗子

昭和10年代は、軍国主義の波が押し寄せた暗い谷間の時代でした。昭和12年に日中戦争が始まり、昭和16年に太平洋戦争が開戦しました。戦争初期の段階で、戦局がこれほど長期化し、国土が壊滅状態に陥るとは、ほとんどの人が予想していませんでした。昭和13年頃までは、庶民の生活は、思いのほか、安定していました。

　戦時色が表れてきたのは、昭和15年頃からです。ダンスホール閉鎖など西欧的なものを排除する動きが強まり、「パーマをやめましょう」の標語が目立つようになりました。質素倹約が求められ、「袖を短くいたしましょう」の運動も始まりました。愛国婦人会のエプロン姿に襷（たすき）がけが、銃後の女性の制服となり、男子標準服として国民服が定められました。昭和17年には婦人標準服が発表され、洋服型と着物型、それに活動着が指定されました。しかし着用されたのはもっぱら活動着で、家庭婦人はもんぺ上下、工場で働く女学生は上着とズボンが一般的でした。もんぺは、農村の労働衣で、ゆったりした胴回りと絞った裾が特徴です。着物の裾を中に入れて着ることができ、手持ちの服を縫い直して作ることができる便利さから、全国に普及しました。

　戦時中の新聞には、物資が不足する中、古着をほどいて仕立て直した服や、作業着の衿にレースをつけるなど、おしゃれを楽しむ知恵が紹介されています。戦争という非常時にあっても、衣服が生活に潤いを与える重要な要素であったことがわかります。



セーラーの上着にもんぺで勤労奉仕する女学生（『少女の友』昭和19年1月号）

昭和13年9月号　古い生地で仕事着を

中原淳一

服装は気分を支配する

時節がら、いろいろ古い生地を利用した、少女服を考えてみました。

服装によって、私達の気分も支配されます。美しい花模様の絹のドレスは、貴女にきれいな夢を物語ってくれるでしょうし、ガッチリした労働服に身を固めれば、非常時らしい緊張した心持になりましょう。少女にも、これからの時代にいちばん必要な服装は、健康的なキリリとした感じの、働きよい仕事着です。今月の服装帖はそんなつもりのデザインを発表致しました。

これからは古い毛織物を大切に使わなければなりません。

いたんだり色が褪せたりしたセーラーの生地を、手入れをして、もう一度こんなワンピースに改造して着ましょう。セル※1でもサージでも、秋から冬にかけてのふだん着として、充分更生いたします。

まず、セーラーの上衣もスカートもすっかり解いて紺か黒の深い色に染めかえます。



ギンガムの縁取りで飾る

格子のギンガムなどの木綿生地を縁取りにあしらって仕立てます。ギンガムはなるべく厚手のもの、そして色は、あまり白っぽくなく、強い明るい色の格子を選んで下さい。

上衣の襟をとってしまって、Vネックにし、周囲に一センチ弱の細いヘリをとります。ポケットの穴もかがって、上から同じ巾の飾りを縫いつけて隠し、図のように、左右の胸に二段ずつ飾りをつけます。(背のあまり低い方はこの胸飾りを上の一段だけにしたほうがすっきり見えます) そのほかに袖口、バンド及びスカートの下端と、少し上ったところに一本、それぞれ、この同じ巾の格子縞の生地をあしらいます。

スカートの巾を、もとより狭くとって、その残り布で、図のような、肩でタックをよせて袖付が四角くなる型の半袖をとります。お袖の感じによって服がずっとスマートに見えますから。

上衣の下は、胴でゆるみなくキッチリ締め、寄せ襞にしたスカートを接ぎますと、ウエストの一点だけが凹んで形よいスタイルになります。スカートの襞は、前よりも後ろの方によけい寄せたほうが可愛らしく、裾は、膝から少し下ったくらいに、短めにお仕立て下さい。



スカートの余り布を利用して、タックの寄った袖を作るとスマートに

無地の生地を加える

これは綺麗に仕立てればちょっとした外出着になります。

黒か紺に色あげしたセーラーの生地に、エンジ、濃い黄色、グリーン、茶色などの、厚手の無地の生地（セルなど）を配して仕立てたもの。

襟はそのままのセーラー襟をつけて、裏をとって一重にし、周囲（まわり）の線（ライン）をはずしますと、下に跡（かた）がつきますから、強い反対色の無地の飾り布で線のはいっていた巾だけ、広い縁をとって覆います。後ろの四角（すみ）は額縁のようになるわけです。

この襟の縁と同じ巾を、おそろいの布で、左右の胸飾り（ポケットのかくし）、袖口、バンドにあしらいます。

スカートは元よりずっと巾を狭くして、前後とも真中に一本ずつ箱襞をとり、襞の上の方を十五センチくらいミシンでおさえておきます。

胴は短く切って、体の形に合わせて胸の下のところで二本縫いつめ、その下にスカートの残り布でとった胴布を接ぎます。胴布とスカートの接ぎ目はバンドの下に隠れるようにします。裾はやはりあまり長くしないこと。以上、二つのワンピースは、廃物利用だからといって、決して仕上げをぞんざいにしないこと。縫い上ったら充分、しめして、アイロンをピッチリあてて、ぶくぶくしないように仕上げをして下さい。

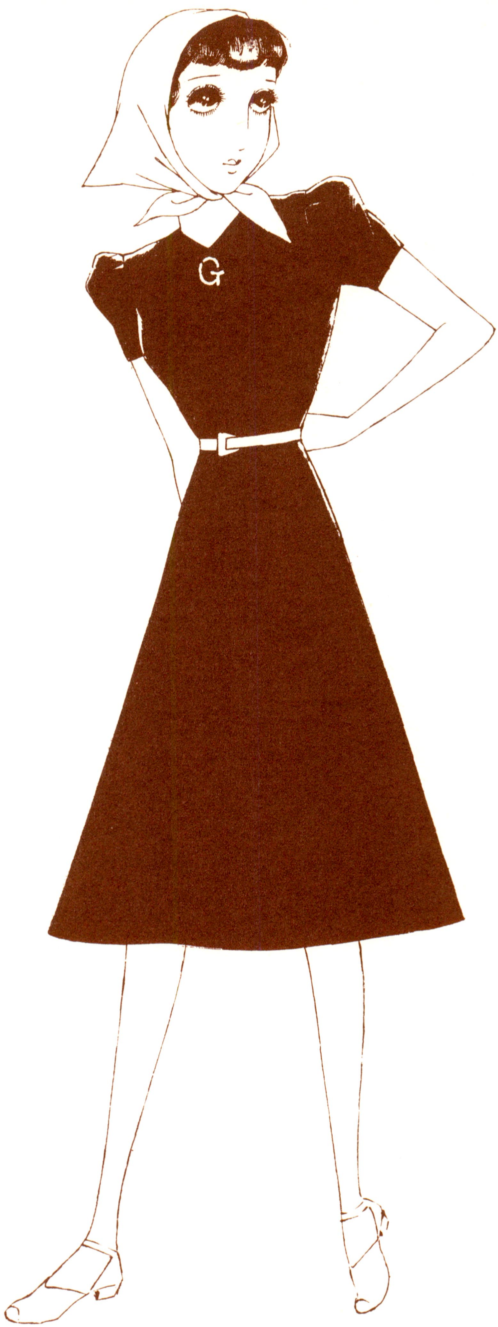


スカートは元よりずっと巾を狭くし、箱襞をとる

刺繡でアクセントを

これは袴地かセーラーの古い生地を更生させて作った、あっさりした型の仕事着のワンピースです。

袴でしたら、エンジや、紺や、グリーン、空色など、いろいろな綺麗な色があるでしょう。色が褪(は)げていたら染め直しをしてから仕立てます。



刺繡が赤ならバンドもおそろいの赤で

短い袖と、小さな三角の襟ぐり、胸のところに、フランス刺繡糸などで、あなたのイニシャルをお手製でお縫い下さい。単純な無地の中で、この一点が可愛らしいアクセントになります。紺地のドレスに、あざやかな赤でイニシャルを入れたら、バンドもおそろいの赤。布で拵えたものでも、細いレザーのベルトでも似合います。

スカートは短く、襞なしで裾の開いた型。

毛糸でステッチ

右のワンピースの上に着るジレ。

廃物利用の服も、ほんのちょっとした取り合せで、見違えるように気の利いたしゃれた感じになります。このジレは、わずか一ヤールくらいでできますから、最も配色のよい新しい生地をお求めになって作るのも、服を引立てる一つの方法でしょう。

またお家にある古いセルの着物などを、好みの色に染めてお使いになれればなおよいと思います。

ジレの色は、洋服が、紺、黒、グリーンなどだったら、エンジがいちばん効果的です。反対に、エンジの袴などを直した服には、黒か、濃いグリーンのジレ、また、グリーンか黒の服だったら、オレンジを配しても引立ちます。

強い反対色を使った、大胆な配色の生地で仕立て、まわりに、洋服と共色で、ボタンホールステッチをぐるっと施します。いかにも手製らしい、粗い感じの面白みを出して、毛糸二本くらいで、太く縫って下さい、あまり細かくすると、かえって効果が上りません。

このジレは、襟のついた服に着て胸から襟を出してよく似合います。

頭布（ずきん）は、共布でもよし、何か配色のよいプリント生地を選んで、頭にしばっても可愛らしいでしょう。

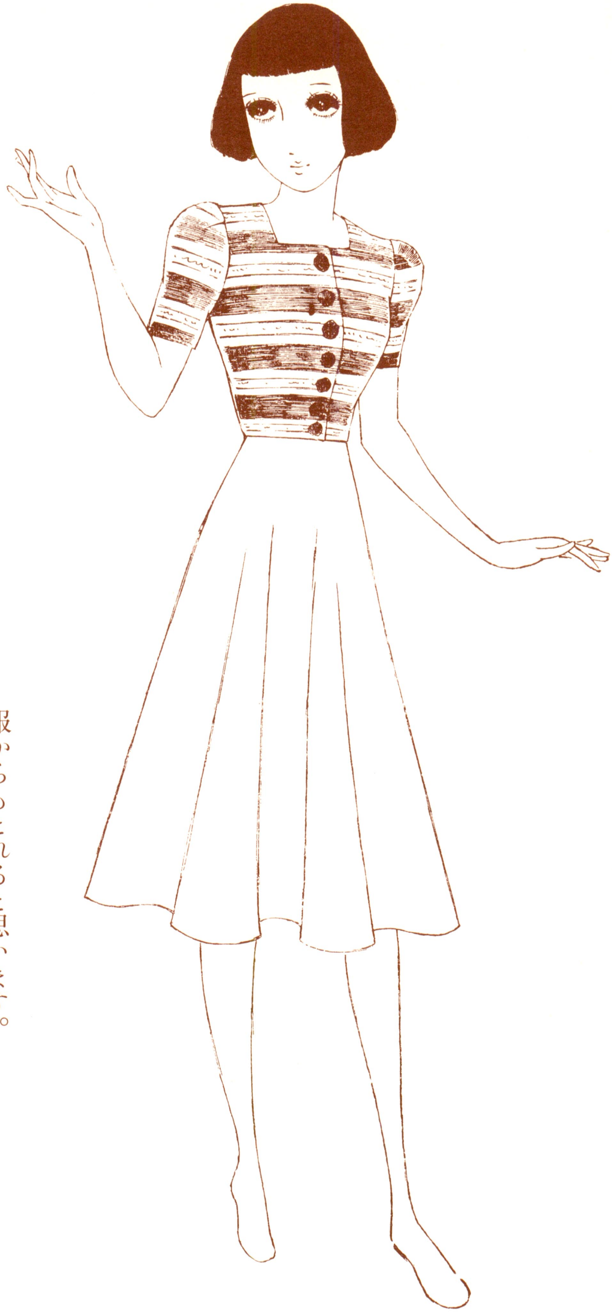


柄物の古布を使って

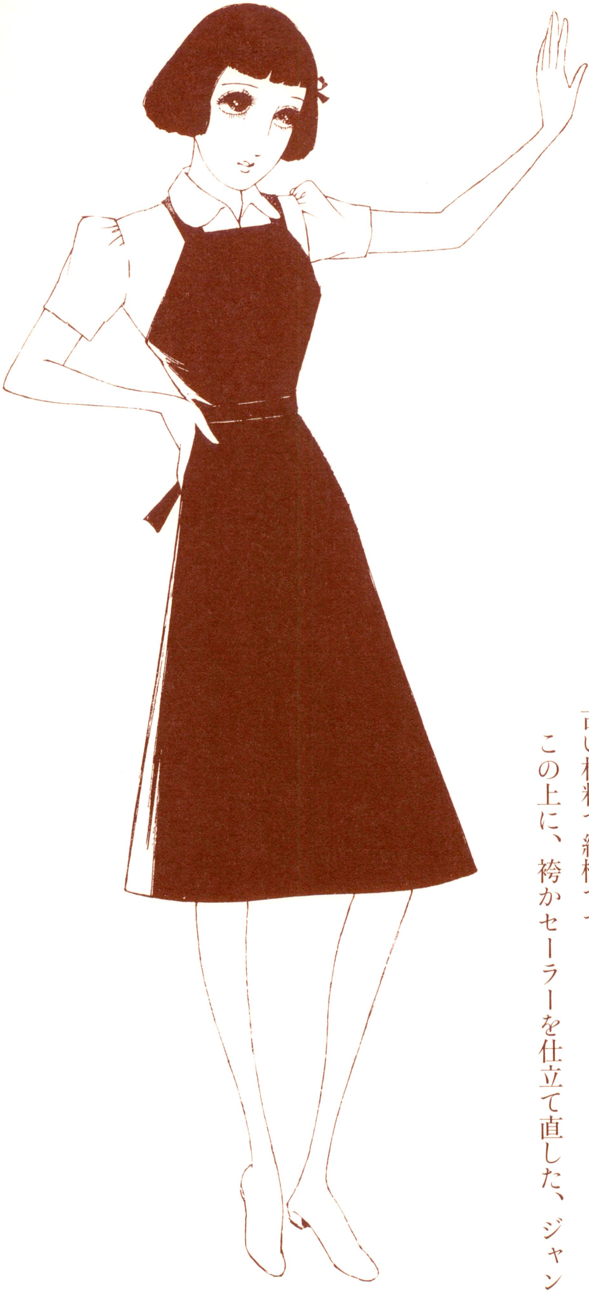
袴かセーラーのスカートの古いのを利用して短かめなスカートを作り、上のブラウスは、小さい時着た、本ネル[※2]の弁慶格子[※3]の着物や、お家の方の古くなった、地味なセルなどで仕立てましょう。また古くなった服や、子供服からもとれると思います。

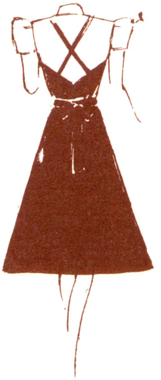
チェックか横縞のものが引立ちます。

襟を四角くあけて、前をボタンでとめ、ウエストでキリリとくくれて裾で広がる、いかにも働く服らしい飾りけのない型です。冬には、毛糸で、渋い配合の二色を、五センチ巾くらいの横縞に使って、この型を編んで着るのもいいでしょう。



いかにも働く服らしい、飾りけのない型





このように紐を後ろで結んでも、バックルのついたバンドを締めてもいい

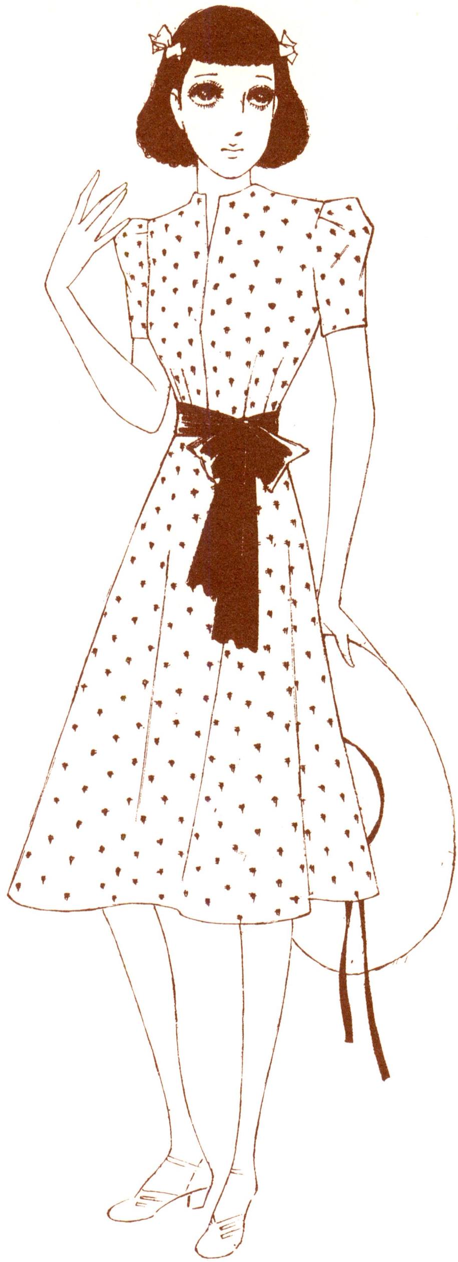
背中が特徴の労働着

これは全体が職工服[※4]みたいな感じの少女の労働着です。ブラウスは、男仕立てのワイシャツのような型、お父様のワイシャツを一枚いただいて、改造して拵えてもよいでしょう。上のちょっとした部分しか見えませんから古い材料で結構です。

この上に、袴かセーラーを仕立て直した、ジャンパー

お父様のワイシャツと、袴かセーラーを仕立て直せばできる

を着ます。ジャンパーは、ちょうど職工服のような型で、後ろはあいてブラウスが見え、前からまわった紐が背中で十字に交差しています。バックルのついたバンドを締めて、ガッチリした感じを出してもいいし、また細い巾の共地の紐を後ろで結んでおくのも可愛らしくていいでしょう。寒い時の仕事服としては、ワイシャツの代りにセーターをお召し下さい。



このようにへこ帯を結べば男性的ないきな感じに。小さい少女なら、共生地のバンドを前で結べば無難

男物の着物を利用

夏の男物の単衣や、お年寄りの着物を利用して、しゃれた外出着をお拵え下さい。麻の白絣（しろがすり）[※5]、上布（じょうふ）[※6]や帷子（かたびら）[※7]、あるいは芭蕉布（ばしょうふ）[※8]などのシャッキリしたかたい感じの生地で仕立て、サッシュ[※9]もいっそ

黒にして、白・黒二色だけの洗練されたコントラスト。
男性的ないいきな感じを生かして着こなせる、大きいお嬢さんには、男の人のへこ帯を使って、両端のいたんだ部分をとって、少し巾を細くしたものを前で結んで垂らしたらどうでしょう。大胆な感じで全体を引立てます。
着こなしのむつかしい小さい少女でしたら、共生地の、五センチ巾くらいのバンドを、前で結び切りにしておけば、誰にでも似合って無難でしょう。
あっさりした絣の模様、麻のピンとした地質、ふつうのオーガンディなどより、もっと洗練された、趣味のある外出着としておすすめします。
あまり古くなっていなかったら、ふだんには木綿の白絣でこんなデザインのドレスを仕立てて召してもよいでしょう。なお秋に着るのでしたら、柄の古くなった黒地の銘仙の絣などを利用するのがよいと思います。

※1 セル——経緯糸とも細い梳毛糸を使った平織の毛織物。和装用、とくに単衣仕立ての春・秋用の着尺地や袴地に多く用いられる。オランダ語の「セルジ」を「セル地」と解釈したことからの名称。

※2 本ネル——フランネルを、略してネルという。羊毛製のネルで、表面を起毛した綿ネルと区別して、こう呼ばれる。柔らかく軽い毛羽のある密な織物。

※3 弁慶格子——縦横ともに1センチ以上の同じ幅の格子柄。あっさりした大胆な柄で、歌舞伎の弁慶の衣裳に用いられたことから弁慶縞ともいう。ギンガムチェックの基本柄でもある。似たものにシェパードチェックがある。

※4 職工服——職工とは職人や工場労働者、つまり工員のことで、彼らが着用した作業服。薄青色が多い。菜っ葉服ともいう。

※5 白絣——一般的な紺地の紺絣に対して、白地に紺や茶の絣模様を施した絣織物のこと。主として夏用に用いられる。

※6 上布——上質の麻糸で織った軽い薄地の平織物。張りのあるさらりとした感触で涼感があり、夏用の着尺地として用いられる。古くから越後上布、宮古上布、能登上布、近江上布などが有名。

※7 帷子——麻素材の単衣の着物のこと。元来、汗取りとして着用した裏をつけない単衣仕立ての着物の総称だったが、江戸時代に夏用の麻の一枚物を指すようになり、絹製のものを単衣と呼んで区別するようになった。

※8 芭蕉布——沖縄特産の織物のひとつで、芭蕉のなかでも糸芭蕉といわれる植物の繊維で織った布。葉鞘を竹片にはさみ、しごいて繊維をとり糸にする。軽く張りのある、さらりとした風合いが特徴で、夏の衣類に愛用される。

※9 サッシュ——サッシュベルトの略で、帯や飾り帯のこと。柔らかい布でつくられた幅の広いベルトで、ひだを寄せて締めるものも多い。また軍人が肩から掛ける正装用の肩帯も、こう呼ばれる。



中原淳一・南由紀子

昭和13年10月号　お下髪（さげ）髪の工夫

制服に合うお下髪

南　「――服装帖に中原先生がお描きになる少女は、いつでも断髪のモダンな女学生ばかりでつまりません、私たち田舎の女学生のこともどうぞ考えていただいて下さい――こんなお手紙が、読者の方からたくさん参っています。それで今月は、地方の女学生の方のために、おさげの髪の工夫について指導していただきたいと思います。都会の女学生でも、上級生はちょうどこの夏休みあたりから断髪を伸ばしかけた時でしょうから」

中原　「一口にお下髪といっても、ずいぶん長いのと、短いのとありますね。まず制服の場合の標準型を、二通り描いてみましょう」

南　「地方の女学校では、長さ三十センチ以上などという規則があって、やはりAのような長いお下髪でなくてはいけないところもあるらしゅうございますね。

　Bのほうは、ただ、断髪にしないで縛ってさえあればいい、という場合の型ですのね」

中原　「どちらにしても、こういう制服の場合の髪は、

さっぱりと清潔な感じにしておくことが第一で、もしこてを使うにしても、Bのような形の毛先に、ちょっとあてるのがせいぜいです」

南「AもBも、額をかき上げて、生え際をはっきり見せておりますね」

中原「富士額のような形に、額にうっとうしく髪をかぶせた形は、今の少女には一般にあまり似合いませんね。それよりも、額は、広ければ広いなりに、狭ければ狭いなりに、上にさっぱりかき上げて生え際を見せたほうがずーっと知的な現代少女らしい感じがします」

ふだん着に合うお下髪

中原「それでは、今度は、制服を脱いだ場合——外出したり、お家にいたりする時の髪型を描いてみましょう」

南「次頁の四つは、B型の少女の変化ですのね。——1

制服に合う標準的な髪型

A 長い髪の場合。前髪は上にさっぱりかきあげたほうが現代少女らしい

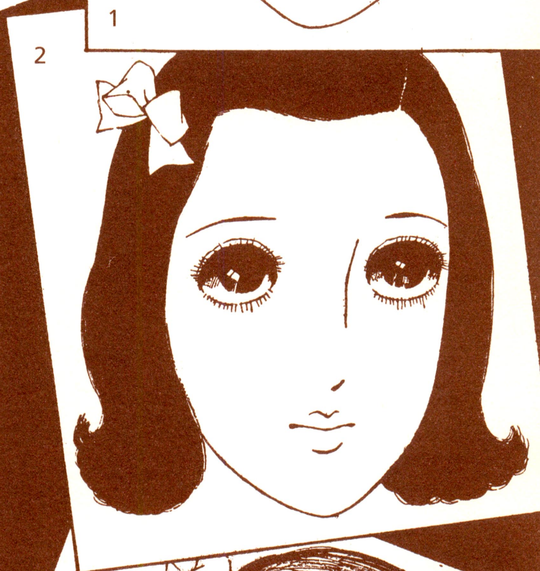


B 短い髪の場合。こてをあてるならこの程度に











Bが制服を脱いだ時の髪型

1 上右／リボンをつけた髪型

2 中／長めの髪が肩にかかって抒情的

3 下／淋しい顔立ちの少女がすれば、明るく派手になる

4 上左／顔立ちのハッキリととのった少女にいい

は、通学の時のままの型にリボンを結んだものですね」

中原「ええ、リボンも巾の広いのは古風ですから、二センチくらいのを可愛らしく結んで下さい。近代的ではないが、日本の女の子らしい美しさがあります。絶対に和服向きで、洋服に、この髪は似合いません」

南「次の2は、束ねたのを離して、ばらりと肩にかぶさる形、これだったら、和服にも、洋服にも差支えありませんね」

中原「少し長めの髪が肩にかかっているのは、いかにも抒情的な少女らしい感じで僕は大好きですよ。小さなリボンがやさしさを添えています。家へ帰ったら、すぐこんな型に変えるのもいいですね。長すぎたら毛先を少しこてではねておくこと、そのほうが調子がついて来ます」

南「ただこうした長めの髪は、和服でも洋服でも、先が襟や肩に擦れて汚れやすいものですから、いつも清潔にして、サラサラさせておくことが大切ですのね」

中原「断髪（おかっぱ）の伸ばしかけの少女がよくこんな髪をしていますね。前髪がすぐ下ってくるので、苦心しておくれ毛どめを何本もさして上にかき上げて押えている——あれもなかなか、微笑ましく思います。ちょうど、成長してゆく少女の姿をそのまま見るようで……」

南「3は外出向きの華やかな型ですね。毛先を外側なり、内側なりに一度はねて、その上を二段か三段、波をうたせると、ちょうどこれくらいの短さになりますのね」

中原「こてをあてたままでは、きつすぎますから、それを一ぺん梳（と）いてほぐすと、よそゆきの華やかな髪になります。特に、やせた淋しい顔立ちの少女が、盛装でもする場合、この髪にすれば、見違えるように明るく派手な感じになって、着物と調和します。

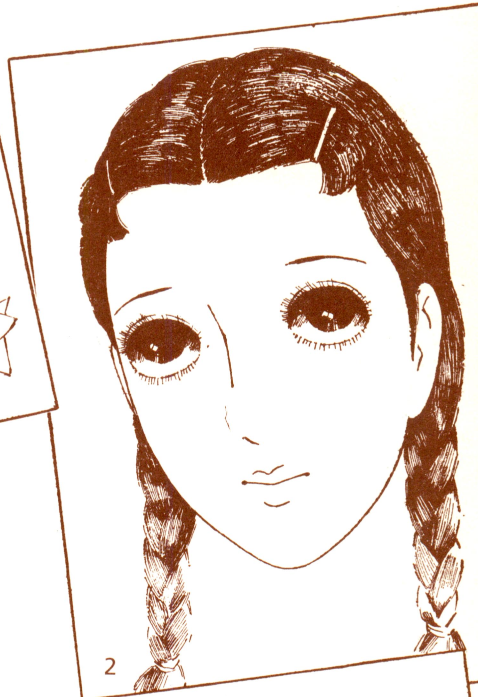
　大人の真似のように頭全体にごてごてウェーヴをつけたりするのでなく、ただ毛先をふくらませる程度にこてをあてるのが、いちばんあどけない感じで少女によく似合うと思います。この図の場合でも、あまり上のほうへはこてをかけないこと」

南「4図はとても、すっきりした感じですね。額の美しい聡明な少女に似合いそうな」

中原「この型は、誰にでもというわけにはゆきませんが、顔立ちのハッキリととのった少女がすれば、洋服に



1



2

Aが制服を脱いだ時の髪型

1 リボンをつけた髪型

2 前髪を切った場合、こうして留めれば額が美しく見える

3 2の前髪をさげてリボンをつければ華やかに

4 少し年の大きい少女なら、前髪をこてでカールするのも華やか



3



4

はエキゾチックな感じで調和しますし、和服なら東洋的なオヒナ様みたいな美しさが感じられましょう……」

長いお下髪の場合

南「今度はもっと長いお下髪の、A型の少女の場合。みんな両側に編んで垂らしておりますのね」

中原「ええ、この型がいちばんやさしい感じでいいと思います。太いころころの綱のような一本を後ろにさげているのはあまり殺風景ですから」

南「右の頁の1は、通学のままのお下髪に、先に二、三センチ巾くらいのリボンを結んだ形――これは和服向きに見えますね」

中原「洋服ならば、ごく細い、一インチまでくらいの巾の、格子か黒などの小さなリボンが適当です。その次の2は、前の髪を切って両側へ分け、額をはっきり出しておくれ毛どめで留めた形――これは、ただ毛がおちないように押えてあるというだけでなく、この留めた形それ自身によさがあって、何もしないでいるより額が美しく見えます。もし学校でこんな型が許されれば、前を切っておいてふだんはこうして留めておくのもいいでしょう」

南「外出する時には、それを3のようにそろえて額にさげて、先にリボンでも結べば、充分華やかな感じを出せますのね。これは洋服でも和服でも向きますね」

中原「最後の4は、少し年の大きい少女になりますが、少しおしゃれをして柔らかい洋服を着るので、ふだんのお下髪のままでは淋しいが、前を切り下げるのがきらい――というような場合に、前髪の先を、こてで充分にカールして、それを図のように両側へ分けて留めますと、ちょっとの工夫で額のあたりに調子がついて柔らかい感じが出、華やかさを添えます」

南「こうして見ますと、単調に思えるお下髪にもこんなに変化がつけられますのね。一つ一つ中原先生にお絵を描いて示していただきましたので、きっと読者の方のよい参考になったことと思います。どうもありがとうございました」

秋の女学生服装帖

―中原淳一―

昭和13年11月号　秋のスタイル



刺繍をしたセーター

軽かった夏の服から秋の服に着替えなければならない季節になりました。今月は秋の少女の洋服について書いてみましょう。

セーター

制服の紺のスカートにセーターの女学生姿はいかにも可愛らしく少女らしいものです。スカートが紺の場合にはだいたいに明るい反対色が美しく見えるようです。

エンジ・赤・クリーム・黄・日濃緑（ひこいみどり）※1・ローズ・茶・ピンクなど良い例としての色は数え切れないようにあるのですが、悪い例としては紺とか紫で、これはセーターを着た美しい特長が失われがちです。

色と型

しかし服装についての色調は人によるものでどれが良い配色でどれが悪い、というようなことはいちがいにはいえないことなのです。どんな素晴らしい色と形を持った服でも、その人の顔や髪の形や年齢または全体から受けるその人の感じとちぐはぐな時は少しも美しく見えないもので、これはその人の顔が美しくないからというような意味では全然ないのです。あなた達はまず最初にはどんな色の、感じの服が似合うかということを知ることです。よく色の黒い人には赤い色は駄目だというようなことを聞きますが、赤と緑と黄などというちょっと考えると色の黒い人にはいかにも暑苦しく見えるような色調でも人によってはそれがかえって南国的な美しさを見せることさえあるのです。スタイルブックなどを見ても、無地で描かれてあるから無地で作らなければならないというものではなく、いちばん自分に似合うと思う型をいちばん自分に似合う色で作ることです。色と同時に考えるのは型——型や色よりはあなた自身のスタイル——スタイルより大切なのは姿勢——そして最も大切なのはあなたの動作です。

考案

和服には一定の長さがなければどうしても着ることができませんが、洋服の場合はあなた方が頭を働かせるこ

とによっていろいろの面白いことができるでしょう。
一着には少し足りない二種類のあり布でも色調と型とで立派な外出着を作ることもでき、小さくなった二着の服を一つにしたり、ボレロやチョッキのようなものも作れるでしょう。
この秋にはあなたの古い服をすっかり出していろいろ利用法を考えてみませんか。


二種のあり布で
できる服の一例

今年のスタイル

細腰がつまってスカートがだんだん短くなって来ます。時局柄新しい服を作らないで、できればスカートをつめて間に合わせましょう。短いものを長くするのは困難ですが長いものを短くするのは簡単です。ちょっと半インチか一インチの違いで野暮にも見えスマートにも見えるものです。

ついでに細腰もぴったり体に合わせて縫いつめて下さい。

刺繍

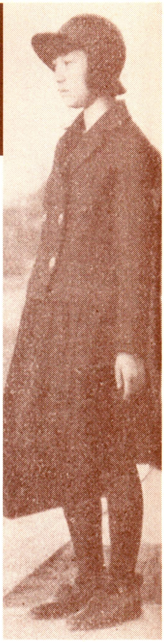
服の胸に、セーターの襟の周囲（まわり）に、ボレロに刺繍をしましょう。そしたらどんなに少女らしく可愛らしいでしょう。

それにこれは今年の流行です。

※1　日濃緑――日中の光がふり注ぐ木々の緑で、直接光が当たっている部分ではなく葉が重なり合っている部分の濃い青みの緑を指すと推測される。中原淳一らしい文学的、詩的な表現の色。



少女のチョッキ



昭和13年12月　美しく見える動作

ほんの少しの心づかい

少女らしい美しさ、それはいろいろな点からいえることでしょうが、外面のおしゃれより、根本は、一瞬一瞬に、貴女(あなた)が無意識でしていらっしゃる動作や身のこなしが、少女らしいたしなみを見せたきちんとした気持のよいものであることです。何も技巧を凝らす必要はありません。いちばん自然でいて、しかも無作法でない動作をなさればよいのです。そして、ほんのちょっとした心づかいによって、何気ない時も、美しいポーズをしていることができることをお考え下さい。

どなたでも、写真に撮られたり、人が見ていると思えば、特別に気をつけますが、その心づかいをどうぞ平生も持ち続けて下さい、皆様が毎日していらっしゃる主な動作を美しく見せる形を次に絵で示してみましょう。

路上で～電車を待つ間～

学校のゆき帰りに、毎日のようにきまった場所でバス

女学生服装帖

中原淳一



何気ない時も美しいポーズを。さも疲れたような恰好の少女は見ていて情けない

や電車をお待ちになる方が女学生の大部分でしょう。気持が緊張した登校時と同様に、放課になって帰宅(かえ)る午後も、変らずきりっとした態度でいたいものです。さもさも疲れたような恰好で、鞄を重そうにだらんと下げて体をまげたり、うなだれたりしている少女を見るとほんとに見ていて情なくなります。

大事なのは目の位置です。あまりキョトキョト必要以外のところを見まわしているのは、みっともない感じですね。あたりの人のお召物なんかをジロジロ見まわしているのも女学生らしい態度ではありません。姿勢はらくに——、ただ両足をひろげて立っているポーズはお行儀が悪くて、おかしいものですから、片足をちょっとひいて自然に立っているのがいちばん感じのよい形です。

階段で

朝、ギリギリまでお寝坊して、省線[※1]の階段を二段、三段一足とびに——というような勇壮ぶりは、いくらお洋服でも少女にとってあまり形のよいものではありません。それに、金具のうってある階段では、急いでうっかり靴の裏を滑らして、けがをすることさえありますから危険です——階段はやはり一段ずつ、昇り降りするもの、それも、いわゆるドタバタと靴音をひびかせて、足全体の力で踏みしめるような踏み方でなく、降りるにしてもあがるにしても、かるく、爪先でトントンと階段を歩けば、見た目も、いかにも軽快な女学生らしい可愛さを感じます。



階段は、かるく、爪先でトントンと

しゃがむ時

路上で落した物を拾おうとしてしゃがむ時、床の上の品物をちょっと取ろうとして腰をおとす時、――これは、ほんの何秒かの、決して長い間静止しない瞬間の動作なのですが、そうした短い時間のポーズにも、心を配りたいものです。無意識に両膝をそろえてしゃがんだまま物を取ろうとすれば、その出した手の方へ重心がかかって、体がグラリと平均を失ってしまいます、あわてのめるまいとして中腰のまま、泳ぐような妙な恰好をなさっては台無し。それより、ちょっと、片膝を下げて、調子をとるだけの注意で、ポーズとしても、きれいに見え、また、動作も都合よくゆきます。なお、この場合も、しゃがむと同時に、スカートを膝でくしゃくしゃにしないで、さっと膝頭に下してかけるだけに気がつけば床(ゆか)しいと思います。



さっとスカートを膝頭に下してかければ床しい。瞬間のポーズにも心を配りたいもの

日本間へ座る場合

洋服のスカートで、畳の上に座る——これは、今の日本の習慣としてごくふつうに行われていることです。殊に女学生時代は制服（セーラー）がふだん着であると共に、またちゃんとした礼装なのですから、よそのお家への訪問でも女学生はセーラーのままゆく機会がたびたびあります。

　訪問によっては足をくずさないできちんと座らなければならないでしょうが、親しいお友達などを訪れた時などはちょっと足を横にくずしてその上にスカートをふんわりとかけ両手は形よく膝の上に置く。こんな形はかえって親しみやすい美しい形です。足を両脇に開いて腰を畳に落した形などは不作法な醜い形です。

腰掛ける形

　室内で椅子に腰掛けている時や、電車、バスなどの中で座席に腰掛けている時、いちばん目につくのは、何といっても、足のお行儀です。両脚をだらしなくひろげているのは無作法な感じ。殊に雨の日など、スカートの両膝の間に傘を挟んでいらっしゃるのはお行儀が悪いですね。

　それから、膝だけはつけて、足先を開いたX型の足も不恰好ですから注意して下さい。X型と反対にO型に、



足を横にくずすのは美しいが、両脇に開くのは不作法で醜い

足が床にとどき切らない姿勢で膝を離して、左右の足先を、内側向きにねじって辛うじて爪先だけ床につけて腰掛けているのも見苦しい形です。総じて、低い椅子にゆったりかけたほうが、足の形をきれいに見せます。

正しい腰掛け方は、膝頭をつけて、両脚をきちんとそろえ、そのまま正面に真直の向きでも結構ですが、あるいはそろえたままの両脚を少し斜め横に向けても、柔らか味が出て美しいポーズになります。なお、腰掛けたらすぐ膝にたくれたスカートを下にさげて、向う側の人から膝小僧が見えないように注意すること——。殊に短いスカートのワンピースなどを召した時には、このご注意は少女として忘れてならないたしなみです。

※1　省線——山手線や中央線など大都市近郊の通勤電車の戦前の呼称。当時の鉄道省（のちの日本国有鉄道、現在のＪＲ）が運営する電車の意。戦後は国電と呼ばれた。

膝頭をつけ、両脚をきちんとそろえるのが正しい腰掛け方。X型、O型は見苦しい



コラム

セーラー服の起源

柳原美紗子

映画「ココ・シャネル」（2008年）で、シャネルの娘時代を演じたバルボラ・ボブローヴァは、セーラー服を着用していました。濃紺の四角い衿まわりに白線を入れたセーラーカラーが、若く闊達なシャネル像を演出していました。20世紀初頭のこの頃、シャネルは洋品店のお針子でしたから、最新ファッションを身につけていたに違いありません。

1920年代（大正9年〜昭和4年）に、セーラー服は欧米の女性のあいだで大流行しました。それは日本にも影響を与え、大正時代に女学生の制服として導入され、昭和初期に全国の女学校に広まり、津々浦々で、人々の目を引き、女性が洋服を着る習慣を生み出していったのです。

しかしセーラー服は、「水兵が着用した服」の意で、本来、男性服でした。その起源は、19世紀半ば頃の英国良家の男児服にあったようです。1857年には英国海軍の水兵の制服として採用され、その後各国海軍に採り入れられ、日本でも明治の初め、海軍服に制定されました。

1920年代は、ボーイッシュなファッションがブームを呼んでいた時代で、若き日のココ・シャネルも、積極的に男物を採り入れ、モードを先導していきます。水兵たちが着ていた服をヒントにマリーンルックを発表したのも、この時期でした。

今や、このマリーンルックは、クラシックなファッションテーマのひとつです。セーラー服も、制服という範疇（はんちゅう）を超えて、永遠のファッションとして生き続けるでしょう。



セーラー服1期生として晴れがましく記念撮影する女学生たち（昭和12年、長野県諏訪高等女学校）

第3章

中原淳一と『少女の友』

「女学生服装帖」が連載された雑誌『少女の友』は、
明治41年に創刊された当時を代表する少女雑誌です。
中原淳一は昭和7年のデビュー以降、
昭和15年に軍部の圧力によって降板するまで、
看板画家として、ブレーンとして八面六臂の活躍をし、
『少女の友』の黄金期を築きました。

19歳で彗星のごとくデビュー

昭和7～9年

初登場は口絵の詩に寄せた挿絵

初登場は昭和7年6月号。大関五郎の詩に寄せた挿絵だった。下／「夏のたより」サトウ・ハチロー詩（昭和7年8月号挿絵原画　弥生美術館蔵）





『少女の友』とは

『少女の友』は、明治41（1908）年に実業之日本社から創刊、昭和30（1955）年に終刊。創刊以来、読者との密接な交流を伝統とし、日本の少女雑誌としてはもっとも長い48年間、主に都市部の女学生に愛読された

左／明治41年2月刊行の創刊号表紙

「少女にこそ一流のものを」をモットーに、大正期に日本を代表する少女雑誌に成長した『少女の友』。昭和七年、その歴史に大きな足跡を残すひとりの画家がデビューしました。ファッション・デザイナーや人形作家として活動していた十九歳の中原淳一です。竹久夢二に憧れていた淳一は、絵の世界で生きることを夢見ていました。その絵を見た主筆（編集長）・内山基（もとい）は、すぐさま淳一に同誌専属を申し出たといいます。



お人形作りの付録が人気に

人形作家でもある淳一の本格的な教本「お人形帳」（昭和9年9月号付録）



「四月の花束―薔薇」（昭和9年4月号口絵）

『少女の友』の看板作家に

昭和10〜14年

「花言葉枝折」（昭和8年10月号付録）





可憐な付録を次々考案

「フラワーゲーム」（昭和13年1月号付録）

昭和十年一月号より、淳一は雑誌の顔である表紙を担当することになりました。挿絵デビューからわずか二年半後ですから、異例の大抜擢です。いかに淳一の人気・実力が抜きん出ていたかがわかります。

淳一は挿絵や口絵を描くだけでなく、愛らしさと創意工夫に溢れた付録を考案するなど、編集会議にも参加して『少女の友』ブレーンとして活躍しました。優美で洗練された淳一カラーに染まった『少女の友』は、都会の女学生たちに熱烈に支持され黄金時代を迎えました。



昭和10年1月から15年6月まで66冊を描いた



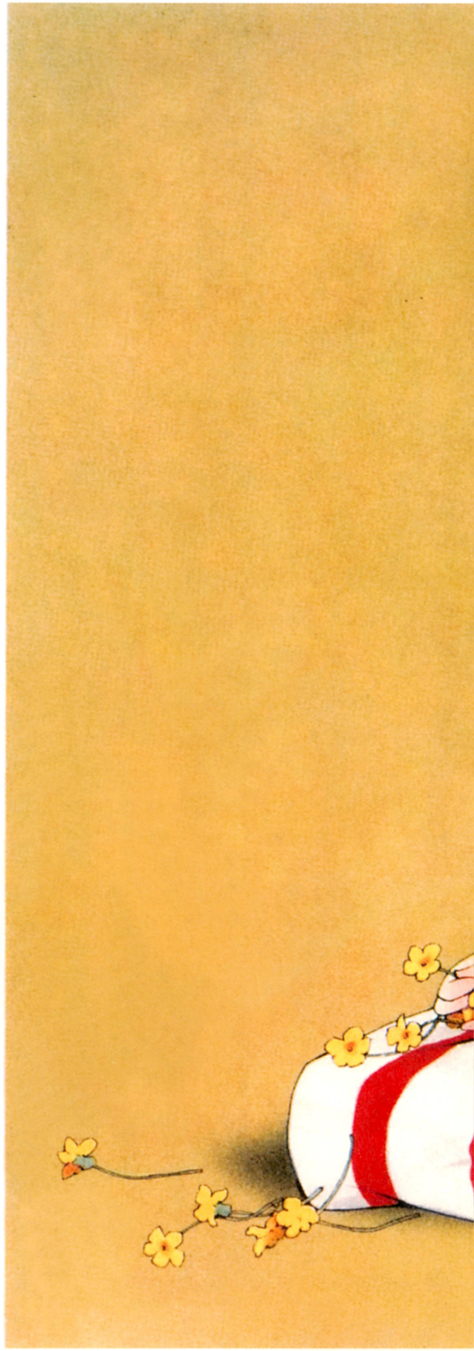
「乙女の港」が人気を博す
川端康成による小説「乙女の港」は、淳一の挿絵もあいまって一大センセーションを巻き起こした（昭和12年6月号～13年3月号連載）



「黄なる花に寄せる憶ひ出」（昭和14年5月号口絵）

黄なる花に
寄せる憶ひ出

中原淳一画



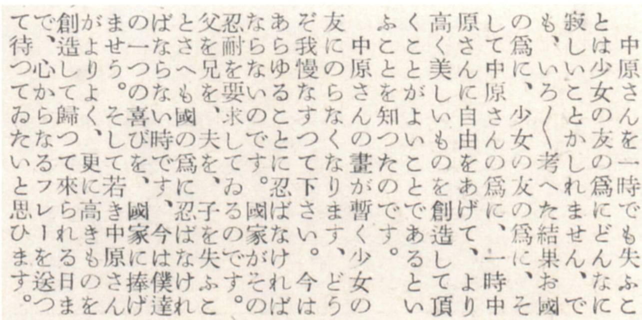
当局の圧力により降板

昭和15年

大輪の花を咲かせた『少女の友』にも戦争の影が忍び寄ってきました。好評を博した淳一の「女学生服装帖」は昭和十五年五月号で終了。そして翌六月号を最後に、淳一は『少女の友』を去ることになりました。淳一の描く絵が時局に合わないと主張する軍部の圧力でした。突然の降板劇に読者たちはショックを受け、『少女の友』は七千余の読者を失ったといいます。



淳一のよき理解者だった主筆・内山基



中原さんを一時でも失ふことは少女の友の爲にどんなに寂しいことかしれません、でも、いろ／＼考へた結果お國の爲に、少女の友の爲に、そして中原さんの爲に、一時中原さんに自由をあげて、より高く美しいものを創造して頂くととがよいことであるといふことを知つたのです。

中原さんの畫が暫く少女の友にのらなくなります、どうぞ我慢なすつて下さい。今はあらゆることに忍ばなければならないのです。國家がそれ忍耐を要求してゐるのです。父を兄を、夫を、子を失ふとさへも國の爲に忍ばなければならない時です、今は僕達の一つの喜びを、國家に捧げませう。そして若き中原さんがよりよく、更に高きものを創造して歸つて來られる日まで、心からなるフレーを送つて待つてゐたいと思ひます。

内山主筆の苦渋の思い（昭和15年6月号）
スター画家・中原淳一を失うことは『少女の友』の命運に関わる大打撃である。編集部は、軍部からの度重なる干渉から必死に淳一を守り続けたが、〈廃刊〉をちらつかされては、この理不尽な要求に屈するしかなかった。降板の翌月、主筆・内山基は、異例のボリュームで中原降板について思いを綴った



「女学生服装帖」
最終回（昭和15年5月号）





淳一最後の表紙画「憩ひ」。夢見るような少女を描いたこれまでとは異なり、
どこか意思を感じさせる瞳（昭和15年6月号表紙原画　個人蔵）

エッセイ

杏（モデル・女優）が選ぶ、中原淳一の『少女の友』表紙画ベスト3

1 昭和15年1月号
「お客さま」



2 昭和15年5月号
「セルのころ」



3 昭和13年11月号
「羽織」



いまでも着てみたい和装コーディネート

選んだ表紙は、どれも自分で着てみたい！と思ったものばかり。柄に柄を重ねやすいのは、着物ならではだと思う。わたしは背が高いから、柄も大柄のものが好き。和装の女性たちに羽織との組み合わせが多いのも気になる。「3」は大胆な柄同士の組み合わせが楽しそう。シンプルだけど今はなかなか無さそうなデザインが「2」の着物。縦じまだから、可愛くも格好良くも着られそう。半襟や帯を暗めの色彩にして、モードに着てみたい。いちばん気に入った「1」は、大きすぎるくらい大きい梅の柄に、どこか欧風を匂わせる帯。袖から覗く襦袢の柄の組み合わせ。華やかなのに、落ち着きもあって、少女性もある。様々なポイントにお洒落ごころをくすぐられるコーディネート。

＊杏さんのエッセイは294ページにも掲載しています

第4章

付録「スタイルブック」

『少女の友』の特徴のひとつが、小さくとも可憐で豪華な付録でした。
淳一は凝りに凝った付録を数多く企画しますが、
定番人気だったのが「スタイルブック」です。
カラーのスタイル画1点1点に、
作り方や着るシチュエーションのアドバイスがついた、
淳一ファッションの原点ともいえる構成となっています。

秋の七草スタイルブック

昭和10年 9月号付録（21×12・7センチ）

秋の七草である女郎花・尾花・桔梗・撫子・藤袴・萩・葛の花をテーマに七つの秋服が提案されています。秋をうたった名詩も添えられ、ロマンチックな一冊になっています。



はじめてのスタイルブック
カラー図版はすべて一枚絵になっており、本体に軽くのり付けされている。これは外国のファッション・ブックに多く見られるスタイル

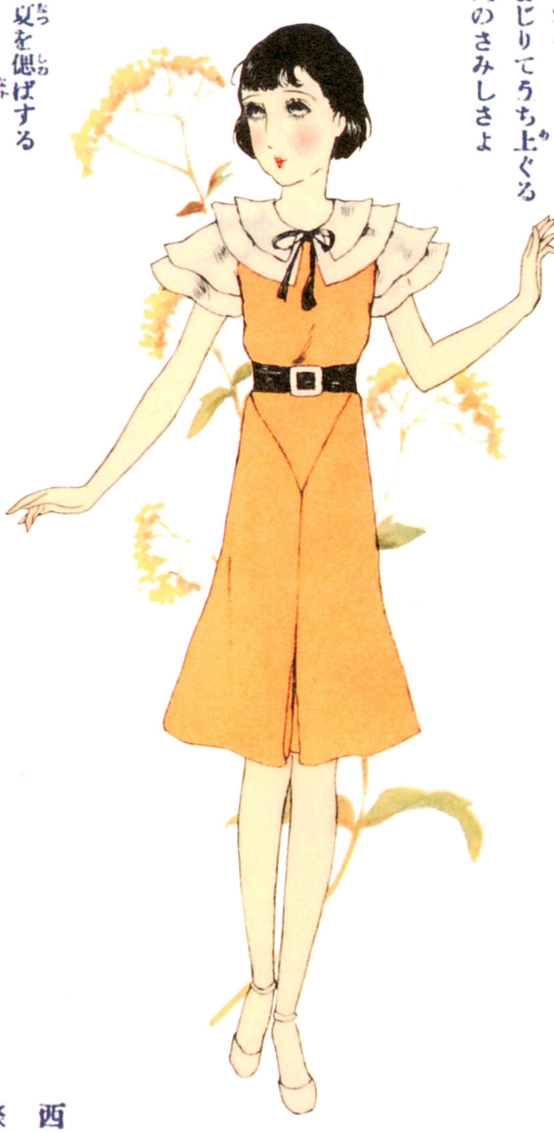


左／佐藤春夫詩「秋くさ」が巻頭を飾る
右／西條八十詩「のこり花火」「芒の唄」から想起したスタイル「女郎花」「尾花＝すすき」の解説

のこり花火

秋の花火のさびしさよ
晴れたる空のまひるどき
子等にまじりてうち上ぐる
殘り花火のさみしさよ

過ぎたる夏を偲ばする
去りたるひとを嘆かする
秋の花火のさみしさよ



西條八十


なでしこ
君を見ぬ日の
撫子は
なぜか窶れし
心地する。
河邊の風に
揺れながら
うすくれなゐに
微笑めど。
西條八十

秋

君が瞳はつぶらにて
君が心は知りがたし
君とはなれて唯ひとり
月夜の海に石を投ぐ



佐藤春夫

芒

芒の中に
見いでしは
丹塗の小櫛
きみが髪
芒の中に
たづねしは

古く悲しき
昨日の唄
芒をいでて
仰ぎみる
濃青のみ空
白き雲



西條八十

秋

けふつくづくと眺むれば
悲しみの色口にあり
たれもつらくはあたらぬを
なぜに心の悲める



秋風わたる青木立
葉なみふるひて地にしきぬ
きみが心のわかき夢
秋の葉となり落ちにけむ

オイゲン・クロアサン

上田敏譯

スタイルブック

昭和11年　9月号付録（18・8×8・5センチ）

「女学生服装帖」連載に先立つ企画。淳一と南由紀子のコンビはここから始まりました。折り本状の表面に淳一のスタイル画が、裏面には南の解説が書かれています。



秋の服装帖

昭和12年　11月号付録（12×9センチ）

昭和十二年十一月号の「女学生服装帖」は、付録としてスタイルブックの形をとった豪華版です。各アイテムの解説もあり、「ファッション辞典」ともいうべき充実した一冊となっています。



連載数回分の充実度

手のひらサイズの本だが、アイテム別アドバイスが78ページにわたりぎっしり

少女の友 ファッションブック

昭和12年 8月号付録（21×13・2センチ）

大好評を博したスタイルブック。「わたしは○○を作りました」との喜びの声が、数多く編集部に寄せられました。夏休みを利用して洋裁にチャレンジした読者が多かったようです。





小さな6つ折本
夏休みを私服で過ごす少女のために、四種のスポーツドレスと三種の訪問着を提案。「舗道」は直角に交差した縞目から発想した

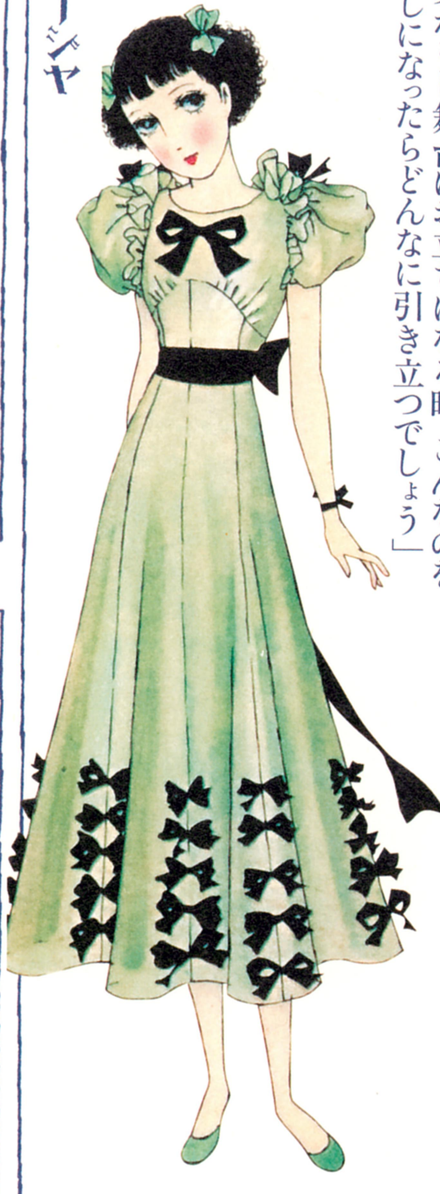


夏服が勢ぞろい
淳一好みのコントラストの効いた少女服10点を掲載



フリージヤ

「貴女がもし舞台にお立ちになる時、こんなのをお召しになったらどんなに引き立つでしょう」



バラ

「プリントのオーガンディーが素敵です」



ナスターシヤム

「七分コートを使ったスマートなアンサンブル」



百合

「汽車に乗って旅行にお出かけになったりする時に」



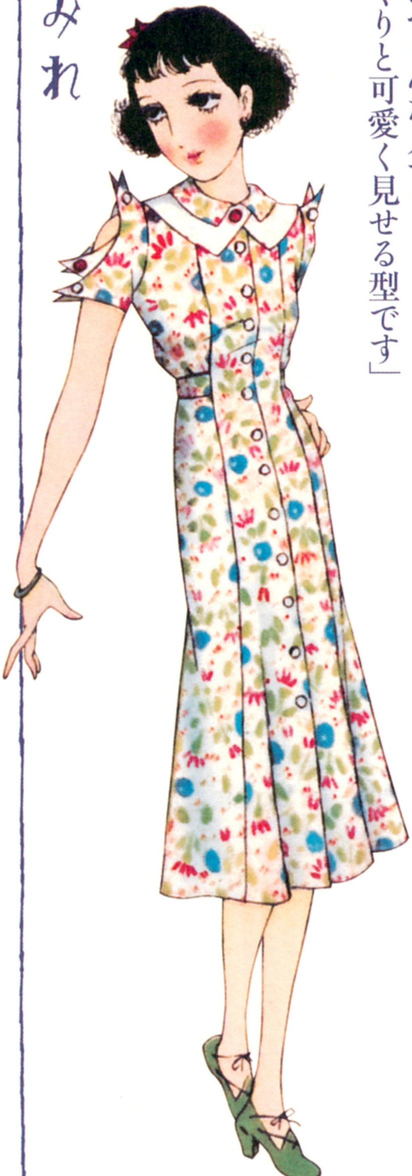
シクラメン

「十七世紀の頃の王子さまの服装にヒントをえたものです」



すみれ

「胸のへこんだ人でも、ふっくりと可愛く見せる型です」



「少女の友ファッションブック」より

スタイルブックSUMMER

昭和13年　7月号付録（18・8×13・5センチ）

八月号の予定が「夏休みに間に合わない」との声に押され、急遽七月号に前倒しされた付録。淳一は大変だったようですが、夏服のお手本としてスタイルブックは読者から熱望されていました。





淳一最後のスタイルブック
上／赤いリボンで綴じられている。解説は南由紀子。巻末にはファッション用語解説も
下／「波」「海」「雲」など夏の風物にちなんだ8つのスタイルが提案されている

Back Style

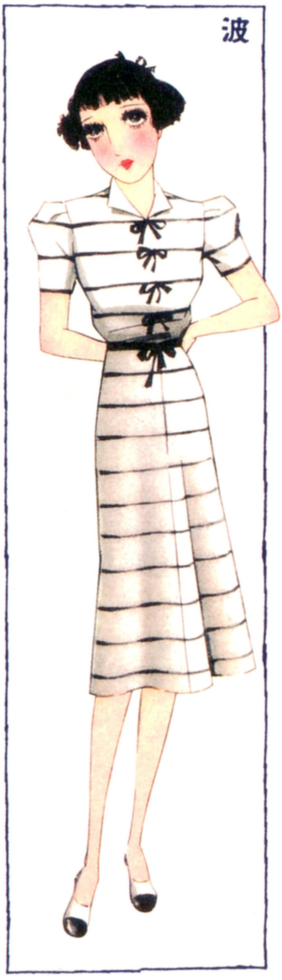




「こんなデザインの散歩着は
いかがですか」

Back Style

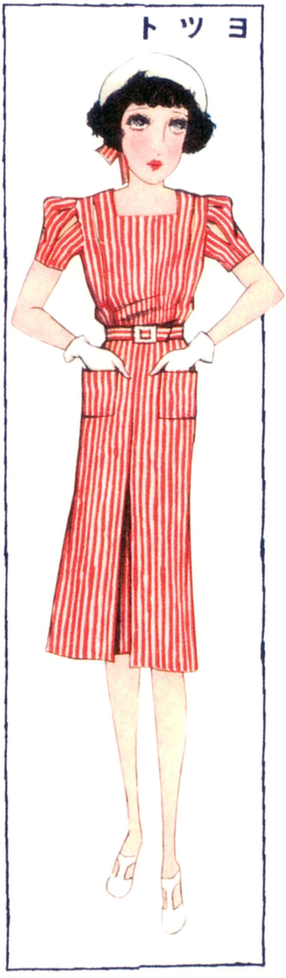




「あまり太ったお嬢さんには
向きません」

Back Style





軽快なスポーツドレス

Back Style





「夏の宵の音楽会に」

Back Style

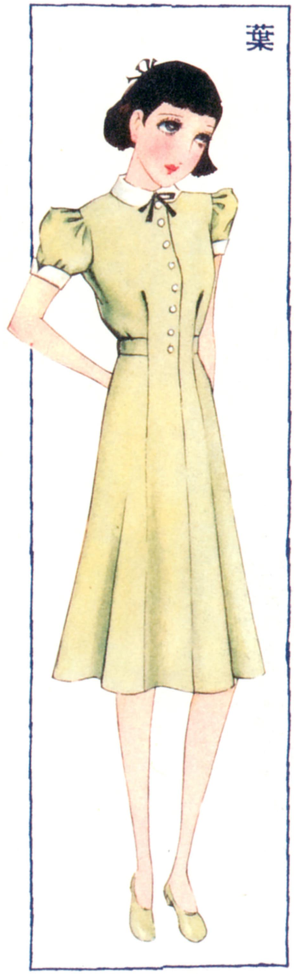




「赤い直線を飾りつけた斬新なデザイン」

Back Style





「女学生らしい清楚でおとなしい型」

第5章

楽しいアイデアと組み合わせ

昭和14（1939）年

世相

脚本の事前検閲などを定めた映画法公布（4月5日）
ノモンハン事件勃発（5月11日）
葦原邦子、盛大に引退披露公演（6月）
日本連合女子青年団、女子の「徴兵検査」実施へ（8月）
ドイツ、ポーランド進撃、第二次世界大戦勃発（9月1日）
白米使用禁止（11月25日）
ネオン使用禁止（12月18日）
新聞・雑誌整理統合の国策により、この年５００紙誌以上廃刊
『少女の友』は昭和17年に『少女画報』などを吸収

この年の『少女の友』

◉**定価**　50銭、３０４ページ
◉**表紙**　中原淳一、松本かつぢ（春の増刊号、夏の増刊号）
◉**おもな連載**
吉屋信子「乙女手帖」（4月号〜昭和15年4月号）
川端康成「美しい旅」（7月号〜昭和16年3月号）
村岡花子「友情論」（10月号〜昭和17年7月号）
◉**おもな執筆者**
芹澤光治良、西条八十、山本周五郎、宮本百合子、初山滋、松本盛昌
◉**できごと**
10月に「友ちゃん会」を仙台と東京で開催

解説
昭和14（1939）年の「女学生服装帖」

内田静枝

3月号から南由紀子の名は消え、淳一単独の連載になります。これには南が内山主筆と結婚し『少女の友』編集部を退いた事情があるようですが、それと同時に、淳一自身が自分の才能に目覚め、自信をつけたのだと思われます。自らの美学・哲学を読者に語り、リードする。その経験の積み重ねと手応えが、淳一を単なる挿絵画家からアーティストへと変貌させたのでしょう。

この年の「女学生服装帖」には、アイデアマンの淳一らしいさまざまな試みがなされています。街行く少女の服装を辛口批評した7月号、着回し術を提案した9月号など、現在のファッション誌の定番企画を既に手がけていたことに驚かされます。前年には読者モデルや女優を使っての企画もありました。

しかし、『少女の友』の名物連載として好調だった「女学生服装帖」にも、戦争の影が忍び寄ります。

8月号は巻頭カラーの華やかな回ですが、本来ならば付録のスタイルブックとしたかった企画でしょう。国の命令で雑誌に使える紙が制限され、このころから毎月ついていた付録がつかなくなっていました。

また、10月号はドイツのヒットラーユーゲントの少女服を紹介しています。これは本誌に掲載された座談会「女学生の風俗を語る」を受けたものです。この座談会では「国民精神総動員中央連盟」主事らによって、女学生の断髪禁止論や、全国の女学校の制服を統一し常時それを着用すべしといった論が展開され、識者たちのヒステリックな様子と、孤立無援ともいえる淳一の立場が浮き彫りとなっています。

しかし淳一は、時局を意識することと、身だしなみを整えることは相反しないとの持論を貫きます。1枚の布で楽しめるネッカチーフのバリエーションの紹介（4月号）など、手近なもので生活を楽しむアイデアを読者に伝え続けました。

お手数ですが、ご意見をお聞かせください。

この本のタイトル		
お住まいの都道府県	お求めの書店	男・女 歳
ご職業 会社員 会社役員 自家営業 公務員 農林漁業 医師 教員 マスコミ 主婦 自由業（ ） アルバイト 学生 その他（ ）		
本書の出版をどこでお知りになりましたか? ①新聞広告（新聞名 ）②書店で ③書評で ④人にすすめられて ⑤小社の出版物 ⑥小社ホームページ ⑦小社以外のホームページ		
読みたい筆者名やテーマ、最近読んでおもしろかった本をお教えください。		
本書についてのご感想、ご意見（内容・装丁などどんなことでも結構です）をお書きください。 どうもありがとうございました		

郵便はがき

お手数でも
郵便切手
をお貼り
ください

104-8233

東京都中央区銀座一丁目3−9

実業之日本社

「愛読者係」行

ご住所 〒
お名前
メールアドレス

ご記入いただきました個人情報は、所定の目的以外に使用することはありません。

女学生服装帖

中原淳一

昭和14年1月号　小説の主人公がお正月に着る晴れ着

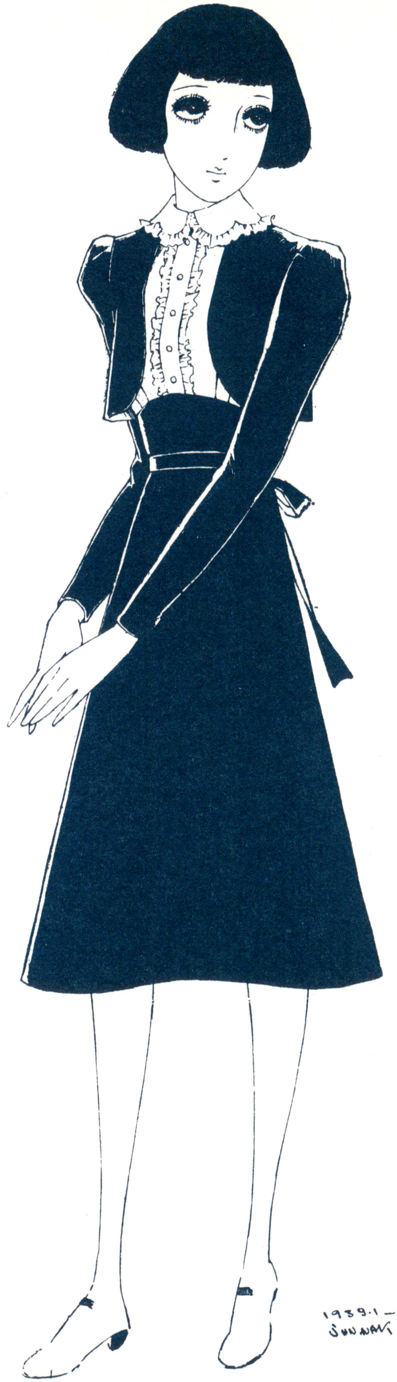
今月はお正月号ですから服装帖も、賑やかな、見て楽しむものという意味で、『少女の友』の小説中に出てくる皆様におなじみの少女たちに、お正月の晴着を着せてみました。貴女（あなた）は、このうちのどの少女と似た形でしょう。そして、どの人の服装が似合いそうですか？　晴着といっても、ふだん、和服ばかり着ている女学生が、お正月を機会に、お友達を訪問したり、ちょっとした平常の外出着程度の服を作る、そんな広い意味で選んだスタイルです。

洋服でも、和服でも、どうぞそのつもりでごらんになって、ここに示された趣味を貴女の服装のご参考になさって下さい。

「花日記」

なほみ

美しい光沢をもった黒地のベルベット（ビロード）の



ドレス、胸とカラーに純白のサテン（繻子（しゅす））かクレープデシンをあしらえば、少女服としては相当正式の盛装になりましょう。

髪にもこてなどあてず、真直にとかしたオカッパの似合うなほみの理智的な美しさを生かして、お正月の晴着にも黒と白のはっきりしたコントラストの服装を選びました。和服の常識でいえば、娘さんの晴着に、黒と白の色彩ではあまり淋し過ぎるように感じますが、洋装では、黒と白の取り合せは、殊にそれが光った布地（きれじ）で仕立てられた服であれば、ある意味で最も華やかな強い表情をもった服装ということができます。ただ、ぱっとした多彩な華やかさでなく、引きしまった強さ、聡明な美しさを感じさせます。そんな意味でなほみにふさわしいと思いました。

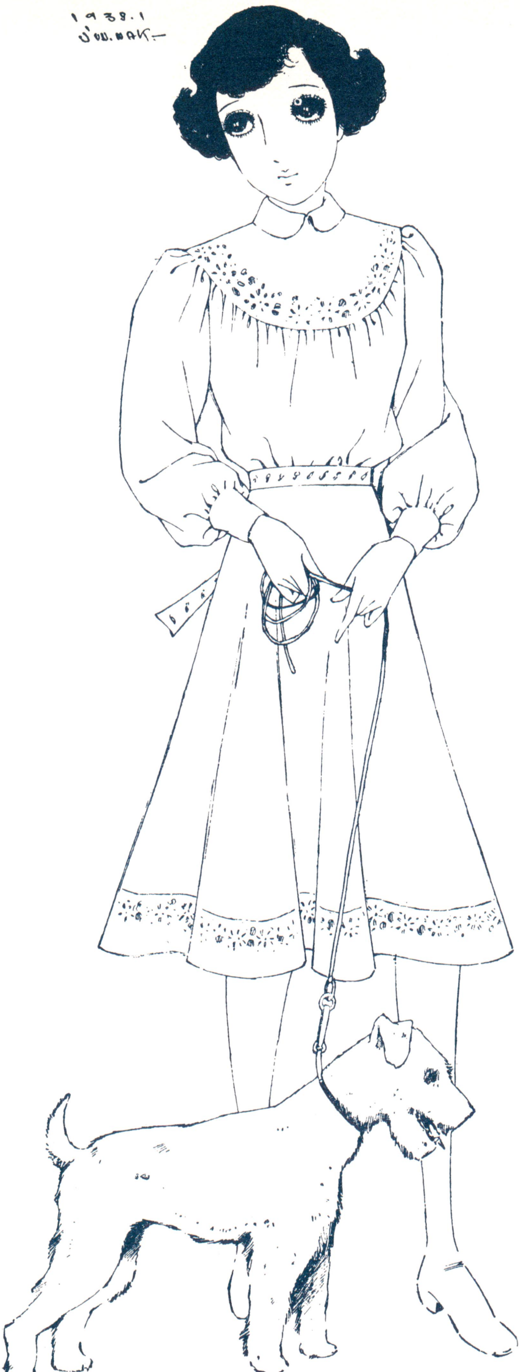
生地はベルベットよりくだけた感じにすれば、光沢（つや）のある黒い毛織生地なら何でもよろしいでしょう。ビロー

ドで仕立てるなら、上に白絹のブラウス様の胴を接(は)いだワンピースの上から、別に作ったボレロを羽織れば正式の服装になりますし、また略式の毛織物なら、暖かいために、胸、カラーにも見えるところだけ薄地のウールを接ぎ、ボレロふうの上胴(うわどう)をその上に取りつけて、一枚の服に仕立てれば簡単です。

カラーは、外側に白いレースか、薄い布のまわりに、赤い糸でピコミシンをかけた飾りをあしらった二重襟で、胸のボタンの両側にも同じ装飾を施して下さい。少女らしい可愛らしい感じを添えることができます。

外出には、白い清楚な手袋がこの服装にいちばん調和します。




1938.1

清子

勝気な性格のなほみとは反対にロマンチックな美しい少女の清子(きよこ)にはローズ色のこんなワンピースが似合いそうです。

濃いローズに紺の線を配すれば、清子らしいどこかエキゾチックな感じをただよわせ、また、紺の代りに黒の線を使えば、ずっと近代的な強い感じの配色になりましょう。黒の線を使えば土台は何色でも引立ちます。自分に似合う色の生地を選んでお仕立て下さい。

布地は薄い毛織で、襟とスカートの裾と、そしてベルトの上に配した線は、巾の狭い繻子リボンの両耳際をミシンで縫いつけて飾ったもの。

スタイルは、胸のあたりを相当ゆたかにして、細腰で思いきりつまり、下はたっぷりしたサーキュラースカートが三角型に拡がっている型です。

冬ですから、襟あきはできるだけ小さく四角にあけ、この角型の襟あきの釣合い上、肩を相当大きく張ります。看護婦さんの服のように肩から上にピンと立つ袖付は流行おくれですが、この服はこのごろ見かけられる自然な袖付よりは、やや派手に大きくタックをとってふくらまし、手首の方へゆくに従ってだんだんつぼまる形に裁ってあります。清子のようなおしゃれな少女にはこの気の利いた形が充分着こなせましょうが、誰にでも向くためには肩をこれほど派手に拡げず、袖も先へいってつめない、ふつうの形の袖に仕立てれば無難でしょう。

桃子

年からいえば、なほみや清子と同い歳の桃子(ももこ)ですが、いちばん小さな少女らしい、子供らしさが残っています。そんな可愛らしい感じの少女に、ふさわしい型として、賑やかなお正月着をデザインしました。この服は、制服のほかに一着だけ作るような少女には向かない型です。お金持の桃子のように、たくさんいろんな種類の洋服をもっている人が、お正月の華やかな着物として作るのにふさわしく、お室(へや)の中のドレスとして引立ちますが、オーバーを脱ぐ頃になって、これだけを着て街を歩くには、少し、ドレッシー過ぎる——柔らかい装飾的な感じ

がしすぎる服ですから。

胸の襞がつっぱらずに出るような、やや薄手の毛織を選びます。刺繍を効果的に生かすために、霜降りや格子などは避けて無地の生地を使いますがそれも、全体を貴女の似合うひと色にして、刺繍の色だけ変えれば、いちばん無難な配色。また、地色を濃い無地でいってヨークと、ベルトと、裾の刺繍する布だけに白、または地色と同系統の薄い色を配して、刺繍を反対色で施して引立てるのも誰にでも向く感じです。くすんだグリーンの地に、薄茶をおびたオレンジ色の配合など、桃子の洋服らしい気の利いた感じです。誰にでも似合うというわけにいきませんが、こういう濃い色ふた色の配色もこれを着こなせる少女には、特殊の雰囲気を出す、味のある服ということができましょう。

刺繍はフランス刺繍糸でも毛糸でも、生地によくマッチした感じの糸を選んで施して下さい。ヨークのまわりと裾のまわりはほぼ同じ大きさの模様で、巾の細いベルトの上には、同じ感じの模様を適当に配して統一をとればよいでしょう。ベルトは小さく結んであります。

襟元に大きなヨークがついている関係もあって、ウエストラインはかなり下ったところにあります。ウエストラインのやや下っているのは今の流行の傾向でもありますから、ただウエスト（胴）の丈が長いだけでなく、胸全体をたっぷりふくらんだ感じに仕立てればかえって形よく見えます。胸のふくらみをベルトの下で全部ギャザーに寄せて、スカートの上は、襞を寄せずぴったりと細腰の形につけます。

袖も肩で襞をとり、長いカフスをつけて袖口で絞り、中間がややダブダブした型、全体にゆとりのある柔らかい優雅な感じを生かした服です。

綾子

体の弱い、足の不自由な綾子には、洋服より和服姿のほうがふさわしく思えます。

色の白い、眉のとくべつ濃い、腺病質な顔立の少女のように想像できますから、その淋しさを消す意味で、柔らかい綺麗な花模様の着物など、どうでしょう。品を失わない程度にできるだけ、派手な色を使って、パッと華やかな雰囲気でこの淋しい少女を包みたいような気持が

します。
大柄な椿の模様などの羽織に、着物は、羽織より柔らかい色の一面の細かい友禅模様などがいいでしょう。
女学校一年生ですから、お正月でも、家にいる時は、三尺を締めていたほうがあどけなくて可愛らしいと思います。三尺の色は、いちばん無難で着物を引立てる色として黄色、その他、濃いローズ、渋いグリーン、オレンジがかった茶色など。ひと色の無地か、またはせいぜいふた色くらいの全体の絞りが少女らしくてよいでしょう。柄ものは、どの着物にも合うというわけにはゆきません



昭和14年1月号　小説の主人公がお正月に着る晴れ着



から。それから、先にペラペラ房のついた三尺は、少し安っぽい感じがして、あまりいい趣味ではありません。

まだ十三、四ですから、腰揚げ[※1]のある着物です。胸も思い切り合せて、子供らしく、キッチリ重ねた襟元からのぞく首の細さと、肩揚げの可憐さ……それが、こうした幼い弱々しいタイプの少女を殊に美しく見せるものです。

「双葉と美鳥」

双葉

静かで、利口で長女らしい落着きをもった双葉（ふたば）には、銘仙の矢絣の感じがいちばんぴったりしています。

お正月ですから、お召の矢絣にして、羽織は、羽二重（はぶたえ）※2の、大きな麻の葉などの絞りを選びましょう。こういう昔からある模様のほうが、少女らしいしっとりした雰囲気をあらわすことができて好ましいと思います。お姉さんらしい感じの女学生には誰にでもいちばんふさわしい感じの和服ですね。

こういう傾向に引きかえて今、流行りの、黄だの紫だの、赤だの、グリーンだの、黒だの、褐色だの、ベタベタとキャンバスに絵具をなすりつけたような雑色の派手な色彩の着物は、ともすれば下品になりがちで少女時代特有の抒情的な美しさをあらわすのには適しません。やはり一つの、まとまった構図を持った模様の反物のほうが、目新しくはなくても、いつまでも飽きない味を持っています。

双葉の着ている矢絣も、このごろ時々見かけるような、三色も四色も色を使ったものではなくて紫地に白のような、あの静かな深みのある感じを基調とした配合が、望ましいと思います。そして、清楚な白襟で、衣紋を抜かず胸をできるだけキッチリ合せた着付が聡明な少女の双葉にふさわしい感じです。帯も娘さんですからエンジや赤系統の色彩になりますが、できるだけ、上品な感じのものを選び、帯揚もいや味にならない程度に、ほんの少しのぞかせましょう。羽織を着ますから、背中があまりふくらまないように、帯は低く結んで後姿をすっきり見せる注意が大切です。少女が襟をうんとぬいで、同じく抜き衣紋に重ねた羽織の下に背中に小山のような帯を背負っている姿は、どう見ても品の悪い、大人子供のような感じを抱かせるものですから、お正月だからといってことさらそんな着方をなさらないように注意して下さい。

美鳥

毛織の格子縞のスポーティなワンピース、冬でなければ、銘仙の細かい縞などで仕立てるのも面白いでしょう。胴の接ぎ布（はぎれ）と両胸のポケットを斜め布に使って変化をつけました。白い小さいカラーが全体を引締めています。切り替えが多いので、あまり大きな格子縞は避けないと、体の小さい少女にはゴタゴタしすぎてスッキリした感じが出ません。

肩の張りは自然で、袖のふくらみもごく少なく、あっ

さりした形に。スカートには、制服のスカートぐらいの間隔の、片折りの襞をキッチリつけます。バンドは共生地より革かエナメルの硬い感じの物のほうが引立ちましょう。巾はそう太くないほうがスマートです。

美鳥の性格の、明るさと線のはっきりした強さをあらわした服装です。それに、これなら特にお正月という感じがしないだけに、女学生のふだんの外出着として、いつでも使えて経済的な洋服といえましょう。美鳥のお家くらいの堅実な中流家庭の少女には、お正月だからといってそう派手な洋服を拵えるより、こういうごく女学生らしい使い途の広い服装を新調することがふさわしいでしょう。

もし、お姉様の双葉が洋服を着れば淡い花模様か、柔らかい感じの無地のドレスが似合いそうな気がしますね。



※1　腰揚げ――着物の丈を体に合わせて調節するため、長い分を腰の位置で縫い上げすること。また、その部分。主に子どもの着物で行われる。

※2　羽二重――日本の代表的な絹織物。経緯とも撚りの少ない生糸を使った平織物で、上品な光沢と羽根のように柔らかい風合いが特徴。筬（おさ＝織機において経糸を決められた密度に織るための櫛状の用具）一羽に、経糸二本を通して製織したことから、この名称が生まれたといわれる。

コラム

小説「花日記」と「双葉と美鳥」

内田静枝

いずれも当時流行していた、上級生と下級生との親密な交際＝〈エス〉がテーマの連載小説です。当時の女学生生活をリアルに、かつ美しく描き、人気を博しました。

川端康成作「花日記」（昭和13年4月号～14年3月号）は、優等生の集まる女学校を舞台に、勝ち気な2年生・なほみが、足の不自由な新入生・綾子を〈妹〉として愛おしむ物語です。

一方、田郷虎雄作「双葉と美鳥」（昭和13年1月号～12月号）は、同じ女学校に通う本物の姉妹の物語ですが、互いの〈お相手〉の存在が姉妹の関係に微妙な影を落とします。

エス同士、同い年の親友、姉妹。登場人物の人間関係とキャラクター設定を、淳一は服装で見事に描き分けています。

女学生服装帖

中原淳一・南由紀子

昭和14年2月号　ショールの巻き方



1 和服にコートは野暮。ショールをかけた姿のほうが若々しく可愛らしい

和服の防寒にはショールを

南「寒い冬の外出に、なくてはならぬショールについて、今月はお話をしていただきたいと存じます」

中原「まず和服の場合を考えてみますと、少女の冬の服装には、ショールは唯一の防寒具ですね。なぜなら、十五、六の少女が大人のように防寒コートを着ることはほとんどないようですし——僕達の子供時分には、姉なぞ

がヒフ[※1]を着ていたのを覚えていますが、今では少女にはあまり見かけませんね」

南「子供の服装に和服が主だった時分と違って今では、女学生はふだんはほとんど洋服生活をしていますから、外出といっても特別にコートなどを用意するのは贅沢なことになりますのね」

中原「それに、形の上からいっても、コートは多く、野暮な感じになりがちですね。羽織の上によく似合うショールをかけた姿のほうが、ずっと若々しくて少女らしい可愛い感じです。

今は、お正月ですから、華やかなよそゆきを着て外出することもありましょう、そんな場合には、ショールも服装の一部として、大事な装飾的な役目をするものですから、正式にいえば、毛糸編みのような、実用的な防寒ショールより、ビロードか何かのしなやかなものをかけたほうが、着物の盛装に調和して美しく見えます、第一図はそんなつもりで描いてみました」

スポーティな掛け方

南「一図に比べると、終りの四図は同じ和服のショールでもずっとスポーティな感じのかけ方ですのね。洋装趣味をとり入れた……これが、いわゆる女学生型でしょうが――もっとも、実際は制服がきまっていて、和服の通学を許されない女学校が多いようですから、結局これは専門学校や、洋裁学校などへ通う、ずっと大きい少女の服装ということになるかも知れませんのね、袴をやや短かめにきりっとはいて白襟の襟元をキッチリ合せて着た形には、こういう巾の狭い肩掛けが調和しますのね」

中原「柄の選定にもはっきりした無地とか、格子などを選ぶことが大切で、掛け方は、ふつうに前へ垂らせばおとなしくて無難だし、少し、近代的な感じの少女は絵のように後ろへはねて掛ければ、颯爽(さっそう)としたスマートな感じになりましょう。いずれにしても、あっさりした、スポーティな感じを出すことが必要で、そういう感覚のない少女が、やたらに四図のような姿を真似ると、かえっておかしく見える場合がありますね」

南「それから、この感じは、こういう袴をつけた通学姿に限らず、少女がちょっとした銘仙程度のふだん着で外出する時には、いつでも応用されるわけですのね。あまり、巾の広い肩掛けでは、大人っぽく見えて、せっかくの少女らしさを失ってしまいますから……」

中原「和服のショールで、もう一つ、僕がいつも気になっているのは、春先などによく、女の人が、うすいベラベラのジョーゼットふう[※2]のものをかけていますね。ことに、厚化粧で、抜き衣紋をしたような婦人がしているのは、僕はとてもいやな趣味だと思います。襟元には、あんなうすものなどまとわないほうが、ずっとスッキリして、知的に見えますし――、少なくとも、少女の和服には、あの真似をとり入れないでほしいと思いますね。なまじっかな装飾に使わないで、和服の襟巻は、防寒用の物だけに止めたいものです」

制服には白を

南「では次に洋服の時の襟巻について、どんな注意が必要でしょう……そうそう、ちょっと思いつきましたが、ふつう外套の下にする襟巻は、「マフラー」と呼んでいるようですが、これは正しく区別すれば、「スカーフ」と呼ぶべきで、マフラーは、男子の洋服に用いられる襟巻をいいますのね。婦人用の洋装に使われる小さな襟巻は、すべてスカーフで、和服用の大きな肩掛けはスカーフとはいわず、ショールが正しいわけです。同じようなことですが、襟巻といわず、わざわざ英語で呼ぶくらいなら、スカーフとマフラーを間違わないで使い分けて下さったほうがよいと思います」

中原「洋服の場合、女学生にとって、第一に考えられるのは、制服の、紺のオーバーの下にするスカーフでしょう。しかし、これは、本来からいえば、しないほうがさっぱりしていいくらいですね。寒ければ襟を立てればいいわけですし……」

南「手入れのあまり行届かない、埃っぽい紺のオーバーに、赤や青の花模様のスカーフなどをのぞかせるのは、かえって、下品な、野暮くさい感じになりますのね。バスの車掌さんなどに、時々そんな例を見かけますが……」

中原「防寒のために、どうしても襟巻が必要とあれば汚

れやすいかも知れませんが、制服のオーバーの下には僕は白がいちばんいいと思います。そして、地質もベラベラしない、しっかりした地のものを選ぶことです」

モダーンな配色とは

南「今度は、制服でないふつうのオーバーの場合——、これならば、スカーフの使い方一つで、防寒と同時に服装にいろいろ変化をつけられますのね。少女の服装と限らず、一般にこの冬の洋装の傾向は、戦争の影響もあって、オーバー地などの服装の大部分をしめる土台色には、黒、紺、灰色、茶、ラクダ色などの、目に立たない地味な色が多く、それに、スカーフや帽子などの附属品に、パッとした強い色彩を使って、アクセントをつけることが流行っているようですが、これはたいへん、気の利いた方法だと思います。殊に、外套がきまっていない学校で、通学にも、外出にも、兼用の一枚の外套で通す少女だったら、黒や紺の、地味な外套を用意しておいて、外出の時には、たとえば赤い帽子に、赤い手袋、赤いスカーフと、はっきりした反対色をとり合せれば、非常に可愛らしくてモダーンな配色ができます」

野暮くさく見える組み合わせ

中原「一般にオーバーの地が無地なら、スカーフの選び方は、二図のように、可愛らしいプリントを配して、やさしい感じを出してもいいし、また今のように強い反対色の無地でアクセントをつけることもよく、あるいは格子のスカーフを使って変化をつけてもよく、いろいろ自由がきくわけですが、三図のような格子のオーバーとなると、顔に近いところに来るスカーフには、どうしても無地を配さないと、すっきり見えません、スカーフを選ぶ時、その点を注意することが大事です」

南「格子のオーバーに、花模様のスカーフなどというとり合せは、たしかにゴタゴタした野暮な感じが致しますね。それから、女学生がセーラーや、またワンピースにしても、とにかく、オーバーを着ない服装で、洋服の上にじかに襟巻をして歩くのをたまに見うけますが、あれも、おかしゅうございますね」

中原「襟巻はいつも外套またはハーフコートの下にす

Ⅲ 格子のオーバーには無地のスカーフを。花柄などを合せるのは野暮



Ⅱ 無地のオーバーには反対色やプリントのスカーフでアクセントをつける

るものであると覚えていて下さい。それから、もう一つ、襟に毛皮のついた外套は、襟の毛皮と、下からのぞくスカーフの調和が非常にむずかしく、どうしても野暮くさく見えがちですから、毛皮のついたオーバーは、はじめから、スカーフを用いなくてもすむように、襟のつまった型を選ぶほうがいいと思います」

どんな生地がいいか

南「最後に、今までお話いただいた襟巻の生地には、どんなものを使ったらいいか？　これもきっと読者の方がお知りになりたいだろうと思いますが、デパートなどへ参りましても、特に、少女向きの襟巻を売っているところは、どこにもございませんのね。ビロードなどの盛装用のものは、婦人用の既製品の中から、できるだけ、少女らしい明るい可愛らしい感じのものを選んで用いるより、仕方がございませんが、そのほかの四図のような和服のふだん用のショールや、また洋服用のものも、何か、少女が自分で工夫できたら……と存じますが――」

中原「毛糸の手編みの肩掛けがありますね。あれは、一



IV スポーティなスタイル。きりっとした短めの袴に、巾の狭い肩掛けが調和する

般には、野暮な古くさい感じのものとされているようですが、これもスポーティな感じに巾を狭く、配色もねばけない、モダンな色彩で作れば少女のふだん用には差支えないと思います。しかし洋服、和服を通じて、今、女学生にいちばん使われる襟巻の生地は、何といっても毛織物でしょうね」

南「ところが、その毛織の襟巻が、いま非常に高価(たこ)うございますし、殊に四図のような、自分の好みに合った格子縞のものなどを選ぼうとすれば、なかなか思うようなものは見つかりません。いっそのこと、そんな不自由な既製品でさがそうとするより、少女用のふだんのものなら、洋装店へ行ってたくさんある生地の中から、好きな

柄を、いるだけ切って貰って来て自分で襟巻に作れたら、いちばんいいのではないかと思いますが……」

中原「僕も少女にそれをすすめたいと思いますね、毛織だから、ダブル巾[※3]がそのまま襟巻の丈に使え、結局、巾だけ買えばいいわけで、それも女学生用の巾の狭い襟巻だから、ヤール十円近い生地を使ったとしてもたいしたことはなく、既製品の半分以下ですむでしょう。この布の両端の耳を切って、適宜な巾だけ、縦糸を抜いて、横糸だけを残して、縁に作れば、立派な襟巻ができ上ります」

南「ラシャ地などのものでしたら、よく切れるハサミで、両端によくそろえた切り込みを入れて図のような縁を作って用いることもできますのね」

中原「それから、必ずしも別の布を買わなくても、洋服の場合は外套の裏地とおそろいの生地のスカーフを用いたりするのもなかなか気が利いていますね」

南「どうも、いろいろとありがとうございました」

※1　ヒフ――一般に被布と表記。着物の上に羽織るコート。折り返した円衿がつき、前を深く重ね、飾り紐で留める。衿を四角く開けたものは、道行きコートともいう。袖なしのものは少女の振袖の上着として七五三向けに多く用いられる。

※2　ジョーゼットふう――ジョーゼットのような、の意。ジョーゼットはジョーゼット・クレープの略で、薄く軽い透明感のある絹や化合繊などの織物。強撚糸使いで縮緬に似た細かいしわがあり、これにより優雅なふくらみやドレープ性、ドライ感が演出される。

※3　ダブル巾――洋服地で、シングル幅（約71センチ）の2倍の幅。約142センチ。ラシャ幅ともいい、毛織物に多い。

女学生服装帖

中原淳一

昭和14年3月号　卒業後の髪型

切らずに少女らしく

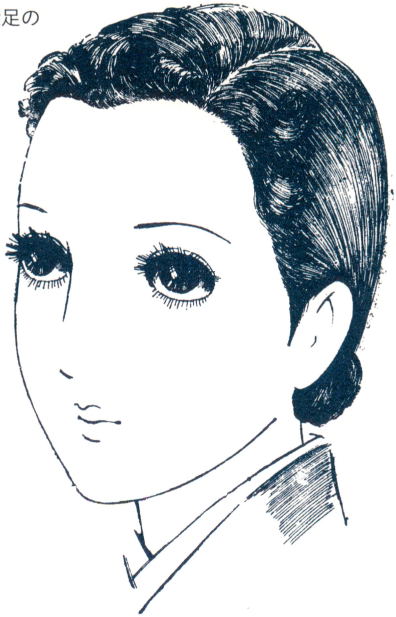
三月。また卒業の時期が来ました。

最近女学校で上級になると髪を切ってはいけない、というようなことがたいへん喧(やかま)しくなって来たようですが、それでも卒業と同時に切ってしまったり、パーマネントにしたりする方、または専門学校に行かれる方にはこの髪の悩みはありませんが、毛は長く、卒業されてもお家で切ってはいけないといわれるような方達のために今月は卒業後の髪の形を考えてみました。

ふだん着の時は今までのようにお下髪(さげ)のままでかまわないでしょうが、ちょっと結ってみようと思うと髷(まげ)ではどうしても老けてしまいます。それではまだあなた方に残されている少女らしさを失ってしまいますので、毛を切らないで少女らしい髪をご参考までにと四つほど描いてみました。

こんな髪を土台にしていろいろ考えてごらんなさい。また新しい形を発見するでしょう。

A かつて流行ったラジオ巻のような形。襟足のきれいな人に





後ろの分け口は真ん中に。襟元から無駄毛が出てると台無しです、気をつけて

A　襟元をあどけなく

ラジオがまだ珍しかった頃、ラジオ巻[※1]というのが流行りました。

これはちょっとラジオ巻のような形で、女学生のお下髪の感じも失わないものです。

まず前髪を少し切って、いくつかに分け、外側に向ってカールします。

カールした毛を上にかき上げて、自分の顔に似合うように形よく小さな黒い毛ピンでとめます。

それができましたら髪全体を、七分三分に分けて、分け口が頭の後ろの方に行くに従って、自然と真ん中になるようにし、両耳の後下でそれぞれ小さな髷を作ります。

これは後ろから見ると襟元があどけなくて可愛いでしょう。

ぜひ襟足のきれいな人に——、そして襟足のきれいな人でもなお、手入れが必要です。

襟元から無駄毛が出たりしていると台無しですよ。くれぐれも気をつけて下さい。

時々後ろに髷をつけたような頭に、前髪を少し切って、櫛の歯のように一列にならべた人を見かけますが、あの髪は似合う人はいいですが、たいていの場合綺麗に見えません。

こうした形の頭に前髪を上げることは、下げることより誰にも似合い、理智的にも見えるものです。

こてのあたっていない髪にはこのくらいのアクセントはあってもいいと思います。

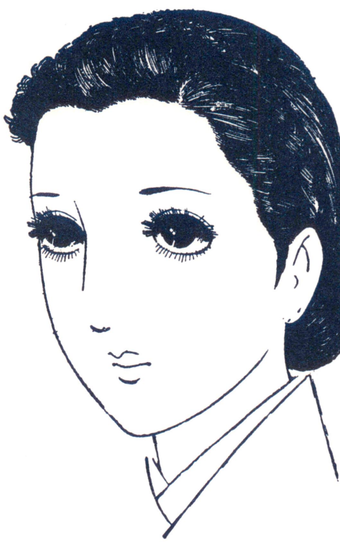
B　小さなリボンがのぞく

これは少し毛の長い人のために——、そしてぜひ和服の時に結って下さい。

まず髪の毛を、両脇の毛を少なめに、真ん中を多くとって、縦に三つに分けます。

I図のように襟足より少し下ったところで、いっぺん括り、それを二つに分けて、各々輪を作り、図のように毛先を突き合わして輪の部分を括ります。

次はII図のようにその毛を内側へグルッと巻き込んで、



B　髪の長い人のための髪型。耳の両脇からのぞいた小さなリボンが可愛い



I　中央の毛を括り、その下をふたつに分ける。毛先を突き合すようにするとできる輪の部分を括る



III　両脇の毛を中央の毛にそうようにしてピンでしっかりとめる。編んだ毛は両脇から上に持って来てぐるっとピンでとめる



II　中央の毛は内側へ巻き込んでとめる。両脇の毛を括り、リボンを結ぶ。その下は三つ編みに

ピンで襟足にしっかりとめつけます。その時括った毛が襟足の線に添うように両端を持ち上げます。

今度は両脇の毛を、真ん中の毛とだいたい同じくらいの位置で括り、そこを小さな好みのリボンで結び、あとを三つ編みにして、先端を目立たない紐で括ります。

その両脇の毛は、中央の先に纏(まと)めた毛と平行に並べて、編んだ根元を内側にねじるようにして、襟足のところが中央の毛にそって、うまく形づけられましたら、リボンの影で、しっかりピンで頭の地にとめます。他に二三本のピンで目立たぬように、毛の下側からその毛がくずれないようにとめておいて下さい。

しっかりとまりましたら、編んだ毛を両脇から上に持って来て、頭の上で毛先が目立たないように、お互いに下に隠し、きれいに行き違わさせて、ぐるっと小さいピンでとめましょう。

耳の両脇からのぞいた小さなリボンが可愛いです。

C　おとなしいお嬢さんに

これも必ず和服の時に——、

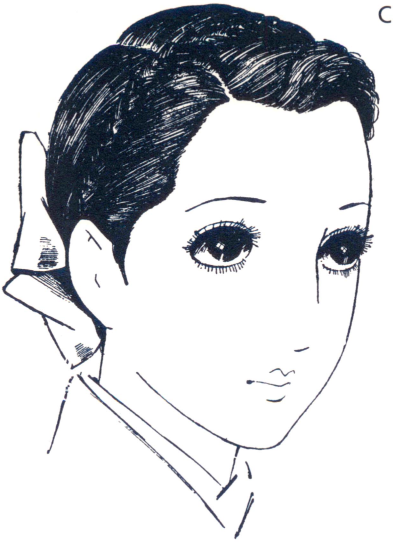
明治時代から大正の初期にかけて、若い人が束髪の後ろに大きなリボンをつけました。

その面影をしのばせたもの。

まず前を七分三分に分けて、後ろはBと同じように同じ分量で三つに分けます。次に真ん中の毛を少し根を高くとって、平らな髷を作ります。

そして両脇の毛を根元からそれぞれ三つ編みにして、真ん中の毛のまるめた下を、右の毛は左に、左の毛は右に交互させて、前にまわし、B図と同じ目立たないように組み合わせて小形の毛ピンでズーッととめます。（Ⅰ図）

それができましたら、十センチ巾くらいの着物に調和した好みのリボンを蝶結びにして、髷と三つ編の毛の交互した生え際をスッポリとかくしてしまうように、リボンをパッとひろげてⅡ図のようにあてがい、小さな虫ピンでリボンのすみずみを髪の毛にとめます。



C 明治から大正初期の若い人の面影をしのばせた髪型



I 三つ編みをぐるっとピンでとめる



II 虫ピンでリボンをつける。下から後れ毛が出ないように

リボンの下から後れ毛が出ないように、白い頸（くび）だけがスッとのびているようにして下さい。

B・C共に三つに編んだ毛は頭の前深く来ないように絵の感じで。

これはやや日本ふうな、おとなしいお嬢さん向き。静かな中にも華やかさのある髪。

D あまり毛の長くない方に

この髪は図と共に、A、Cほどに襟足を気にしません。けれどいつの場合も襟足に無駄毛や後れ毛がモヤモヤしているのはあまり感心しませんからくれぐれも気をつけて下さい。

まず七分三分に分けます。七分のほうの中から前髪を少し取り、それをずっと上にかき上げて、着物に調和したリボンを結びます。（このリボンは着物、またはその人の感じで、かなり巾広の大きなものをつけるのも、また小さなのをつけるのも自由ですが、頭全体の印象がリボンに来るので、あまり小さいものとか、目立たないも

のは不向きだと思います。大きいといってもこの絵からうけるくらい—七センチくらい—の感じのものより広くはならないように）

後ろは毛を少しとっては小さな髷のようなものを作り、ピンで頭の地にとめ、また少しとって同じようなことを繰り返し、両耳の後ろから襟足に添って半円形を描くようにいくつかの小さな髷を作ってゆきます。毛の少ない方は襟足に一列にしても、髷と髷との間をあけないように。

これはカールした頭の感じを出したつもりです。あまり毛の長くない方のために。

頭の毛の長い方は何といっても和服が無難でしょう。襟はお下髪の時より、ほんの少し脱いだほうが頭との調和がとれるでしょう。

しかし決して、決してたくさん脱がないように。

※1　ラジオ巻——三つ編みを巻いて丸くまとめ、後で低く結った髪型で、耳隠しの変形。当時耳隠しには、新型が続々登場した。そのひとつがこの髪型で、大正14（1925）年の日本初のラジオ放送開始を記念して名付けられた洋髪。

D　襟足がカールした感じの髪型。リボンが全体の印象をきめる



後ろは毛を少しずつピンでとめていく

女学生服装帖

中原淳一



Aを実際にした図。あまり深く被らないように

昭和14年4月号

ネッカチーフの巻き方

春はロマンチックに

霜の間から緑がかった黄色い芽がソッと出る頃はもう春です。

眠っていた皮膚や、成長の神様は一度に目を醒して、活動を始めます。

頬は林檎色に、身体の中に温かい力がムクムク湧いて来ます、オーバーを脱いでごらんなさい。

〝春は好きだなあ〟と思います。

で、今月は少女らしいロマンチックなネッカチーフの扱い方を考えてみましょう。

本当は冬の終りから春にかけて着るスプリングコートというのがありますが、このコートはほとんど着る期間がありませんから、少女の生活にはお洒落以外には必要ないでしょう。

春は軽い服を着て、自由に跳ねまわりましょう。

そのほうが、そうしているあなたも、あなたを見ている人も、どんなに気持のいいことでしょう。

ネッカチーフは今の流行でもあり、ロマンチックで少

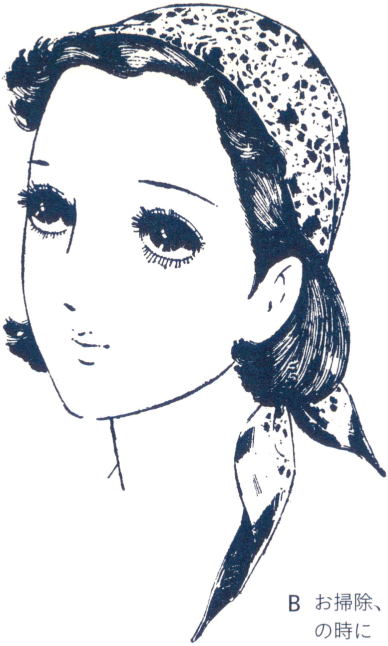
女らしく、お下髪の方にも可愛く似合うでしょう。
ちょっと小型の風呂敷くらいのネッカチーフはデパートなどでも安く売っていますが、自分の好きな柄の生地を小型の風呂敷くらいの大きさに切って周囲を三つ折にして使っても面白いです。
ご存知でしょうけど、これはどれも真四角のネッカチーフを三角に折って用います。

A 散歩やピクニックに

散歩の時、スポーツの時、ピクニックやお家で花の手入れなどする時にあなたにきっと可愛くお似合いになるでしょう。
この使い方は服とおそろいの生地で作るのも面白いでしょう。
あまり深く被らないように。



A 服とおそろいの生地で作るのも面白い



B　お掃除、お洗濯の時に

B　お掃除やお洗濯に

Aよりも少し甲斐甲斐しい形、お掃除、お洗濯、庭の手入れなどのお仕事に。

Aのほうはお家の中では不向きですが、これはお部屋の掃除などの時、埃を被らなくていいでしょう。

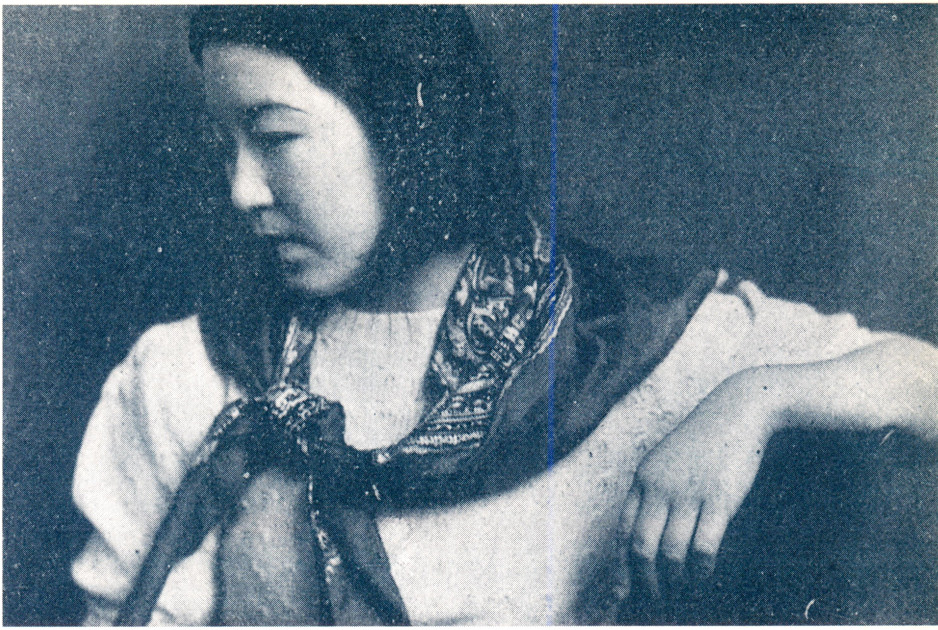
C　服の色との調和が大切

胸のあたりに、あまりゴチャゴチャしたデザインのある服には似合いません。

着あきたセーターや、ドレスに変化をつける上にも役立ちます。

服が花模様の場合は調和のいい無地のものを選ぶのが無難です。

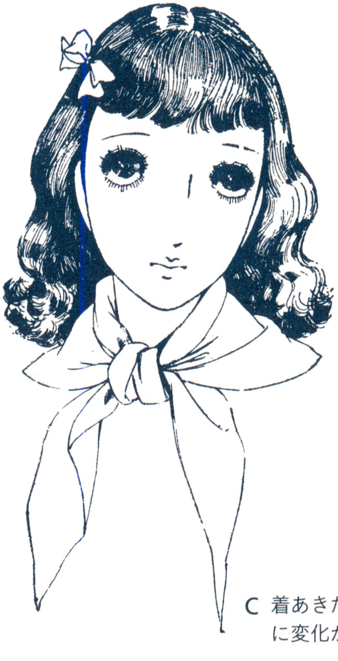
無地のネッカチーフにほんの簡単な花模様を、フランス刺繍でとばしても面白いでしょう。



Dを実際にした図。ふんわりと



D　あなたはきっと
花売娘



C　着あきたドレス
に変化がつく

D　こんな掛け方も

ベレー帽などに、こんな柔らかな掛け方もいいでしょう。

セーターの上に調和のいい色の生地を選んだら、あなたはきっと、花売娘に見えるでしょう。

少し、年の大きな方で、襟のあきすぎて、イヤだとお思いになるドレスを持っていられる方や、ワイシャツ仕立てのブラウスをお持ちの人は首じかにネッカチーフを巻いて、襟の下にのぞかせているのも変化があって面白いものです。

あなたの生活の中で、この一様のネッカチーフをいろいろに使い分けてごらんなさい。

たとえば、キャンピングの時に、

・花を摘む時はAの形
・ご馳走を作る時はBの形
・お食事の時はCの形
・ウクレレを弾いて歌う時はD形というふうに。

女学生服装帖

中原淳一

昭和14年5月号　少女らしい和服

帰宅したら着替えましょう

今日は久し振りで、和服について書いてみます。

春になって、だんだん暖かくなると羽織を脱いで、セルの着物を着るようになります。

セルの着物はくつろいだ、少女らしい美しさがあふれています。

学校から家に帰ったら、制服を脱いで、和服に着替えましょう。それは和服とは限りませんが、家に帰ったらとにかくふだんのきもの、制服でない、何かに着替えたいものです。

セーラーの上着を脱いで、セーターに着替えるだけでも結構です。そのほうが気持の上からも、いかにも家に帰った気分になれますし、はたで見ても家にいるらしい、可愛らしさが感じられますし――。

また、制服をいつまでも綺麗に着るためにもぜひそうしましょう。

無雑作にキチリと

少女の少女らしい洋服のことは後廻しにして、今月はまず和服のことを書きましょう。

少女の和服姿の美しさは高価な衣裳にあるのでは決してなく、その柄の少女らしさと、大人の着付とは違った素直な美しさにあるのです。

振袖の晴着ならばともかく、できるだけ無雑作な、それでいてキチリとしたものを感じさせましょう。

まずふだん着や散歩の程度にはぜひ三尺帯を締めましょう。三尺帯は何といってもあどけない美しさにあふれています。

少女の和服では少しも脱がない襟元に細く白い半襟がのぞいて、頸の細さと清潔さを感じさせ、肩揚げのある肩から流れた線の美しさと、広い巾の帯を締めた和服姿には見られない、ゆったりとした袖付のあたりのゆとり。

そんなところにあるんですから、どこまでもそれを生かす着方をしなければいけません。

美しく見える着方、下品に見える着方

時々見かける三尺姿で、広い帯を結ぶ時と同じように下地をすっかり拵えて、その上に三尺をひろげて固いシンを入れている人がいますが、あれでは三尺帯の美しさが全然なく、むしろちゃんと帯をしているほうがずっと美しいです。

三尺帯の場合は襟元はピッチリ深く合わせ、脇のあたりを何となく、ゆったりさせ、だらしなくならない程度に少し下めに帯を締めます。

あまり胸高に締めると、かえって下品に見えることがあるようです。

もちろん、着物の上にいきなり帯を締めたのでは着くずれがしやすいので、帯の下地として、着物につけ紐をしておくといいと聞きました。

たしかにそれは良い方法ではないかと思います。

袖の長さは元禄袖か、ずっと長い袖に。

ふだん着とか、ちょっとした散歩くらいの着物でしたら元禄袖もなかなか可愛いですね。



少女の元禄袖姿。少し
長くして円みをうんと
大きくすると可愛い



脇のあたりは何となく
ゆったりさせる。だら
しなくならない程度の
下めに帯を締める

元禄袖なら少し長めにして円みをうんと大きくしましょう。この絵のように。

袖と肩揚げの長さ

長い袖ならずっと長く。

大人のあまり長過ぎる袖は、かえって下品に見えることもあるのですが、少女なら平常の着物でもかなり長くても決しておかしくなりません。

あまり小さくない方なら二尺くらいは十分あってもいいと思います。

元禄袖ならいいですが、中途半端な長い袖はお姉様の借着のように見えることがあります。

しかしこれも着る人から受ける感じでいちがいにはいえないことですが。

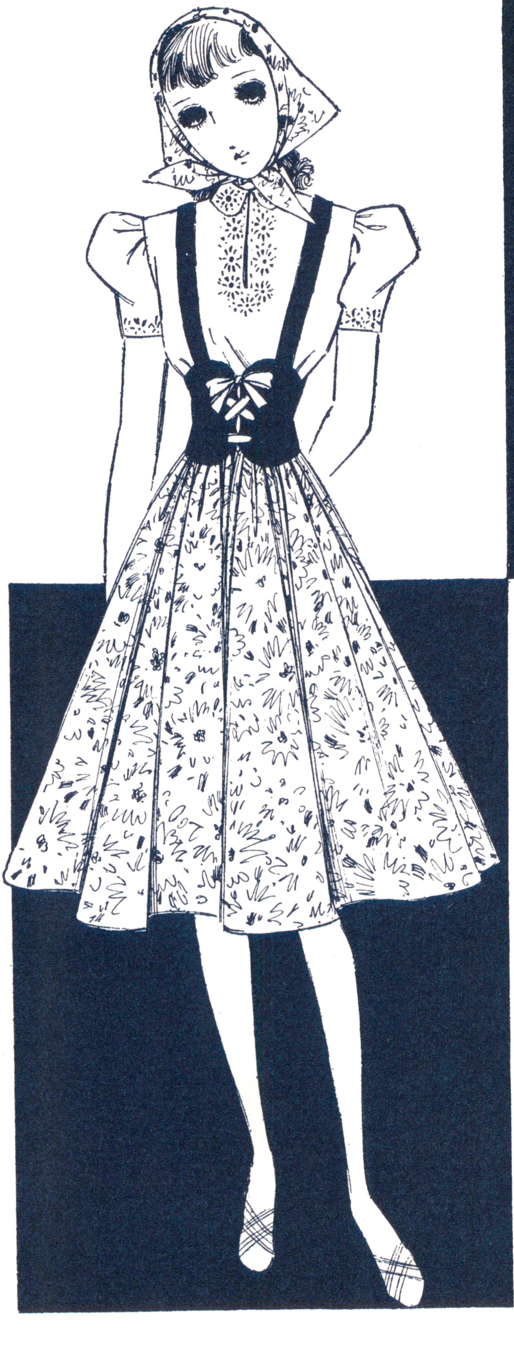
肩揚げはできるだけ長くしておきましょう。腰揚げはあまり早くからとってしまうのもおかしいですが、背のずっと高い方や上級の人はおはしょりにしましょう。

和服の柄は洋服生地のプリント模様のような小花を散らしたものなどが今年の流行ですが可愛くて少女には良いと思いますが、少女は少女らしいということが大切で流行をあまり追う必要はありません。

今年春着を作られる方は洋服生地から選ばれてはいかがですか。

女学生服装帖

中原淳一



昭和14年6月号

安い生地を使って夏服を

木蔭で本を読んだりする時
にはこんな農民スタイルで

農民スタイルはいかが

うっかりして歩いていた道にはもう雑草が薄い緑の葉を見せて、夏の近いことを知ります。

夏は一年中でいちばん大胆な服装のできるときです。お店へ行って、生地を見て、すぐこれを何ヤールなどと買わずに、まず家の生地箱をひっくりかえすことです。

夏は高価な服をすこし持っているよりも、安い生地や、有切れなどを工夫して作った服をたくさん持っているほうが、どんなにか生活を楽しいものにしてくれます。

散歩の時や、木蔭で本を読んだり、縄とびしたり、草花をいじったりする時は、農民（ピーザント）スタイル※1などはいかがです。



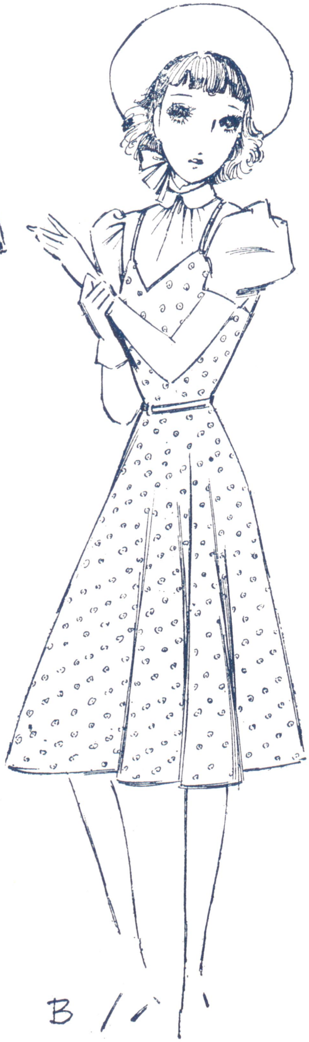
A　二種の布のドレス

二種の有切れからできたドレス。柄布と無地の布との調和が大切、無地の白ならば、いちばん無難です。柄のほうは大柄なものは避けましょう。

B　ジャンパードレス

ちょっと変わったロマンチックなジャンパードレス。ブラウスには木綿（ス・フ入りでも[※2]）。ジャンパーが柄ならばブラウスには絶対に縞や模様はいけません。



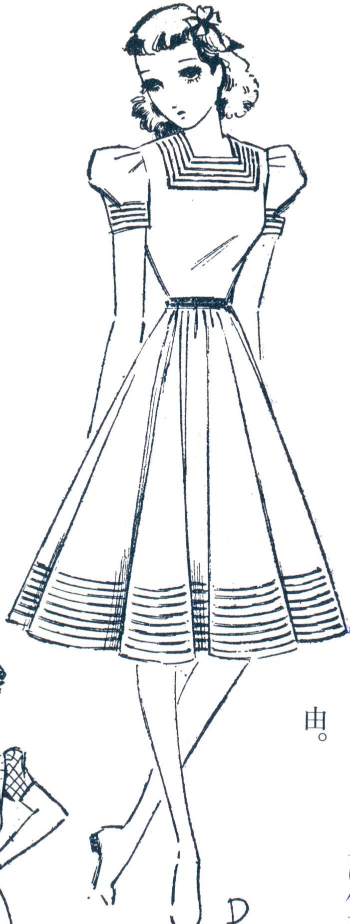


C　派手なワンピース

ちょっと派手なお嬢さんのワンピース。ウエストは白、スカートはうんと派手なプリント模様、ネックと袖口の縁取りはスカートと同布のバイヤスでもよし、スカートの主調色の無地でもいいです。
布地は木綿かベンベルグ。

D　豪華なドレス

少し豪華です。
木綿か麻かベンベルグ、お好きな色の無地か、できるだけ細かい花模様。
ラインは五ミリ巾リボンの濃紺か黒で。



E　スッポリ被れるシャツ

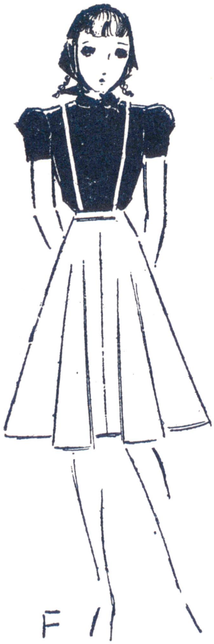
遊び着、お仕事着。
ウエストに白ピケの膝の出た短いスカート。細かい格子のシャツにはボタンはついていません。
スッポリ被れるだけの胸あき。
ワンピースに仕立てるも、ブラウスに仕立てるもご自由。



F　サスペンダースカート

白ピケのサスペンダースカートに黒、紺、赤など濃色のブラウス、同色のネッカチーフ。

ブラウスに変化をつければいろいろに着られます。



G　タイトなスカートとゆったりブラウス

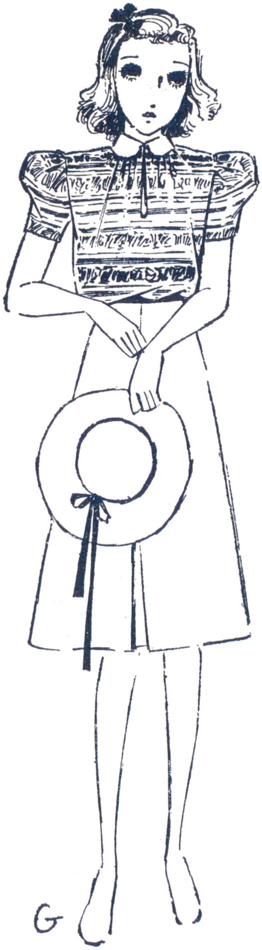
あっさりしたタイトのスカートにゆったりした仕立てのブラウス。

柄ははっきりした派手なものを選びましょう。

次の頁の絵は、レースのカーテンといっても模様のようになったものではなく網目になったもの、しかしテニスのネットのようなものではありません。

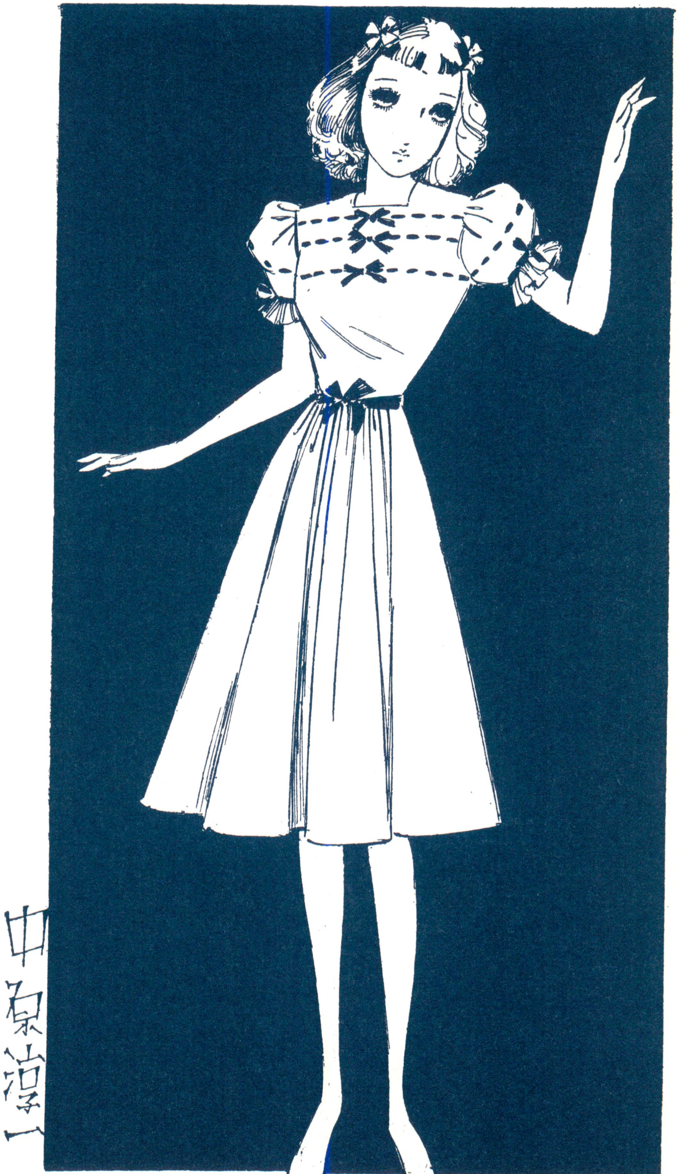
カーテンやさんで、さがしてごらんなさい。そんな生地で作ったドレス。

網目を利用して通した袖と胸のリボンが面白いでしょう。お洗濯のたびにうすく糊をしてアイロンで形をととのえないときれいに着ることはできません。



※1　農民スタイル――「ペザント・スタイル peasant style」ともいう。欧米に古くから伝わる伝統的農民服風の装い。フリルやギャザー、刺繍などの技巧が凝らされ、パフ袖のブラウスにタイトな胴着、広がったスカートなど民俗色の濃いものが多い。

※2　ス・フ――ステープル・ファイバーの略で、レーヨンの短繊維のこと。第2次世界大戦中から戦後しばらくの間作られた粗悪な布。ウールのような風合いで、弱く、水にぬれたときの収縮も大きい。



レースのカーテンの生地で作るドレス

女学生服装帖

中原淳一



昭和14年7月号　街で見かけた少女

1 鼠色と薄いピンクの柔らかな色調が、この少女をよい少女に思わせた

街のスケッチより

今月は街のスケッチから少女の服装で気のついたことを書いてみましょう。

一、二年前からみると、少女が服装の色調などということを考えるようになって、幾種もの色を考えずに着けることが非常に少なくなりました。もしこれが『少女の友』の読者であって、この服装帖がいくらかでも役に立っていたのであったら、毎月こうしてやっていることが無意味でないと思ってうれしいのですが。

電車の中の美しい少女

先日、郊外電車の中で見かけた少女です。（1図）

女学校の五年生ぐらいでしょうか？　スカートとボレロには鼠の薄手のウール、ブラウスと頭のリボンはピンク、手袋は白の木綿のレース編み、ハンドバッグは何か忘れましたが、鼠色と薄いピンクの調子が非常にこの少女に似合っていました。

特別に変ったデザインでもないのですが、この柔らかい色調と、頭のリボンとブラウスとそろえたあたりはこの少女を美しく、よい少女に思わせました。

滑稽に見えた三人の少女

ある土曜日の午後、ある劇場近くの道を女学校の四、五年と思える少女が三人劇場の方に向って歩いてゆきました。皆土曜日の午後を利用して歌劇を見にゆくのでしょう。

きっと今日学校で別れる時、三人とも和服にしましょうといって別れたのでしょう。一人は抒情型にと思って三尺帯に、一人は歌劇の生徒好みの袴姿、も一人は劇場へ行くのだからと思ってできるだけ華やかにと、思い思いのいでたちで、約束の場所で待ち合わせたのがこの結果なのでしょう（2図）。

三人とも質のいい着物でした。しかしこういうふうだと三人の調和がひどくかけはなれているために誰も美しく見えないばかりでなく、思い思いにハリキッているのが、見るものにむしろ滑稽に見えました。



2 歌劇を見にゆく3人。
思い思いにハリキッて
いるのが滑稽に見えた

三尺帯の少女

明るい色のきれいな着物に、クリーム色の三尺でした（2図左）。

この服装は庭の中で見たり、家の近所や野原で見たら決して悪いかたちではないのですが、この三人が並ぶと、このひとだけふだん着のよう（質の良し悪しをいうのではありません）な感じでした。

三尺帯は場所を考えないとだらしなく見えることがあります。

袴の少女

女学生ならば袴姿で外出することも結構でしょう（2図中）。

少女らしくあまり胸高でなく、裾もやや短めに袴をつけることは溌剌（はつらつ）としていいですが。

しかし、あわよくば宝塚の生徒にでも思われたいとばかりな袴姿は、はたから見ても少しもいいものではありません。

気をつけましょう。

帯の少女

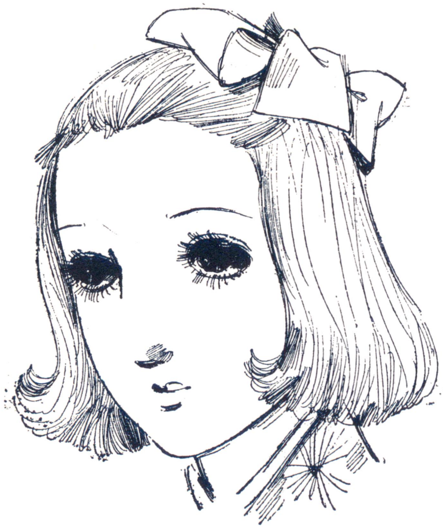
劇場へならばこんな姿もほんとうはいいのでしょうが、おつれの関係もあって一人だけお正月のように見えておかしいのでした（2図右）。あまり着つけない着物を今日だとばかりハリキッているのも重苦しい感じがしていやです。

盛装が板について、不自然を感じなければまだしも、出掛ける前の苦心のほどがうかがわれるようないでたちはいつの場合も滑稽です。

和服でそろえましょうと、もし相談したのであったら、相手の方の服装のことも考えて、多少調和をとったほうがお互いにきれいに見えるものです。

ハリキりすぎたリボン

これも同じ日の劇場の前で見たのですが、このお嬢さ



4 巾広いリボンで華やかさを出すならこのように



3 巾広いリボンをカチューシャにする少女。これはいけません

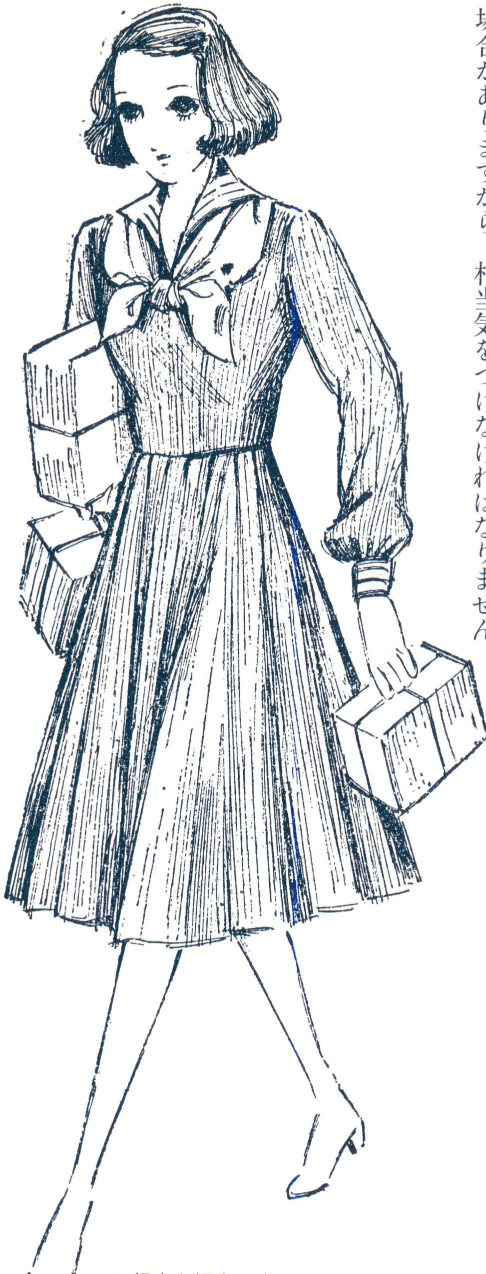
んもひどくハリキッていました（3図）。
派手な和服に調和させようとの考えらしく、一インチか、もっと巾の広いリボンをカチューシャのように頭に結んでいました。これもいけません。
巾広いリボンで華やかさを添えたいならば蝶結びにしたものを（4図）頭に飾りましょう。

銀座で見かけた少女

先日銀座で、二つ三つ買物を持った長身のセーラー姿の少女が偶然に街で会ったらしいお母様のお友達とも思える中年の婦人と柔らかな物腰で挨拶をしていました。挨拶が終ると颯爽と歩き出したその姿は非常に軽快に美しく見えたので、改めてよく見てみると、自然にか、手を加えたものか、少し癖のある髪の毛に、セーラーは濃紺、ネクタイは白そして靴下は淡い肌色、ほとんど靴下と同色の中ヒールの靴、それがその少女に少しの不自然さも与えないで、ピッタリよく似合っていました（5図）。
しかしこれはこの少女が背が高く、セーラーの仕立て

が非常によかったためでしょう。
制服の下に肌色の靴下をはいたり、中ヒールやハイヒールをはくのは、かえって女学生らしい美しさを欠く場合がありますから、相当気をつけなければなりません。

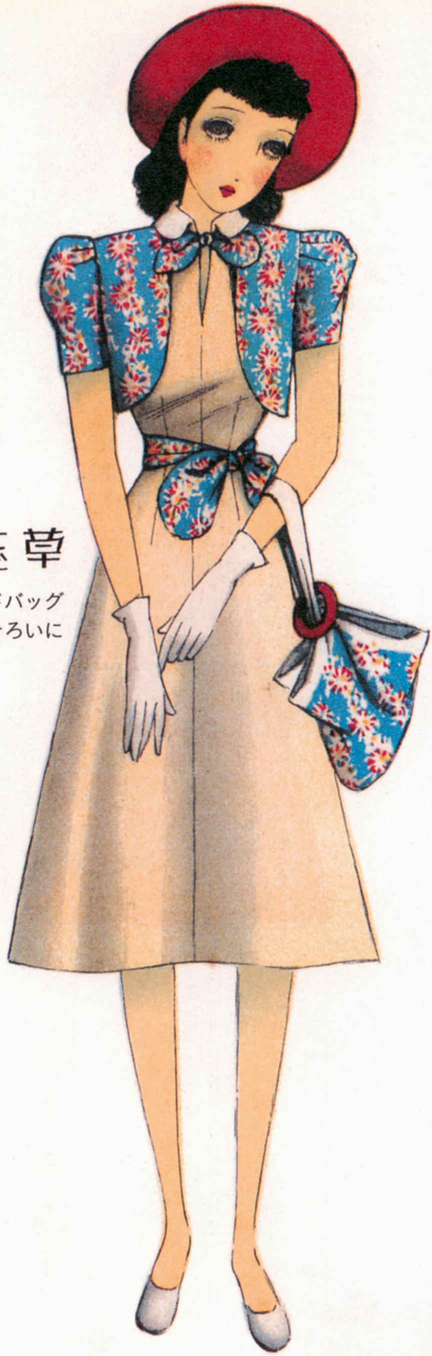
しかし制服の時以外はぜひとも黒い靴下はやめましょう。そして靴もできれば白靴に、夏ならばどの服にも白でいいと思います。



5 銀座を颯爽と歩いていた少女。制服に中ヒールは相当気をつけないといけない組み合わせだが

夏休みの女學生服裝帖

昭和14年8月号
夏に作る8つのスタイル



勿忘草

ハンドバッグ
もおそろいに

1 勿忘草

去年の着あきた真白いワンピースがありませんか。もしありましたら、それにこんなボレロとベルトを揃えて、新しい気持で着てみましょう。

ついでに、こんなハンドバッグも夏休みのお仕事にお作りになってはいかがですか。真四角な風呂敷を袷にしたようなものの隅に紐をつけて作ったものです。

縞や柄のドレスならば、ボレロとベルトのほうをドレスの中の、ある一色をとって無地にいたしましょう。

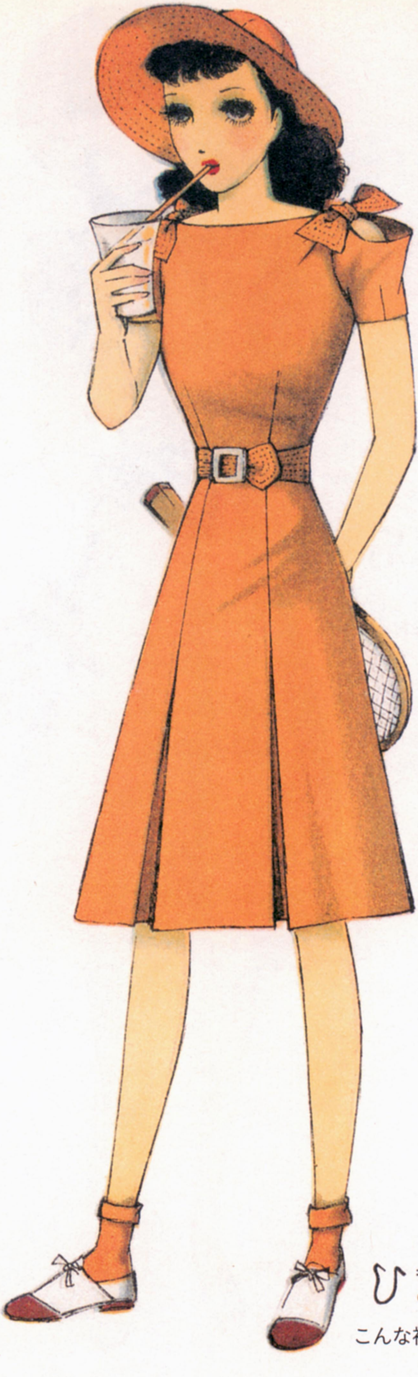
2 ひまわり

健康的な夏の少女の遊び着。袖なしでもよいのですが、こんな袖ならあったほうが面白くて、そして無難でしょう。

スカートは短めに、自由に跳ねまわるのに差支えない程度にひろがっています。

ベルトはややひろめに、キッチリと細腰を締めるのですが、細腰があまりくびれていない方はも少し巾を狭くしたほうがいいと思います。

帽子も共布地ではいかがですか。注意は太陽の光に負けないハッキリした色を選ぶことです。



ひまわり
こんな袖なら面白い

3　プリムラ

少女の夏のアフターヌーン。

薄手の木綿（木綿のような感触のものであれば何でもよい）で作れば可愛いふだん着になり、絹（またはベンベルグ）で作れば少女ならば、どんな場所にもいい服になります。

木綿で作った場合でも赤い襞の飾り布だけは、少し柔らかな生地を選びましょう。

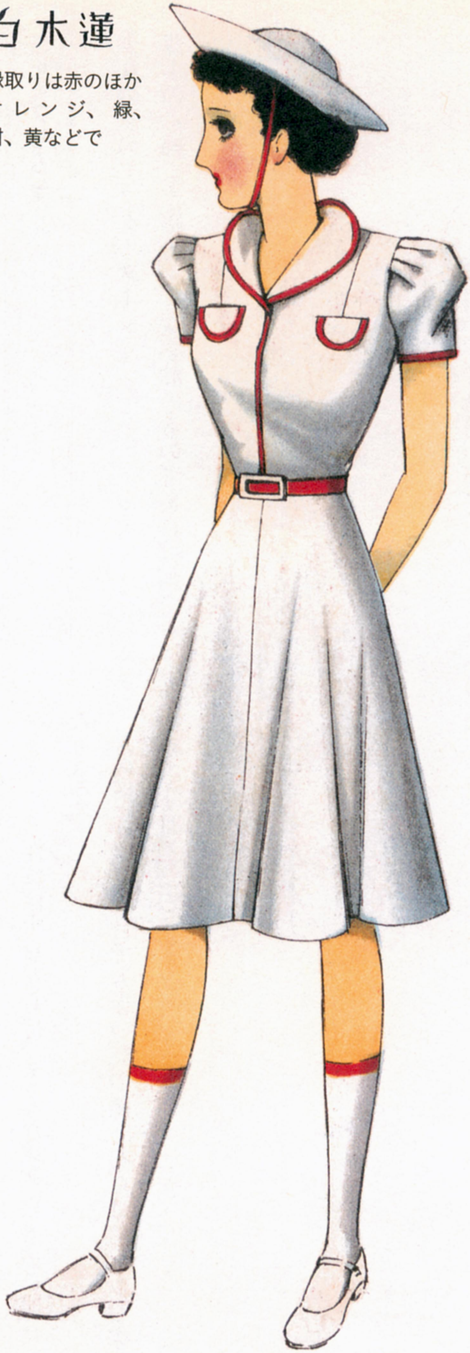


プリムラ

絹で作ればどんな場所にもいい服に

4 白木蓮

可愛い少女のスポーツ・ドレス。
縁取りに使った線はあなたのお好きな色でいいのです。
しかしこの絵の感じを出すには、赤・オレンジ・緑・紺・黄・エンジなどで、ローズ・ピンク・灰色などではこの感じにはなりません。
また、紺の服に白い線というふうに反対の場合も考えてごらんなさい。
造花のついた帽子などは、絶対にいけません。



白木蓮

縁取りは赤のほかオレンジ、緑、紺、黄などで

スイートピー

着あきた古い服で
作るワンピース



5 スイートピー

これはツーピースのように見えますが、ワンピースです。

お部屋の中で見ても、街で見ても、海でも、山でも、それぞれの雰囲気に調和する服です。ただし海などでは多少、柄と地質の選択に気をつけねばなりませんが。

木綿、絹、オーガンディなどのスカートと袖にもウエストの部分だけは無地のしっかりした生地を選びましょう。スカートと袖に縞を用いたらややスポーティで違った感じです。

着あきた古い服のスカートと袖に別の無地の布でウエストを作ったら、こんな感じの服になりませんか。工夫してみましょう。

6 ガーベラ

田園趣味なお仕事や遊びの時に着る服。

地厚な生地で、色は夏らしい濃色、ブラウス、スカートを通じて同じボタン。このブラウスはできるだけ簡単に、無駄な切り替えはよしましょう。胸にポケットくらいはあってもかまいません。

しっかりした真白な生地のブラウスをこのスカートに合わせれば、また全然変わった感じで着られます。胸のあたりにスカートの模様をとってちょっとした刺繍でもしてごらんなさい。

夏は淡い色にとばかり考えてはいけません。生々しい緋色などは避けなければいけませんが、濃色は南国的で夏にこそ生きるものです。

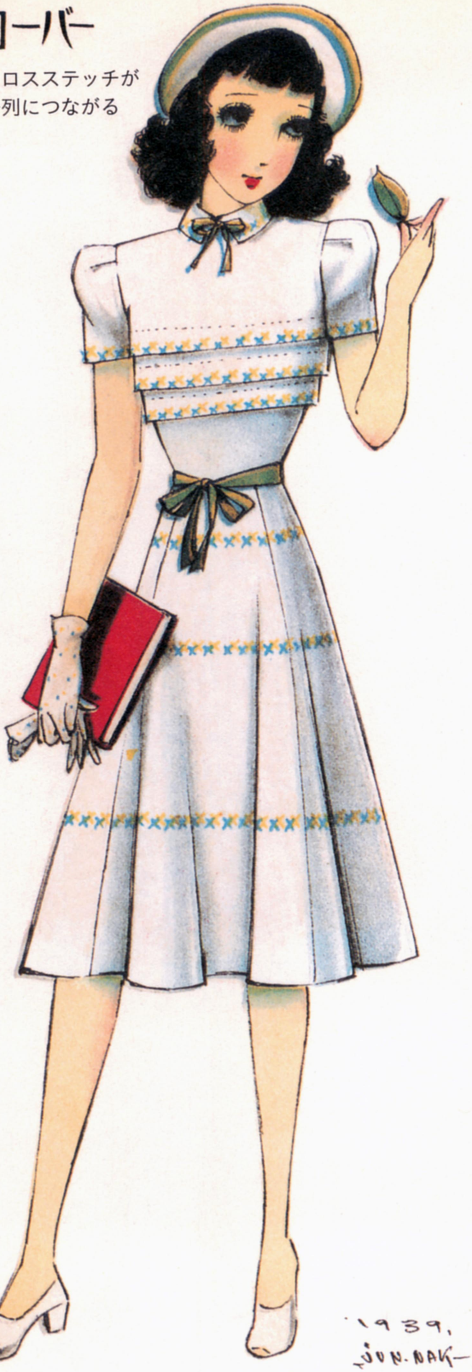


ガーベラ

濃色は南国的で、夏にこそ生きるもの

クローバー

袖のクロスステッチが
胸に一列につながる



7 クローバー

真白な堅い生地にクロスステッチをしたスタイル。クロスステッチはお好きな色で、これも夏休みのお仕事の一つに。

胸に三段のタックはいちばん上の一段と袖口とをそろえます。

クロスステッチが袖と共に横に一直線になるように、刺繍糸の色とベルトの色をそろえましょう。少女らしい真夏の服です。

蔓バラ

使う生地によって、ふだん着にも外出着にもなる



8　蔓バラ

可愛らしい小花模様で作った少女服。

しっかりした生地を選んでもあまり糊気の多い生地では不向きです。

生地によってはふだん着からちょっとした外出着まで。

頸の長過ぎる方は小さな共生地のカラーをつけても結構です。

スカートは、全体に襞を寄せないで、フレアーにとって、前だけに襞を寄せてもいいのです。

もし、裁ち屑が残ったら、三角布も作りませんか。

女学生服装帖

中原淳一

昭和14年9月号

4つの着物の組み合わせ

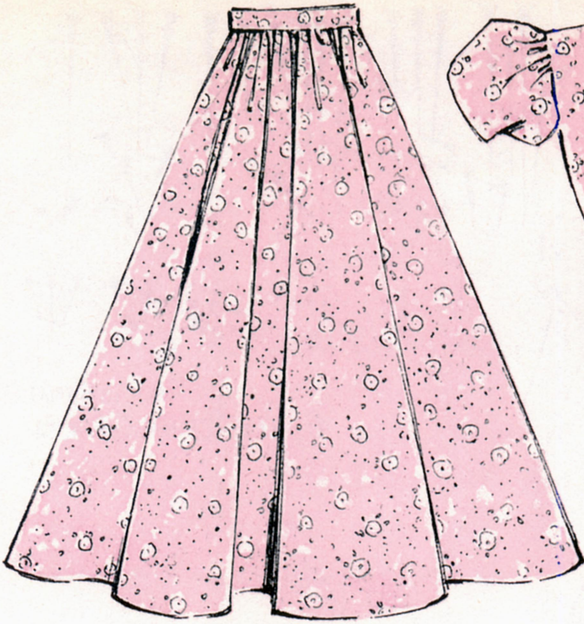


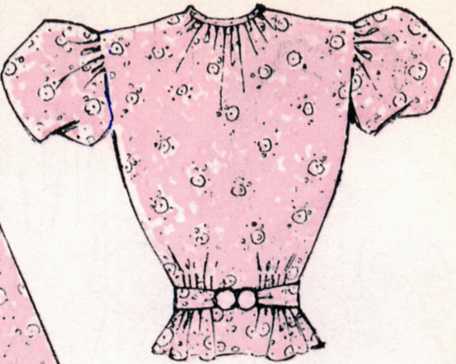
A（ブラウス）、B（スカート）をワンピースふうに着たもの

今月は四つの着物の材料で幾通りにも着られるという試みを書いてみました。

次頁のAとBはワンピースになるべきものをスカートとブラウスに分けて仕立てました。

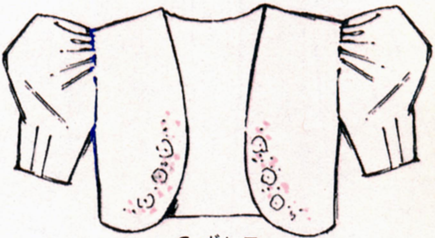
C、D、E、Gは共生地、刺繍はA、Bの模様の感じのもの。

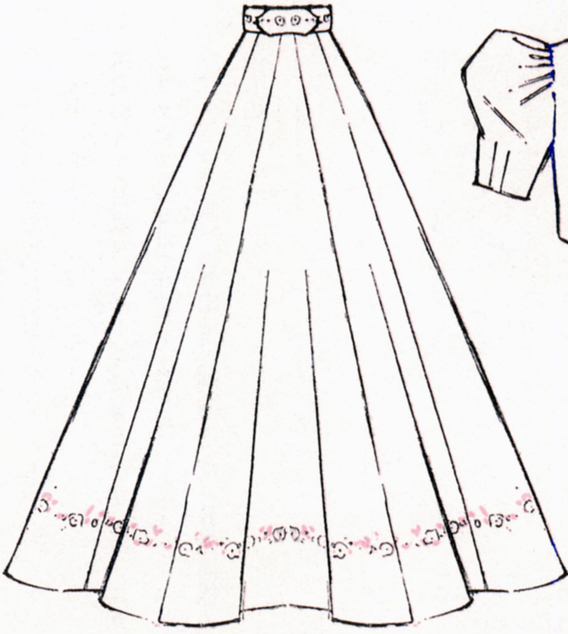




A ブラウス

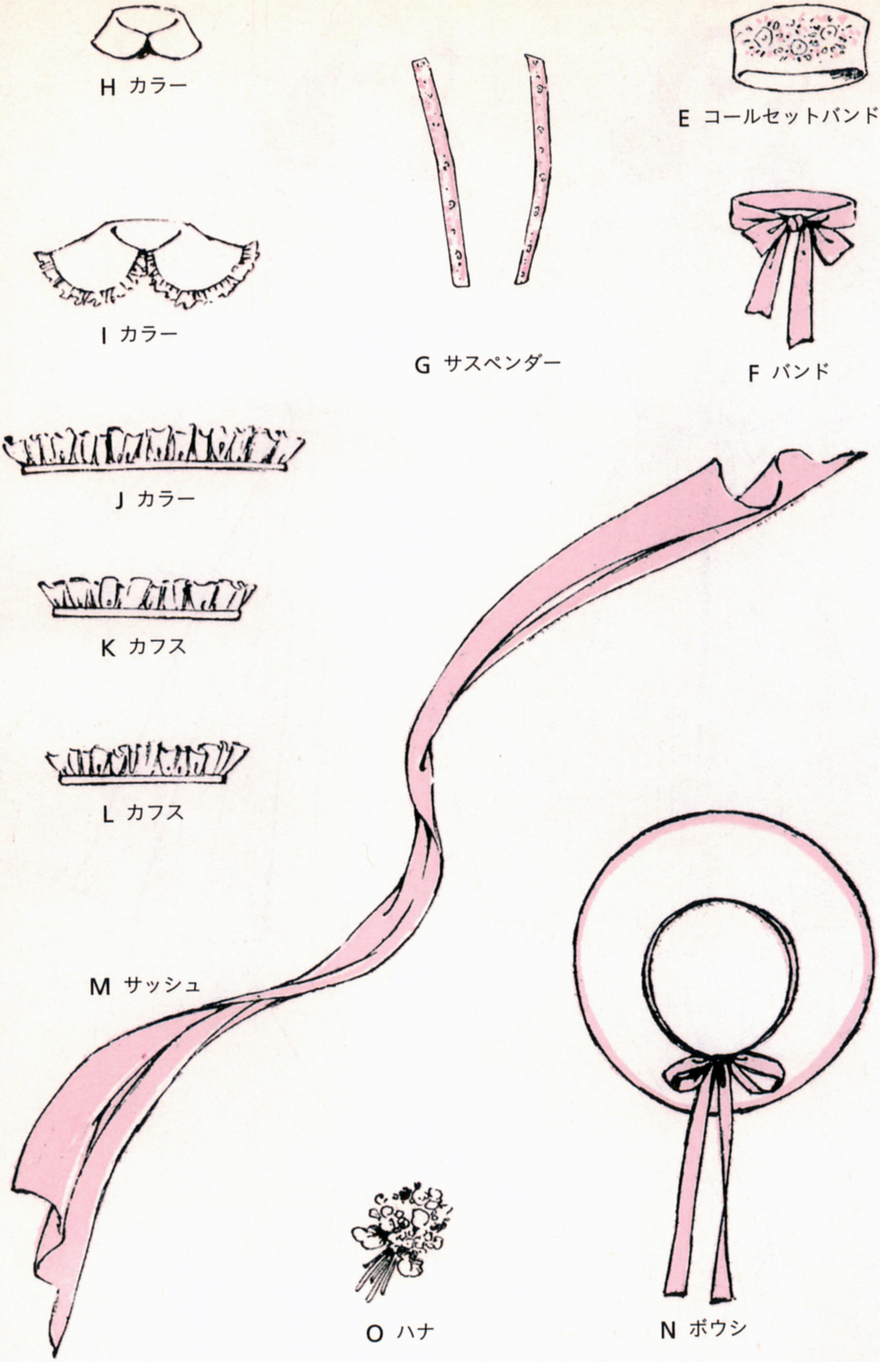
B スカート





C ボレロ

D スカート


H カラー
G サスペンダー
E コールセットバンド※1
I カラー
F バンド
J カラー
K カフス
L カフス
M サッシュ
N ボウシ
O ハナ



A ブラウス
B スカート
F バンド
I カラー

A ブラウス
D スカート
F バンド
H カラー



昭和14年9月号　4つの着物の組み合わせ


A ブラウス
C ボレロ
D スカート
H カラー
A ブラウス
B スカート
E コールセットバンド
G サスペンダー
N ボウシ
O ハナ

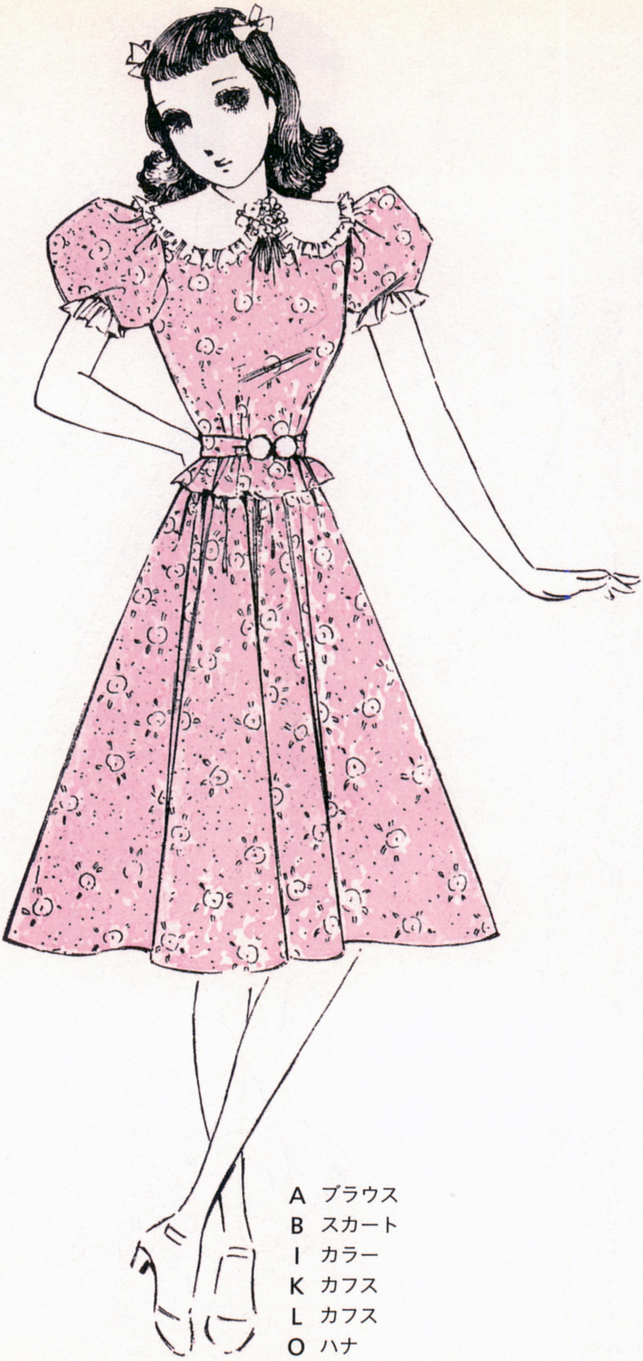


A　ブラウス
B　スカート
J　カラー
K　カフス
L　カフス
M　サッシュ
N　ボウシ
O　ハナ

A　ブラウス
B　スカート
C　ボレロ
D　スカートの
バンドだけ
J　カラー

工夫すれば、もっとたくさん着られそうです。プリント模様のほうはなるたけ、小柄なベンベルグなど。C・D・E・Gはちょっとかたい生地の無地、Hはかたい生地で、I・J・K・Lはオーガンディなど。F・Mは柔らかな生地で、A・Bの模様の主調色。適当な場所を考えていろいろに着てみて下さい。

※1 コールセットバンド——ウエストをぴったりと押さえるための幅広いベルト。「コースレットベルト」あるいは「コルセットベルト」とも呼ばれ、腹部から腰部にかかるほどの幅があり、胴を引き締めるようにつける。



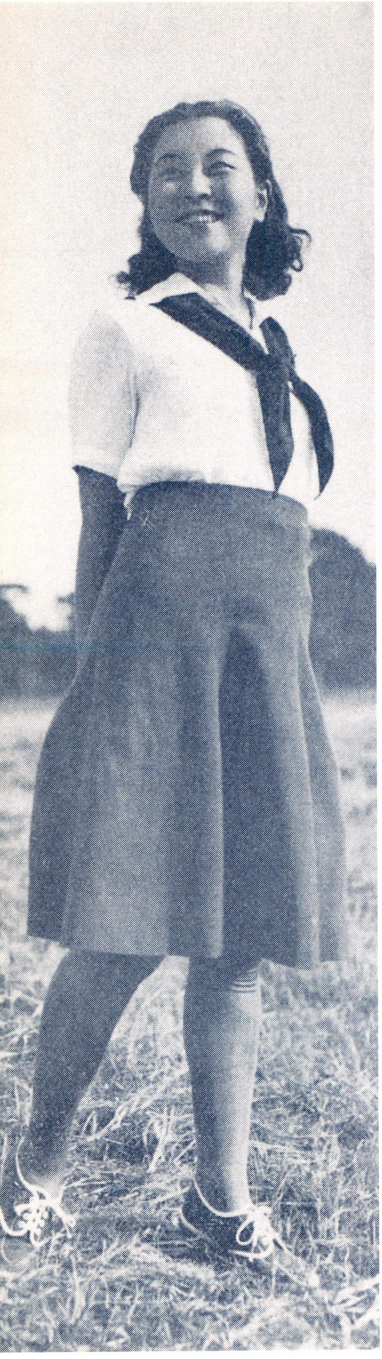
A ブラウス
B スカート
I カラー
K カフス
L カフス
O ハナ

女学生服装帖

中原淳一

昭和14年10月号

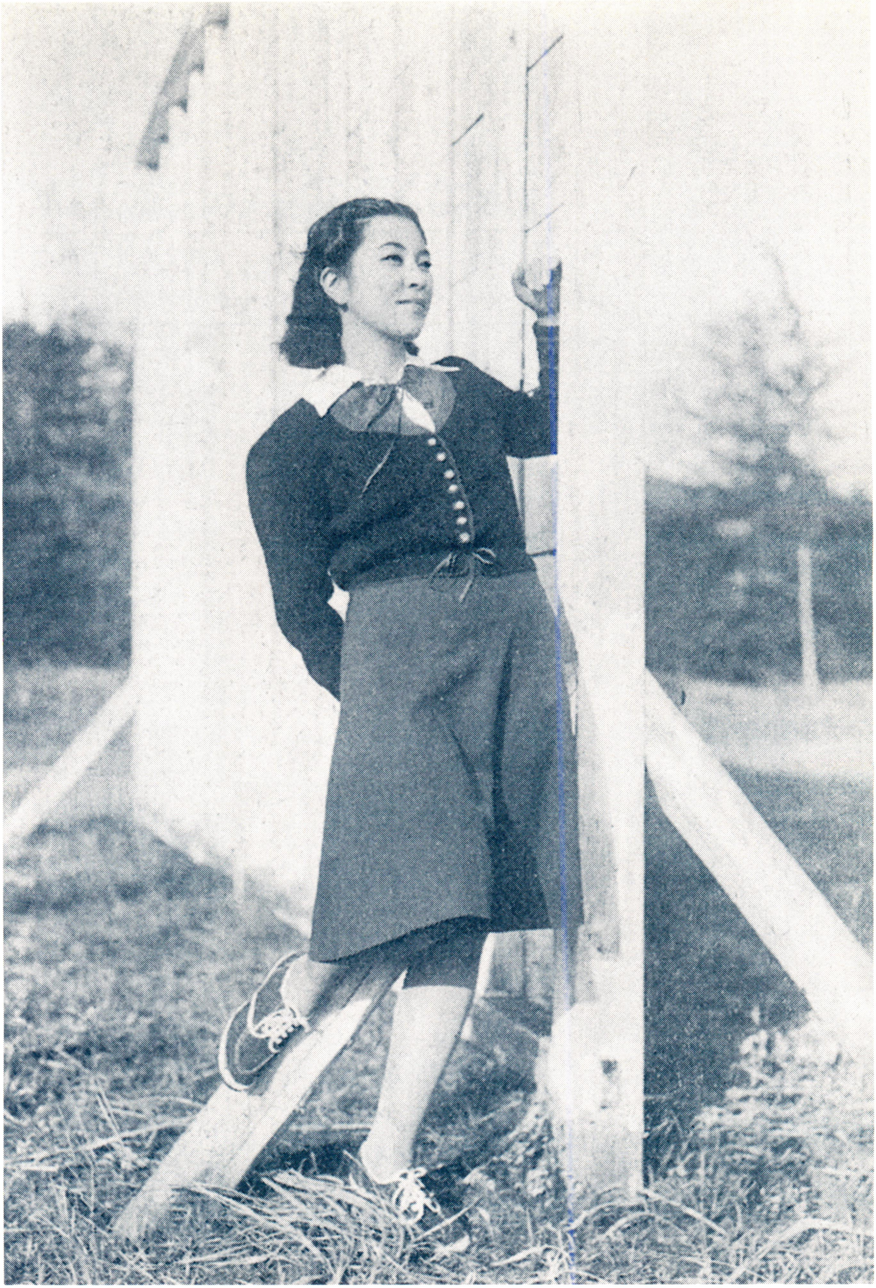
ドイツの少女に学ぶ



1 仕事に遊びにいちばん多くの時間着る服

ドイツ少女団の制服

先月から今月にかけての『女学生風俗座談会』の中に出て来るドイツ少女団の服装をご紹介しましょう。ドイツの少女達はこの制服に健康な姿態を包んで、よりよい新しい祖国を建設するために毎日を実に立派に生活しているそうです。



2 黒に鮮やかな緑が美しく、
銀色のボタンが効果的

最初の写真は白いスフのシャツブラウスにやはりスフの紺の短いスカート、三角布も黒のオールスフのもの。これは仕事に遊びに生活のいちばん多くの時間着ている服だそうです。

この写真は最初の服装の上に毛糸のジャケットを着たものです。

この写真ではその色彩がはっきり分りませんがたいへん美しいものでした。黒地に胸の部分を巾広く鮮やかな赤と緑の縞が編みこまれています。

袖口やその他の部分の縁取りにこれも鮮やかな緑が配されていて首まわりとウエストをしぼるテープの色も同じ緑色でした。ブリキ製のお粗末なものですが銀色ボタンも非常に効果的です。

質実な中にも少女らしい色調をあくまでも生かしているのには感心いたしました。

少女の軍服ともいえる服

最後の写真はちょっと革のように見える、スフは入っ



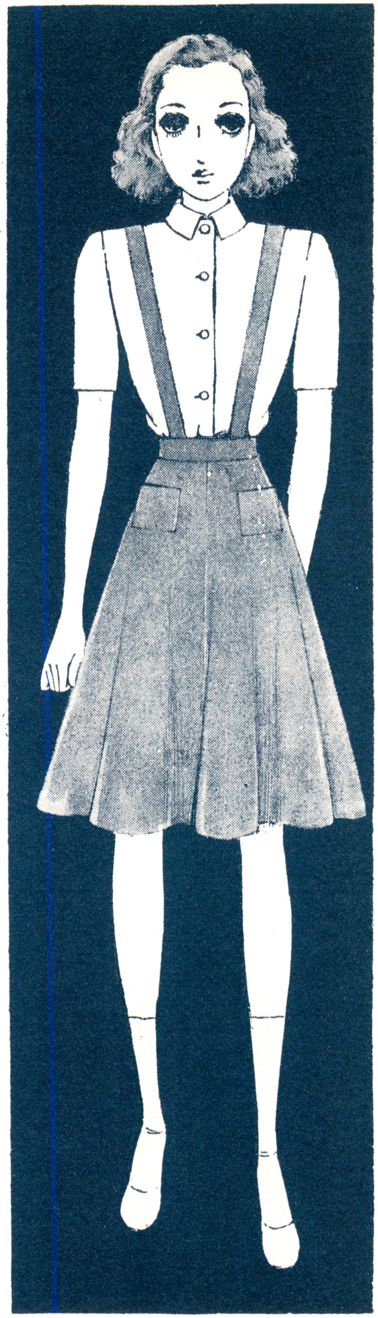
3 胸の4つのポケットが逞しい

ているのでしょうか——毛織(けいと)の上衣でした。色はくすんだ黄色です。

ウエストの両脇にビジョウがついていてそれを締めることによって誰の体にもピッタリと形よく合い胸の四ツのポケットが逞しく少女の軍服とでもいいたいようなものでした。

日本の少女にもこんな制服をといろいろ考えてみましたが、日本の少女だからといってこれを特に変えてみる必要を認めませんでした。ただ日本の小さな少女にはこのスカートはまだ体の線が決まらないので、跳ねまわっていると落ちて来るので後ろをクロスさせたサスペンダースカートのほうが適当です。スカートは短く思う存分運動のできるために裾はやや広めに作りましょう。

日本の季節ではこの半袖のシャツからいきなり防寒用のジャケットでは少し無理だと思われますので、半袖の薄いセーターが必要ではないでしょうか。



4 日本の小さな少女なら、サスペンダーを

なお、ドイツの少女団の少女達にはこの他に袖なしの運動用のシャツと踊りのための裾の長い実に美しいドレスがきめられてあるそうです。



5 春や秋にはこのような薄手のセーターを合わせて

女学生服装帖

中原淳一

昭和14年11月号　時と場所に合う服装を考える

質素のなかに美しさを

秋も深くなって美しい色の落葉が見られる季節になりました。うすら寒いこのごろの気候にはもう本当の秋の用意をしなければなりません。

でも今年はそのまま着られる服はよく手入れをして、また少し手を加えれば立派に生きるものは生かして着ましょう。

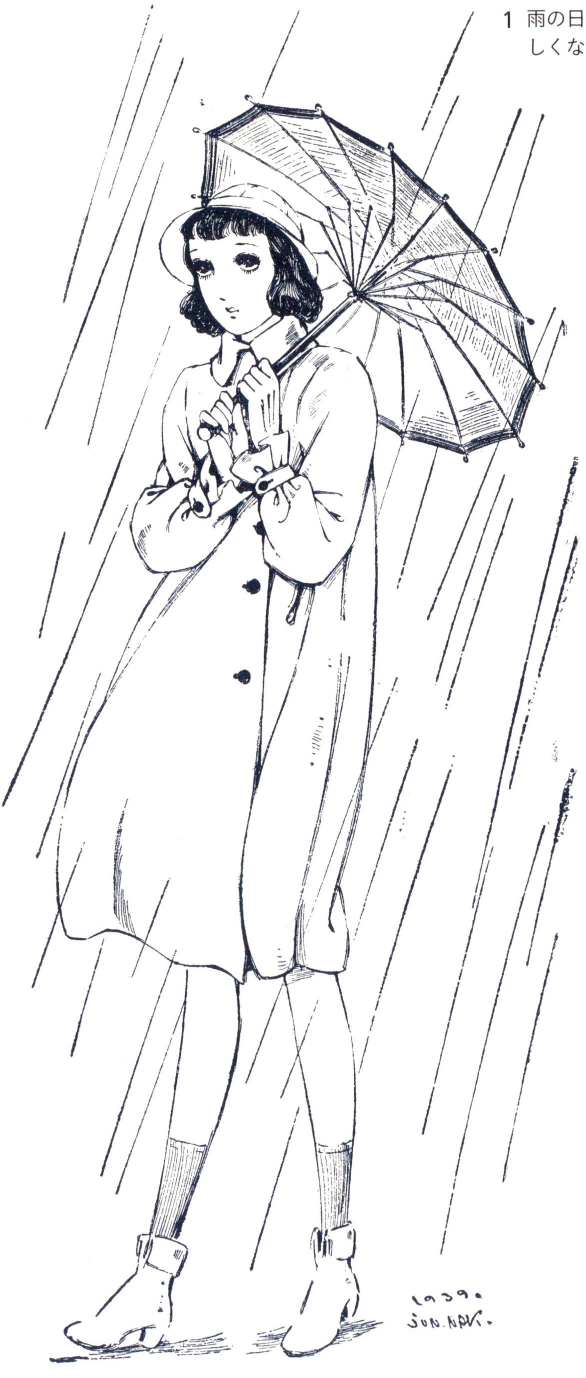
新しく作らなければならない人は時局と自分の好みとを適当に考えて作りましょう。

しかし、美しさも趣味もないものを時局向きと考えるのはあまり正しい見方ではありません。

質素な健康な服装の中にも常に少女らしい美しさと、個性と趣味とはいつも生きていなければなりません。

雨の日に綺麗なドレスは大きな間違い

今年は雨量が少なくて、電気時計[※1]が一日三十分も遅れたり、電車のダイヤが狂ったり、関西のほうでは給水時



1 雨の日には、濡れても少しも惜しくないと思われる姿がいい

間を定めたりずいぶん困りましたが、東京では最近その貴重な雨が降りだしました。

その秋雨のある日に見かけたことですが、——水色のきれいな絹のドレスで、裾と胸だけに特に模様を染めぬいたものでした。それを着た少女が雨の日を傘をさして歩いていました。

2 レインコートを着て いればそれでいい



その上からレインコートを着ていればそれでいいのですが、その開いたスカートが小さな赤い傘の下からあふれそうで不思議なくらいに綺麗なはずのドレスが少しも美しいとは思われませんでした。

　しかし、こうした不自然さはいろいろのところで見かけるのです。

もし、その少女が大切なところへおよばれにゆくので、ぜひそんなきれいな服を着てゆきたい――けれどレインコートがないというのでしたら仕方がありませんが。

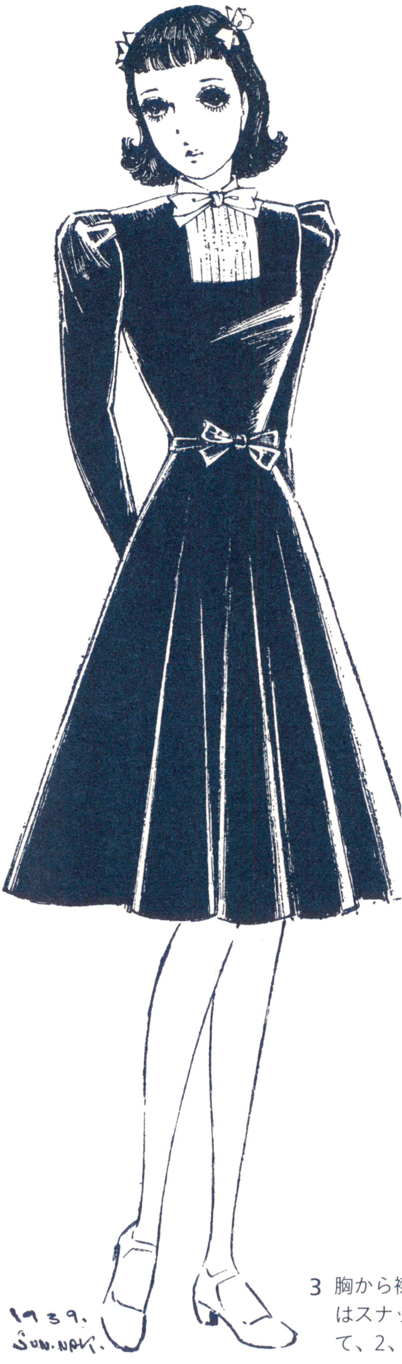
もし、その少女がその服を新しく作ったばかりで、ぜひとも、――雨の日でも何でも――着たくて、そんな恰好で外出したんだとしたら、とても大きな間違いです。

こういう不自然さは、場所柄を考えないでいる時にしばしば見かけることで、この少女ばかりではありません。

レインコートがなくても、雨の日には雨の服装をしましょう。

雨の服というのが特になくても、雨に濡れても、少しも惜しくないと思われる姿がいいのです。

雨の中を美しい長い袂（たもと）の着物に胸高に帯を締めて、立派な草履をはいて、雨傘をさして歩いているお嬢さんがあっても少しも美しく見えないことを想像して下さい。



3 胸から襟の絹の部分はスナップ止めにして、2、3種作る

どんな少女にも合うドレス

どんな場所に着ても、その場所に調和する秋のドレスを一つ考えてみました。

色は赤系統でも紺や緑の系統でも、あるいは黒やネズミでもそれぞれの美しさがあります。

胸から襟にかけて絹の調和のいい色をのぞかせたこの絹の部分はスナップ止めにして、色や形をかえて二、三種作っておき、その時々の場所や気持でとり替えて着ましょう。

不用な切り替えは一切作りません。

どんな少女にでもよく似合うスタイルだと思います。

※1　電気時計——電気で動かす時計の総称で、世界中の時計のほとんどは電気や電池で動く。しかし1970年頃までは掛時計のみで、腕時計や置時計はゼンマイを巻く機械式時計だった。電動式は機械式より正確で、明治時代に発明され、昭和初期には乾電池掛時計が普及した。

女学生服装帖

中原淳一

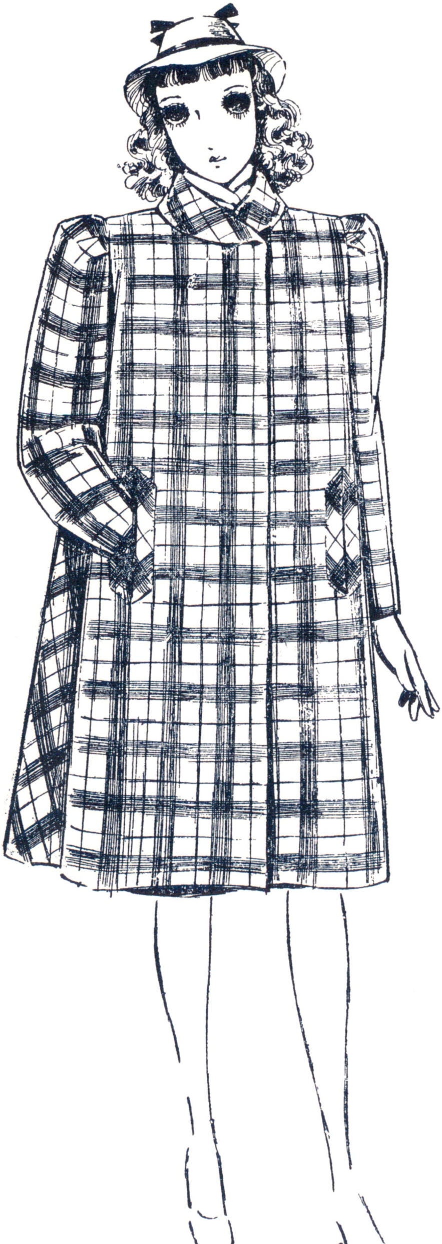
昭和14年12月号 可愛らしいオーバー

ゆったりしたオーバー

半袖から長袖、そしてうすら寒くなって来た頃、重みのあるオーバーを着てみると冬が来たことをしみじみ感じます。

今月は可愛らしいオーバーを四ツほど、ご紹介しましょう。

最初に、このスタイルは身巾がユッタリしていること



1 身巾はユッタリ、肩から袖付のあたりはピッタリと



2 ラグランスリーブでゆったりさせ、袖口で締める

が生命なのです。ですから少し広いくらいではこの感じは出ません。そして裾だけが開いているのではなくて、肩のあたりからすでにゆっくりと裁たれているのです。
しかし肩から袖付のあたりは丈とピッタリ添うように。

襟は年の小さな少女はもっと詰めて、下からスカーフをのぞかせるのはやめましょう。
大柄な格子縞ですが無地でもいいです。

エキゾチックな型

無地のコートに、色は同系統でも反対色でもいいのですが、うつりの良い細かい格子の布を配した試みです。
肩のふくらみのあるラグランスリーブで、袖はゆった

りと、そして袖口で締めています。
前はさほどでもないのですが、後巾をゆったりとさせて。
ベルトで締めています。
前の二ツのポケットをぜひ生かして下さい。
エキゾチックな可愛らしい型です。

少女らしいケープ

少女らしいケープはいかがですか。
無地で色はお好きな色を、
この絵ではあまり派手な色ではないつもりです。



3 小さな襟をつければ小さな少女にも似合うケープ

ケープでもやはり肩にタックはとって肩の形を整え、両脇から後にかけて、ゆったりとフレヤーを出します。
胸に毛糸か何かで花束の刺繍をしましょう。
小さな襟をつければ女学校一、二年の小さな方にも、オーバーと違った可愛らしさがあるでしょう。

誰にも似合うオーバー

これはどんなタイプの少女にでも似合って、それでいてすっきりとしたスタイルです。
色の選択でどんなにでも感じは変って来ます。
マフラーをのぞかせないように襟を詰めて紺で仕立てたら制服の上に着て通学にも向くでしょう。
細腰をピッタリつけて裾でゆるやかに開いていなければごくつまらない平凡なオーバーになってしまいます。



4 細腰をピッタリつけて裾はゆるやかに。誰にも似合うスタイル

第6章

暗い時代でも大切にしたいこと

昭和15（1940）年

世相

ナチス、アウシュヴィッツ建設（4月）
修学旅行禁止（5月）
「ぜいたく禁止令」施行（7月7日）
日独伊三国同盟調印（9月27日）
会社経理統制令公布。大卒の初任給は75円、女学校卒は33円、小学校卒は21円と定められる。（10月19日）
国民服令公布（11月2日）
紀元2600年式典（11月10日）
洋紙配給統制規則公布（12月28日）
吉川英治『三国志』ベストセラーに
歌謡曲「隣組」が流行

この年の『少女の友』

●**定価**　50銭、250ページ
●**表紙**　中原淳一（1月号〜6月号）
宮本三郎（7月号〜12月号）
●**おもな連載**
吉屋信子「小さき花々」（5月号〜11月号）
井伏鱒二「オコマさん」（1月号〜6月号）
森口多里「私たちの祖先の芸術」（7月号〜昭和17年4月号）
田中千代「服装帖」（6月号〜10月号）
※田中千代による「服装帖」は、昭和17年2月号まで、数回の休載を挟みつつ続いた
●**おもな執筆者**
林芙美子、山本周五郎、室生犀星、森田たま、舟橋聖一、長谷川時雨
●**できごと**
「友ちゃん会」を秋田、大阪、京都、福井で開催。軍部の圧力で7月号から中原淳一の絵が誌面から消える

解説　昭和15（1940）年の「女学生服装帖」

内田静枝

1、2、3月号ともにオールカラーで巻頭を飾っています。しかし、これには読み取らねばならぬ事情があります。

このころ、淳一は内務省から目を付けられていました。軍部が幅を利かせていたこの時代、雑誌はすべて検閲され、『少女の友』では淳一の絵が問題視されていたのです。彼の描く少女が「不健康である」「華美である」というのがその理由でした。

カラー版の「女学生服装帖」は編集部の苦肉の策だったと推測できます。口絵ではなく、連載の一環であるという方便だったのでしょう。また、将来日本国民の母となるべく女学生の体格向上のため、活動的な洋装の利を説く識者の説があったのも、編集部としてはすがりたい材料であったかもしれません。

しかし、こうした試みも、強い風から淳一を守り切れるものではありませんでした。5月号で連載は突然終了。そして翌6月号を最後に中原淳一は『少女の友』を去ることになりました。

うって変わって淋しい誌面となってしまった4、5月号の記述からは、淳一の苦しい胸のうちが読み取れます。彼が懸命に導いた読者からも批判が寄せられるに至っては、無念の思いを噛みしめたことでしょう。独自の世界を創り始めた若き天才に、時代は試練をもたらしました。

冷静な目をもって淳一の言葉を吟味すれば、それが世の中を乱すものではないことは明白です。淳一が少女たちに伝えたのは、辛い時代も前向きに美しく生きるための小さな工夫の数々です。モンペをはいたり、黒ばかりを着ることが世の為になるわけではない。生活にうるおいを失わないで欲しい……。しかし、その声は軍人の靴音にかき消されてしまいました。

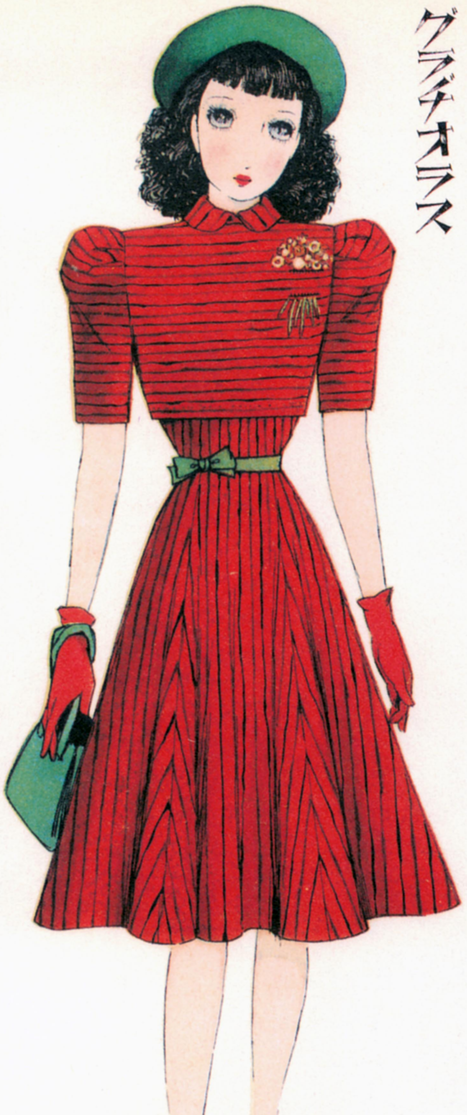
平成のいま、わたしたちは淳一のメッセージを正しく受け取りたいと思います。

女学生服装帖

中原淳一

昭和15年1月号

お正月のドレス



グラジオラス

明るくて可愛らしい少女のみに許されたドレス。ウエストの切り替えと袖の長さをそろえるために半袖にしましたが長い袖でも結構です。胸に毛糸の花束を刺繍してあります。



すみれ

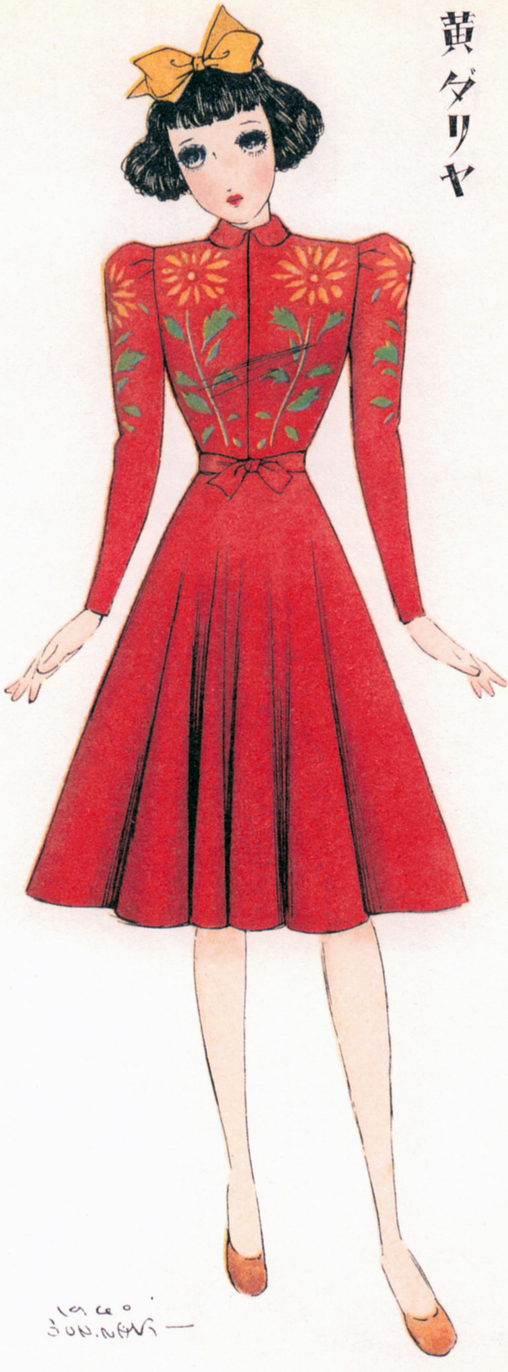
お正月に特にふさわしいドレス、ウールでもいいのですが、ベルベットならばなお美しいでしょう。襟と袖口の白は美しいレースかタフタの白、スカートは前よりも後ろにずっとフレヤーを多く。



百日草

素朴で新しい少女のドレス、色の浅黒い健康な少女にどんなにか似合うでしょう。

胸のボタンは上二ツが黒、下はチェックの共生地のクルミボタン[※1]です。格子の布は無地のお好きな色に変えても別な美しさを見出すでしょう。



黄ダリヤ

これもお正月などにもふさわしいでしょう。
前のは繊細な感じ、これはもう少し素朴な趣味的な感じです。胸のフエルトのアップリケだけを焦点にして、あとの部分に特別なデザインをすることは無駄です。シルエットの美しさに重きをおきましょう。

※1　クルミボタン（包み釦）——共布や配色のよい別布や皮革などで、ボタンの芯を包んでつくったボタンの総称。

女学生服装帖

昭和15年2月号　リボンのいろいろ

リボンの色々

中原淳一



A　毛の長い少女のエキゾチックな形。花にたとえれば薔薇の花

B　明治時代のお嬢さんを思わせますね。これは白木蓮

通学の時や、勤労奉仕にはないほうがいいですが、家の中で本を読んだり編物をしたり、家事のお手伝いをしたり、お友達を訪問する時はリボンをおつむにつけましょう。

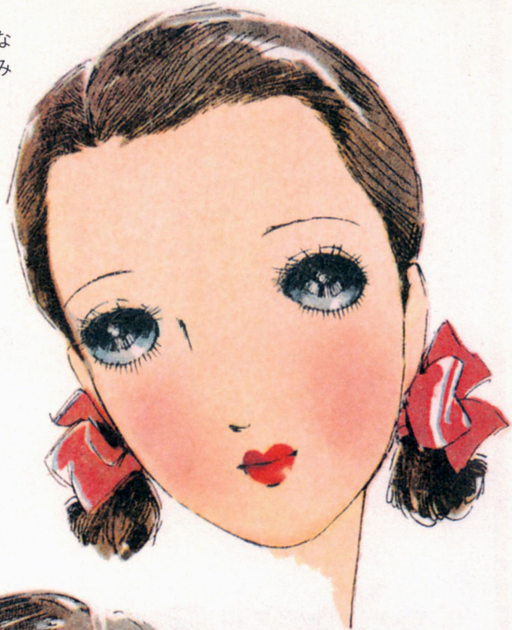
C カーネーションのような可愛い形

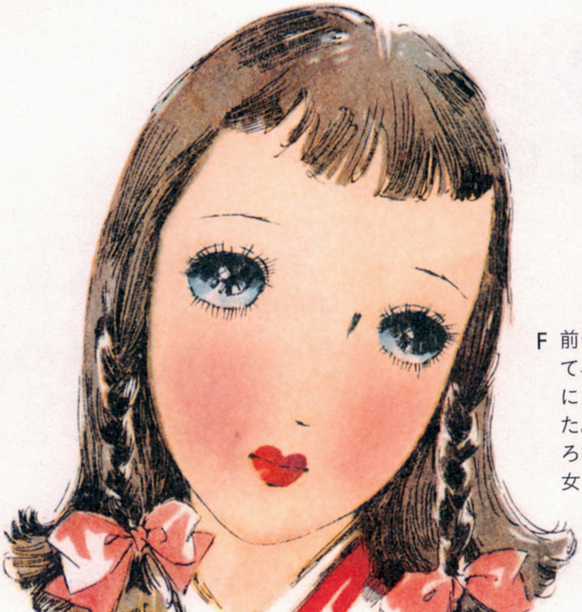




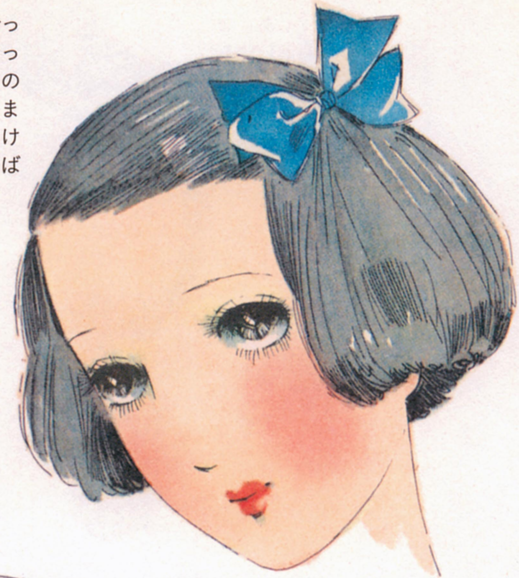
D 自転車通学をした明治時代の女学生を思わせます。花ならば百合

E 何日見てもあきない少女らしいすみれの花のような





F 前側の少しの毛をとって、三つに編んで結び目にリボンをつけてみました。工夫をすればいろいろな形ができますね。乙女らしい撫子の花



G どんな少女にも似合って、もう誰でもがやっていますね。横のこの位置につける時はあまり大きなリボンをつけないように、花ならば忘れな草



H 上級生の方のために。和服のほうがよく似合うでしょうね。香り高いヒヤシンス

女学生服装帖

中原淳一



1 学生らしい感じを失わないジャケットの例

昭和15年3月号 卒業後のスタイル

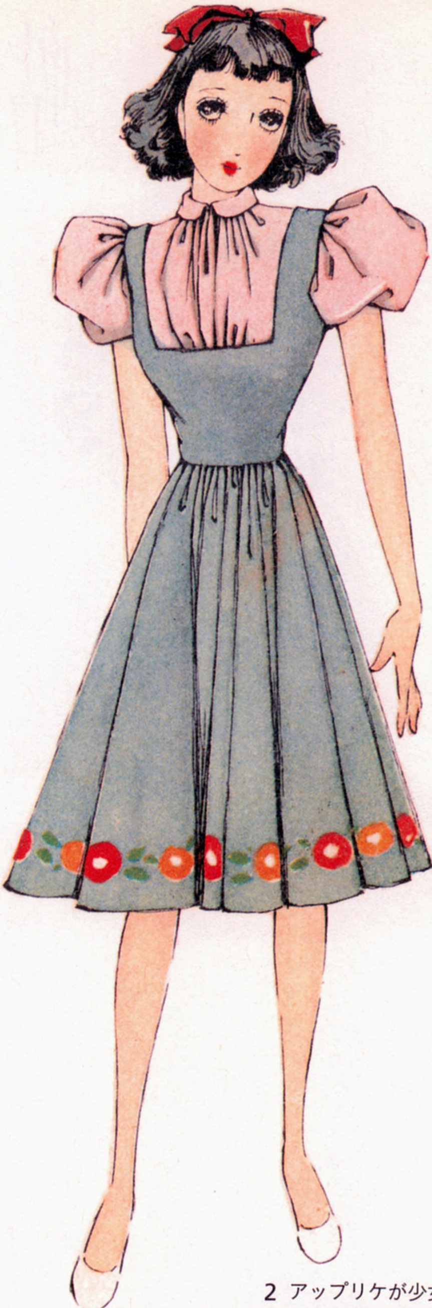
スーツは少女に不向き

毎年三月という月には卒業生のために書くことになっています。今年もそんなつもりで卒業した人達の服装について書いてみようと思います。

卒業すると急に女学生時代に大人っぽいものと考えていたスタイル、たとえばスーツなどを着たい傾向があるように思います。卒業したらしい感じを持たせたいらしいのですね。でもスーツは大人の人が着ても着こなしが

難しいのですから、まして今までセーラーしか着なかった女学生には上手に着こなせないでしょうし、また十八、九で大人と同じようなスタイルのスーツを着るのは日本の少女には不向きなことです。

スーツを着たいなら、上着はテイラードにしておいてスカートをオールプリーツにでもして、カレッジ・スタイルにしたほうがよいでしょう。スーツの上着を若くみせるのに、肩を張らせたりするのはスーツのもつ美しさをなくしますから、上着はスーツのふつうの型がよいと思います。


2　アップリケが少女らしいジャンパー。刺繍にしても面白い

少女らしいジャケット

スーツでなくツーピースならジャケットのほうが卒業したばかりの少女にはふさわしいのではないかと思います。

最初の絵は学生らしい感じを失わないジャケットの一

例です。生地は無地でもチェックでもよいでしょう。カラーはふつうの白のウールでもよいのですが、モーニングの時に用いるかたい立襟のカラーのようなカラーを作り、それに黒のタフタの大きなリボンをつけてもすっきりして美しい。

アップリケのジャンパー

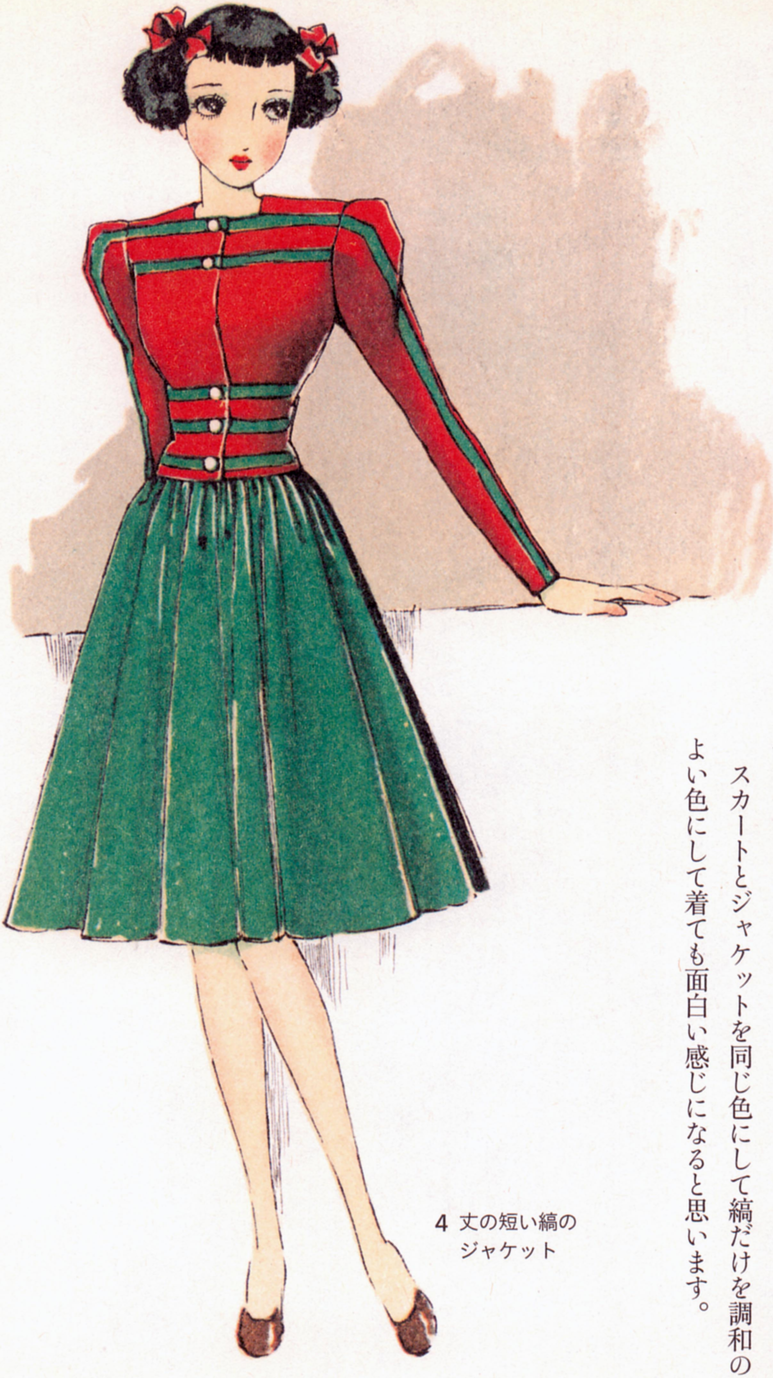
二図はアップリケをした少女らしい可愛いジャンパーです。アップリケの部分は刺繍か何かにかえても面白い。共のジャケットを作って胸の辺にスカートと同じアップリケの一部をとって飾るのも面白いし、ボレロを共布地で作って着るのも可愛いと思います。ジャンパーの場合にはブラウスをいろいろにかえればある程度色の感じをかえることもできます。

縞のジャケットとスカート

最後の絵はスカートとジャケットでジャケットの丈が短いことが、このジャケットの特長です。二図のスカー



3 右＝前のスタイルに共のジャケットを作りアップリケを飾ったもの。
左＝前のスタイルに、おそろいのボレロを着たもの



4 丈の短い縞の
ジャケット

トの上にこんなジャケットを作って着てもよくマッチします。ジャケットにあしらってある縞はぜひスカートの色とそろえたい。

スカートとジャケットを同じ色にして縞だけを調和のよい色にして着ても面白い感じになると思います。

女学生服装帖

昭和15年4月号　非常時に思うこと

『毎月の服装帖をとてもたのしみにしています』

こんな手紙がたくさん舞い込んで来るのですが、その中に『非常時の際です。服装帖をモンペ姿にして下さい』というような無名の手紙を時々受取ることがあります。

僕はこの頁にモンペ姿を描く必要はないと思っております。モンペはもうあのままでよいので、いまさらいろいろに考えてみる必要はないのではないでしょうか。

僕はキラキラと光った繻子(サテン)のドレスよりも木綿の赤と黒との格子、などの田園ふうなスタイルを好みます。

金や真珠の服飾よりも光のない木彫などの素朴なものを好みます。

いつもこの頁に描くスタイルには外国の田舎の少女の純朴さと、明るさを忘れたくないと考えています。

そして少女の服装の僕の描く夢です。

この頁を見る全国の少女達(みなさん)がみんなこの色で、このスタイルにしていただきたいとは思っていません。

時局を認識した少女(みなさん)がこの頁から、ご自分の好みと趣味をとり入れて、適当に消化して下されば、と考えているのです。

中原淳一



古いセーラーをワンピースに仕立て替えて更生させましょう。
色の褪（あ）せたものは黒か濃紺に染めましょう。
ウエストは前後とも横に下から四センチ（縫代とも）巾くらいのもの六本をとり（その人の体の大きさによっ

て異なります）別に灰色のウールの布を同じようにとり横縞に接(は)ぎ合わせ、それにウエストの型をたちます。

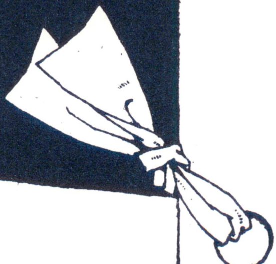
袖は半袖の長さに切り、残った部分を巾に接ぎ合わせ肩にふくらみを作ります。

スカートは今までの折襞をギャザーにして下端から六センチくらい上ったところにでき上り三センチくらいの灰色のラインを入れます。

ベルトも灰色、巾は三センチ。

灰色の部分に残り毛糸ででも小花の飾りをしましょう。

少女らしい可愛いワンピースです。




このスタイルも古いセーラーからできるでしょう。
大きな白いカラーに小花の飾りがしてあります。

女学生服装帖

中原淳一



昭和15年5月号（最終回）　日本女性に合う色彩

服装を黒一色にすると

学校を卒業された方や、進級された方達が新しく洋服を作られる時に何か参考になったらと、今日は色彩のことについてちょっと書いてみます。

ひところ婦人の服装を全部黒にしてしまったらどうか、という説が一部でさけばれていたことがありましたが、女性の服装を黒一色にと考える以上男の服装も黒かカーキ色に定めなければならないでしょう。

これは日本全国的な婦人団体のようなものができて、その制服として、何かの会合の時などに着るというのか、その点はよく分りませんでしたが、ともかく、女の人の中から色彩を全部とりのぞいて黒一色にしたとしたら生活にうるおいを失い、女の人の持つ心のやさしさがなくなってしまうのではないかしらと僕は思います。

女の人の服装をいろいろいわれないように、その前に各々が時局を認識していたずらに華美な衣装をつけたり、緊張を欠くような装いをすることをやめましょう。

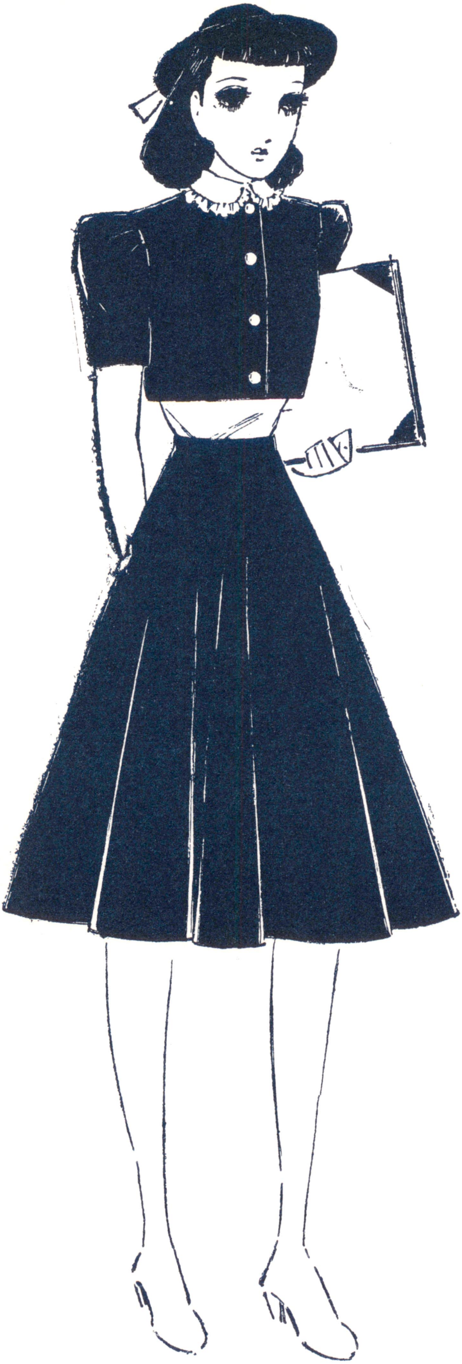
そうすればその黒一色にする必要もないのではないで



しょうか。
国民服というようなものはそれぞれ各自が気持に緊張を持てばさほど必要を認めないと思うのですが。皆さんはどう思いますか。

フランスと日本の違い

最近二、三のフランス帰りの人が、向うでは若い婦人でもほとんど黒かグレーのドレスを着ているが、日本の若い人は色彩がまちまちだとか、種々な色を使いすぎるとかいうことを新聞や雑誌で読みました。
黒いドレスはたしかにスッキリとした美しいものです。でもそれはフランスだから美しいんでしょう。
フランスの人は白い肌の色を持っていますし、日本の人よりも洋服的な身体を持っているでしょう。
髪の毛の色からも、作らないでも自然に波うった頭髪の形からも、黒いドレスが美しく見えるのだと思います。
それから周囲の建物とか街との調和も灰色や黒のドレスが非常にくっきりするのだそうです。

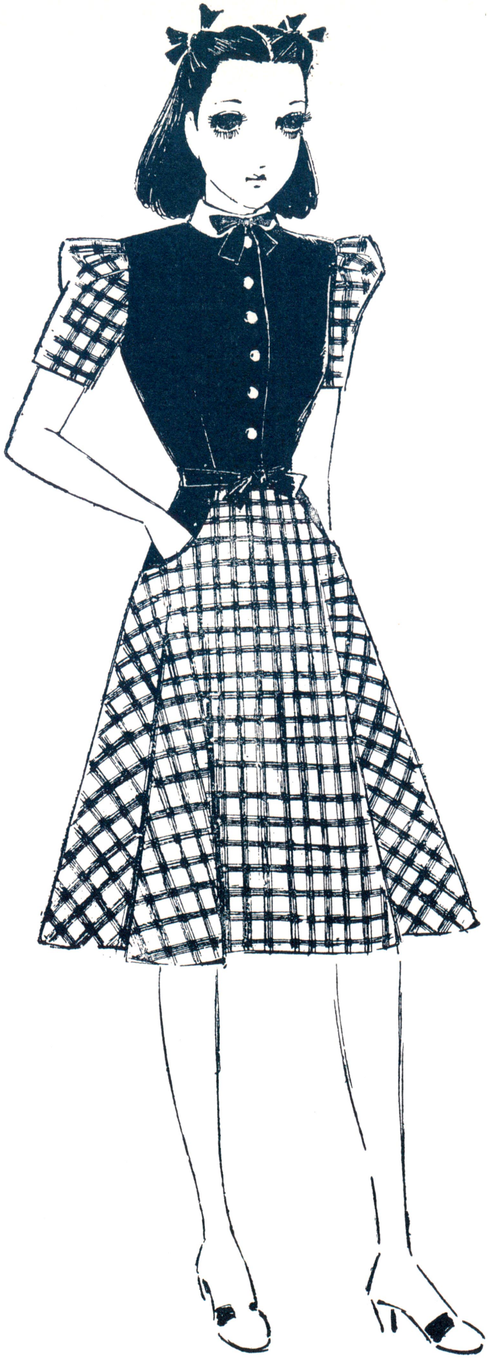


日本には日本の家や街との調和もありますし、複雑な和服の色調との調和も考えなければならないでしょう。

色に対する教養

日本の少女はたいていの場合、可愛い色調が似合います。

色の調和を簡単に例を上げていえるものだとしたらた



いへん好都合なのですが、それはとても不可能なことで、同系統の色を使っても非常にきれいな場合と、不調和な場合とができてきます。

結局は皆さんが色に対する教養を養うことで、日本のカンザシの色調は和服の場合にはあっていいものですが、洋服には絶対に許されないものであるというようなことも一緒に考えて下さい。

第7章

愛読者が語る「女学生服装帖」

「女学生服装帖」は連載当時、『少女の友』読者にどのように受けとめられていたのでしょうか。当時の愛読者たちは、現在80代。作家の瀬戸内寂聴さんをはじめ、お目にかかったみなさん全員が、いきいきと当時のことを振り返りながらお話してくださいました。

解説　一枚の洋服が与えた影響力

内田静枝

中原淳一の「女学生服装帖」がどのように受けとめられていたのか、それを知るために、瀬戸内寂聴先生をはじめとする当時の読者の方々にインタビューを試みました。

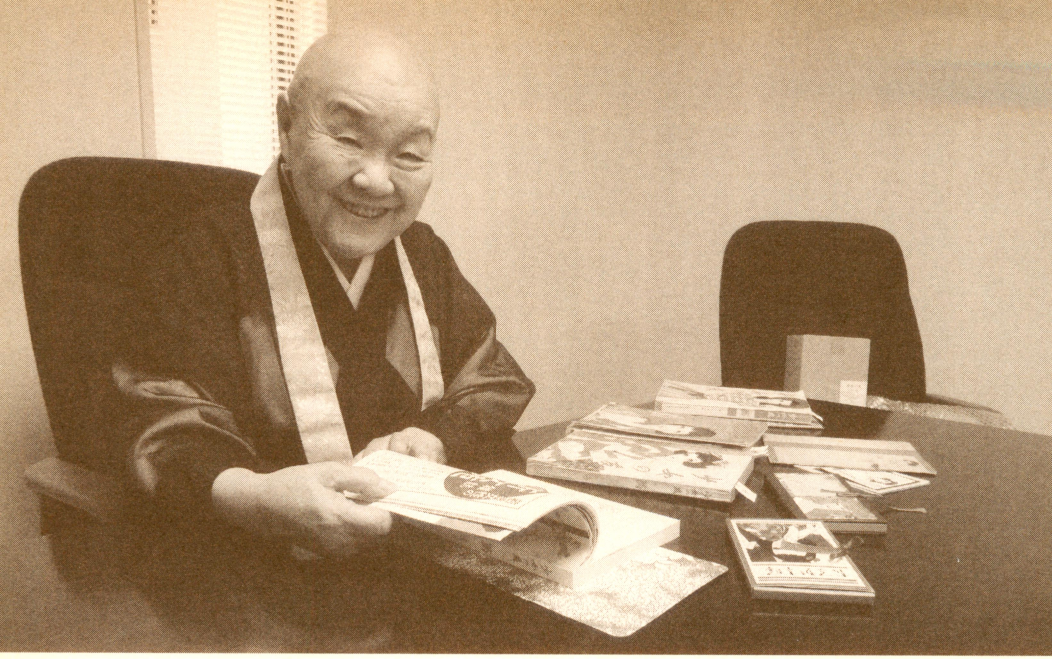
お話をうかがって改めて感じたのは、当時の少女ファッションにおける淳一の絶大なる存在感です。とりわけ付録のスタイルブックに強い印象をお持ちの方が多いようでした。

そして、淳一スタイルの洋服を実際に作った方々が、デザインの細かなディテールから、素材の感じ、色味まで、細々と覚えていらっしゃることに驚かされました。現在80代である方が、10代の頃に着ていた服のことを鮮明に覚えているのです。1枚の洋服がその人の人生に与えた影響の大きさに、居住まいを正す思いがしました。

いうまでもなく、ファッションはひとつの主張です。淳一の服は、夢や希望だけではなく、おそらく生き方をも示していたのでしょう。淳一デザインの服を着て街を歩くとき、そうとは意識しなくても、彼女たちは淳一から新しい生き方を学びとっていたのだと思います。

沖野美与子さんは、戦後身を寄せていた高知の山中で、淳一が新しい雑誌を出すと聞いたときの震えるような喜びを熱く語ってくださいました。これからは自分の力で生きようと力が湧いてきたそうです。親の薦める縁談を断り、やがて大阪の服部時計店（現在の和光）に就職。自分の足で人生の第一歩を踏み出しました。このようにさまざまな形でもって、中原淳一は日本女性の背中を大きく押したに違いありません。

ただし、今回お話をうかがえたのは熱心な淳一ファンの方々です。田舎の女学生に向けた記事も書いて欲しい、モンペも載せて下さい（昭和15年4月号）、と訴えた少女の気持ちを知ることは、今後の課題として残されました。どんなことでも編集部までお寄せいただければ幸いです。



瀬戸内寂聴　インタビュー

中原さんのデザインがすごいのは、全部作れて、着られたこと

『少女の友』愛読者で、中原淳一とは同じ小学校出身という縁のある瀬戸内寂聴さんに「女学生服装帖」の思い出をうかがいました。

姉と取り合うように読んだ『少女の友』

――寂聴先生は、昭和十年から十五年に、徳島高等女学校で過ごされました。ちょうど「女学生服装帖」の連載時期と重なるのですね。

瀬戸内　よく見ていましたよ。みんな真似してね。

（『少女の友』の付録のスタイルブックを見ながら）ええ、これも、これも、みんな覚えています。わたし、「このお洋服欲しいな」と思ったんですもの。わたしが作ったのも、どこかに出てないかしら……。

――『少女の友』を読み始めたのはいつ頃ですか？

瀬戸内　五つ上の姉がいましたから、小学校の二、三年から読んでいまし

た。毎月、姉と取り合うようにして、楽しみにしてね。そのころは深谷美保子が表紙を描いていた。
それが突然、中原淳一の表紙になったでしょう。このときは、「わーっ!」とびっくりして。中原さんの絵は、顔もいいんですけど、草がとてもいいの。背景に、ちょっとした景色を描くでしょう、そのときの草がとてもよくて。あとになって、なにかで彼が「ふるさとの徳島の野原の草が、とても印象に残っている」と言っていたの。わたしも同じ感想を持っていましたから、「ああ、なるほど」と思って。

――中原淳一さんと寂聴先生は、ともに徳島市の新町小学校のご出身なんですよね。

瀬戸内　そのことを知ったのは、女学校に上がってからですけれど。

毎晩ネクタイを縫い直す

――女学校時代、なにかおしゃれの工夫をしていましたか?

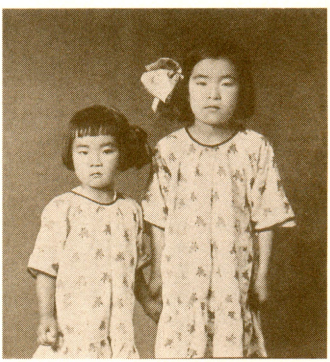
瀬戸内　制服は、普通の背広型で、白いブラウスに蝶結びのネクタイ。わたしたちはこのネクタイを「かんぴょう」って呼んでね。茶色の絹でできた紐なんです。これを毎晩縫い直すの。針と糸で。

――毎晩!?　それは大変。

瀬戸内　なぜかというと、締めているとぺちゃんとしてしまって、それが嫌なのね。おしゃれな人は、一所懸命、夜、アイロンを当てて縫い直すの。そうすると、ふわっとするじゃない。それで、先のほうをくるっと回して締めると、新しい感じがする。そんなささやかなおしゃれをしていたの（笑）。

――スカートは長短どちらがおしゃれだったんですか?

瀬戸内　長いほうね。朝礼のとき、先生が来て足から丈を測るんですよ。スカートのひだも多すぎたらいけないとか。もうバカみたい（笑）。あと、絹の靴下もあったんですよ。当時としたら大変おしゃれでしょう。それもいけません、木綿じゃないといけません、とね。


6歳頃。母親手作りのワンピースを着て姉と

――絹の靴下は履きましたか？

瀬戸内　履いたことありますよ。見つからないときにね（笑）。

――放課後は洋服ですか？　それとも和服？

瀬戸内　洋服でした。和服なんて着ていられない。

――やはり洋服のほうが快適で？

瀬戸内　ええ、洋服といってもアッパッパよね（笑）。和服は、東京女子大に行くときに、母がいっぱい作ってくれて、それで着ましたけど。

卒業を待ちかねて淳一スタイルに

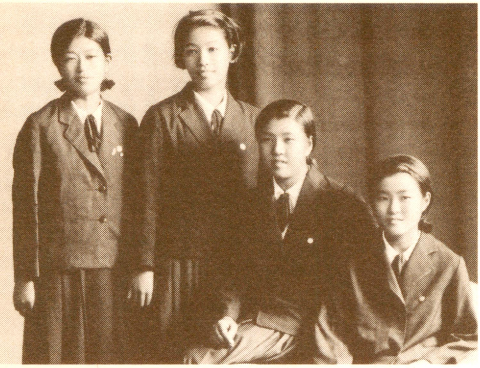
――「女学生服装帖」を見て作った服で、ご記憶にあるデザインはありますか？

瀬戸内　女子大に入るときに作った洋服をよく覚えています。グリーンで、胸元が白くて、その下にまたグリーンの花がついてたの。それがとてもよく似合ってね（笑）。よく着てました。それから、しゃれた洋服を仕立ててくださる方がいまして、「わたしに似合うのを作って」と、「服装帖」を見せて頼んだり。

――先生はおきれいだったから、きっと似合ったのでしょうね。

瀬戸内　いえ、ちっともきれいじゃないけれど、おしゃれでした。それから、その頃は痩せててスタイルがよかったのよ（笑）。

　中原さんが偉いのは、これをいまそのまんま作ったっておかしくないということ。古くないんですよ。本当にセンスがよかったんですね。





上／徳島高等女学校の同級生と（右端）。昭和12〜13年頃
下／夏服はセーラー服だった（右端）。




右／大学時代、友人とお茶の水で（左）。この翌年の昭和18年に大学を卒業し、結婚
左／昭和15年、東京女子大学入学当時

――寂聴先生は、その頃ヘアスタイルにも凝っていましたか。

瀬戸内　女学校のときは、縛（しば）ってなきゃいけなかったの。だから、卒業した途端にこの髪型（と「女学生服装帖」に載っている絵を指す）にしました。前を切って、ちょっとおかっぱに。

――まさに淳一スタイルですね。

瀬戸内　ちょっとおませな子でしたから。卒業を待ちかねて、ぱっと切って（笑）。

最終回の抵抗

――寂聴先生が女学校を卒業し、東京女子大学に進学されたのが昭和十五年。この年の五月号を最後に、「女学生服装帖」は『少女の友』から消えました。当局の圧力があったようです。やはり当時、この連載で取り上げられているデザインは相当華美な印象だったのでしょうか。

瀬戸内　実際は、そうそう着られなかったんですよ。世の中の風潮としては。ただ、昭和十五年、わたしが入学した頃の東京女子大はまだ自由でした。キリスト教教育でしたから。みんなお洋服はとても派手だったし、振りそでのような、そでの長い着物を着て来たり。

わたしが卒業する頃になると、「欲しがりません、勝つまでは」なんて言って、そでが長いと切られました。

――ここに「女学生服装帖」の最後の回があります。「女の人の中から色彩を全部取り除いて黒一色にしたとしたら生活にうるおいを失い、女の人の持つ心のやさしさがなくなってし

まうのではないか」とあって。これは当時としては、淳一なりの反戦の思いを込めたのではと、推測するのですが。

瀬戸内　……だけど黒もシックよ。きっと悔しかったんでしょうね。自分には世の中の流れに抗う力がないから、せめてもの抵抗だったのでしょう。

〈エス〉の思い出

――話は変わりますが、先生は女学校時代、川端康成の「乙女の港」のような〈エス〉のお友達はいましたか？

瀬戸内　いました、いました、いました。上も下もいました。

――やはりその頃から、もてていらしたのですね。

瀬戸内　そうそう（笑）。下駄箱の靴の中にラブレターが入っていたり。上級生は家政科の時間があるのね。作ったお菓子をくれるの。

――まさに〈エス〉ですね。上級生と下級生が親しい関係になるという。

瀬戸内　「乙女の港」が大変受けたのはそこなのね。

――ほかに印象に残る作品や絵はありますか。

瀬戸内　蕗谷虹児の絵もきれいだったし、松本かつぢの漫画はとても楽しかった。

――「ピチ子とチャー公」とか、「くるくるクルミちゃん」なんかですね。

瀬戸内　そうそう。それから、表紙を開いたところに、綴じ込みの口絵があって。すごくきれいだったの。いまでもありありと覚えています。倉の前で子守りをする女の子の絵と





左／いまでも覚えている中原淳一の口絵（「わが日わが夢」（昭和９年12月号）
上／ボロボロになるまで覚えた「啄木かるた」（昭和14年１月号付録）

か、江戸時代の家の前にきれいな長いそでのお嬢さんがいるとか、こたつにあたっている絵とか……。

――よく覚えていらっしゃる。どれも、淳一の口絵です。

瀬戸内　はさみで切り離して、大事にためてあったの。空襲で全部燃えてしまったけれど。

主筆・内山基のこと

瀬戸内　内山さんっていたでしょう。

――ええ、内山基。昭和六年から二十年まで『少女の友』の黄金期をつくった主筆（いまでいう編集長）です。

瀬戸内　わたしが小説を書き始めた頃、あの方はすでに実業之日本社を退職してご自分の出版社を経営していらっしゃいましたが、とても可愛がられました。立派な人でね。わたしがいちばん最初に「編集者の見本」だと思ったのは内山さんです。

――先生はことし（二〇一〇年）米寿を迎えられました。『少女の友』をいまご覧になって、ほかに忘れられない思い出はありますか。

瀬戸内　「啄木かるた」という付録ですね。啄木の歌はこれで覚えましたの。ボロボロになるまで覚えたの。とにかく、ロマンチックだった。中原さんの絵は、やはり非常にきれいですね。

この人のデザインのすごいところは、全部、実際に作ろうと思えば作れたこと。それで、そのまんま着られたんですよ。中原さんは、そういうセンスと知識がすごくあったんだと思います。懐かしいわ、過ぎ去りし日……。



館長をつとめる、徳島県立文学書道館で

せとうち・じゃくちょう
1922（大正11）年、徳島市生まれ。作家・僧侶。徳島県立徳島高等女学校、東京女子大学卒業。1961年『田村俊子』で田村俊子賞、63年『夏の終り』で女流文学賞を受賞。73年中尊寺で出家得度し晴美から寂聴に。98年『源氏物語』現代語訳全10巻刊行。06年文化勲章受章。京都市と徳島県鳴門市に庵を結び、執筆のほか法話も精力的に行なっている。

中原先生のセーラーの少女になりたい一心でした

手塚初代（てづか・はつよ）さん

「卵のようにベールに包まれて夢を見ていた」女学校時代を経て、戦後デザイナーとして活躍した手塚さん。『少女の友』とファッションへの思いをうかがいました。



良妻賢母教育のなかで

この写真（287ページ上）でわたしが着ているドレスは、中原淳一先生が描いた『少女の友』の表紙絵を参考に作ったものなのですよ。こちらの写真のワンピース（同下）は「女学生服装帖」に出ていたものです。いずれもわたしの母が作ってくれました。母は洋裁の心得などありませんでしたが、これを作るために、わざわざ洋裁の先生に習いに行ったのですよ。わたしに着せたいがためにね。

とくにわたしがねだったわけではないのです。わたしは戦後ファッション・デザイナーになり、第一線で二十五年間仕事をしてまいりましたが、少女の頃は欲がなくてね。わたしはひとり娘でもありますし、自主的なものがまったくなかったの。

女学校を卒業してドレメ（現・ドレスメーカー学院）に進んだのも父の薦めでした。といっても、父は別にわたしをデザイナーにさせようとしたのではなく、街でドレメの学生を見かけて、うちの娘にも可愛い服装をさせたいと思ったのでしょう。

わたしたちの時代は、良妻賢母教育でしたからね。女の子は幸せに可愛くあればいい、そんな感じでした



手塚さんは昭和12年東京府立第三高女（現在の駒場高校）に入学、17年に卒業。12歳から17歳を都内のエリート女学生として過ごした

ね。

わたしが女学生だった頃の少女たちの生活や服装について、いまの若い方に理解してもらうには、少し説明がいるでしょうね。

わたしの少女時代、つまり昭和十年代には、いまのようにプレタとか既製の洋服がお店に並んで売っておりませんでした。いまなら、雑誌で素敵な服を見つけたら、中高生でもお小遣いを持ってすぐ買いにいけますでしょう。けれど、当時はお洋服が欲しかったら、お家の人に頼んで作ってもらうしかなかったわけです。可愛い洋服なんて売っていなかったし、ましてや自分で服を買うなんて余裕もありませんでした。

もちろん、その頃はもう、普段着は洋服だったと思うのですが、さて、なにを着ていたのかしら？（笑）帰宅後も制服を着ている友達が多かったと思います。とにかく服装に関してあまり欲はありませんでしたね。文房具なんかだと「友だちが持っているからわたしも」なんておねだりしましたが、なにしろ淳一先生の絵に出てくるような素敵なお洋服を着ている方なんて、いませんでしたから。

少女特有の美

いま考えてみると、淳一先生の少女ファッションは、ひとつもふたつも先の時代を描いていましたね。先生の描くファッションは理想像だったのです。決して手の届くものではないけれど、いつかはこんなのが着られたらいいなと憧れるものでした。まして戦争中ですしね。

わたしの場合、たまたま母が作ってくれまして、本当に幸せだったと思います。だって、母が作ってくれた淳一デザインの服を着て街を歩くと、目立ってジロジロ見られましたもの（笑）。

日本に洋服文化が定着していない時代に、淳一先生はこんな優れたデザインを発表されていたのですね。

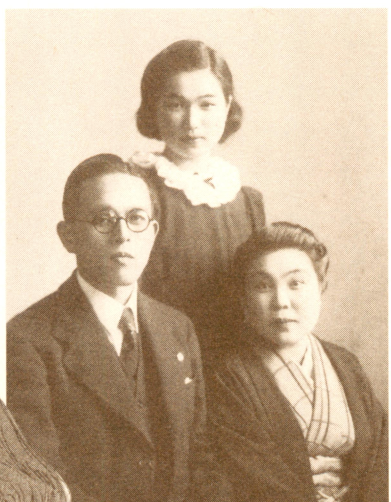
わたしは一九六二年から東武百貨店のオーダーサロンのチーフ・デザイナーをつとめましたが、最初は外出着としての着物を脱いで洋服を主流にしていただくことを、お客様に説得することで精一杯でした。宮中招宴など改まったときはどうしても皆さま和服をお召しになる。わたしたちデザイナーは「和服に逃げる」と言っていましたが、洋服についての知識がないから、正式な場面では、たとえ高価でも和服をお選びになるのね。一九六〇年代でもそうでした。

そのうちにマキシのドレスが流行するようになって、わたしは日本女性は和服の裾まで長いものに馴れているので、これはきっと流行するのでは!? と校内誌に書いたことがあ





昭和14年12月号表紙をもとに作ったワンピース。服地は牡丹色のアンゴラジャージー





「女学生服装帖」昭和15年1月号掲載「すみれ」より。赤のウール地に白のシルクタフタを衿に重ねた

ります。

「女学生服装帖」で興味深いのが、タイプ別の着こなしの提案（昭和十二年十月号）ですね。

わたしの経験から言いますと、洋服のデザインとはその方の体型とか好みの色だけを現したものではなく、内面的なものも入っているのです。そのかくれたものも引き出してデザインするのが本当の服だと思うのですよ。単に痩せているとか、太っているとかだけではなく、その少女の心の中まで汲んでいるところが、淳一先生のすごさだと思います。

この時代に、少女向けの洋服に着目されたのも素晴らしい。戦後もしばらくはなかったのですから。

わたしが百貨店に入った頃、もっとも欠けていたのが少女向けの服でした。十代の女の子はすぐに大きくなってしまうから、メーカーではあまり力を入れないのです。その層をとらえても採算があまり合わず、大人のものを作っておけば割に長く、サイズ的にもロスがないという考えでした。

けれども、淳一先生は少女特有の美に着目された。現在は街に少女向けのファッションがあふれていますよね。本当に、淳一先生は時代の先を見通していたと思います。

ファッションというものはその時代時代を考えないといけませんね。それを着る人の気持ちにしても、すべて時代の中で考えてゆかないと。

ベールの中で夢を見ていた

わたしの娘時代は戦争中でしたから、良いことだけではありませんよ。街に服地店はあっても服地がどんどん粗末になり、ドレメの課題を作ろうにも東京中を探し回らねばなりませんでしたし、自作のはじめてのパーティドレスを着て友人の結婚式に出向く際、人目を憚って、車のシートに身体を潜めて駆けつけたこともありました。

でも、その頃の少女はどこかのんびりしていましたね。卵みたいにふわーっとベールの中に入ってね。『少女の友』の世界の中で夢を見ている方が多くて。自覚を持って物事を考えたりはしませんでしたが、あまり早くに世の中にむき出しにされるよりは良かったと思います。

振り返ってみると、わたしがファッション・デザイナーになったのは、やはり『少女の友』の影響だったと思います。多感な時期に受

けた感動は無意識に自分の中に入っているのでしょうね。わたしの場合、『少女の友』を読んで中原淳一先生のデザインの美しさに感動したり、内山基先生が選ばれた、ブッセの「山のあなた」の訳詩などを暗唱したりしたことが心の中に宿り続けて、戦後の殺伐とした時期を切り抜けてきたのだと思います。

ライフワークとして服飾デザインに励み、時折は俳句を詠みながら、心豊かに毎日を過ごしていられるのは、中原淳一先生と『少女の友』のおかげと思っています。

愛読者の思い出

銀座を歩いたときは恥ずかしくも誇らしく

澤本佐栄子（さわもと・さえこ）さん



右が澤本さん。友人たちも淳一デザインの服を着て。彼女たちの喜びが伝わってくる

淳一先生の描くファッションは、女学生の憧れでした。わたしたちの時代、淳一先生のような洋服はほかにはまったくありませんでしたから。シルエットといい色づかいといい、とても斬新で、皆夢中になりました。

発売の翌日に、『少女の友』に出ていた淳一先生のワンピースを着て、編集部をお訪ねした方もいたのですよ。編集長の内山先生はもうびっくりなさってね。「発売前に他所に漏れたはずはないのに、どうしてだろう？」と。その方は『少女の友』を手にされると、すぐに生地を買いに走り、一晩でお作りになったのです。黄色いワンピースでした。いまでも鮮明に覚えていますよ。

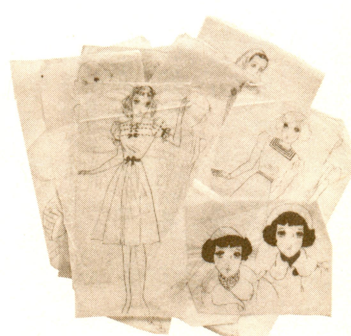
わたしも淳一先生のスタイル画を見てワンピースを作りました。水兵帽もセットで色は濃い青。ボレロには白い縁取りがありました。それはもう、一所懸命に作りましたよ。絵

を見て素敵だなと思っていたものを、実際に着られるのですから。
　写真は昭和十五年六月に、そのワンピースを着て銀座を歩いたときのものです。街頭写真ってご存知でしょうか？　繁華街に写真屋さんが出ていて、道行く人を撮影してくれるのです。きっとわたしたち三人は目立ったのでしょうね（笑）。恥ずかしかったけれども、誇らしくもありました。暗い時代に入る寸前のところでしたね。
　実はわたし、十歳の頃、逗子で開かれた淳一先生のフランス人形の講習会に参加したことがあるのです。もちろん参加者中最年少です。子どもに作れるのかと心配されましたが、告知に載っていたお人形がとってもすてきでしたのでねえ。ねえやに付き添ってもらい参加したのです。
　昭和八年でしたから、淳一先生もまだ『少女の友』でデビューして間もない頃でしたのね。おかっぱというのかしら。斬新なヘアスタイルをしていらして。指導はテキパキしていましたが、女性的なたおやかな感じの方でしたよ。

「友ちゃん会」に着てゆきたい一念で

門田昌子（かどた・まさこ）さん

　わたしが友人と企画して函館で初めて開催した「友ちゃん会」に、淳一デザインのワンピースを着て参加したんですよ。自分で作りました。
　昭和十四年三月に女学校を卒業し、その後、東京の文化服装学院をお出になった洋裁の先生にお習いしたのです。八月の「友ちゃん会」に着てゆきたい、との一念で。
　襟元に切り替えのある新鮮なデザインで、それはそれは苦労しました。ミシンもろくに踏んだことのない初心者が、絵をもとに型紙を作る段階から始めるのですから、無謀もいいところ（笑）。よく先生が根気強く教えて下さったと思います。
　でも、作るなら絶対に淳一先生のデザインと決めていました。スタイ



門田さんがいまも大切にしているうつし絵。「女学生服装帖」昭和14年2月号の絵などが見える

ル画を写し取ったりして、一所懸命研究してね。そのうつし絵は、いまでも大切にとってあります。

作ってもらった洋服に文句は言えず……

林田幸子（はやしだ・さちこ）さん

わたしの通っておりました宮城県立第一高女では、毎夏臨海学校がありまして、そのときは私服が許されましたので、わたしたちはなにを着て行こうかと胸を躍らせました。

昭和十二年の夏でした。まったく同じワンピースを着た方がふたりいらっしゃいました。『少女の友』の付録のファッションブックに載っていた淳一先生のデザインのワンピースでした。おふたりとも本当に素敵で、「わたしも来年作ってもらおう」なんて皆で囁きあったものです。

当時、仙台でもデパートやほかの洋服店でも洋服を売ってはいましたが、淳一先生デザインのようなものではなく、淳一先生のお洋服を着るためには作るしかないのです。わたしは叔母に頼んで縫ってもらいましたが、出来上がってみると絵のイメージとは違っていました。スカートのフレアーの取り方が違うのです。わたしは失望しましたが、「もう作ってあげない」となっても困るので、文句を言うのは控えました。いまは懐かしい思い出のひとこまです。

「乙女の港」と同じセーラーの幅広リボン

樋口璋子（ひぐち・てるこ）さん

わたしの通っていた日本女子大付属高等女学校は自由がモットーでしたから、制服の着用は式典のときだけで、普段はブラウスにスカートなど、私服で通学していました。感受性豊かな少女時代から洋服のセンスを養うためにと、言われていましたね。

でも、制服も素敵でしたよ。〈吉沢スタイル〉といって、セーラー服のネクタイ（リボン）がふんわりと、幅広に出るのが特徴でした。吉沢製



川端康成が『少女の友』に連載した「乙女の港」の挿絵より（昭和12年6月号）

のネクタイはたっぷりと布をとってあるのです。中原淳一先生が川端康成先生の小説「乙女の港」で描いたのもこれですよ。淳一先生はわたしの学校と縁が深く、卒業アルバムの編集も担当されていました。「女学生服装帖」で対談相手を務められた南由紀子さん（＝内田多美野）もわたしの先輩なのですってね。

淳一降板にショック 古本屋へ走る

沖野美与子（おきの・みよこ）さん

昭和十五年、女学校に入学し『少女の友』を読み始めてほどなく、淳一先生が降板されたのです。本当にショックでした。でも、わたしはすぐさま古本屋に走り、ありったけの『少女の友』を買い集めたんですよ。

それが戦争とぴったり重なったわたしの少女時代の、唯一の宝物となりました。わたしの女学生時代は「ぜいたくは敵だ」なんて言ってね、きれいな洋服などなかった。だから、いっそう、淳一先生の描くファッションに憧れました。わたしの美意識は淳一先生が作ってくれたと思っています。

戦後、先生が『ひまわり』を発行されると聞いたときの喜びは忘れられません。「よし、わたしもおしゃれしよう！」と心が奮い立ちました。

第8章

「服装帖」から受け継ぐこと

エッセイ・談話・解説

「女学生服装帖」が連載されてから70年以上が経ったいま、
この連載は、どんな意味を持つのでしょう。
現在ファッション界の第一線で活躍している
モデル・女優の杏さん、スタイリストの大森伃佑子さんに
おうかがいしました。
最後に、ファッション史、出版史における位置づけを
『少女の友』を研究しておられる弥生美術館の
内田さんに解説いただきました。

エッセイ

きらきらとちりばめられた、希望の光

杏（モデル・女優）

「理想の少女というものは、正しい美しい心の少女であると共に、外にあらわれた服装や身だしなみにもキチンとした少女らしい心を配っている人」――中原氏は、「女学生服装帖」連載第一回の、一声めで核心を突いている。答えのゴールを目指した連載ではなく、ゴールからスタートする内容は、時代を超えたいまでも新鮮に、お洒落に感じる。いや、いまこそ読み返さないといけないのでは？　と思わされる。

物資や情報の量や早さ、豊かさは昔よりいまの方が遥かに上回っているはずなのに、この本を読むといまの時代のファッションがどんどん画一的に、個性を無くしてきているような気がしてならない。もちろん、個性的な格好をする人はどの時代にもいるのだろうけれど、自分だけが自分の服を理解するのではなく、誰もがその格好を見て良しとする、着る場所と相手を選ばない枠の中での広がりは、昔の方がより個性的で、自由だったのではないか、

と思う。
　女性であることを全面的に肯定し、それを他に向けて演出する姿勢。もちろん、現実が雑誌のままだったとは限らないけれど、読み手が工夫してそれぞれの理想の女性像にアプローチできるし、物資以外の面でも、思想や姿勢のメソッドから、すぐに真似できるものも多い。
　ハンドメイドが主流だった頃の女性の、衣服に対する視点も興味深い。女学校五年生の女の子がブラウスを作った記事を見て、本当に当時の裁縫の技術の高さ……！　演劇から服のデザインを起こすアイデアの記事も夢中になって読んでしまった。こんな風に服のデザインをしてみたいなぁ、となにも技術を持たない私ですら思うのだから、裁縫が当たり前に出来た女の子たちは、この連載を愛おしげに眺め、ああだ、こうだ、と友達や母親、姉妹と共に熱く語り合っていたのだろう、と想像できる。
　物資の高騰などの世相の反映が文中にも濃くなってきた後半は、男性の袴で作る女性用の衣服など、リメイクの提案も多くなっている。質素倹約の指摘があっても、モンペは書かずという姿勢を崩さず、負けずに夢を与えていきたい、と語っている。
　普遍性を守り抜いたからこそ、いまでもすぐに真似できるのだと思う。ボレロやハイウエストベルト、リボンなど、いまの女の子が雑誌で当たり前に愛する部分も出てくる。戦前には肌を隠すイメージの方が強かったけれど、年若い少女は袖が無い方が良い、というのも意外だった。

読んでいて何度も何度も感じるが、古くないのだ。

今後、古くなっていくとしたら、それは私たちの責任でもある。特に、着物に関しては強く感じる。『少女の友』では、洋服もあるとは言え、まだまだ和服が特別なものではなく、選択肢の中に当たり前に和服が存在していた。今では、和服を着られる人が少なくなり、また、着物を着ること自体が特別で、特に若い人達の間では、ある意味コスプレのような感覚さえある。『少女の友』に出てくる生地の柄は、今すぐにでも復刻したくなるようなデザインばかり。

中原淳一氏の作品の数々は、日本の少女たちだけではなく、伝統も救ってくれるだろう。

そんな希望の光が、きらきらとちりばめられた「女学生服装帖」。

先見の明を持って書かれたのか、はたまた美は時代を超えるのか。

未来に残したい、忘れたくないメッセージがこうしてまとめて復刊されたのが、何より嬉しい。

あん
1986年、東京都生まれ。2001年モデルデビュー。05年から海外のコレクションでも活躍。07年女優デビュー。主な出演作は、映画「BANDAGE」、NHK大河ドラマ「天地人」、NTV「華麗なるスパイ」、TBS「新参者」、CX「ジョーカー　許されざる捜査官」など。CM出演やラジオのパーソナリティ、多数の連載をもつなど、多角的に活躍している。2010年ミュージカル「ファントム」に出演決定。

談話

迷いの先にある、少女であるための居場所

大森伃佑子（スタイリスト）

今回、「女学生服装帖」が長い長い眠りから覚めて、二十一世紀のわたしたちの前にあらわれたのには、どんな意味があるのでしょう。リアルタイムで読んでいた方々が懐かしむだけではなく、当時を知らない世代が求めるものがあるはずで、それは単純に「かわいい」ばかりではない、時代を超えて共通する何かなのだろうと思います。

「女学生服装帖」で提案されている女の子の姿には、いま流行している要素がたくさんあります。たとえば、昭和十一年九月号付録の「スタイルブック」のワンピースは、丈と足元が微妙に違うだけで今年着られそうですし、昭和十五年五月号の表紙絵のメイクは、少し前までは、やや外れていたと思うのですが、二〇一〇年代のいまはぴったり。つけまつ毛を三枚つければ実現できます。昭和十四年二月号表紙を飾った内巻きカールのボブスタイルは、



昭和11年9月号
付録「スタイル
ブック」より

まさに今年のトレンドです。
——と挙げていくのは楽しいのですが、こうしたファッションの解釈は、実は「女学生服装帖」のうわべを見ているに過ぎないと思います。読み込んでいくにつれ、文章の面白さは抜群だし、お花の名前をコーディネートした夢のあるネーミングに、案外辛口な批評、独特な言葉じり等、この連載を構成する要素全体への読み解きが必要なのではないかと感じ始めました。

少女時代は、親の庇護（ひご）のもとから一歩外へ踏み出して、たくさんの「初めて」を経験していくときだと思います。たとえば、ひとりでちょっとかわいい下着を買いに行ってみるとか、そんなささいなことも新鮮でワクワクできる年代です。

それと同時に、まだまだルールのなかで生きていかなくてはなりません。親の躾（しつけ）や、学校の規則や制服、友だち同士の暗黙のルール……。「女学生服装帖」が連載された当時の少女たちも、そんな「ねばならない」でがんじがらめだったと想像しますが、時代が変わったいまでも、根本は変わらないのではないでしょうか。

ルールがある世界では、人は二手にわかれます。ひとつは、みんなと同じことをして落ち着くタイプ。もうひとつは、少しでも自分の何かオリジナルなものを求めたいというタイプ。昔もいまも、人数でいえば、前者の方が圧倒的に多いでしょう。



昭和15年5月号表紙「セルのころ」



昭和14年2月号表紙「雪の日」

「女学生服装帖」のスタイルを真似てお洋服を作った当時の女学生たちは、きっと後者だったのではないかな、と想像します。モノも限られ、戦争の足音が忍び寄ってきた時代でも、中原さんが提案する夢のあるお洋服への憧れはやまず、制服のネクタイの結び方をちょっと工夫したり、スカート丈を意識したり——女の子はどんな状況に置かれようとも、「女の子」だったんじゃないかと思うのです。

自分の高校時代を思い出すと、心のどこかに「アンチ」の気持ちを秘めつつ、友だちと一緒に、ルールのなかで闘ったりすり抜けたりしていました。そのスリル感や連帯感に、この年代ならではの少女性を感じます。「女学生服装帖」も一貫してルールのあるなかでの提案をしていると思います。その不自由さのなかで、人生のほんの短い時間を共有することもまた、この年代特有のはかない美しさであるような気がします。

いまの時代に「女学生服装帖」に惹かれるのは、やはり自分ならではのオリジナルを探している女の子なのだと思います。

わたし自身がそうだったのですが、オリジナルを求めるということには、自分はどこへ向かったらよいのかという、悩みや迷いがつきものです。女の子として生きる術(すべ)に長(た)けていたならば、仲間うちでもわかりやすい自分の場所を見つけることができる。卒業して、社会のなかで役割を得て、と割り切って生きていくことも覚えていくでしょう。

でも、学校や社会で居場所を見つけることに時間がかかる女の子もいると思います。わたし自身も、こういう時期を経て、いまやっと自分に近い場所にたどりついた気がします。自分に近い場所は、ずっと近くにあったはずなのに、遠回りをしてきました。でもその長い時間も必要だったのだと思えます。だから、女の子の少し先輩として、揺れながらもまっすぐ進みなさい、その先はこわくないよ、と伝えたいんです。

まわりに流さたり揺れたりしながら、先はただ、うすぼんやりとしか見えない。自分の立ち位置はどこにあるのか、少しずつ探しながら、泳いでいく。そんな不確実な状況にある女の子にとって、「女学生服装帖」が、その先にある居場所を感じ取るためのヒントとなるような気がします。

おおもり・ようこ
熊本県生まれ。雑誌『オリーブ』でスタイリスト人生をスタートさせる。『装苑』『KIMONO姫』などの雑誌やCMのスタイリングを手がけるほか、2009年、金沢21世紀美術館でマエダサチコとともに「不自由な夢」展を、2010年には「蒼井優展」のディレクションを担当するなど幅広く活動している。著書に『FOR A GIRL』(文化出版局)、『家紋帳』(菊池敦己との共著、ピエブックス)、『リ・ガール』(辰巳出版) ほか。

解説

ファッション雑誌の礎「女学生服装帖」

内田静枝（弥生美術館学芸員）

抒情画家、雑誌編集者、ファッション・デザイナー、スタイリスト、芸能プロデューサー、人形作家ｅｔｃ……としてマルチに活躍した中原淳一（一九一三〜一九八三）。昭和を生きた日本女性でその名を知らぬ人はいない存在です。近年では回顧展が各地で開かれ、著作の出版活動も著しく、平成の若者からも熱い視線が注がれています。その彼の最初期の仕事が、雑誌『少女の友』に連載されたファッション・エッセイ「女学生服装帖」です。

中原淳一といえば、昭和二十〜三十年代に、自ら刊行した雑誌『それいゆ』『ひまわり』『ジュニアそれいゆ』等で繰り広げたファッション・エッセイが知られていますが、それらに先立つ昭和十二〜十五年に、「女学生服装帖」が淳一初の連載として著されました。

本書をひもといた方は、これが戦前に書かれた少女雑誌の記事であることに驚くでしょう。ウエストがキュッとしまって、スカートが扇状に拡がった



『それいゆ』は、終戦間もない昭和21年8月創刊。昭和35年の休刊までに63冊を刊行した。写真は昭和30年SPRING号

ワンピース。シャープなシルエットとクリアな色づかいが新鮮で、いまの時代でもファッショナブルに映ります。第二次世界大戦前夜の日本において、これ程までにハイセンスなスタイルが少女に向けて発信されていたのです。『女学生服装帖』は日本の少女文化史において注目されるべき資料でしょう。

ただし、押さえておきたいのは、これは淳一の才能あっての作品だという点です。つまり、『女学生服装帖』は当時のレベルをはるかに超えた画期的な仕事だったのです。この時代の少女雑誌を見渡すと、いかに彼が特別な存在であったのかがわかります。当時最大の発行部数を誇った『少女倶楽部』では、長刀(なぎなた)を振る勇ましい少女や、戦勝を祈る少女が表紙を飾っていた時代です。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、中原淳一は昭和初期の少女雑誌界に突如として現れた天才スタイリストだったのです。

『女学生服装帖』で特筆すべきは、なんといっても洋服についての記述です。和装から洋装への過渡期にあった当時の日本において、淳一は洋服についての確かな知識と技術を持ち、高い見識を持って少女たちに語りかけました。

それがいかに時代に先駆けたものであるかは、淳一が連載を開始した昭和十二年が、あの「白木屋火災」のわずか五年後であることからもうかがえます。一説によると、日本初の高層ビル火災となったデパート白木屋の悲劇を拡大させたのは、着物姿の女性たちがズロースをはいていなかったためだといわれています。この話の真偽は諸説あるようですが、ともかく、日本女性



昭和8年、20歳の淳一。自室にて

の大半が和服を日常着としていた時代でした。
そんな痛ましい事件の記憶もまだ残る当時にあって、女学生たちは、普段着としても洋服を着始めた世代でした。制服で洋服を着慣れていたためです。しかし、彼女たちの服装は、淳一から見るとちぐはぐでおかしなものでした。「女学生服装帖」執筆の動機となったのは、愛読者集会に集う少女たちの服装を見て、淳一が心を痛めたことでした。憧れの淳一先生に会えるまたとない機会。読者たちは目一杯のお洒落をしてきたに違いないのです。しかし、マダム風のスタイルで色だけ派手にした洋服だったり、妙に子どもっぽかったり……。無理もないのです。アドバイスをくれるべき母親は和服しか知らない世代。導く者がいないために、読者たちが少女らしい美を損なっていることを残念に思い、淳一は〈おしゃれの先生〉として立ち上がったのです。「少女のみの持つ本当の美しさ、よさ、それは僕は誰にも負けず見きわめているつもりです」と連載初回で宣言したように、淳一は少女の美に対する審美眼に自信を持っていました。
では、なぜ淳一は洋服に関する知識と技術を持っていたのでしょうか。
実は、淳一は挿絵画家になる前に、ファッション・デザイナーとして活動していたのです。昭和五年、わずか十七歳のときです。なんと、自作の服を着て街をゆく淳一に高級洋品店のマダムが目をとめ、デザイナーとしてスカウトしたのだそうです。驚くべきエピソードですが、たしかにそのころの彼の写真を見ればうなずけます。白いスーツに白い靴。おかっぱ頭。淳一は一



18歳の淳一が昭和6年に制作したフランス人形。この翌年に銀座・松屋デパートで開催した人形の個展が『少女の友』の編集者の目に留まり、挿絵画家としてデビューした

般的な若者とはまったく違っていました。
十七歳にして淳一は、プロをも唸(うな)らせたスタイリストだったわけですが、では、それ以前に、彼はどこで洋裁を覚えたのでしょうか。彼の経歴からは専門教育を受けた形跡はありません。子ども時代の淳一は、見よう見まねで和服の着付けや、人形作りも覚えてしまったそうですから、おそらく洋服作りも独学だったと思われます。

注目すべきは、彼が当時の日本少年にしては極めて珍しい生活体験を持っていたことです。クリスチャンの家庭に育った淳一は、七歳で父を亡くすと、十三歳で家族とともに上京するまで、徳島と広島の外国人宣教師の元で暮らしていました。つまり、実生活で西洋の生活様式を身につけていたわけで、生来の美的センスと手先の器用さに加え、自分の血肉として洋服文化を体得していたことが、淳一を比類なきスタイリストに成長させたのでしょう。

もっとも、このユニークな連載「女学生服装帖」が誕生したのは、淳一の活躍の場が『少女の友』であったのも大きな要因でした。

実業之日本社発行の『少女の友』は明治四十一年創刊の老舗雑誌。昭和初期には講談社の『少女倶楽部』と並んで日本を代表する少女雑誌でした。ただし両誌の読者対象は異なり、『少女倶楽部』が地方在住の少女も対象として質実剛健な誌面作りに徹したのに対し、『少女の友』はハイブロウな路線を歩み、都会の女学生たちに読まれていました。



『少女の友』
昭和2年4月号
表紙・竹久夢二
「蝶々と少女」



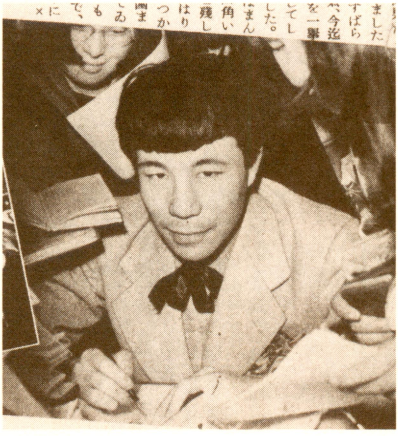
『少女の友』明治41年2月創刊号

淳一が『少女の友』編集部に迎えられたのは、いまなお名編集長として名高い内山基が主筆（現在の編集長）に就任した翌年。淳一の絵の持つ優美でエキゾティックな雰囲気が、新たに推し進めようとするビジュアル戦略にマッチすると直感した内山によって、淳一は徹底的に鍛えられ、重用されました。やがて、彼が力をつけてゆくに従い、『少女の友』は淳一カラーに染まってゆきました。『少女の友』は昭和三十年まで四十八年の歴史を持ちますが、このうちもっとも輝いていたのが、淳一が筆をふるった昭和十年代前半の誌面といわれています。

　このころの淳一の活躍ぶりは目覚ましいものでした。表紙、挿絵、口絵、付録、そして「女学生服装帖」連載と、実に八面六臂の活躍を遂げた上で、愛読者集会にも足繁く参加していました。『少女の友』生え抜きの画家である淳一は、他の挿絵画家とは違った存在だったようです。編集部にとってはもっとも信頼できるブレーンであり、読者にとっては兄とも慕うアイドル的な存在でした。

　このように、若輩（じゃくはい）ながらもひとりの芸術家として認められ、アイディアを自由に表現できる『少女の友』という環境があってこそ、淳一はのびのびと才能を発揮できたのです。「女学生服装帖」という記念碑的な作品は、『少女の友』という母胎があってのものでした。

　さて、連載初期においてパートナーを務めた編集部員の内田多美野（たみの）についても触れておきましょう。彼女は日本女子大英文科卒の才媛。服飾文化を専





大阪での愛読者集会「大阪友ちゃん会」を伝える記事より、サイン攻めにあう淳一。500人以上が詰めかけた（昭和14年5月号）

門に学んだわけではありませんが、同大といえばお洒落な学生が集まることで有名でしたから、服装批評の企画には適任とされたのでしょう。実体験を元にした視点で淳一から数々の言葉を引き出しています。

内田多美野は昭和十四年一月に編集長の内山基と結婚し「女学生服装帖」を退きます。実は彼女は文筆家の内田百閒（ひゃっけん）の長女で、百閒の書生をしていた内山基の兄を通じてふたりは古くからの知り合いでした。戦後、ふたりは出版社を興し、現在も続くモード雑誌『モード・エ・モード』発行に尽力します。彼女もまた日本ファッション界を支えたひとりでした。

最後に、「女学生服装帖」の辿った運命と、その後の動きについても述べたいと思います。ファッションは時代を映す鏡です。日中戦争開戦の昭和十二年に始まった「女学生服装帖」は、戦争の影を背中に感じながらも精一杯の美しさを目指しましたが、昭和十五年五月号で幕を閉じます。そして翌月を最後に、淳一は『少女の友』を去ることになったのでした。

あまり知られていませんが、淳一の降板後も「女学生服装帖」は続きました。翌月からは服飾研究家の田中千代が担当しています。しかし、田中千代による「女学生服装帖」は少女服の作り方を図解したもの。立ち居振る舞いやしぐさも含めたトータルな美しさと、色や素材への教養を養おうとした淳一の「女学生服装帖」とは性格を異にするものでした。挿絵は四人の画家が代わる代わるつとめましたが、いずれも定着せず、やがて無名画家による



田中千代による「少女服装帖」（昭和15年6月号）



淳一と「女学生服装帖」でパートナーを組んだ南由紀子こと内田多美野。写真は、内山主筆と結婚後の昭和26年、37歳のころ

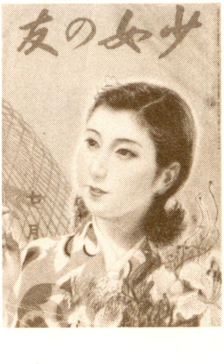
カットと製図というパターンに落ち着きました。

改めて、卓越したファッションセンスを持つとともに、それを絵としても美しく表現し得た、淳一の類いまれな才能を思います。淳一が去り、輝きを失った『少女の友』は、戦争の荒波にじっと耐えるしかありませんでした。日本における洋裁普及に大きく貢献した田中千代ではありますが、こちらも昭和一七年二月号をもって終了となりました。

終戦後、すぐに淳一は活動を再開します。長く続いた戦争で疲弊した女性たちを励まそうと自ら雑誌社を興し、編集長として腕をふるったのです。昭和二十一年八月、婦人雑誌『それいゆ』創刊。翌二十二年一月、少女雑誌『ひまわり』創刊。長く苦しい時代を経て、今度は自らの手で、自らの理想の実現に邁進したのです。

これは『少女の友』にとっては強力なライバルの登場でした。けれども、淳一が雑誌界に復帰したことで、『少女の友』の精神がさらに太く幅広く、新しい時代へと受け継がれたともいえました。

中原淳一は出版活動をベースとしていたために、残念ながらファッションの分野では十分に評価されてこなかったように思います。また、この時代の『少女の友』が極めて稀少であるために、これまで「女学生服装帖」の全容が知られる機会はありませんでした。本書によって、「女学生服装帖」が日本女性の洋装化とセンスアップに貢献したこと、また、現在のファッション雑誌の礎となるものであったことが、広く知られることを願ってやみません。



淳一退陣後の表紙は、洋画家の宮本三郎が手がけた（昭和15年7月号）

うちだ・しずえ
1969年、埼玉県生まれ。弥生美術館学芸員。玉川大学大学院文学研究科修士課程修了。1997年より現職。担当した企画展に「少女の友展」「加藤まさを展」「藤井千秋展」「田村セツコ＆水森亜土展」「長沢節展」「松本かつぢ展」などがある。編著に、『少女の友創刊100周年記念号』（実業之日本社刊）、『長沢節』『女学生手帖』『松本かつぢ』（いずれも河出書房新社らんぷの本）

巻末資料

「女学生服装帖」のおしゃれアイテム

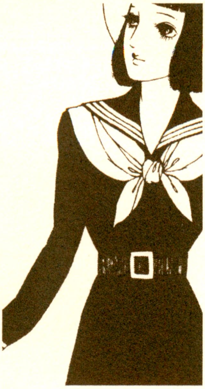
――付録「秋の服装帖」より抜粋

昭和12年の付録「秋の服装帖」は、淳一ファッションのエッセンスがぎっしり詰まった小冊子。本書のしめくくりに、「女学生服装帖」に繰り返し登場するファッション・アイテムを、この手帖から抜粋してご紹介します。

セーラー服

前よりも短く

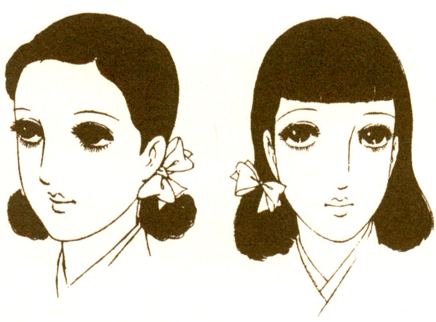
「以前は上衣が短くてスカートがうんと長いのがきれいなしゃれた形とされて、ことに都会の女学生などは、上級生ともなれば競争でそうしていたようですが、この秋からはあの形は蔭をひそめる事でしょう」



リボン

ごく小さく細い形を

「リボンは少女にふさわしい飾りです。それも昔のような豪華な大げさなものでなく、ごく小さな細い可愛らしい形を使うのが近頃の傾向です。そして今までのようなきまった場所だけにつけないで、自分の頭の毛の形によって、種々考えて、小さなリボンを髪の毛のいろいろなところに付けてみるのも面白いでしょう」





「秋の服装帖」（昭和12年11月号付録）170ページにも掲載しています

帯揚げ（おびあげ）
中へしまって

「半エリは白にきめましょう――これは僕が少女の和服に是非提唱したいと思っている事ですよ。それから胸の感じですが、帯を締めた場合、少女は、どうも帯揚げを拡げたがるものらしいですが、あれは、妙に大人っぽくみえて下品ですね。帯揚げは中へいれたこの図のような姿のほうがよっぽど、少女らしくあどけなくていいと思います」



袖（そで）
遠慮なく長くして

「袖の長さ、これも少女らしい形をつくる上に大切な点です。単衣（ひとえ）でも、袷でも、すべて、少女の和服は、袖を遠慮なく長くして、優美な可愛らしい感じを出したいと思います」



三尺（さんじゃく）
いちばん少女らしい姿

「ここに描いたのは、いちばん少女らしい、三尺帯を締めた姿です。学校から帰って和服に着替えている時など、たいていこうしているんでしょうね」



羽織（はおり）
帯は出来るだけ低く

「羽織の下にも、やはり、三尺のほうがいいですね、もし帯を締めるにしても出来るだけ低く結んで欲しいのです」

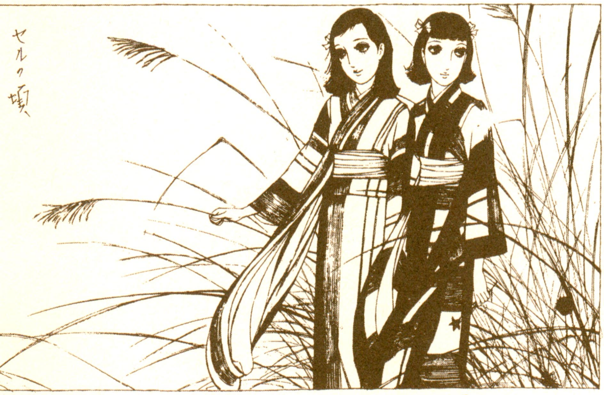
衿（えり）
抜いてはいけません

「少女の和服姿で、いちばん、みっともないと思うのは、何と言っても抜き衣紋ですね。たとえ女学校を卒業しても、頭が子供らしいおかっぱやお下髪（さげ）でいる間は、衿を絶対に抜かない、胸元を深く合せたキッチリした着つけがいちばん好ましいのではないでしょうか」



セル
素朴な感じが少女らしい

「セルのもつ、あのどこか鄙（ひな）びた素ぼくな感じはいかにも少女らしいよさを表していますもの。セルを着て無造作に三尺を締めている少女の飾り気のない姿は僕とても好きですよ」



帽子
あみだにかぶると可愛い

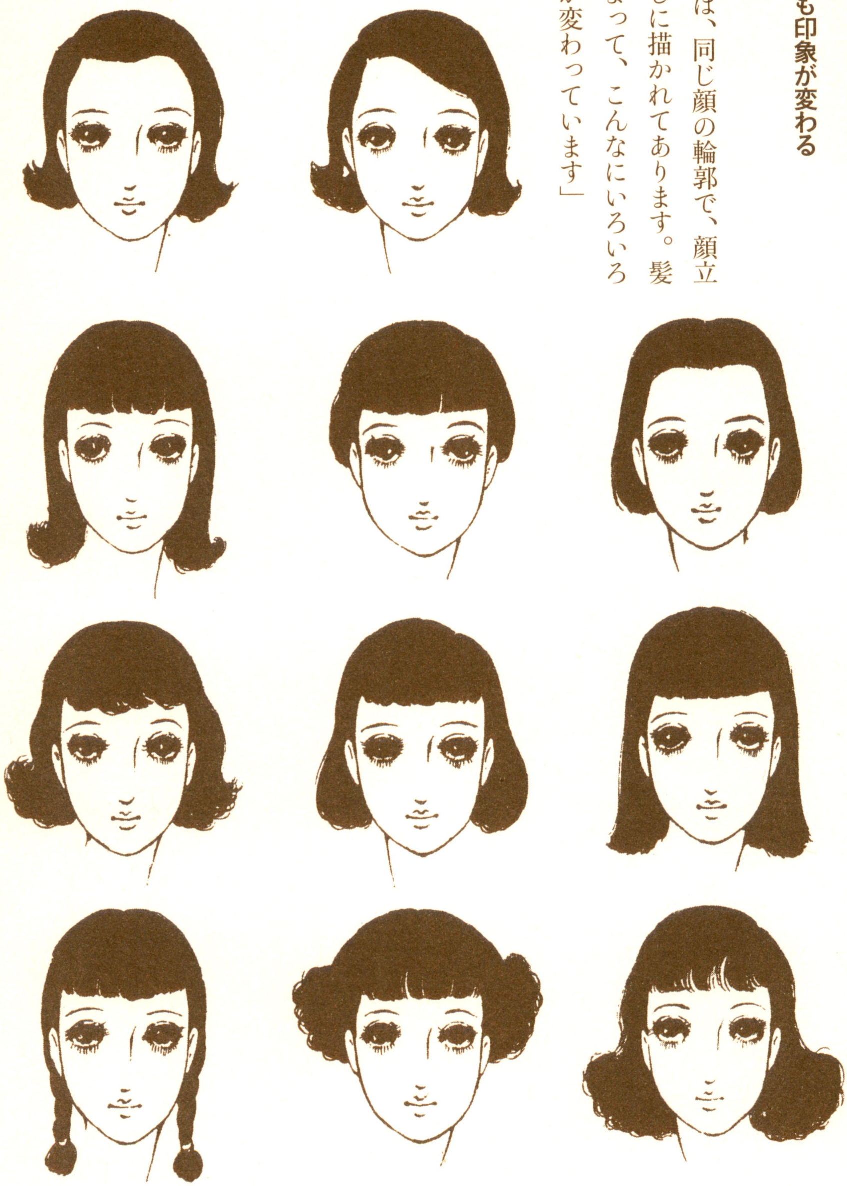
「水兵服（セーラー）の時はやはり、あの、軽快な感じに調和する、あっさりした型を被る事ですね」「少女は婦人帽を絶対にかぶらない事、これは、通学用ばかりでなく、ふつうのワンピースなど着て外出する時でも、心得ていなければいけませんね、それに、少女の帽子は、何と言ってもあみだのほうが、明るく可愛い感じです。



髪型

こんなにも印象が変わる

「この図は、同じ顔の輪郭で、顔立ちも同じに描かれてあります。髪の形によって、こんなにいろいろに感じが変わっています」

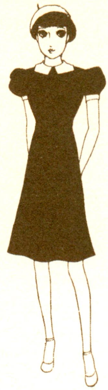




靴

ハイ・ヒールを履かないこと

「少女は、ことに十五、六の女学生など、絶対にハイ・ヒールを穿(は)かない事、とりわけセーラーなどの襞(ひだ)のついたスカートの場合ですと、中ヒールでも、それこそ田舎のバスの車掌さんみたいな野暮な恰好になりますから注意して下さい」



ワンピース

少女にスーツは嫌いです

「僕は、もともと少女がスーツを着る事は嫌いです、どうしても年よりもふけて見えますし、ことに柄の小さい少女なぞ、こまちゃくれた感じがしますから」「ワンピースを着た方が、どれだけ少女らしく、あどけなくてよいかしれません」





セーター

お手製で縫取りを

「セーターの衿などにいかにも既製品らしいごたごたした装飾がついているのを着ている少女がありますが、あれはとても野暮くさい感じですね。それより全然飾りなどないあっさりした型のセーターに好きな模様を考えて、少女がお手製で縫取りでも施したほうがずっと気がきいていますね」

少女服

少女らしさを生かした洋服を



「大人には婦人服があり、子供には子供服と言うものがあって、それぞれ行届いて研究されているのにその中間の少女服と言うと、どうも、ただ婦人服の型を小さくしたものぐらいにしか考えられていない事は大変残念ですね、僕はかねがね機会がある毎にその事を言っているのですが、少なくとも、少女達自身はもっと本当に自分達の少女らしさを生かした洋服を着ようと言うつもりになって、工夫する事が大切です」

洋服の基本の形をととのえる下着

——「スタイルブックSUMMER」より抜粋

コーセット…小さい少女にはいりませんが、学校をお出になった方の洋装には、体の線をととのえる上からぜひ必要です。腰の太い人は幅の広いコーセットを、やせた方は短いので結構です。とにかくあまり窮屈な型を召すと体の毒です。ブラジェ（乳押え）は少女はまだお使いにならなくても構いません。お乳の小さい方はなさらないで、スリップで調節したほうが自然でいい。

ブルーマ…冬は下を絞ってある型が暖かいが、夏は下のあいたパンタロンを召したほうが涼しくてよい。

スリップ…体の線を出すしなやかな地質をえらぶこと。普段着でも、キャラコを使うよりはベンベルグでお仕立てなさい。スリップは洋服の流行によって長さを常に調節すること。洋服の裾より3インチ（8センチ）短いのが標準です。



「スタイルブックSUMMER」（昭和13年7月号付録）174ページ〜にも掲載しています

明治41（1908）年		2月、『少女の友』実業之日本社より創刊。
大正2（1913）年	0歳	2月16日、香川県大川郡白鳥町で父・郁郎、母・シウの間に四男として生まれる。
大正6（1917）年	4歳	父につづき、一家で洗礼を受ける。
昭和3（1928）年	15歳	私立日本美術学校洋画科に入学。
昭和5（1930）年	17歳	上野広小路の高級洋品店にデザイナーとして迎えられる。
昭和7（1932）年	19歳	3月、東京・銀座松屋にて「中原淳一・第一回フランス・リリック人形展覧会」を開催。この展覧会を見た『少女の友』編集者の依頼で6月号で挿絵デビュー。
昭和10（1935）年	22歳	『少女の友』1月号より表紙画を担当。9月号に初のスタイルブックが付録に。
昭和12（1937）年	24歳	『少女の友』5月号より「女学生服装帖」を連載開始。
昭和15（1940）年	27歳	1月、麹町に淳一グッズの店「ヒマワリ」を開く。5月号をもって「女学生服装帖」の連載が終了。軍部の圧力により、6月号を最後に『少女の友』降板。6月、「きものノ絵本」を自ら発行。11月、葦原邦子と結婚。
昭和21（1946）年	33歳	「ヒマワリ社」（のちに「ひまわり社」）設立。8月、婦人雑誌『ソレイユ』（のちに『それいゆ』）創刊。
昭和22（1947）年	34歳	1月、月刊少女雑誌『ひまわり』創刊。
昭和25（1950）年	37歳	6月、本格的ミュージカル「ファニー」を上演。脚色、プロデュース等担当。
昭和26（1951）年	38歳	4月、渡仏。
昭和27（1952）年	39歳	12月号で『ひまわり』終刊。
昭和29（1954）年	41歳	7月、『ジュニアそれいゆ』を創刊。
昭和30（1955）年		『少女の友』、6月号をもって終刊。
昭和34（1959）年	46歳	7月、仕事中に脳いっ血で倒れ、以後約10年間療養生活を送る。
昭和35（1960）年	47歳	『それいゆ』は8月発行の「秋の号」で、『ジュニアそれいゆ』は10月号で終刊。
昭和45（1970）年	57歳	3月、新しい月刊誌「女の部屋」を創刊するも、1年間に3度も病いに倒れ、第5号で終刊。
昭和58（1983）年	70歳	4月19日、永眠。

●初出

「女学生服装帖」（小社刊『少女の友』連載）
昭和12年5月～10月号（11・12月は休載）
昭和13年1月～6月（7月は休載）、8月～12月号
昭和14年1月～12月号
昭和15年1月～5月号
※単行本化にあたり、編集部で新漢字・現代仮名づかいに改め、原文に沿った内容の見出しおよびキャプションを加えました。

●監修

ひまわりや

●執筆

内田静枝（解説・愛読者インタビュー）
柳原美紗子（コラム・服飾用語解説）

●写真

泉山美代子

●編集協力

弥生美術館　徳島県立文学書道館
中原利加子　内山美樹子　遠藤寛子　花田みよ
見城美子　矢島昭彦　西條紀子　佐藤方哉（順不同）

●装丁・本文デザイン

松田行正＋山田知子

●編集

実業之日本社　文芸出版部
藤森文乃　岩野裕一　井上晴美

少女の友コレクション
中原淳一の「女学生服装帖」

二〇一〇年九月二十三日　初版第一刷発行

著者　中原淳一
発行者　増田義和
発行所　実業之日本社
〒一〇四-八二三三　東京都中央区銀座一-三-九
電話（編集）〇三-三五六二-二〇五一
（販売）〇三-三五三五-四四四一
http://www.j-n.co.jp/
印刷所　大日本印刷
製本所　ブックアート

ISBN 978-4-408-53578-4（文芸）

中原淳一の「女学生服装帖」

中原淳一 著

実業之日本社

9784408535784

1920095028002

ISBN978-4-408-53578-4

C0095 ¥2800E

定価(本体2800円+税)

実業之日本社

